

**社会的クリティカルシンキング志向性は
首尾一貫感覚を導くのか**
——抑うつとコミュニケーション・スキルの視点から——

三重大学大学院 教育学研究科

教育科学専攻 学校教育領域

磯和 壮太郎

2015年2月13日

目次

第1章：研究的関心と問題意識.....	1
社会的背景.....	1
どういふものを教育すべきなのか.....	3
クリティカルシンキングへの着目.....	5
クリシン教育の社会的重要性の高まり.....	6
クリシンを阻害するもの.....	6
クリシンカーは健康である可能性.....	8
首尾一貫感覚という概念.....	8
首尾一貫感覚の形成要因.....	11
クリシンカーと首尾一貫感覚が高い者の特徴は類似しているか.....	12
若年層の抑うつという危機.....	14
抑うつの危険性と予防の必要性.....	15
卒業研究での成果と心残り.....	15
2つのアプローチ.....	16
コミュニケーションスキル.....	17
結局のところ何をするのか.....	18
第2章：実施した2つの調査について.....	20
調査1：抑うつを緩衝するという視点からの調査.....	20
1.調査対象者.....	20
2.調査時期.....	20
3. 質問紙の構成 — Times1.....	20
4. 質問紙の構成 — Times2.....	23
5. 分析対象者の属性.....	23
6. 各尺度の精査.....	24
7. 調査対象集団の特徴について.....	53
調査2：健康を促進するという視点からの調査.....	55
1.調査対象者.....	55
2.調査時期.....	55
3. 質問紙の構成 — Times1.....	55

4. 質問紙の構成 — Times2.....	57
5. 分析対象者の属性.....	59
6. 各尺度の精査.....	59
7. 調査対象集団の特徴について.....	82
第3章：【研究1】 ポジティブ・スパイラルとネガティブ・スパイラルは 実在するのか	84
問題と目的.....	84
方法.....	85
結果と考察.....	85
1. 単純相関による各尺度の関連の検討.....	85
2. 類似因子の弁別性の確認.....	87
3. 抑うつに対する1時点でのモデル検討.....	91
4. 抑うつに対する2時点でのモデル.....	96
5. 各因子の交差遅れモデルの検討.....	99
第4章：【研究2】 短縮版社会的クリティカルシンキング志向性尺度の検討と 志向性への	102
アプローチの検討.....	102
問題と目的.....	102
方法.....	103
結果と考察.....	103
1. 探索的因子分析によるモデル探索.....	103
2. 確認的因子分析によるモデル比較.....	105
3. 社会的クリシン志向性尺度の短縮化.....	106
4. 短縮版尺度のG-P分析.....	108
5. クラス別・時点別の α 係数.....	108
6. Times1とTimes2の縦断的因子分析.....	109
7. 調査1と調査2の多母集団同時分析.....	116
8. 志向性は行動を導くか.....	119
9. 志向性は行動と有効性認知によって導かれるのか.....	122
第5章：【研究3】 社会的クリシン志向性は抑うつを予防するのか.....	125
問題と目的.....	125
方法.....	125

結果と考察.....	126
1. 単純相関による社会的クリシン志向性と各尺度との関係の検討.....	126
2. 抑うつに対する社会的クリシン志向性と各尺度との関係の検討.....	129
第6章：【研究4】 社会的クリシン志向性は、首尾一貫感覚を導くのか.....	136
問題と目的.....	136
方法.....	137
結果と考察.....	137
1. 単純相関と偏相関分析による各尺度と首尾一貫感覚との関係の検討.....	137
2. 首尾一貫感覚の正体は人格特性的な自己効力感なのか？.....	141
3. 首尾一貫感覚を導く要因の精査.....	142
第7章：総合考察.....	146
0. 総合考察の方針について.....	146
1. コミュニケーションスキルに関する成果.....	146
1-1. 本研究における位置づけ.....	146
1-2. ENDCORE モデルは妥当であったのか.....	146
1-3. ENDCORE モデルの改良余地はどこにあるのか.....	147
1-4. 対人志向性因子という可能性.....	147
2. 首尾一貫感覚に関する成果.....	148
2-1. 首尾一貫感覚らしきものは確かに存在するらしい.....	148
2-2. 理論・仮説の深い検証は心理学の分野が担うべき.....	148
3. 抑うつに関する成果.....	149
3-1. 卒業論文の心残りは解消されたか.....	149
3-2. 抑うつが認知や注意の柔軟性を奪う、という可能性.....	149
3-3. 反応スタイル理論に関する研究の一里塚.....	151
3-4. 首尾一貫感覚の正体——学習性楽観認知、という可能性.....	152
4. 社会的クリシン志向性に関する成果.....	152
5. まとめと今後の課題.....	153
引用文献.....	155
謝辞・資料	

第 1 章：研究的関心と問題意識

一人一人が自律し、安定した人格を備えたうえで、他者と協働しつつ人生を有意義に生きていくためには、どのような力を身につければよいのだろうか。そして、そのためにどのような働きかけができるのであろうか。これが私の研究的関心である。このことを考える上で、①変容可能性・介入可能性があること、②社会的に有意義であるだけでなく、個人としても身につける意義があること、③幅広く応用できる可能性があること、という 3 つのファクターを重視していきたい。本章では、社会的背景に注目しつつ、本研究の問題意識と本研究で扱う概念について紹介する。

社会的背景

平成 18 年 12 月 22 日、新しい教育基本法が公布・施行された。昭和 22 年に教育基本法が制定されて以来、60 年ぶりの改正である（文部科学省, 2007, p.1）。改正後の教育基本法では新たに前文に“公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成”、“我が国の未来を切り拓く教育”（文部科学省, 2006, p.1）という要素が明記された。第二条において教育の目標もまた明記され、第三条にて生涯学習の理念が新たに加えられたほか、教育基本法は昭和 22 年の制定時の方針に則りながら、大幅な加筆修正が施された。そのなかでも特に、五条の 2 において、義務教育の目的が新たに記載され、日本で行われる義務教育の目的が明文化されたことは重要である。“義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。”（文部科学省, 2006, p.4）とされたこの部分にかかる標記は、改正前の教育基本法では、第四条にて「九年の普通教育」としか記載されておらず、この点が明確にされたことの意義は極めて大きいものと考えられる。

教育基本法の改正後、第十七条に則り、平成 20 年 7 月に第 1 期の教育振興基本計画が当時の政府によって策定され、その 5 年後の平成 25 年 4 月、政府からの諮問を受けていた中央教育審議会は、第 2 期教育振興基本計画（答申）を発表した。そのなかでは、①社会を生き抜く力の養成、②未来への飛躍を実現する人材の養成、③学びのセーフティネットの構築、④絆づくりと活力あるコミュニティの形成という 4 つの基本的方向性を掲げ、学校

段階を貫く視点から具体的方策を整理している（中央教育審議会, 2013a, p.3）。この審議会における問題意識、審議の根底に流れ続けていたものは、我が国が置かれた状況に対する「危機感」（中央教育審議会, 2013b, p.1）とされており、先に述べた4つの基本的方向性は、この危機的状況を乗り越えるためのものである。これらの基本的方向が目指す社会の方向性は、“成熟社会に適合し知識を基盤とした自立、協働、創造モデルとしての生涯学習社会を実現”（中央教育審議会, 2013a, p.6）、することであり、目指すところは“一人一人の自立した個人が多様な個性・能力を生かし、他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる柔軟な社会”（中央教育審議会, 2013, p.6）である。

ここにおいて、これからの我が国の国民は、一人一人の個人をただ単に自立できるように育めばよいわけではなく、“各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質”（文部科学省, 2006, p.6）を備えた、“公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間”（文部科学省, 2006, p.1）として育むことが求められることとなった。

何をもち「自立的に生きる基礎」「必要とされる基本的な資質」なのかは議論があつて然るべきところであるが、これらを考える際に心理学が果たすことのできる役割というもののは決して小さくはないと考える。特に“各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎”（文部科学省, 2006, p.4）が何なのであるかについては、ひとつの答えをピーターソンとセリグマンによって整理された24の人格・長所（character strength and virtues）のリストであるVIA（Value in Action）（島井, 2006, pp.160-163）に求めることが出来よう。現在、VIAは6つの領域（美德）と24の長所（強み）として整理されている（Table1）。

Table1 VIA-ISの構成と各長所の項目例（島井(2006)を基に筆者が作成）

領域	VIA-ISの各長所	項目例(各1項目)
勇気	勇敢	私は、強い抵抗にあう立場をとることができる
	勤勉	私は、いつも自分が始めたことはきちんと終わらせる
	誠実性	私は、いつも約束を守る
正義	チームワーク	私は、グループの一員として、全力を出して働く
	平等・公平	私は、その人がどうであったか関係なく、誰にでも平等に対応する
	リーダーシップ	グループ内では、私は、誰もが仲間であると感じることができるように気を配っている
人間性と愛	親切	私は、この1ヶ月以内に、隣人を自発的に助けたことがある
	愛する力・愛される力	私は、他人からの愛を受け入れることができる
節度	自己コントロール	私は、自分の感情をコントロールできる
	思慮深さ・慎重	「石橋をたたいて渡る」という言葉は、私の好きな標語のひとつだ
	謙虚	私は、自分の実績を自慢したことはない
超越性	審美心	私は、誰かの素晴らしさに触れると涙が出そうになることがある
	感謝	私は、いつも私の世話をしてくれる人にお礼を言っている
	希望・楽観性	私は、いつもものごとの良い面を見ている
	精神性	私の人生には、はっきりした目標がある
	寛大	私は、いつも過去のことは過去のことで考えている
	ユーモア・遊戯心	私は、笑わせることでだれかを明るくする機会があるとうれしい
知恵と知識	熱意	私は、人生を横から傍観者として見ているのではなく、それに全身で参加している
	好奇心・興味	私は、いつも、世の中に好奇心をもっている
	向学心	私は、何か新しいことを学ぶときにわくわくする
	判断	必要に応じて、私は非常に合理的に考えることができる
	独創性	私は、私の友人から、新しい独特のアイデアをたくさんもらっているといわれる
	社会的知能	私は、どのような状況であっても、それに合わせていくことができる
	見通し	私は、いつもものごとをよく見て、幅広く情勢について理解している

どういふものを教育すべきなのか

島井（2006）によると、このリストは以下の10の基準をもって、さまざまな人徳・長所を整理したものである。すなわち、「1）良い人生につながる充実をもたらす、2）それ自体が精神的、道徳的に価値をもつ、3）それを発揮することが他の人を傷つけない、4）反対語に望ましい性質がない、5）実際の行動として表現される、6）他の特性と明確に区別される、7）規範的な人物や物語に具現化される、8）天才的な人物がいる、9）欠如した人物がいる、10）それを育成するための制度や伝統がある」というものである。（島井, 2006, p.161）。これらの基準に基づいて人徳・長所をリストにし、人間に共通のポジティブな特性を整理することによって、セリグマンとピーターソンは、DSMのような、「どこの国にも当てはまる普遍的な枠組みを提供することを目指している」（島井, 2006, p.160）のであ

る。

このリストに記載されている6つの領域（美德）と24の長所（強み）は、特定の研究者が机に向かって沈思黙考して考え出したものでも、個人の経験や実践の中から見出したものでもない。「文化を超えた偏在的な美德」を目指し、古今東西の主要な宗教や哲学的伝統から、それこそ「アリストテレス、プラトン、アキナス、聖アウグスティヌス、旧約聖書、タルムード、孔子、仏陀、老子、武士道、コーラン、ベンジャミン・フランクリン、ウパニシャッドなど、200冊に及ぶ哲学書や経典」から、分類が偏らないよう、先入観を避けるようにして集約された「ほとんどすべての宗教と哲学的な伝統によって、良い性格の核となる概念としてとらえられていた」ものである（Seligman, 2002 小林訳, 2004, pp.191-196）。これは極めて重要な特徴である。なぜならば、今既に訪れつつある多文化共生社会、また、目指すべきところである「他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる柔軟な社会」（中央教育審議会, 2013, p.6）における「公共の精神」（文部科学省, 2006, p.1）には、多様な価値観の根底に流れるものであり、文化差による価値観の隔たりを克服できる可能性が必須であると考えられるからである。

この点について、青木（2006）は実際にアメリカで行われている Character Education（品性徳目教育）について論じている。アメリカは我が国よりも多様性が大きく、この点においては最先端の国であろう。20世紀に入り道徳性は個人化され、アメリカにおける品性徳目に関する教育は、学校を通して公共的に論じられるものではなくなった。しかし、1990年代に入ってから家庭における教育力の低下などを受け、品性徳目に関する教育の中核を学校が担う必要性が生じ、その際にはキリスト教という宗教という枠にとらわれず、アメリカにおけるどの文化にも適応できる品性徳目が求められた（青木, 2006）。徳目に対する教育的扱いに関しては、道徳の時間の教科化が議論されるなど、我が国の道徳教育の変遷にも類似点が見られる。日本もアメリカと同様の道をたどっていると考えられ、どのような品性徳目を教育するか、どのように品性徳目を教育するかについて、アメリカの品性徳目教育は大変参考になると考えられる。

VIA について、教育の視点からは、特に3)と10)の2つの基準があることが重要だろう。「3) それを発揮することが他の人を傷つけない」（島井, 2006, p.161）ことは、多文化の協働において無益で不要な争いを避けるには重要なことであるし、「10) それを育成するための制度や伝統がある」こと（島井, 2006, p.161）は、変容可能性・介入可能性があると見なされていることの証左であると言えよう。また、自分の周りにおける多様性に振り回され

ずに、「自分の態度の核となる考えをもつことは、自分に与えられた命を生き抜き、日々の充実感、満足感を得る上で必要」(青木, 2006 p.189) であると考えれば、自分の強みは何なのか、それはどういったものであるのか、ということ子どもにわかりやすく伝え、子どもの行動を方向付けやすくするためにも、まとまった項目として提示できることは大きな意味を持つと考えられる。

クリティカルシンキングへの着目

「自立的に生きる基礎」「必要とされる基本的な資質」とは何なのか、ということを考えるにあたって、VIA はすでに存在する数多の宗教や哲学的伝統から、ボトムアップ的にまとめられたものである。一方で、すでに訪れつつある情報社会や「他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる柔軟な社会」(中央教育審議会, 2013, p.6) において重要な力は、トップダウン的に求めることもできよう。クリティカルシンキング(以下: クリシン) は、そのような力の候補として挙げられる。

クリシンとは、「自分の推論過程を意識的に吟味する再帰的 (reflective) な思考」(Ennis, 1987) のことであり、吟味する際には適切な基準や根拠に基づき、論理的で、偏りのない思考を行う(廣岡・元吉・小川・斎藤, 2001) ものである。楠見(1996) は、良き思考者や良き市民を育てるために、クリシンを教えることが重要だと述べている。また、廣岡・小川・元吉(2000) は、クリシンの能力を獲得することは、人間が社会のなかで「かしこく」生きるための基礎体力を獲得することにも等しく、よりストレスの少ない社会生活を送ることにつながっていくと述べている。実際、数多くの心理学研究のなかで、人間は本質的に偏った思考や誤った推論を行いやすい存在であることが示されている。特に日常生活において、思考や推論の歪みが原因で適切な判断に失敗することは多くみられ(平山・楠見, 2004)、それが原因で対人関係や社会問題が起こっている側面もある(横矢, 2005)。すなわち、VIA で示されるような強みを身につけたとしても、それを強みとして有効に発揮するためには、日常において人間が陥りやすい思考や推論の歪みを自覚し、ものごとを冷静かつ客観的、論理的に考え、問題解決や意思決定を行っていくというクリシンが機能することが重要であり、クリシンを用いることによって、より効果的に強みを発揮できる可能性がある。

クリシンは、欧米では 50 年来の教育・研究の歴史があり、現在でも重要な高等教育の教育目標となっており(道田, 2000)、日本においても、大学教育が共通して目指す成果とし

て文科省が提示する「学士力」（中央教育審議会，2008）の具体的な内容として、クリティカルシンキングに注目が集まっている状況（子安，2011）にある。楠見（2011）は、クリシンを日常生活から職業生活、学問にわたって応用可能なジェネリックスキルとして位置づけている。

クリシン教育の社会的重要性の高まり

高等教育に限らず、平成 23 年 10 月に文部科学省より出された『言語活動の充実に関する指導事例集』においては、小学校版から高等学校版に至るまで、「多様な観点から考察する能力」としてクリティカルシンキングの育成・習得について言及されている。それだけではなく、先日発表された中教審答申においては、「（道徳性の中でも）とりわけ、内省しつつ物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意思や態度、豊かな情操などは、「豊かな心」だけでなく、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、「生きる力」を育むものである。」（中央教育審議会，2014，p.2 括弧内は筆者）とされるなど、その重要性は広く認識されつつあると言えるだろう。クリシン教育の意義に対する認識は高まりを見せており、初等・中等教育の段階からクリシンにアプローチすることの必要性も説かれはじめている。

クリシンを阻害するもの

Ennis (1987) は、クリシンの構成要素を態度・傾性 (disposition) と能力・技術 (abilities) に分けている。クリシンはその能力のみが重要なのではなく、実際に発揮すること、発揮しようとする態度が重要なのである。廣岡ら (2000) は、クリシンの教育という視点を持つのであれば、能力・技術を獲得もしくは高めることよりも先に、クリシンに対する志向性を獲得、向上させることが重要であるとしている。つまり、「したい」と思わなければ能力は発揮されないし、「なりたい」と思わなければ、その態度も身につけにくいということであろう。

しかしながら、クリシンをする人（クリシンカー）へのネガティブなイメージが、能力を発揮しようとすることや、自らがそうなりたいと思うことに歯止めをかけている可能性がある（元吉，2011）。先に述べた廣岡ら (2000) では、客観性・誠実さ・探究心の各クリシン志向性について、これらが低い者はクリシンカーへの親しみやすさを低く認知していることが見いだされた。この研究ではクリシンカーに対して親しみにくいイメージを抱い

ていることが、クリシンの獲得にマイナスに働いている可能性を指摘しているが、同時に「誠実さと他者を尊重する態度」を育成することがクリシンカーに対する親しみやすさを改善するのに最も有効であることも同時に示唆されている。また、ノンソーシャル・クリシンカー、ソーシャル・クリシンカー（社会的クリシンカー）、ノンソーシャル・ノンクリシンカー、ソーシャル・ノンクリシンカーの4つの人物モデルに対するパーソナリティ評定を扱った廣岡・中西・横矢・後藤・福田（2005）では、ノンソーシャルなクリシンカーの社会的な望ましさは高く評定されていたものの、親しみやすさはあまり高くはなかった。一方でソーシャルなクリシンカー（社会的クリシンカー）は、社会的望ましさ、親しみやすさともに評定が高く、同時に調査されたどのパーソナリティよりも、そのような人物について好きであり、なりたいと評定されていた。なお、ノンソーシャル・クリシンカーが従来より扱われているクリシンを行う人物であり、ソーシャル・クリシンカーは特に社会的な側面をもつクリシンカーである（以後、ソーシャルなクリシンのことを社会的クリシンとする）。

この2つの研究の示唆するところは、ノンソーシャルなクリシンに対する志向性を高め、その行動を促すことに直接アプローチするよりも、社会的クリシンに対する志向性と行動にアプローチをすることの方が、結果的にノンソーシャルなクリシンを育成するための早道になる可能性である。ノンソーシャルなクリシンよりも、社会的クリシンのほうが有用性について認知されやすく、適用場面も多く、親しみやすさも高いことから発揮されやすいと捉えれば、社会生活を送る中で社会的クリシンの対象となる出来事に出会った際に、クリシンしようと試みるのが期待される。また、そのような経験を積むことによって能力の涵養につながる事が期待され、適切に発揮されれば、対人関係の問題解決に役立つだけでなく、余計な摩擦・軋轢を生じさせないという予防的な意味でも効果が期待できる。他者と協働しつつ人生を有意義に生きていくために必要な能力という意味においては、ノンソーシャルなクリシンよりも社会的クリシンの方が果たすところが大きいのではないだろうか。

元吉（2011）では、社会的クリシンを「自分とは異なる他者の存在を意識し、人間の多様性を認めながら、偏ることなく他者を理解しようとし、文脈や状況によっては譲歩することができる。そして、異なる他者や多様な価値観に対する寛容さを持つことを重視した概念」と定義しており、抱井（2004）において日本では関係的・文脈的思考が重視されるため、西洋文化で高く評価される論理的・抽象的思考が好まれるとは限らず、むしろ他者

に対する配慮に欠けた不適切な思考と解釈される危険性が指摘されていることを受け、このような指摘は日本人学生の持つ論理的なクリシンへのネガティブイメージと一致するとしている。元吉（2011）は、日本の学生が身につけたいと思っているのは、他者に配慮できて、良好な対人関係を維持するのに必要な能力であり、クリシンの教育を行う際に、その社会的な側面を強調することの重要性を指摘している。

このように、社会的クリシンに注目することの重要性は挙げられるが、現状、社会的クリシンに関する研究はほとんどされていない。国内における文献検索エンジンである CiNii で調べる限りにおいて、「社会的クリティカルシンキング」と題された研究論文は、中西・廣岡・横矢（2006）の一本のみである（2014年12月8日現在）。

クリシンカーは健康である可能性

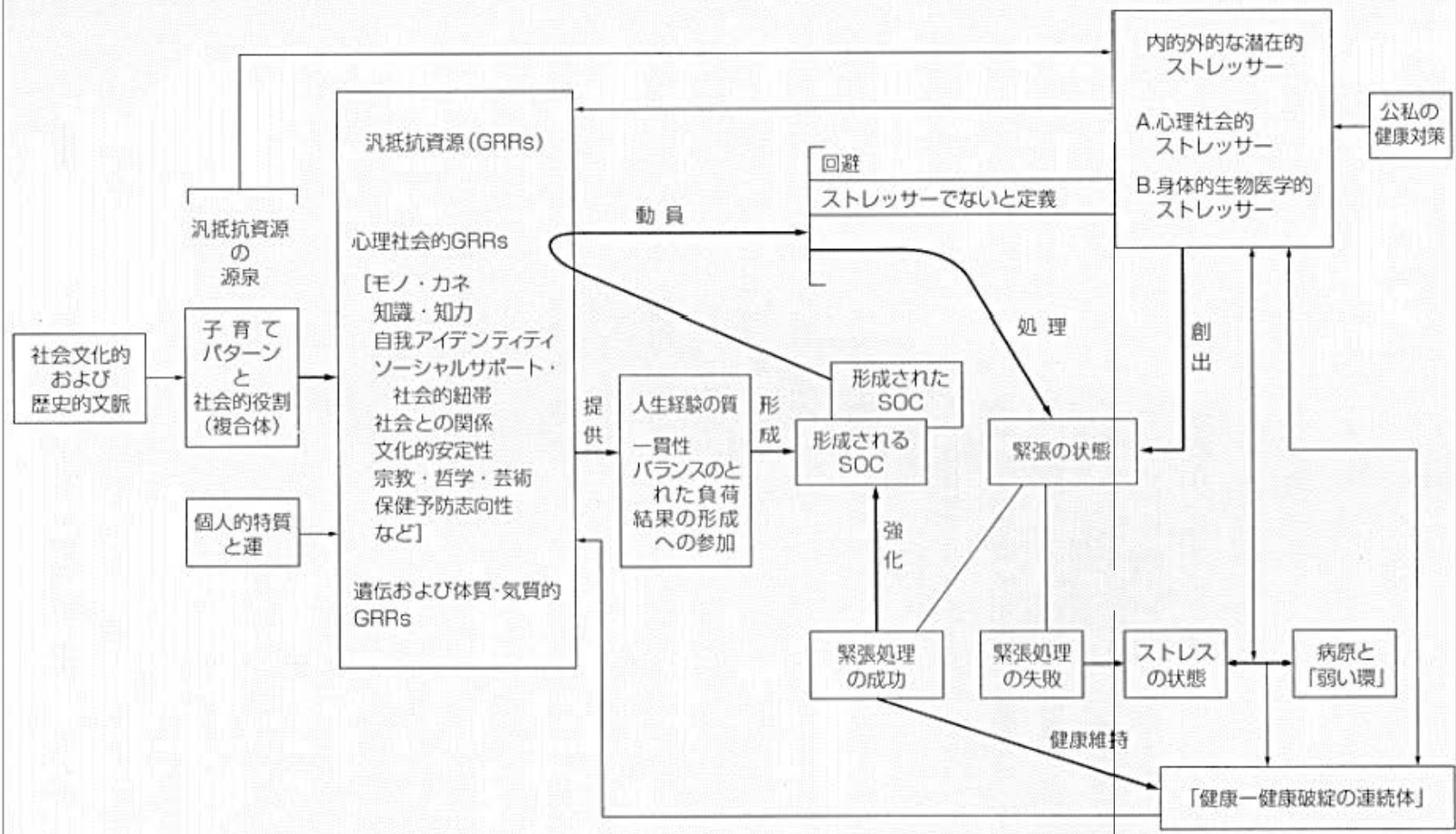
ところで、クリシン教育は社会的に必要とされていることを上述したが、クリシン教育は良き思考者や良き市民を育てる（楠見, 1996）といった社会的意義でのみ語るべきではないと考える。廣岡ら（2000）が指摘するように、クリシンの能力を獲得することは、人間が社会のなかで「かしこく」生きるための基礎体力を獲得することにも等しく、よりストレスの少ない社会生活を送ることにつながっていくという、個人的意義の文脈でも捉えるべきである。つまり、クリシンを身につけることは社会的な価値のみでなく、個人的な価値も高いものであり、クリシン教育は、個々人が進んでクリシンを身につけられるよう志向されるものである必要がある。その点について、クリシンを行うことが社会だけでなく、個々人の健康につながる可能性をあげることができるだろう。すなわち、クリシン教育を通じて、「豊かな心」や「確かな学力」だけでなく、「健やかな体」についてもアプローチできる可能性があるのである。その一端として、磯和はクリシンが抑うつを予防する可能性について言及している（c.f.：磯和, 2008; 磯和・南, 2014）

首尾一貫感覚という概念

本研究では、クリシン教育の個人的価値を高めることを念頭に置き、そのうえでクリシン自体が健康全般に関係する概念である首尾一貫感覚との関連を検討する。首尾一貫感覚（sense of coherence : SOC）とは、健康生成論（salutogenesis）の中核概念として、アロン・アントノフスキー（1987, 山崎・吉井監訳, 2001）によって提唱されたものである。山崎（2008, p.9）によると、SOCは「自分の生活世界（生きている世界）はコヒアレント

(coherent) である、つまり首尾一貫している、筋道が通っている、訳が分かる、腑に落ちるという知覚 (perception)・感覚 (sense) のことである。」それは、「自分の置かれている、あるいは置かれるであろう状況がある程度予測でき、または理解できるという把握可能感 (sense of comprehensibility)」「何とかなる、何とかやっていけるという処理可能感 (sense of manageability)」「ストレスへの対処のしがいも含め、日々の営みにやりがいや生きる意味が感じられるという有意味感 (sense of meaningfulness)」の3つの感覚からなる、当人の生活世界規模の志向性である。SOC は、自尊感情や自己効力感、ローカス・オブ・コントロールといった自己概念を持つ、アメリカの個人主義バイアスのかかっていない点が特徴であることが強調されている (山崎, 2008, p.17)。従来の疾病生成論 (pathogenesis) が、いかなる場合に人間は健康でなくなるのか、という危険要因 (risk factor) に着目しているのに対し、健康生成論は、いかなる場合に人間は健康でいられるのか、という健康要因 (salutary factor) に注目する。人の健康は、健康—健康破綻を両極とする連続体の上であり、これを健康破綻の極に向かわせる力 (危険要因) と健康の極に向かわせる力 (健康要因) の拮抗によって位置づけられる。一見静止しているように見える場合でも、それは危険要因と健康要因が拮抗しているためにそう見えるだけであり、常にこの2つの力は働いている。危険要因が強まったり健康要因が弱まれば、人の健康は健康破綻の極に向けて移動し、逆に危険要因が弱まったり健康要因が強まれば、人の健康は健康の極に向けて移動する。この健康生成論を構成する2つのキー概念が、SOC と汎抵抗資源 (generalized resistance resources : GRRs) である。GRRs は、モノやカネ、知識やソーシャルサポート、社会との関係や宗教、哲学など、その人がストレスや緊張に対して使用できる資源の総称であり、SOC の形成要因でもある。SOC は、GRRs を用いて危険要因に対抗する健康要因であり、ストレス対処・健康保持能力であるとされる。(Figure1)

健康生成モデル



注1) アントノフスキーの原因を山崎が一部改変または簡略化。
 注2) アントノフスキーによれば、図中の太線で結ばれている概念間の関係が、健康生成モデルのコアである。

Figure 1 健康生成モデル (Antonovsky, 2001 山崎・吉井監訳 p.vより)

健康生成論の概念は、日本の心理学界ではまだあまりなじみがない。浅野・吉田（2010）が対人社会心理学研究に、同じく浅野・堀毛・大坊（2010）がパーソナリティ研究に、また、藤里・小玉（2011）が教育心理学研究に掲載されたという 3 例を除いて、日本の著名な心理学会誌への掲載は見られない。しかしながら、『ポジティブ心理学』（島井, 2006）には第 13 章で健康生成論と SOC について述べられた章がある（先述した小玉氏の担当章）し、CiNii で検索した限りにおいては、健康の分野や看護学の分野を中心に、142 件の文献が見られる（2014 年 12 月 9 日現在）。また、海外に目を向ければ、「SOC 実証研究は、1987 年以降 2000 年までの 10 数年間に、学術誌に掲載された論文だけでも 300 本近くにのぼったが、21 世紀に入って以降も幾何級数的に増え続け、2007 年には 1,000 本を超えるにいたった。」とされている（山崎, 2008 p. i）など、現在も研究のすそ野を広げている概念である。

首尾一貫感覚の形成要因

アントノフスキーの提唱した 2 つの部分理論からなる健康生成モデル (Figure1) における GRRs と SOC の関係は、ストレス対処において、GRRs は SOC によって使用される資源である点、GRRs は SOC の形成をうながすものである点の 2 点にまとめられる。山崎（2008, pp.19-22）によると、SOC は「乳児期から思春期を経て青年期、せいぜい成人初期（20 歳代）にいたるまでの人生経験を通じて、後天的に形成され、その人に深く刻み込まれ獲得されていく学習性の感覚」である。これは、次のような良質な人生経験——「共有された価値観やルールや習慣に基づく経験のように一貫性のある、したがって一貫性が感じ取られやすい人生経験」・「負荷が過小でも過大でもなく、バランスのとれた、適度な負荷のかかる人生経験」・「好ましい結果が得られたことに自分自身も参加・参与したという人生経験」から形成されるとされ、形成期（青年期まで）のほうが未熟で可塑性が高く、環境の影響を受けやすい。しかしながら、青年期で SOC の形成は止まるわけではなく、形成期以降においても生涯発達・成熟していく概念である。特に、SOC は発生したストレスによって生じた緊張に対し、うまく処理できたときに強化されると考えられており、戸ヶ里（2008a, pp.59-60）では、アントノフスキーが述べる SOC を「修正」（変化）する 3 つの可能性について言及している。ひとつめには「（死別や事故といったネガティブなイベントから、物事の達成といったポジティブなイベントまで含めた、インパクトの強い）一時的なイベントにより SOC の変動が促される」可能性、ふたつめには「臨床家がクライアン

トに出会う際に、クライアントに『一貫していてバランスがとれていて意味のある参加だ』と思わせるような出会いをすること」、最後には「経験を自分のなかで再定義することができて、その再定義化が一時的なものではなくてある程度の期間維持された場合」である（括弧内は筆者）。

クリシンカーと首尾一貫感覚が高い者の特徴は類似しているか

上述した SOC の要素、特に SOC を強化する要因としてストレスによって生じた緊張に対しうまく対処する経験や、SOC を「修正」しうる要素（一時的なイベントが発生した際に自分にとっての意味を問うこと、良好な出会いを繰り返すことや、経験を自分の中で再定義するなどの反省的な思考様式）は、クリシンカーを思わせるところがあると感じるのは私だけであろうか。クリシンの定義は研究により様々であるが、道田（2003）では大きく「論理主義」・「一般的な批判的思考」・「第二波」という区分けが提案されており、研究者は研究において扱うクリシンがどの要素を指しているかを明確にすることの重要性を指摘している。筆者のもつクリシンカー像は「第二波」に分類されるものであることをここで明らかにしておきたい。これは、廣岡らの一連の研究（廣岡・小川・元吉, 2000; 廣岡ら, 2001; 廣岡ら, 2005; 廣岡・横矢・中西, 2006）も同一のスタンスと考えられる。

ここで扱うクリシンについて、廣岡ら（2005）ではクリシンカーを以下のように表現している。ノンソーシャル・クリシンカーは「Aさんは、物事を決める時に客観的な態度を心がける人です。どんな物事や情報に対しても、簡単に信じ込んだりはしません。納得できるまで考え抜き、確かな事実や証拠を大切にしながら、適切な根拠をもとに偏りのない判断をする人です。自分の意見や考えを論理的に組み立てることができます。ここぞというときには、ためらわずに決断することができます。」、社会的クリシンカーは、「Bさんは、いろいろな人と接して多くのことを学びたいと考えています。人の話のポイントをつかむのが上手で、たとえ自分の意見が違う意見であっても、理由なく否定せずに意見を聞くことができます。友だちに対しても言わなければいけないと思えば、悪いことは悪いと言うことができる人です。また、うわさをむやみに信じ込んだりはしません」と表現されている。また、中西・廣岡・横矢（2006）において抽出された社会的クリティカルシンキング志向性尺度の因子から見えてくる姿は、「人の考え方にはバラエティがあることを意識した上で、意見が合わない人の考えにも耳を傾け（多様性理解）、話や問題のポイントをつかみ、わかりやすく物事を伝えることを心がけており（要点理解）、むやみに物事を信じ込まない

ように注意し（脱軽信）、物事の理屈を考え、できるだけ多くの事実や証拠を調べ、それを重視した上で判断を下し（論理・証拠の重視）、一旦決断したことは最後までやり抜く（決断力）ことに加えて、友だちに対してでも悪いことは悪いと指摘する（真正性）一方で、他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる事ができる（他の理解）人である。」というものである。これらのように表現されるクリシンカー像は、高いSOCを持つ者の特徴と類似していると思われる。社会的クリシン志向性が高い者が持っている特徴として、クリシンカーは、自分のことは自分で決め責任を持ちたい（安藤, 2003）というスタンスで人生やストレス対処に望み、世界を合理的に解釈したいという欲求（認知欲求）を持っている（廣岡ら, 2001）。また、中西ら（2006）によると、社会的クリシンの経験が多い大学生は、「大学で学習すると自分がもっと成長できる」や「大学で学習することは、自分にとって重要だ」といった私的獲得価値を持ち、大学での学習にサポートを受けていると感じており（社会的環境）、自分の意志で学習することができ（効力予期）、大学での学習を面白いと感じており（興味価値）、また、「大学で学ぶ内容は、しっかりと学習すれば理解できる」という結果予期も感じているといった傾向が見られている。また、定義的な次元で言えば、（第二波における）クリシンカーは、合理性を前提に置き、思考の対象に自分自身の思考をも含めるなど自己統制的であるうえに、開かれた心を持っているとされる（道田, 2003）。また Facione（1990）では、クリシンの統一的定義を目指して開催されたデルファイ・プロジェクト（the Delphi project）においてまとめられたクリシン技能の中核要素を6つ（interpretation, analysis, evaluation, inference, explanation, self-regulation）挙げており、自己統制（self-regulation）はそのうちのひとつに数えられている。また、83%以上のコンセンサスを得た良きクリシンカーの情意的側面（affective dispositions）として挙げられているなかに、「異なる世界観に対して開かれた心を持っていること（open mindedness regarding divergent world view）」（Facione, 1990 p.13. Table5）が挙げられている。このように、クリシンカーは自己統制的であり、かつ開かれた心を持つことが求められているが、これは5因子性格検査（FFPQ）でいうところの愛着性と統制性の次元に分類される（FFPQ 研究会, 2002）と考えられる。実際、平山・楠見（2004）は、批判的思考態度尺度作成の際に、外的基準としてFFPQの愛着性一分離性因子より12項目（非共感－共感：6項目、自己尊重－他者尊重：6項目）を抜き出して使用している。結果として作成された批判的思考態度尺度の4因子のうち、証拠の重視を除く3因子と、各外的基準項目との間に相関関係が見いだされている。SOC研究においても、SOCとFFPQとの関連性を見た

研究が存在し(銅直, 2007)、そこでは SOC の総得点と統制性の総得点との間に正の相関 ($r = .460$) が、SOC の総得点と愛着性の総得点との間に正の相関 ($r = .518$) が確認されている。性格特性の視点で述べれば、クリシンカーに求められている要素と SOC を持つ者の性格特性には共通点が見いだせることとなる。クリシンが習得可能な技術と傾性であり、SOC が人間の深い部分にある生活世界規模の志向性であるとするならば、SOC を形成・強化していく要素のひとつとして、クリシン(特に社会的クリシン)を挙げることができるのかもしれない。すなわち、クリシンを行うことによって、日常に起こる緊張に適切に対処できた結果、その人の SOC が高まる可能性や、クリシンカーであろうと志向し行動することによって SOC が形成・強化されていくという可能性を考慮できるのではないだろうか。

若年層の抑うつという危機

「健やかな体」という要件について、決して見過ごしてはならない現状がある。若年層の抑うつについてである。学生の抑うつ傾向の高さはこれまでに指摘されてきており、磯和・南(2014)では、調査対象者 248 名のうち半数の 124 名が、抑うつ状態を測る尺度である CES-D の Cut-off point (16 点) を超えていた。この傾向は現在も続いており、例えば志渡・米田・吉田(2014)に連なる研究では、学生の約 6 割が CES-D の Cut-off point を超えていることを報告しており、その中でも澤目・上原・佐藤・蒲原・岡田・志渡(2011)は、526 名の調査対象者のうち、CES-D 得点が 25 点を上回る学生が約 27%にのぼることを報告している。白石(2005)は、ある一時点に置いて全体の 25-30%もの学生が高い抑うつ傾向にあったとの報告から、学生の抑うつに対する予防的介入にも目を向ける時期がきたとしている。糠野(2004)では、抑うつ尺度において感情障害群と正常群を分ける指標となる Cut-off point を越えた学生が多く見られており、しかもそのような学生は固定的であったことから、学生相談を含む個別サポートが急務であり、予防的なかわりの検討が必要であるとしている。

これらの知見が示すとおり、抑うつを治療するという視点だけでなく、その発症を予防するという視点は、今後ますます重要なものとなってくるだろう。実際、及川・坂本(2007)は、抑うつ対処の自己効力感に対して、認知行動的にアプローチする介入プログラムを検討している。

抑うつ危険性と予防の必要性

坂本(1998)によると、抑うつ(depression)は、概ね「抑うつ気分(depressed mood)」「抑うつ症候群(depressive syndrome)」「うつ病(depression illness)」の3つの意味で用いられており、その中核は「抑うつ気分」である。抑うつ気分とは、悲しくなった、憂うつになった、落ち込んだなどの気分のことで、一時的なものから、長期にわたり持続的するものまでである。この抑うつ気分とともに生じやすい症状群のことを、抑うつ症候群という。これは抑うつ気分の他に、興味消失や自信喪失、自殺企図や自殺念慮などを含むものである。

うつ病の無視できない特徴として、生涯有病率の高さと自殺率の高さが挙げられる。坂本(1998)はうつ病の罹りやすさおよび、精神科の診療を受けていない潜在的な抑うつ者が相当数いるであろうことを指摘している。そして、軽度の抑うつを放置すると重度の抑うつに至る可能性や、自殺にいたる危険性の高さから、例え軽度の抑うつであっても見過ごされるべきではないとしている。

クリシンによって抑うつ重症化を予防・低減することができると考えられ、特に昨今問題になりつつある大学生の抑うつ(うつ病)を予防できる可能性があると同時に、将来にわたって抑うつに対する耐性を身につけることが可能であると考えられる。磯和(2008)では、クリシンを行うことによって、抑うつに効果があると考えられる3つの効果が期待できるとしている。すなわち、①適応的で効果的な気晴らしを行うことが可能になる、②問題解決的な思考を行うことが可能になる、③不適応的な認知の歪みを自らで改めることが可能になる、である。しかしながら、志向性を持つだけでクリティカルに思考できるわけではない。クリシンを教育するためにクリシン志向性を重視するという視点を持ち、またそれを行おうとするのであれば、「考えよう」とする動機づけを高めた際に、それ自体が抑うつ強い予測因である反すうや否定的考え込み(e.g. 名倉・橋本, 1999; 伊藤, 2004)を導いてしまう可能性もある。クリシン志向性が抑うつと関わっているかを把握することは、重要で価値のあることと言えるだろう。この関係を把握することにより、クリティカルシンキング教育を行う際に留意すべき点が見えてくると考えられる。

卒業研究での成果と心残り

磯和・南(2014)では、上述の可能性を検討した結果、ノンソーシャルなクリシン志向性を刺激することが、抑うつを導くようなリスクは低いことが示された。またその際に、抑うつに関する2つの反応連鎖が存在する可能性が示唆されている。これは、抑うつ程

度によって、考え込み型反応と認知的統制 (e.g. 甘利・馬岡, 2002; 杉浦・杉浦・馬岡, 2003) の抑うつに対する働きかけが異なる可能性があり、抑うつが低い段階で作用するポジティブ・スパイラルと、抑うつが高い段階で作用するネガティブ・スパイラルとして整理される (磯和, 2008)

ポジティブ・スパイラルは思考と行動の検討が始発になると考えられる、抑うつを低減・予防に対して有効な反応連鎖のことである。自らの思考と行動を検討することが、否定的な思考と距離を置くこと及び問題解決的に考えることにつながっており、これらは抑うつを低減する。そして、問題解決的な思考は、思考と行動を検討することができるという認知と行動につながっており、否定的な思考と距離を置くことは、思考と行動の検討を困難にさせる否定的考え込みも低減する。すなわち、思考と行動を検討し、抑うつを低減するような姿勢は、それを行うことで強化されていくと考えられる。つまり、思考と行動を検討する姿勢を身につけることは、抑うつ重症化に対する耐性を身につけることにつながると考えられる。これは、認知療法の認知的技法を身につけることが抑うつ予防に有効であることを示唆する結果であり、ひいてはクリティカルシンキングを身につけることが抑うつ予防に有効であることを示唆するものであると考えられる。

ネガティブ・スパイラルは、ネガティブな思考を固着させ、抑うつを促進すると考えられる反応連鎖のことである。これは否定的考え込みが発端になっていると考えられる。否定的に考え込むことによって、自らの思考と行動の検討を行うこと及びネガティブな思考から距離を置くことが困難になっていく。これによって否定的考え込みにブレーキをかけることができなくなると考えられ、より強い否定的考え込みを招く。これらが繰り返された結果、否定的な考え込みから抜け出せなくなってしまうと考えられる。そして、自らの思考と行動の検討をすることが妨げられてしまうことで、認知の歪みは維持され、それがさらなる認知の歪みをもたらしてしまう可能性があると考えられる。これはつまり、否定的考え込みを行う者は認知的な柔軟性が低くなっていくことを示していると言える。CES-D 得点が高い群においてこの傾向は顕著であったことから、これは抑うつ程度が高くなるほど顕著になると考えられる。

2つのアプローチ

磯和 (2008) は一時点のみの調査であり、縦断的な検討を行ったわけではない。よって、スパイラルが実証されたとは言い難く、今後縦断的な調査によって検討する必要があると

考えられる。どちらの反応連鎖にせよ、始発でありキーとなっているのは、思考と行動の検討、すなわちクリシン態度である。この態度を身につけさせるために先ずはクリシン志向性に働きかけることが重要であり、そのためには社会的クリシンの視点からアプローチすることが有効である可能性が示唆されている。また、クリシンをすること自体が、健康の予測因である SOC を形成・強化している一要素である可能性もある。本研究では、このことについて、2 つの方法でアプローチを試みたい。ひとつは、磯和（2008）と同様の枠組みで社会的クリシンと抑うつとの関係を検討し、クリシンが抑うつへの緩衝要因になる可能性を検討する。なお、その際に 2 つの反応連鎖が存在する可能性について検討する。もうひとつは、クリシンが抑うつを緩衝するという意味で有効であるだけでなく、健康の予測因とされる SOC を導くことを示し、健康促進のために積極的に働きかけることが有効である可能性の検討である。この可能性を検討する際に、社会的クリシンと SOC の媒介要因として、コミュニケーションスキル（コミュニケーションの得手不得手に対する意識）の視点からも検討したい。

コミュニケーションスキル

人間社会において幅広く応用可能性がある、という点において、コミュニケーションスキルに関する研究は屈指のものであるだろう。藤本・大坊（2007）は、これまで多義的であったコミュニケーションスキルやソーシャル・スキル、アサーション・スキルや文化や社会に応じる対人関係ストラテジーといったものを「スキル」として整理し、コミュニケーションスキル（直接的コミュニケーション）を扇の中核とし、その上にソーシャル・スキル（社会的相互作用）とストラテジー（文化や社会への交流・適応）を置いた「スキルの扇」（Figure2）として捉える ENDCORE モデルを提唱している（c.f.: 藤本・大坊, 2007; 藤本, 2013）。このモデルでは、特に直接的に人と関わる部分であるコミュニケーションスキル（コミュニケーションの得手不得手意識）に焦点をあて、表出系（Encode）に 2 つのスキル（表現力、自己主張）、反応系（Decode）に 2 つのスキル（解読力、他者受容）、管理系に 2 つのスキル（自己統制、関係調整）を据えており、それぞれの階層関係を整理している。このモデルで一番の中核となる要素は自己統制であり、これはクリシンの要件である。また、アントノフスキーは SOC のうち処理可能感の説明において、統御感という用語を使用している（アントノフスキー, 1987 山崎・吉井監訳, 2001, p.63）ことから、SOC においても自己統制は重要な点であると考えられている。このことから、クリシン及び

SOC とコミュニケーションスキル（コミュニケーションの得手不得手意識）を検討する際に、ENDCOREs 尺度を使用することは妥当であると言えるだろう。なお、ここまでに「コミュニケーションスキル（コミュニケーションの得手不得手意識）」と併記してきたのは、ENDCOREs 尺度で測定しているものは、厳密にはスキルではなく抵抗感であるからである。この尺度では具体的な行動技術を指定せずに、その行動を選択する際の抵抗感を評価する「得意－苦手」という選択肢を採用している。能力の自己評価と実際の能力とが乖離してしまうのは、質問紙法の限界点であろう。

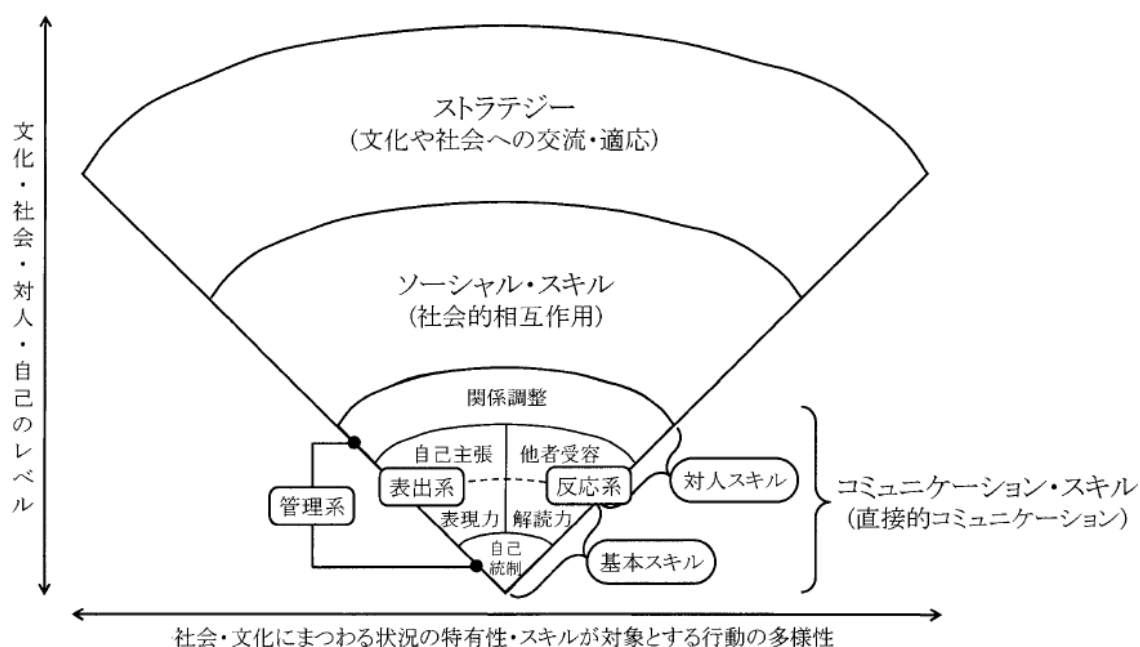


Figure2 「スキルの扇」モデル 藤本・大坊 (2007) より

結局のところ何をするのか

本研究では、まず第 1 章（本章）において研究の問題意識を述べた。その後、第 2 章において、本研究で行った 2 つの調査について述べる。その後、第 3 章から第 7 章にかけて、それぞれの研究別に視点を設定し、その視点からの分析と考察を行う。

第 3 章では、抑うつに関するポジティブ・スパイラルとネガティブ・スパイラルが実在しているのかについて、2 時点の抑うつ、認知的統制、反応スタイルの関連について検討する。この際、反応スタイルのうちの「問題解決的考え込み」因子と、認知的統制の「思考と行動の検討」因子の 2 つを、クリティカルシンキング能力の発露と見なして検討を行う。

第 4 章では、異なる 2 つの集団に関する 2 時点のデータを用いて、短縮版社会的クリシン志向性尺度作成、および、尺度の信頼性と妥当性の検討を行う。

第 5 章では、第 4 章で短縮化された社会的クリシン志向性尺度を用いて、社会的クリシン志向性が抑うつを予防するのかどうかについて、第 3 章で作られたモデルに社会的クリシン志向性因子を組み込むことについての検討を行う

第 6 章では SOC と社会的クリシン志向性との関わりを、コミュニケーションスキルとの関連から検討する。

第 7 章では、本研究全体を通しての考察を行う。すなわち、本章（第 1 章）が問題と目的、第 2 章の前半が方法、第 2 章の後半から第 6 章が結果と考察、第 7 章が総合考察に該当する章である。

第2章：実施した2つの調査について

この章では、本修士研究で実施した2つの調査について述べる。研究全体の位置としては、方法と全体的な結果に該当する章である。

調査1：抑うつを緩衝するという視点からの調査

本調査は、2つのアプローチのうち、卒業研究（磯和, 2008）で使用した枠組みを拡張し、2時点での調査を実施するものである。

1.調査対象者

地方にある4年制のA大学において、教養教育科目の心理学を受講していた学生に対し、講義の時間内に質問紙調査を行った。対象となった授業は、同一教員の担当する2つの授業である。Times1では216名、Times2では188名から質問紙を回収した。その後、Times1とTimes2のマッチングを行ったうえで、欠損値を含むデータを分析から除外し、最終的に142名が分析対象となった。以後、特に断りがないかぎり、調査1の分析はこの142名のデータを用いて行う。

2.調査時期

Times1は2014年4月16日、Times2は同7月23日であった。なお、Times1は前期2回目の講義であり、Times2は14回目（最終回は15回）の講義であった。

3. 質問紙の構成 —— Times1

3-0.フェイスシート

調査内容の説明と、それに対する同意を取ったのち、年齢、性別および学籍番号について回答を求めた。学籍番号は調査2時点の対応を取るためのみに使用することを説明したうえで記入を求め、記入したくない学生については、学部、学年、誕生月と携帯番号の下4桁の記入を求めた。

3-1. 社会的クリティカルシンキング志向性尺度

中西ら（2006）で使用された社会的クリティカルシンキング志向性尺度のうち、最終的

に分析に使用された 27 項目を用いた。中西ら (2006) では「全くなりたくない」から「非常になりたい」までの 7 件法で回答を求めており、本研究でもそれに倣ったが、この尺度は全体的に平均値が高くなりやすく、天井効果を起こしやすい。そのため、教示文は「多少の苦勞をしてでも、下記のようなことがらができる人にどれくらいになりたいと思いますか。貴方に最もあてはまる場所 1 つに○をつけて下さい。」とし、「多少の苦勞をしてでも」の部分¹を太字でフォントを 1 ポイント大きくし、強調したうえで提示した。回答にあたっては、「全くなりたくないー非常になりたい」までの 7 件法で回答を求めた。

3-2. CES-D 尺度 16 項目版

抑うつを測定する尺度として、CES-D 尺度 16 項目版 (蒲原・岡田・志渡, 2009) を用いた。これは、米国精神保健研究所の CES-D (the Center for Epidemiologic Studies Depression Scale) の邦訳版 (島・鹿野・北村・浅井, 1985) 20 項目について 2 次因子分析を施した結果を参考に、抑うつのスクリーニング機能に大きな影響がないことを確認したうえで、「満足感」(逆転項目) 4 項目を除いた 3 因子 (「抑うつ感」、「不安症状」、「孤立感」)・16 項目に短縮されたものである。

CES-D は、非臨床群の抑うつ症状の評価手段としてもっともよく使用されるスケールのひとつ (甘利・馬岡, 2002) とされており、自殺予防のスクリーニングに有効 (蒲原ら, 2009) とされている。一般の大学生を調査対象とする本研究に適している尺度であるといえる。

なお、CES-D の得点域は 0~60 点、Cut-off Point は 16 点とされているが、短縮版での得点域は 0~48 点、Cut-off Point は 9 点である。

3-3. 改訂版 RSQ & RRS 尺度

考え込み型反応を測定する尺度として、反応スタイル理論の測定やネガティブな反すうの測定に従来使用されてきた Response Style Questionair (RSQ: Nolen-Hoeksema, 1991; 邦訳版: 名倉・橋本, 1999) や Ruminative Responses Scale (RRS: Nolen-Hoeksema, Larson, & Grayson, 1999; 邦訳版: 野口・藤生, 2005) の問題点を克服した、改訂版 RSQ & RRS 尺度 (磯和・南, 2014) を使用した。磯和・南 (2014) で最終的に使用された 11 項目 (「問題解決的考え込み」5 項目、「否定的考え込み」4 項目、「自己理解」2 項目) に、名倉・橋本 (1999) で使用された RSQ の邦訳版より、「自分がなぜ憂うつなのかを理解するために自分のパーソナリティを分析する」、「一人になって、自分がなぜこのように感じるのかを

考える」の2項目を追加した、計13項目を使用した。磯和・南（2014）で最終的に使用された版では自己理解が2項目しかないため、それを補てんすることが目的である。

「ここでは、あなたにとって不快で嫌な事柄を「嫌なこと」と呼びます。そこでまず、あなたが「嫌なこと」を考える際に、どのようにして考えるかを思い浮かべてください。以下の項目で、あなたが嫌なことをどのように考えるかをお聞きます。あなたに最もあてはまるところ1つに○をつけて下さい。」と教示し、「ほとんどしないーいつもする」の4件法で回答を求めた。

3-4. 認知的統制尺度

認知的統制を測定する尺度として、甘利・馬岡（2002）で作成された認知的統制尺度11項目を用いた。この尺度は、Freeman（1989）が認知療法の基本的な認知技能として挙げた20の技法を参考に作成されている。

「下の文は不安なことや「嫌なこと」が起きたときの考え方についての記述です。それぞれの項目を読んで、あなたに最もあてはまるところ1つに○をつけて下さい。」と教示し、「全くできないー確実にできる」までの4件法で回答を求めた。

3-5. 拡張版反応スタイル尺度

反応スタイルを測定する尺度として、松本（2008）で作成された拡張版反応スタイル尺度を使用した。この尺度は、従来反応スタイルを測定するために使用されてきたRSQについて、反応時に注意を向ける対象が明確でないという批判を加え、その点を克服した尺度である。この尺度の特徴は、純粹に行動側面に焦点をあてており、認知的側面を考慮していない点にある。先に述べた改訂版RSQ & RRS尺度は、反対に行動的側面ではなく認知的側面に焦点を当てている、という点で差別化されている。

「あなたは、悲しい気分や憂うつな気分を感じた時、以下にあげることをどの程度考えたり行ったりしますか。最もあてはまるところ1つに○をつけて下さい。」と尋ね、「ほとんどないーいつもある」の4件法で回答を求めた。

3-6. その他の項目

また、質問紙には倫理的配慮として自由記述欄を設けたが、分析には使用していない。

4. 質問紙の構成 —— Times2

4-0. フェイスシート

年齢、性別および学籍番号について回答を求めた。学籍番号は調査 2 時点の対応を取るためのみに使用することを説明したうえで記入を求め、記入したくない学生については、学部、学年、誕生月と携帯番号の下 4 桁の記入を求めた。

4-1. 短縮版社会的クリティカルシンキング尺度

Times1 にて使用した社会的クリティカルシンキング尺度（中西ら, 2006）に対し検討を加え、15 項目に短縮されたものを使用した。短縮にあたって加えた検討については、第 4 章を参照されたい。

4-2. CES-D 尺度 16 項目版

4-3. 改訂版 RSQ & RRS 尺度

4-4. 認知的統制尺度

4-5. 拡張版反応スタイル尺度

Times1 と同様のものを用いた。

4-6. 人生の志向性に関する質問票（13 項目版）

SOC を測定する尺度として、アントノフスキー（1987, 山崎・吉井監訳, 2001, pp.222-225）にて紹介されている尺度のうち 13 項目を用いた。なお、使用の際にはリッカート形式に変更して使用した。詳細は調査 2 の該当箇所にて述べる。

4-7. その他の項目

倫理的配慮として自由記述欄を設けたが、分析には使用していない。

5. 分析対象者の属性

Times1 にて欠損値がなかった 205 名（男性 126 名、女性 78 名、不明 1 名）の平均年齢は 18.96 歳（SD = 1.64）であり、そのうちの 9 割以上（187 名）が新入生であった。本調査の分析対象者 142 名（男性 83 名、女性 59 名）の平均年齢は 18.48 歳（SD = 2.36）であり、そのうちの 9 割以上が新入生であった。

6. 各尺度の精査

ここでは、調査 1. に使用した各尺度に対して行われた確認事項と、因子構造の確認、および記述統計量を算出し、その後尺度ごとに検討を加えていくこととする。最終的に算出された各因子の記述統計量は 7. 調査対象集団の特徴についての箇所で示す。なお、本研究の分析にあたっては R を用い、豊田 (2014) を主に参考にしながら行った。結果の解釈などには、適宜、豊田 (1998; 2003) を参照した。

6-1. 社会的クリティカルシンキング志向性尺度 (Times1 : 3-1、Times : 4-1.短縮版)

これらの尺度については、第 4 章にて後述する。

6-2. CES-D 尺度 16 項目版 (Times1 : 3-2、Times2: 4-2)

志渡ら (2009) に従い、1 = 0 点、2 = 1 点、3 = 2 点、4 = 3 点とし、「抑うつ感」、「不安症状」、「孤立感」それぞれの因子ごとに尺度得点 (平均値) を算出した。また、「うつ全体」として、全項目を用いた尺度得点 (平均値) を算出した。その後、全体を足し合わせて CES-D スコアを算出した (Table2-1)。以後、「うつ全体」「抑うつ感」「不安症状」「孤立感」の得点と表記した場合は各因子の尺度得点 (Range : 0-3) を示し、CES-D スコアと表記した場合は、尺度全体の合計点 (Range : 0-48) を示すこととする。

CES-D スコアが Cut-off point である 6 点を上回ったものは、Times1 では 40 名、Times2 では 41 名であり、全体の約 3 分の 1 が Cut-off point を上回っていた。

続いて、時点間で抑うつの因子構造に変容がないかを確認するため、縦断因子分析 (豊田, 2014) を行った。縦断因子分析は、Times1 のモデルと Times2 のモデルとの間にどのような等値制約を置くことが可能かを検討することで、因子の安定性や因子構造の変化を知ることができる方法である。各時点において、各因子を測定する観測変数は等しいことが縦断因子分析の前提となる (豊田, 2014, pp.94-99)。

ここでは、豊田 (2014) に習い、各時点において各因子を測定する因子の意味が不変であるモデルをモデル 1:配置不変 (configural invariance) モデル、モデル 1 に加えて、時点が変わっても因子から下位因子への影響力が同じであるとするモデル、すなわち、時点を超えて因子負荷量に等値制約を置くモデルを、モデル 2:弱測定不変 (weak measurement invariance) モデル、モデル 2 に加えて、時点が変わっても観測変数の得点も同じであるとするモデル、すなわち、時点を超えて観測変数の切片に等値制約を置くモデルを、モデル 3 :

強測定不変 (strong measurement invariance) モデル、モデル 3 に加えて、時点が変わって因子の分散が変化したとしても、測定誤差は変わらないとするモデル、すなわち、時点を超えて観測変数の誤差分散に等値制約を置くモデルを、モデル 4: 厳密な測定不変 (strict measurement invariance) モデル、最後に、モデル 4 に加えて、因子平均も時点間で等しいとするモデル、すなわち時点間で因子負荷と観測変数の切片、誤差分散および因子平均という、時点間で因子の分散を除いた全ての母数に等値制約を置くモデルを、モデル 5: 全母数が等しいモデルとする。縦断因子分析では、モデル 1 からモデル 5 まで、モデルのナンバーが大きくなるに従い、以前のモデルに新しい制約を加えていく (制約条件が厳しくなる) ため、必ずというわけではないが、基本的に適合度は悪化していく。そのため、許容範囲内の適合度を示すなかで、最も制約条件が厳しいモデルを採用することが基本方針となる (豊田, 2014, p.97)。

Table2-1-1 CES-D尺度の縦断的因子分析におけるモデル別適合度

	適合度	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
抑うつ感	モデル1	238.822	95.000	.000	.847	.103	4664.498
	モデル2	245.831	102.000	.000	.847	.100	4636.816
	モデル3	272.093	109.000	.000	.827	.103	4628.387
	モデル4	314.834	117.000	.000	.790	.109	4631.481
	モデル5	322.883	118.000	.000	.783	.111	4634.575
不安症状	モデル1	161.336	47.000	.000	.850	.131	2785.746
	モデル2	175.057	52.000	.000	.839	.129	2774.688
	モデル3	192.420	57.000	.000	.822	.129	2767.271
	モデル4	259.949	63.000	.000	.742	.148	2805.066
	モデル5	260.155	64.000	.000	.743	.147	2800.316
孤独感 分散が負	モデル1	NA	-1.000	NA	NA	NA	868.835
	モデル2	2.519	.000	.000	.987	.000	866.399
	モデル3	2.519	1.000	.112	.992	.103	861.443
	モデル4	5.665	3.000	.129	.987	.079	854.677
	モデル5	9.737	4.000	.045	.971	.100	853.793
うつ全体	モデル1	9.889	5.000	.078	.990	.083	3448.452
	モデル2	21.900	7.000	.003	.970	.122	3450.551
	モデル3	42.912	9.000	.000	.933	.163	3461.651
	モデル4	57.546	12.000	.000	.909	.163	3461.418
	モデル5	57.831	13.000	.000	.911	.156	3456.748

その結果、抑うつ感、不安症状はモデル 1: 配置不変モデルであっても許容されず、孤独感はある程度モデル 4: 厳密な測定不変モデルまで許容された。また、うつ全体ではモデル 1: 配置不変モデルまで許容された。これらのことから、Times1 と Times2 では抑うつ

に対する因子構造が変化していることが伺われた。

Times1 と Times2 での因子構造の変化を検討するため、Times1 と Times2 のデータを別々に確認的因子分析にかけた。その結果、一度目の解析ではどちらも分散が負となったため、修正指標が 3 以上のもののうち指標の値が大きい順に誤差間に共分散を設定していた。その結果、Times1 のデータは最終段階においても分散が負となった。また、Time2 では誤差間共分散の数が 10 を超えても正の分散をとらなかったため、分析を打ち切った。

Times1 のデータについて探索的因子分析を行った結果、複数の因子が算出された。スクリープロットを参照した結果、固有値が 1 を超えている因子が 5 つ見られたため、因子数を 5 因子に固定し、再度探索的因子分析を行った (Table2-1-2)。

Table2-1-2 CES-D尺度の探索的因子分析結果_Times1

	孤立感	興奮	相対的 抑うつ 感	倦怠感	絶対的 抑うつ 感
15.皆が自分を嫌がっている	.894	.121	.103		-.289
11.一人ぼっちでさみしい	.865	-.103		-.181	
14.悲しいと感じる	.654	.171	-.152		
12.皆がよそよそしいと思う	.609	-.217			.114
4.物事に集中できない	.377			.301	.200
7.過去のことについてくよくよ考える	.304	.106	.163	.170	
13.急に泣き出すことがある		1.095	-.131		
9.なかなか眠れない		.330	.137	.206	
3.家族や友達から励ましてもらっても気分が晴れない	.110	.152	.708	-.208	.152
10.普段より口数が少ない、口が重い	.324	-.313	.682		
1.ふだんは何でもないことがわずらわしい	-.189		.612	.243	.117
2.食べたくない、食欲が落ちた		.350	.395		-.104
6.何をするのもめんどろ				1.103	
16.仕事が手につかない	.227		.171	.251	
5.憂うつ(気分が沈んでいる)だ	-.168	-.129	.175		1.044
8.何か恐ろしい気持ちがある	.147	.307		-.157	.532
因子寄与	2.849	1.782	1.680	1.619	1.570
因子寄与率	.178	.111	.105	.101	.098
累積寄与率	.178	.289	.394	.496	.594

因子 1 は「15.皆が自分を嫌がっている」「11.一人ぼっちでさみしい」といった項目に高く負荷したため、「孤立感」とした。因子 2 は、「13.急に泣き出すことがある」「9.なかなか眠れない」といった項目に高く負荷したため、「興奮」と命名した。因子 3 は「普段より口数が少ない、口が重い」「ふだんは何でもないことがわずらわしい」といった項目に高く負荷

したため、「相対的抑うつ感」とした。因子4は「6.何をするのも面倒だ」「4.物事に集中できない」といった項目に高く負荷したため、「倦怠感」とした。因子5は、「5.憂うつ（気分が沈んでいる）だ」「8.何か恐ろしい気持ちがする」といった項目に高く負荷したため、「絶対的抑うつ感」とした。以上より、Times1の抑うつは5つの因子を秘めていた。しかしながら、「興奮」因子における項目「13.急に泣き出すことがある」の因子負荷量が1を超えており、本分析結果は不適解となっているため、本因子構成を解釈する際には慎重になる必要がある。

Times2のデータについて探索的因子分析を行った結果、複数の因子が算出された。スクリープロットを参照した結果、固有値が1を超えている因子が3つ見られたため、因子数を3因子に固定し、再度探索的因子分析を行った（Table2-1-3）。

Table2-1-3 CES-D尺度の探索的因子分析結果_Times2

	倦怠・ 抑うつ感	孤立感	不安症状
4.物事に集中できない	.951		-.214
6.何をするのもめんどろだ	.861		-.190
16.仕事が手につかない	.798		-.138
1.ふだんは何でもないことがわずらわしい	.649		.129
3.家族や友達から励ましてもらっても気分が晴れない	.443	.188	.195
2.食べたくない、食欲が落ちた	.405	-.188	.192
7.過去のことについてくよくよ考える	.404	.254	.160
5.憂うつ(気分が沈んでいる)だ	.359	.275	.111
12.皆がよそよそしいと思う		1.017	-.174
11.一人ぼっちでさみしい	-.128	.921	-.137
15.皆が自分を嫌がっている		.831	-.150
14.悲しいと感じる		.422	.413
9.なかなか眠れない		.335	.210
13.急に泣き出すことがある	-.245	-.298	1.140
8.何か恐ろしい気持ちがする		.153	.678
10.普段より口数が少ない、口が重い	.162	.251	.471
因子寄与	3.470	3.272	2.497
因子寄与率	.217	.205	.156
累積寄与率	.217	.421	.577

因子1は「4.物事に集中できない」「6.何をするのもめんどろだ」「16.仕事が手につかない」といった項目に高く負荷したため、「倦怠・抑うつ感」とした。因子2は「12.皆がよそよそしいと思う」「11.一人ぼっちでさみしい」といった項目に高く負荷したため、「孤立感」

とした。因子 3 は「3.急に泣き出すことがある」「8.何か恐ろしい気持ちがある」といった項目に高く負荷したため、「不安症状」とした。以上より、Times2 の抑うつには 3 つの因子が含まれていることを確認した。しかしながら、「孤立感」因子における項目「12.皆がよそよそしいと思う」の因子負荷量が 1 を超えており、本分析結果は不適解となっているため、本因子構成を解釈する際には慎重になる必要がある。

Times1 の因子構成は、志渡ら (2009) で見いだされた因子構成と大きく異なっていたが、Times2 の因子構成は、志渡ら (2009) の因子構成と類似していた。このことから、抑うつは高校卒業段階までは複数に分化しているが、大学 1 年生のあたりでは統合が進められるのかも知れない。本調査では抑うつ因子構成の変化には焦点を当てないため、志渡ら (2009) の因子構成に従って分析を進めることとした。

6-3. 改訂版 RSQ & RRS 尺度 (Times1 : 3-3、Times2 : 4-3)

Times1 の 205 人のデータを用いて床効果の確認を行ったところ、「5.「気分がすぐれないせいで自分の仕事や課題をやり遂げられないだろう」と考える」、「12. 自分がなぜ憂うつなのかを理解するために自分のパーソナリティを分析する」、の 2 項目で床効果が見られたものの、Times2 も含めたマッチング後のデータでは床効果が消失していたため、これら 2 項目も含めたうえで分析を行っていくこととした。

調査構成時に考慮されていた分類に基づき項目を整理した後 (Table2-1-4)、信頼性係数と各因子間の相関係数を算出した (Table2-1-5)。

Table2-1-4 改訂版RSQ & RRSの項目ごとの得点と標準偏差

		Times1		Times2	
		Mean	SD	Mean	SD
自己理解	1.自分の憂うつな気持ちに注目することで自分自身を理解しようとする	2.06	0.91	2.15	0.78
	9.自分がなぜ憂うつなのかを理解するために最近の出来事を分析する	2.03	0.99	2.24	0.94
	12.自分がなぜ憂うつなのかを理解するために自分のパーソナリティを分析する	1.83	0.92	1.98	0.89
	13.一人になって、自分がなぜこのように感じるのかを考える	2.12	1.01	2.21	0.94
問題解決的 考え込み	3.問題を克服するために計画を立てる	2.10	0.86	2.21	0.83
	6.自分の生活をどこか改善しようと決意する	2.38	0.81	2.52	0.73
	4.状況が良くなることを願って、最近の状況について考える	2.41	0.88	2.51	0.76
	2.状況におけるポジティブな事柄や、自分で学んだ事柄を見出そうと試みる	2.37	0.92	2.44	0.83
	7.このようなフィーリングが続くわけではないことを思い起こす	2.19	0.97	2.39	0.95
否定的 考え込み	11.「なぜ私は物事をうまく処理していけないのだろう」と考える	2.34	1.01	2.20	0.84
	10.もっとうまく出来ればよかったと思いながら、最近の出来事について考える	2.72	0.94	2.54	0.79
	8.「自分はこのことに値するようなことを何かしているだろうか」と考える	2.12	0.92	2.13	0.88
	5.「気分がすぐれないせいで自分の仕事や課題をやり遂げられないだろう」と考える	1.79	0.83	2.00	0.83

Table2-1-5 考え込み型反応の信頼性係数と因子間相関

		Times1			Times2				
		a	1	2	3	a	1	2	3
Times1	a: 考え込み型反応	(.836)	***	***	***	***	***	***	***
	1: 自己理解	.861	(.786)	***	***	***	***	***	***
	2: 問題解決的考え込み	.795	.489	(.685)	***	***	***	***	***
	3: 否定的考え込み	.822	.623	.463	(.580)	***	***	***	***
Times2	a: 考え込み型反応	.579	.500	.532	.390	(.862)	***	***	***
	1: 自己理解	.456	.465	.378	.268	.871	(.822)	***	***
	2: 問題解決的考え込み	.537	.414	.589	.311	.858	.589	(.738)	***
	3: 否定的考え込み	.487	.393	.376	.446	.822	.605	.568	(.552)

()内は α 係数 * p<.05 ** p<.01 *** p<.001

その結果、尺度全体としては良好な信頼性係数 (Times1: $\alpha = .836$; Times2: $\alpha = .862$) と時点間の相関 ($r = .579$) が得られたものの、下位因子、特に否定的考え込み尺度の信頼性係数が低く (Times1: $\alpha = .552$; Times2: $\alpha = .580$)、課題が残った。また、自己理解と否定的考え込みの相関が高く (Times1: $r = .623$; Times2: $r = .605$)、自己理解と否定的考え込みの弁別性に疑問が付された。

この点の検証のため、Times1 のデータに対して確認的因子分析を行った (Figure2-1-1)。

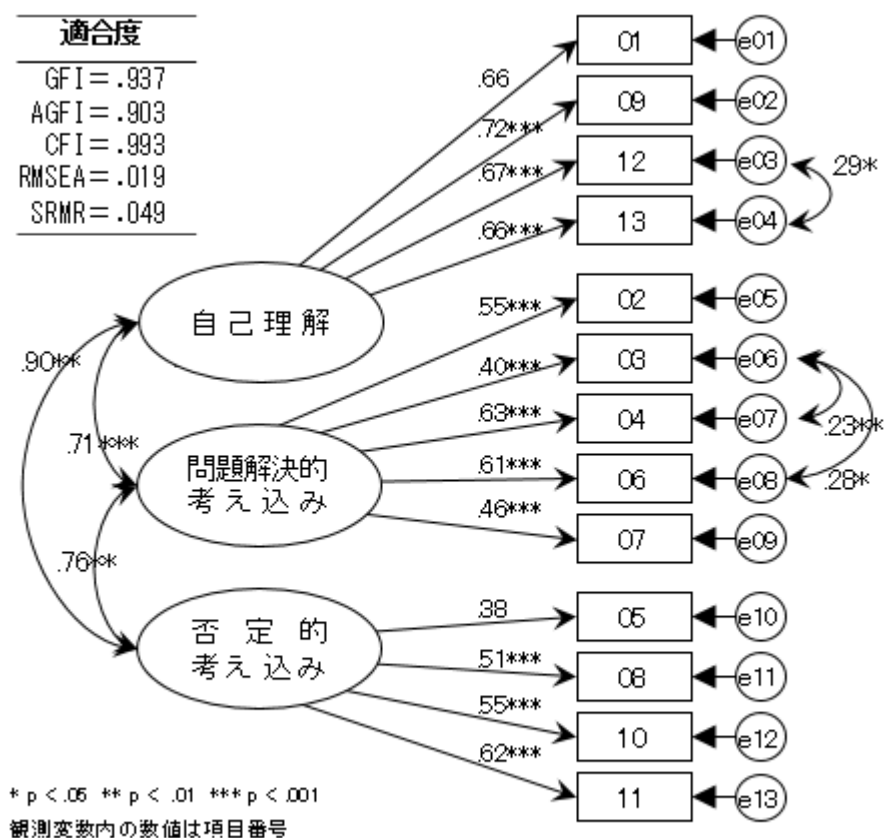


Figure2-1-1 改訂版RSQ & RRS尺度の確認的因子分析

その結果、適合度は GFI = .919、AGFI = .881、CFI = .959、RMSEA = .045 (95% C.I. : 000 - .071)、SRMR = .061 となり、AGFI の値が少々低いものの、適合度は良好であった。その後、AGFI が許容範囲内になるまで、修正指標に従い観測変数の誤差に共分散を設定していった結果、最終的に Figure2-1-1 のようになった。この状態で示される修正指標を参照することによって項目の弁別性を確認したところ、自己理解と否定的考え込みの因子は弁別されていることが確認された。交絡についてはむしろ、自己理解と問題解決的考え込み、否定的考え込みと問題解決的考え込みの間ある可能性が修正指標から示されたが、これは文意から識別されていると考えられた。

続いて縦断的因子分析を行った。自己理解、問題解決的考え込み、否定的考え込みの 3 因子に項目を分配し、それぞれの因子ごとに縦断的因子分析を行った。その結果、3 因子ともモデル 5 : 全母数が等しいモデルまで許容された (Table2-1-6)。

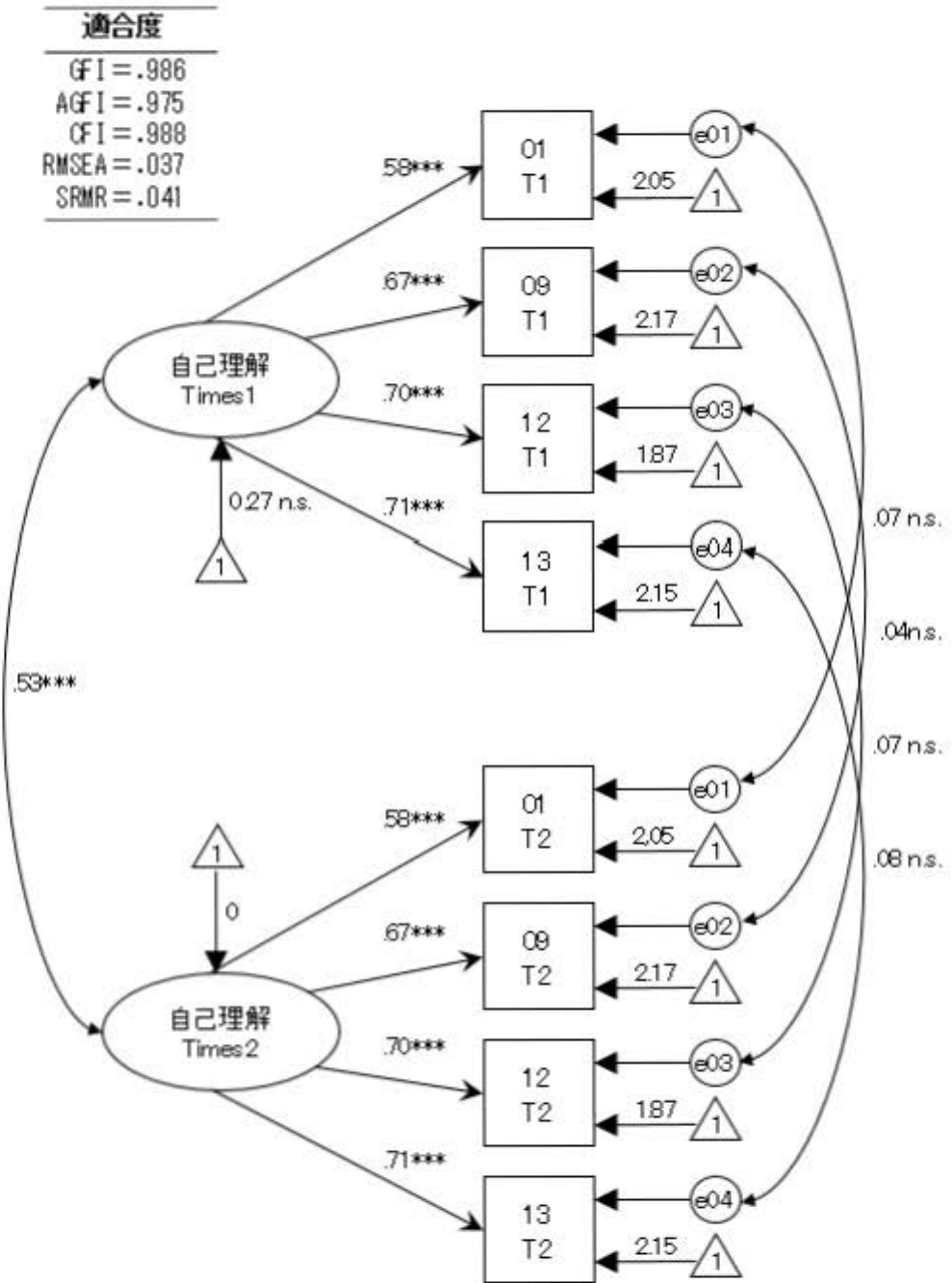
また、各因子それぞれの尺度の合計点を観測変数として、考え込み型反応全体で縦断的

因子分析を行ったところ、モデル5：全母数が等しいモデルまで許容された (Table2-1-6)。

Table2-1-6 改訂版RSQ & RRSの縦断的因子分析におけるモデル別適合度

	適合度	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
自己理解	モデル1	16.398	15.000	.356	.996	.026	2781.612
	モデル2	17.728	18.000	.474	1.000	.000	2768.074
	モデル3	18.987	21.000	.586	1.000	.000	2754.466
	モデル4	29.810	25.000	.231	.988	.037	2745.465
	モデル5	37.511	26.000	.067	.971	.056	2748.211
問題解決的 考え込み	モデル1	52.852	29.000	.004	.936	.076	3337.727
	モデル2	54.709	33.000	.010	.942	.068	3319.760
	モデル3	57.523	37.000	.017	.945	.062	3302.751
	モデル4	64.585	42.000	.014	.940	.062	3285.034
	モデル5	73.292	43.000	.003	.919	.070	3288.785
否定的 考え込み	モデル1	14.639	15.000	.478	1.000	.000	2923.563
	モデル2	16.700	18.000	.544	1.000	.000	2910.757
	モデル3	32.111	21.000	.057	.922	.061	2911.300
	モデル4	37.349	25.000	.053	.913	.059	2896.715
	モデル5	38.028	26.000	.060	.915	.057	2892.438
考え込み型 反応全体 (尺度得点 を使用)	モデル1	8.570	5.000	.128	.990	.071	1386.903
	モデル2	11.445	7.000	.120	.987	.067	1379.867
	モデル3	19.837	9.000	.019	.968	.092	1378.347
	モデル4	23.330	12.000	.025	.967	.082	1366.973
	モデル5	29.869	13.000	.005	.951	.096	1368.556

「自己理解」の因子はモデル5まで許容された (Figure2-1-2)。



* p < .05 ** p < .01 *** p < .001
 観測変数内の数値は項目番号

Figure2-1-2 自己理解の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

「問題解決的考え込み」の因子はモデル5まで許容された (Figure2-1-3)。

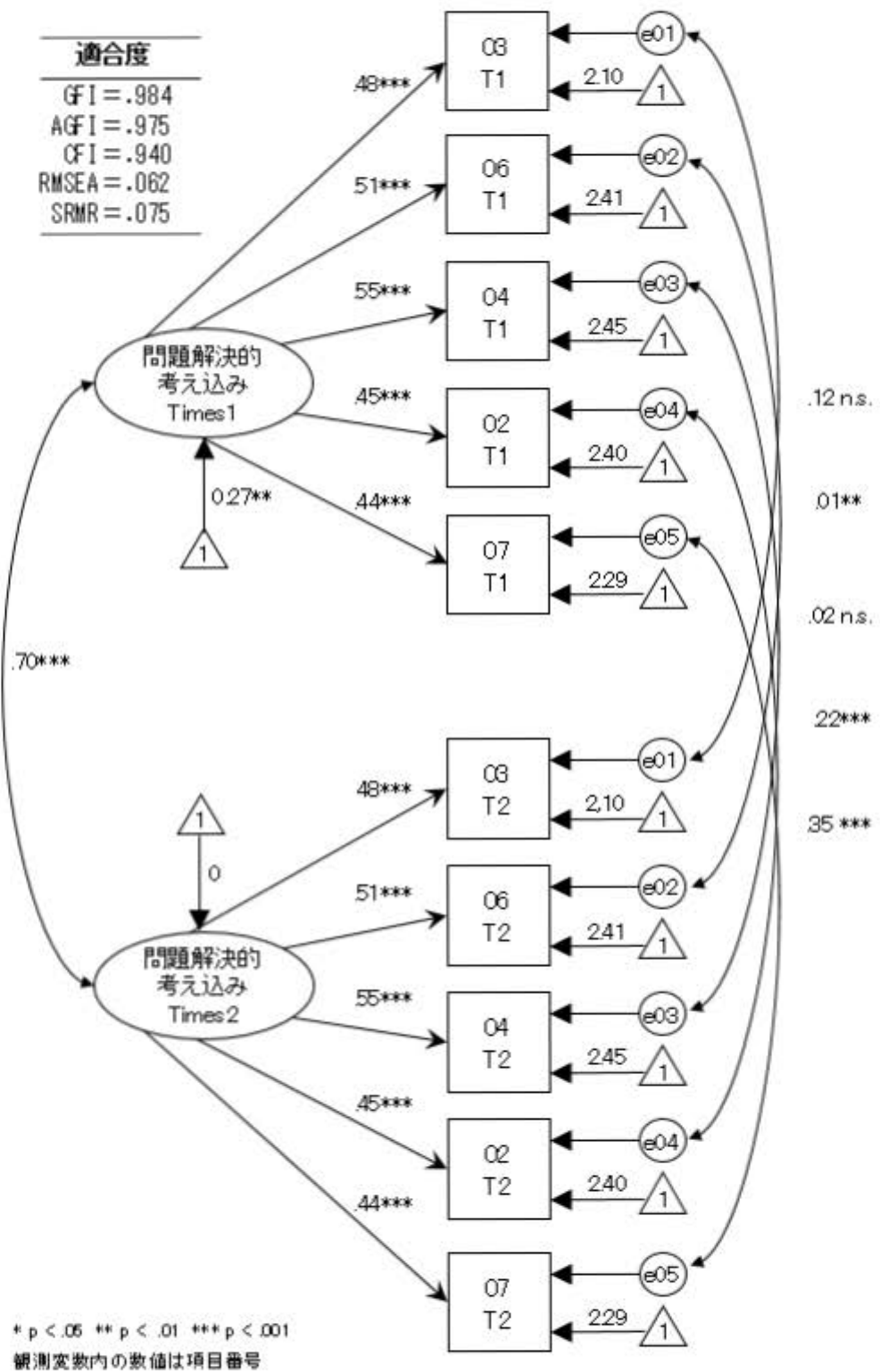


Figure2-1-3 問題解決的考え込みの縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

「否定的考え込み」の因子はモデル5まで許容された (Figure2-1-4)。

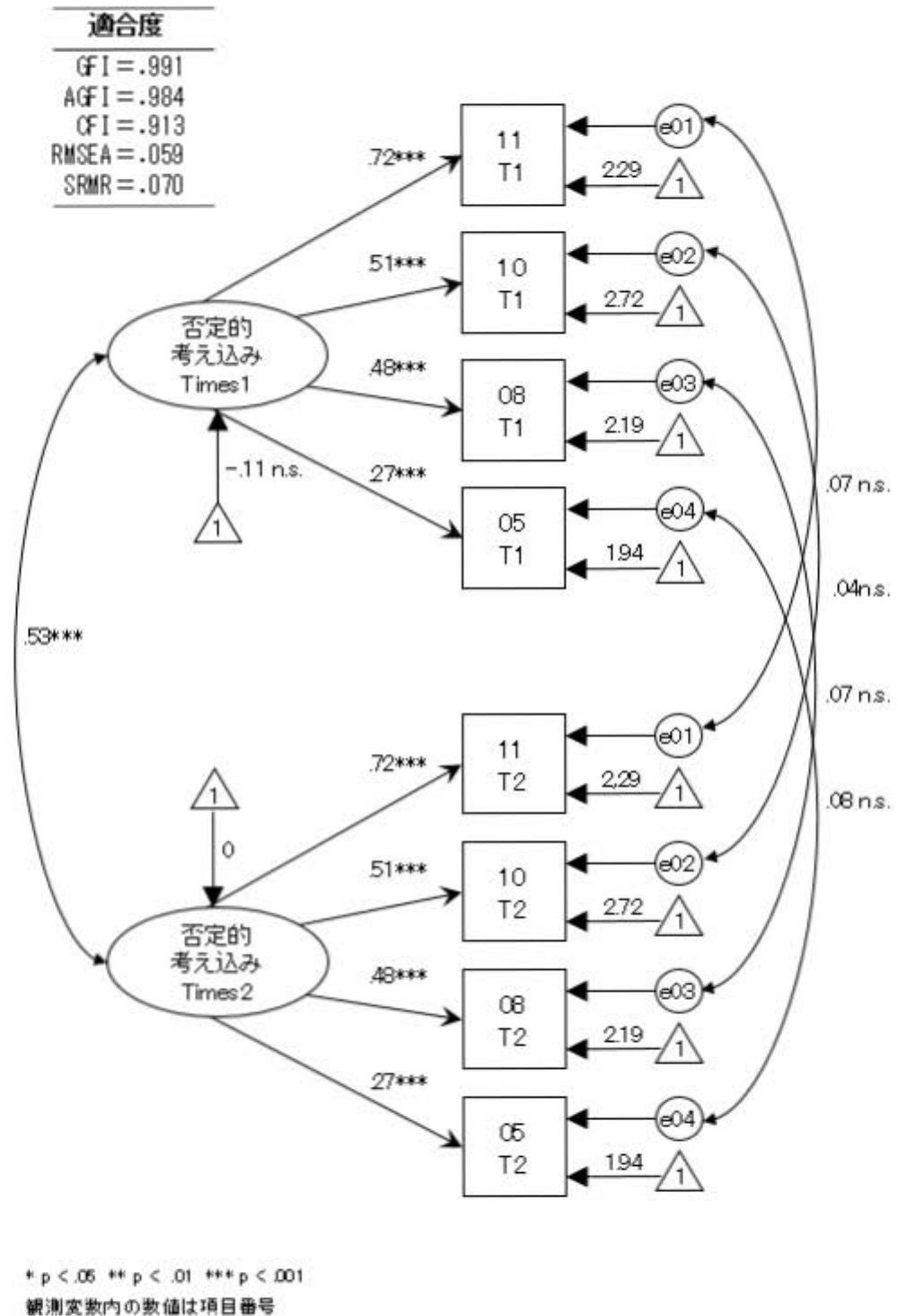


Figure2-1-4 否定的考え込みの縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

これらのことから、本研究で用いる改訂版 RSQ & RRS 尺度は安定性を備えていることが確認されたと考えられ、2 時点とも同一の因子を測定していると言えるだろう。

6-4. 認知的統制尺度 (Times1 : 3-3、Times2 : 4-4)

天井効果、床効果とも検出されなかったため、調査構成時に考慮されていた分類に基づき項目を整理した、項目ごとの記述統計量は Table2-1-7 のようになった。

Table2-1-7 認知的統制尺度の項目ごとの得点と標準偏差

		Times1		Times2	
		Mean	SD	Mean	SD
思考と 行動の 検討	1.そのことが自分にとって何を意味しているのか 落ち着いて考えられる	2.65	0.71	2.67	0.63
	2.そうなった理由をいくつか考えられる	2.88	0.62	2.91	0.54
	3.どうしたらよいか、思考や行動の選択肢を いくつか考えられる	2.82	0.62	2.87	0.61
	6.その状況の良い面と悪い面を考え、 行動の可能性を探ることができると思う	2.64	0.69	2.68	0.64
	8.自分の状況の捉え方、ものの見方のくせ について考える	2.55	0.75	2.63	0.69
破局的 思考の 緩和	4.良い気分はしないけど、破局的には考えない	2.67	0.72	2.78	0.76
	5.そのような状態から引き起こされると考えられる 悪い結果が頭に浮かんでも、それは自分の想像 によるものだと思う。	2.38	0.73	2.48	0.69
	9.その状況から悪い連想を発展させない	2.18	0.79	2.26	0.80
	7.そのような状況でも明るい希望を持ち、 逆境を自分の利益に変えられると思う	2.47	0.80	2.55	0.82
	11.その状況を深刻に考えてしまうとき、 いったん考えるのをやめられる	2.48	0.86	2.51	0.79
残余項目	10.問題を解決するような想像をする	2.77	0.70	2.82	0.73

次に、先行研究の分類に従って確認的因子分析を行った (Figure2-1-5)。

その結果、両因子からパスを想定するよう修正指標が示され、項目の交絡があることが分かり、適合度も非常に悪かった (GFI = .853、AGFI = .774、CFI = .793、RMSEA = .116 (90% C.I. : .093 - .140)、SRMR = .093)。その後修正指標に従い観測変数の誤差に共分散を設定し、両因子からの影響がともに強かった項目 10 を削除するなどして適合度が許容範囲となるようにモデルに修正を加えていった結果、最終的に Figure2-1-5 の構造となった。

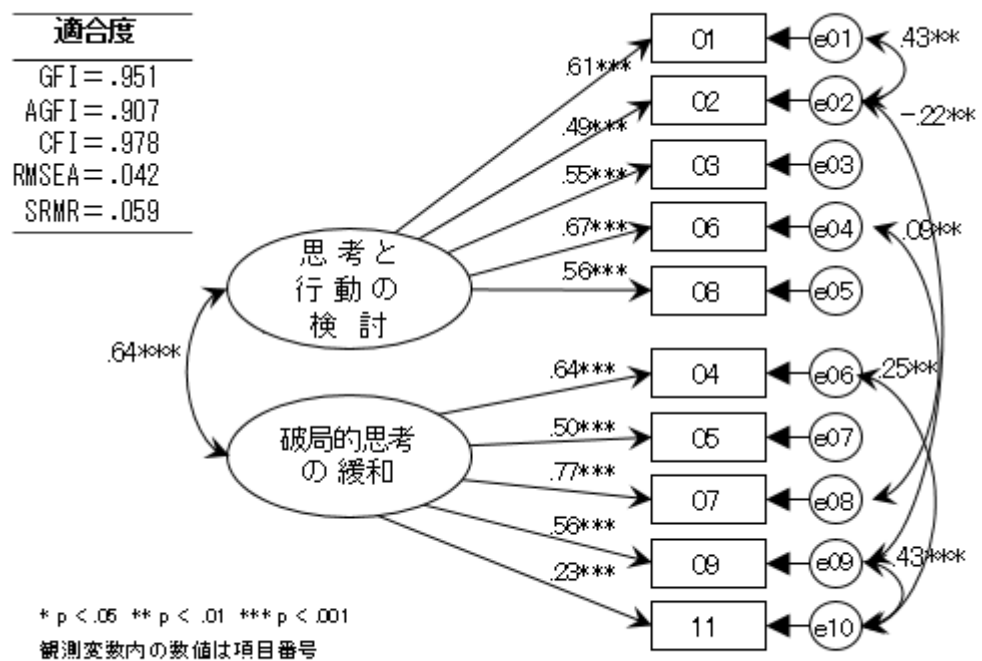


Figure2-1-5 認知的統制尺度の確認的因子分析結果

次いで、信頼性係数と因子間相関の算出をしたところ、尺度全体として許容可能な信頼性係数（Times1: $\alpha = .769$; Times2: $\alpha = .791$ ）と時点間の相関（ $r = .662$ ）が得られ、下位因子でも同様に適度な相関係数と信頼性係数が得られた（Table2-1-8）。

Table2-1-8 認知的統制の信頼性係数と因子間相関

	Times1			Times2		
	a	1	2	a	1	2
a: 認知的統制	(.769)	***	***	***	***	***
Times1 1: 思考と行動の検討	.797	(.731)	***	***	**	***
2: 破局的思考の緩和	.859	.375	(.717)	***	***	***
a: 認知的統制	.662	.481	.607	(.791)	***	***
Times2 1: 思考と行動の検討	.443	.484	.268	.758	(.731)	***
2: 破局的思考の緩和	.617	.323	.672	.864	.325	(.803)

()内は α 係数 * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

続いて、因子ごとに縦断的因子分析を行った。その結果、思考と行動の検討、破局的思考の2因子とも、モデル5まで許容された（Table2-1-9）。尺度全体においても縦断的因子分析を試みたが、分散が負となり、解析できなかった。

Table2-1-9 認知的統制尺度の縦断的因子分析におけるモデル別適合度

	適合度	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
思考と 行動の 検討	モデル1	92.916	47.000	.000	.890	.083	3257.012
	モデル2	95.179	52.000	.000	.896	.076	3234.496
	モデル3	97.827	21.000	.001	.902	.071	3212.365
	モデル4	103.285	25.000	.001	.903	.067	3188.087
	モデル5	103.363	26.000	.001	.906	.066	3183.210
破局的 思考の 緩和	モデル1	68.800	29.000	.000	.918	.098	3059.936
	モデル2	70.321	33.000	.000	.923	.089	3041.633
	モデル3	72.206	37.000	.000	.927	.082	3023.695
	モデル4	89.783	42.000	.000	.901	.090	3016.493
	モデル5	90.668	43.000	.000	.901	.088	3012.422

「思考と行動の検討」はモデル5まで許容された (Figure2-1-6)。

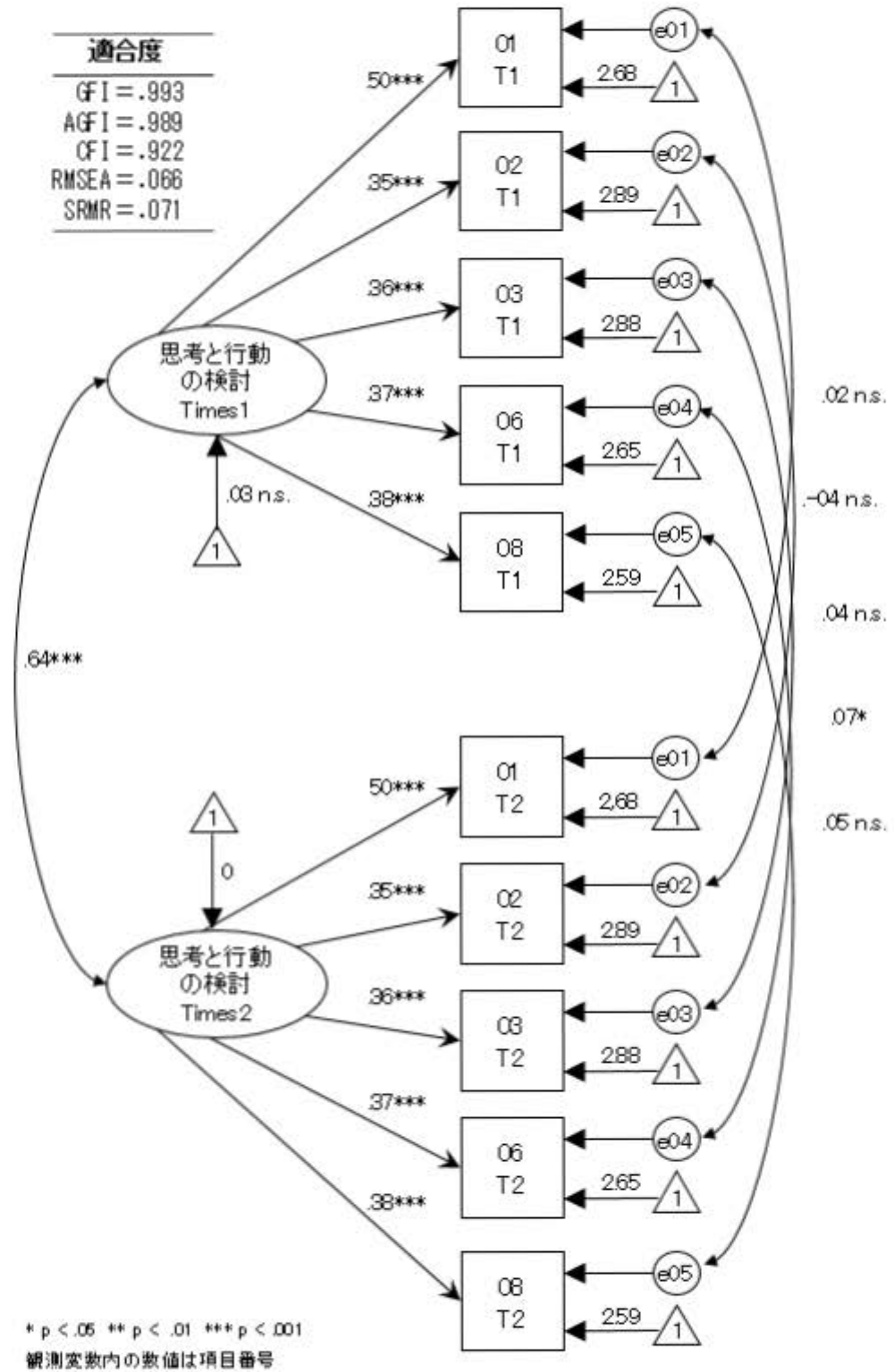


Figure2-1-6 思考と行動の検討の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

「破局的思考の緩和」はモデル5まで許容された (Figure2-1-7)

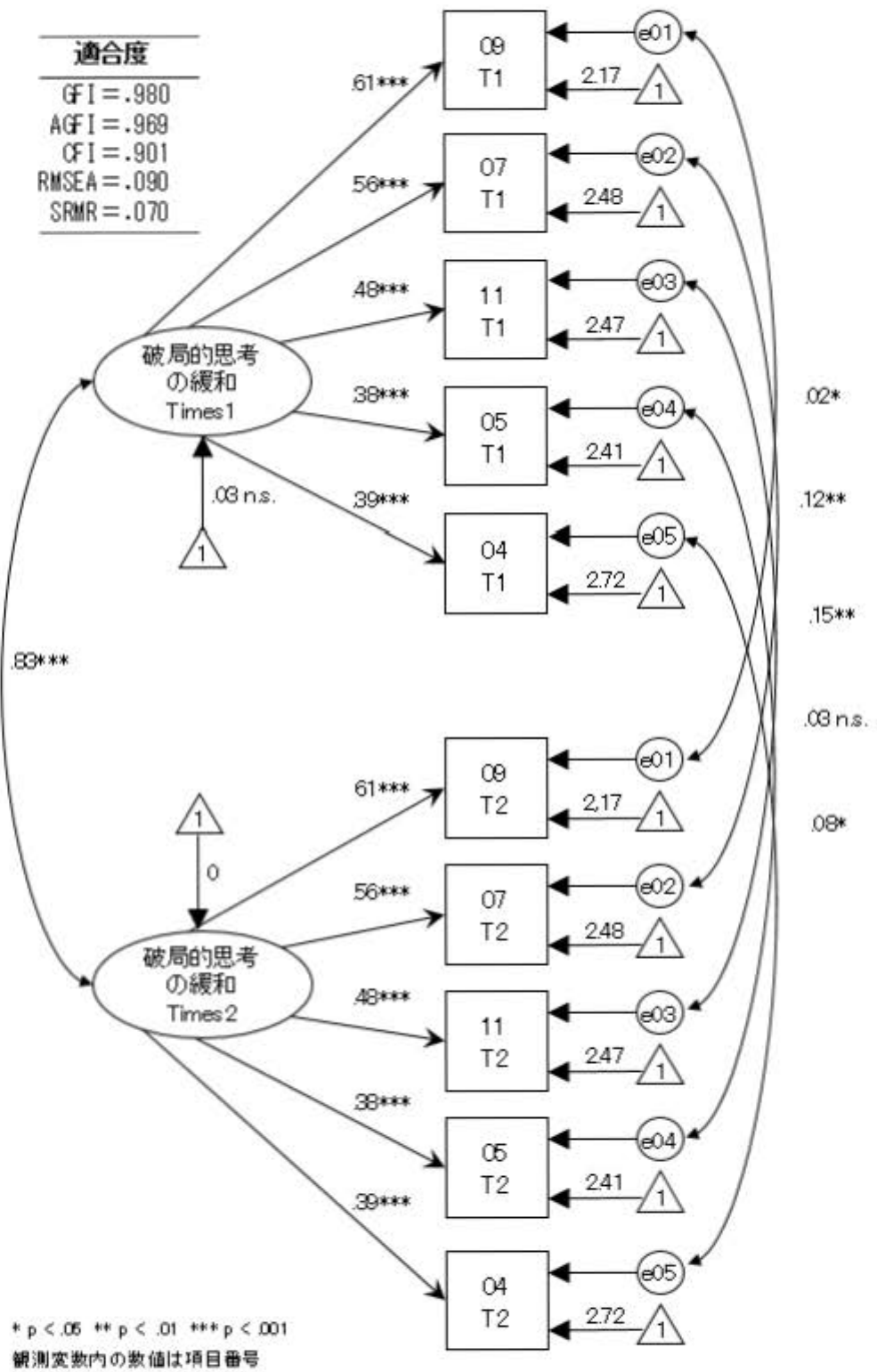


Figure2-1-7 破局的思考の緩和の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

これらのことから、本研究で用いる認知的統制尺度はある程度の安定性を備えていることが確認されたと考えられ、2時点とも同一の因子を測定していると言えるだろう。

6-5. 拡張版反応スタイル尺度 (Times1 : 3-5、Times2 : 4-5)

天井効果と床効果の検討を行ったところ、Times1 の項目 6、項目 11、項目 20 および Times2 の項目 6 に床効果が見られたため、分析から除外した。残りの 27 項目で探索的因子分析を行ったところ、5 因子解が得られた (Table2-1-7)。因子内容を検討した結果、もともと「回避」とひとくくりにされていたものが、「行動的回避」と「思考的回避」と意味ある 2 因子に分かれたうえ、その他の因子の解釈も容易であった。しかしながら、「ネガティブな内省」因子における項目「18.自分の正だと考える」の因子負荷量が 1 を超えており、本分析結果は不適解となっているため、本因子構成を解釈する際には慎重になる必要がある。

Table2-1-10 拡張版反応スタイル尺度の探索的因子分析結果

		F1	F2	F3	F4	F5
問題への 直面化	14.何をすれば一番よいのかを考える	.827	-.121			
	16.どうしたら改善できるかを考える	.785				-.113
	30.今の自分にできることをする	.772				
	28.今の状況の中で頑張ろうとする	.622				
	3.憂うつな気分の原因を改善するよう努力する	.530				
	10.自分の精神状態がどのようなかを考える	.464				
	13.目標を立てる	.443	.197			
気分転換	27.友人と遊ぶ		.681	-.175	.164	-.135
	17.音楽を聴く	-.122	.670	.105		
	15.外出する		.604		-.150	
	9.何か楽しめることをする		.574			.257
ネガティブ な内省	29.空想など楽しいことを考える	.145	.367			
	18.自分のせいだと考える			1.003		
	4.原因は自分にあるのだから仕方がないと考え	.173	-.152	.568	.172	
行動的 回避	19.自分には悩みがたくさんあると考える		.170	.322	.104	-.210
	25.その状況を避ける				.809	-.123
	21.かかわらないようにする				.673	
	23.時の過ぎるのに任せる	.200		-.138	.638	
	24.何もしない	-.184			.549	
思考的 回避	12.解決を後回しにする	-.180	.222		.407	
	7.あまり考えないようにする					.901
	2.忘れようとする			.129		.676
	5.気にしないようにする				.112	.646

本研究で得られた因子構造と、先行研究に基づく因子構造を比較するために検証的因子分析を行った。その結果、先行研究に基づく 4 因子構造 (GFI = .744, AGFI = .702, CFI = .739, AIC = 10227.85, BIC = 10422.93, RMSEA = .081 (90% C.I. : .071 - .089), SRMR = .105) よりも、本研究で得られた 5 因子構造 (GFI = .832, AGFI = .789, CFI = .872, AIC = 7815.93, BIC = 7981.50, RMSEA = .062 (90% C.I. : .071 - .089), SRMR = .081) の方が、初期時点での適合度が良好であったため、今後の分析は本研究で得られた 5 因子解を採用することとし、修正指標に従って観測変数の誤差間に共分散の設定を行った。

修正の際には、出来るだけ項目を残すように配慮したが、適合度指標の中で SRMR といった残差の大きさや分散の説明率に基づく指標 (豊田, 2014, p.189) の中でも、GFI と AGFI はモデルの自由度による影響を受けやすく、観測変数が多くなるほど適合度が上がりにくい (豊田, 1998, pp. 173-175) ことが知られている。そのため、GFI と AGFI 以外の適合度指標が許容範囲内になった段階から、複数の因子に対して修正指標が示されている項目から削除を行った。最終的に項目 23 と項目 24 を削除し、GFI、AGFI の値が少々悪いものの他の適合度は良好 (CFI = .996, RMSEA = .012) な、Figure 2-1-8 のモデルを採用した。

適合度
GFI = .902
AGFI = .865
CFI = .976
RMSEA = .039
SRMR = .057

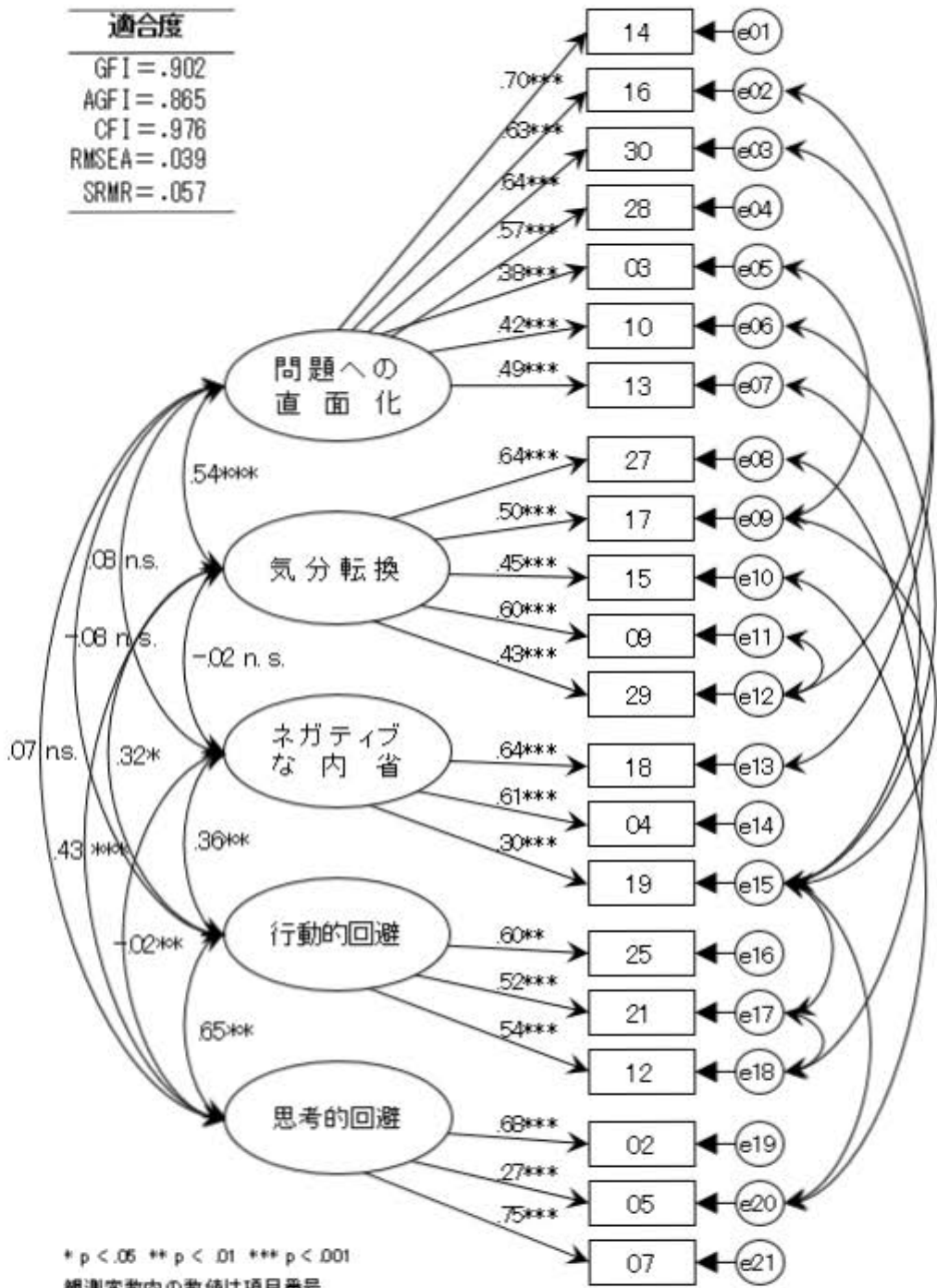


Figure2-1-8 拡張版反応スタイル尺度の確認的因子分析

尺度全体と 5 つの因子について尺度得点を算出した後 (Table2-1-11)。

Table2-1-11 拡張版反応スタイル尺度の項目ごとの得点と標準偏差

		Times1		Times2	
		Mean	SD	Mean	SD
問題への 直面化	14.何をすれば一番よいのかを考える	2.78	.88	2.76	.83
	16.どうしたら改善できるかを考える	2.64	.85	2.76	.82
	30.今の自分にできることをする	2.78	.83	2.59	.76
	28.今の状況の中で頑張ろうとする	2.65	.83	2.76	.77
	3.憂うつな気分の原因を改善するよう努力する	2.57	.86	2.68	.64
	10.自分の精神状態がどのようなものであるかを考える	2.20	.99	2.21	.91
	13.目標を立てる	2.19	.93	2.26	.88
気分転換	27.友人と遊ぶ	2.56	.96	2.62	.95
	17.音楽を聴く	2.82	1.01	2.97	.94
	15.外出する	2.13	.91	2.31	.97
	9.何か楽しめることをする	2.92	.91	2.91	.87
	29.空想など楽しいことを考える	2.38	1.02	2.51	.98
ネガティブ な 内省	18.自分のせいだと考える	2.34	.85	2.32	.81
	4.原因は自分にあるのだから仕方がないと考える	2.57	.89	2.50	.82
	19.自分には悩みがたくさんあると考える	1.99	.89	2.05	.83
行動的 回避	25.その状況を避ける	2.30	.88	2.27	.83
	21.かかわらないようにする	2.01	.91	2.05	.86
	12.解決を後回しにする	2.08	.93	2.33	.84
思考的 回避	7.あまり考えないようにする	2.39	.93	2.46	.88
	2.忘れようとする	2.43	.98	2.56	.89
	5.気にしないようにする	2.43	.98	2.53	.88
残余項目	1.友人・家族などに助けを求める	2.31	.99	2.37	.95
	3.憂うつな気分の原因を改善するよう努力する	2.57	.86	2.61	.78
	6.あえて、憂うつな気分になるようなことをする	1.45	.76	1.62	.83
	8.対処することをあきらめる	1.85	.78	1.89	.74
	11.なかったことにしようとする	1.84	.88	2.03	.88
	20.自分には解決する力がないと考える	1.77	.79	1.89	.85
	22.自分の短所ばかり考えてしまう	2.19	.99	2.25	.97
	23.時の過ぎるのに任せる	2.48	.95	2.59	.87
	24.何もしない	2.11	.92	2.23	1.00
	26.小説・マンガ・雑誌などを読む	2.48	1.09	2.53	1.02

次いで、信頼性係数と各因子間の相関係数を算出した (Table2-1-9)。その結果、尺度全体として良好な信頼性係数 (Times1: $\alpha = .825$; Times2: $\alpha = .874$) と時点間の相関 ($r = .612$) が得られ、下位因子でも同様に適度な相関係数と信頼性係数が得られた。

Table2-1-12 拡張版反応スタイル尺度の因子間相関と信頼性係数

	a	Times1					Times2						
		1	2	3	4	5	a	1	2	3	4	5	
T1	a: 反応スタイル(対処行動量)	.825	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	1: 問題への直面化	.561	(.825)	***	n.s.	n.s.	n.s.	***	***	*	n.s.	n.s.	*
	2: 気分転換	.734	.450	(.701)	n.s.	n.s.	***	***	***	***	n.s.	***	***
	3: ネガティブな内省	.410	.137	.056	(.612)	**	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	***	n.s.	n.s.
	4: 行動的回避	.608	-.073	.243	.250	(.602)	***	***	n.s.	n.s.	n.s.	***	***
	5: 思考的回避	.586	.081	.358	-.039	.478	(.776)	***	n.s.	**	**	***	***
T2	a: 反応スタイル(対処行動量)	.612	.423	.569	.154	.317	.313	(.874)	***	***	***	***	***
	1: 問題への直面化	.430	.616	.396	.117	.020	.085	.644	(.835)	***	***	n.s.	n.s.
	2: 気分転換	.434	.281	.654	-.039	.087	.261	.693	.508	(.700)	n.s.	***	***
	3: ネガティブな内省	.193	.162	-.001	.511	.139	-.195	.414	.347	-.017	(.679)	*	0
	4: 行動的回避	.432	.046	.345	.071	.465	.345	.701	.115	.315	.199	(.741)	***
	5: 思考的回避	.487	.177	.419	-.101	.413	.574	.644	.146	.356	.003	.609	(.781)

()内は α 係数 * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

続いて、因子ごとに縦断的因子分析を行った。その結果、「問題への直面化」、「気分転換」、「思考的回避」の4因子についてはモデル5まで許容された (Table2-1-13)。ネガティブな内省については、適合度の算出はされたものの、分散が負となっており、結果として採用できなかった。また、行動的回避はモデル2まで許容されるが、モデル2の制約で縦断的因子分析にかけると、not positive definite となり、分析結果が出力できなかった。

Table2-1-13 拡張版反応スタイル尺度の縦断的因子分析におけるモデル別適合度

	適合度	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
問題への 直面化	モデル1	91.005	69.000	.039	.972	.047	4421.624
	モデル2	95.462	75.000	.056	.974	.044	4396.347
	モデル3	100.669	81.000	.069	.975	.041	4371.818
	モデル4	106.751	88.000	.085	.976	.039	4343.210
	モデル5	107.602	89.000	.087	.976	.038	4339.105
気分 転換	モデル1	52.450	29.000	.005	.948	.075	3650.141
	モデル2	56.277	33.000	.007	.948	.070	3634.145
	モデル3	64.217	37.000	.004	.939	.072	3622.262
	モデル4	68.117	42.000	.007	.942	.066	3601.382
	モデル5	69.966	43.000	.006	.940	.066	3598.276
ネガティブ な内省 not positive definite	モデル1	3.876	5.000	.567	1.000	.000	2000.753
	モデル2	6.736	7.000	.457	1.000	.000	1993.701
	モデル3	7.731	9.000	.561	1.000	.000	1984.784
	モデル4	13.352	12.000	.344	.994	.028	1975.537
	モデル5	13.589	13.000	.403	.997	.018	1970.818
行動的 回避	モデル1	10.356	5.000	.066	.973	.087	2073.643
	モデル2	15.374	7.000	.031	.957	.092	2068.749
	モデル3	32.502	9.000	.000	.880	.136	2075.966
	モデル4	43.920	12.000	.000	.837	.137	2072.516
	モデル5	43.952	13.000	.000	.841	.129	2067.593
思考的 回避	モデル1	8.700	5.000	.122	.988	.072	2072.070
	モデル2	9.213	7.000	.238	.993	.047	2062.672
	モデル3	11.810	9.000	.224	.991	.047	2055.358
	モデル4	18.214	12.000	.109	.981	.060	2046.894
	モデル5	22.302	13.000	.051	.971	.071	2046.026
反応 スタイル 全体 (尺度得点 を使用)	モデル1	153.524	29.000	.000	.777	.174	2564.883
	モデル2	158.361	33.000	.000	.775	.164	2549.897
	モデル3	160.413	37.000	.000	.779	.153	2532.125
	モデル4	169.204	42.000	.000	.772	.146	2516.138
	モデル5	173.637	43.000	.000	.766	.146	2515.615

「問題への直面化」はモデル5まで許容された (Figure2-1-9)。

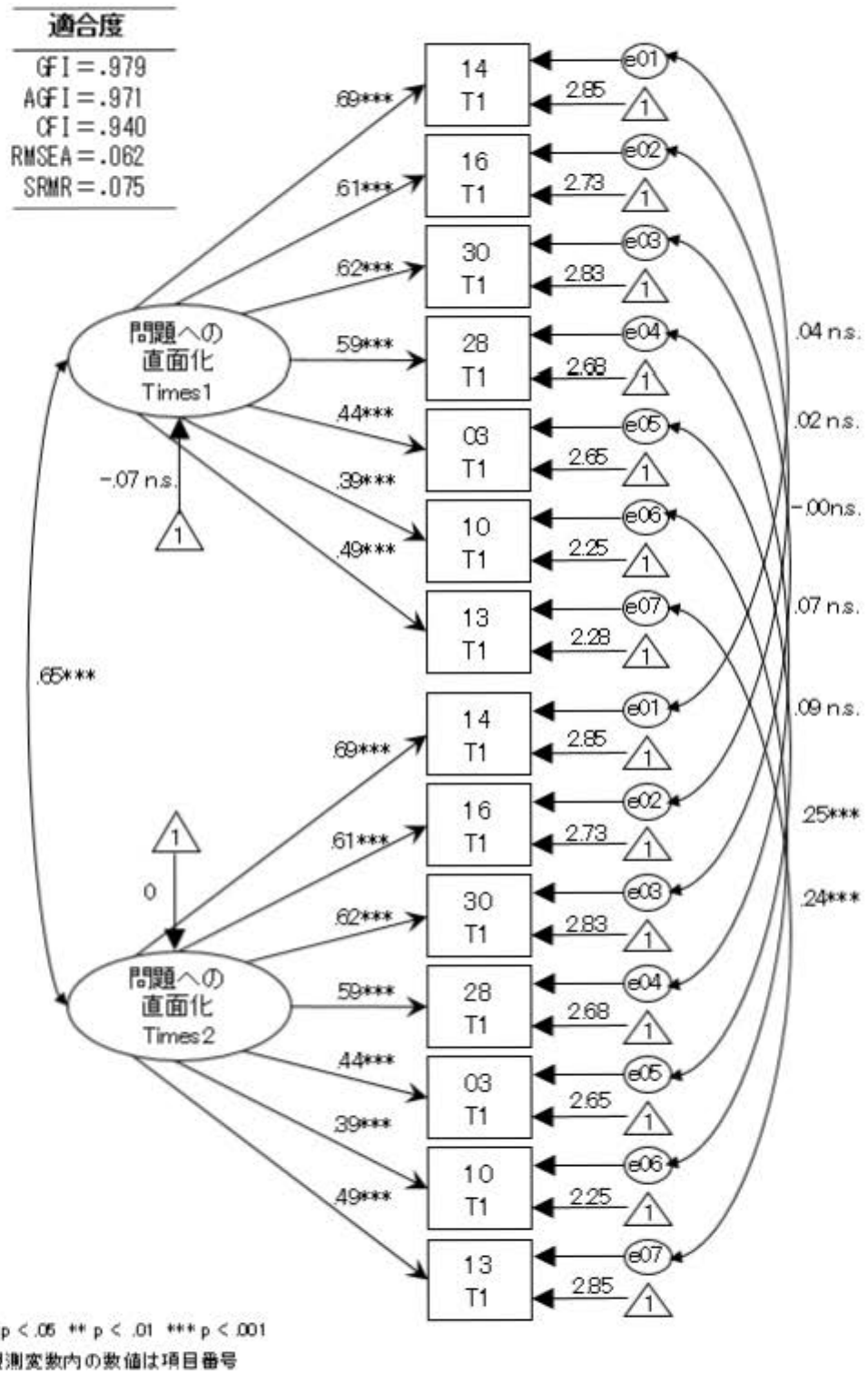


Figure2-1-9 問題への直面化の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

「気分転換」はモデル5まで許容された (Figure2-1-10)。

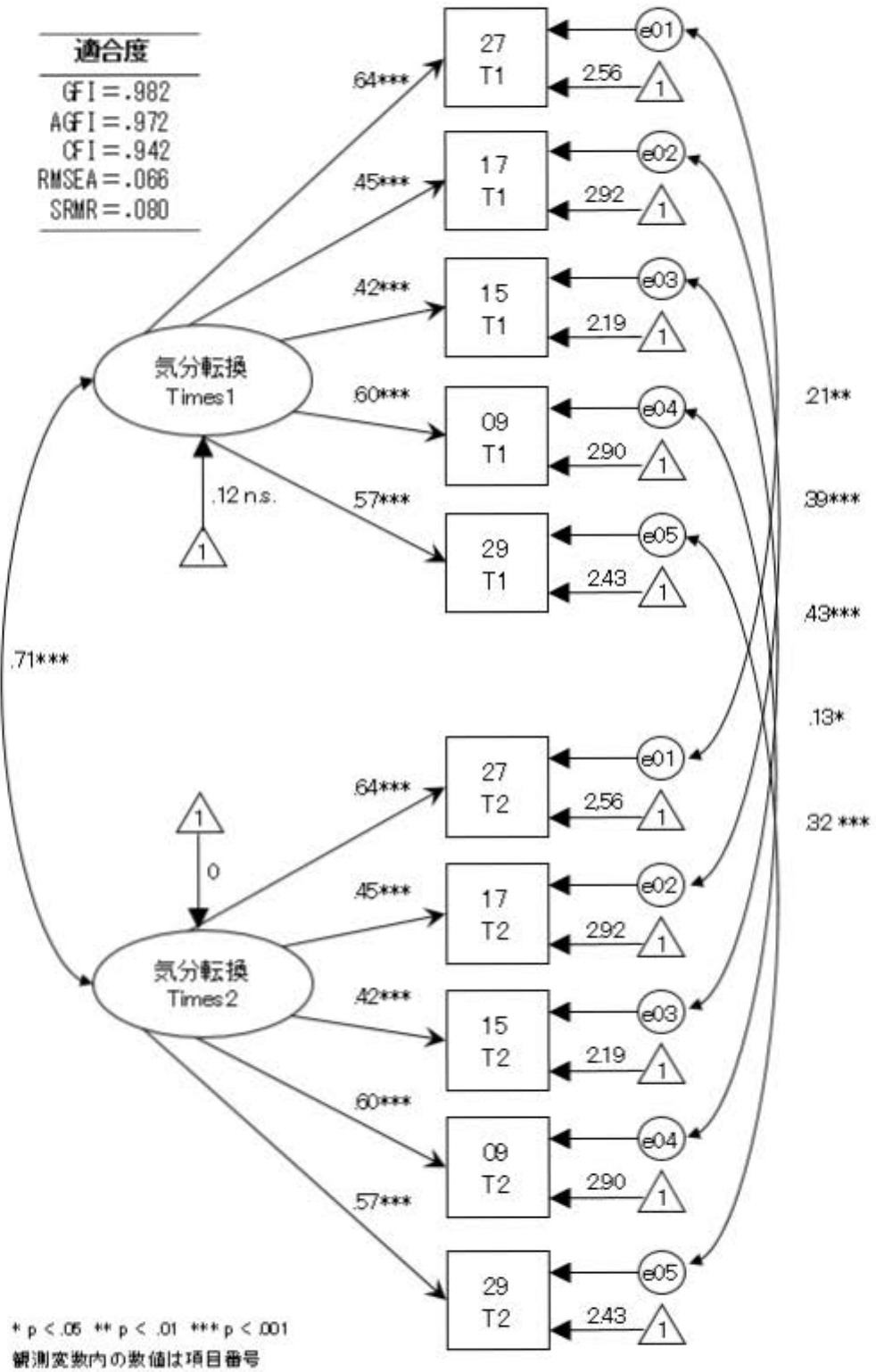


Figure2-1-10 気分転換の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

「ネガティブな内省」はモデル5まで許容された (Figure2-1-11)。

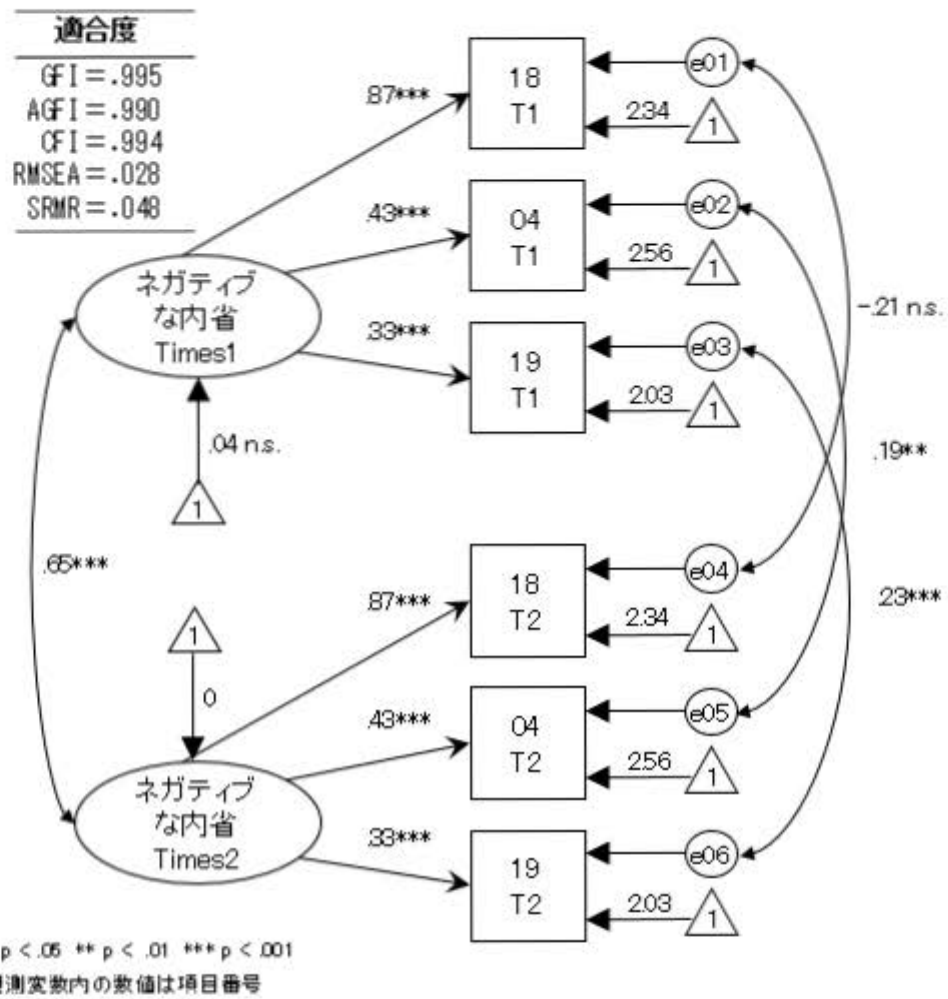


Figure 2-1-11 ネガティブな内省の縦断的因子分析結果:モデル4(最尤法、非標準化解)

「思考的回避」はモデル 5 まで許容された (Figure2-1-12)。

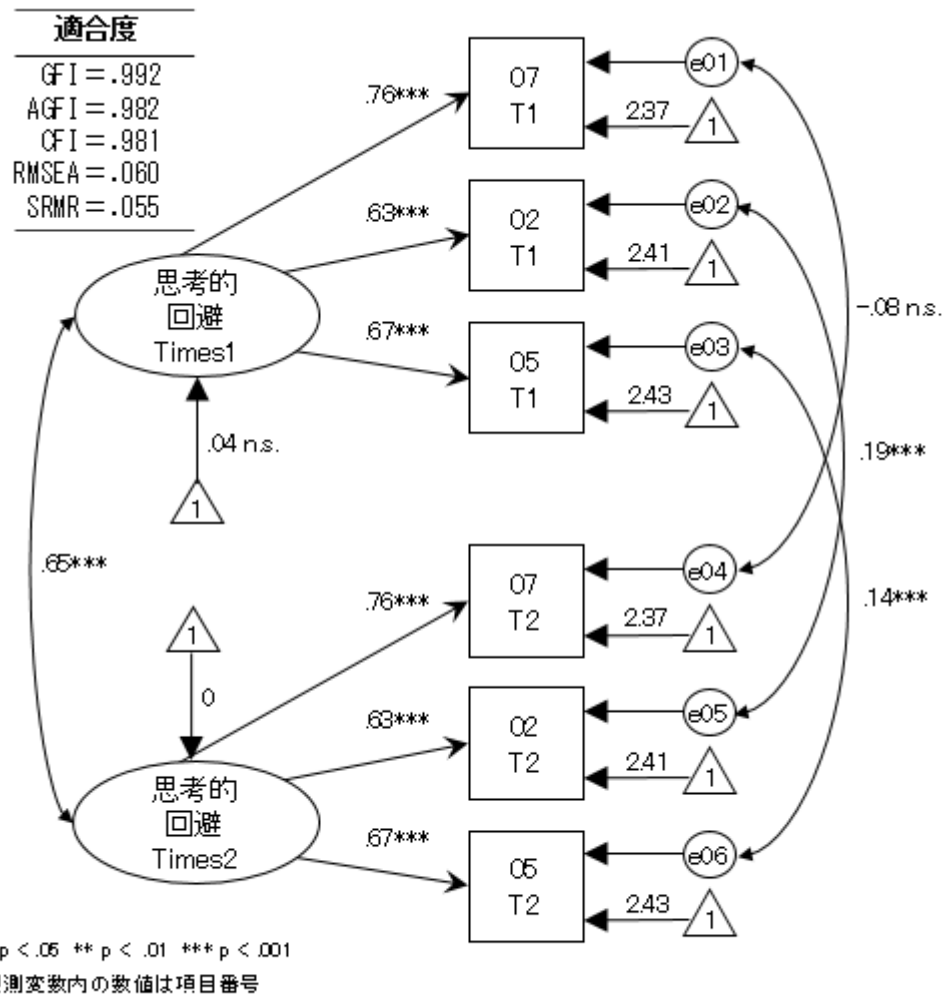


Figure2-1-12 行動的回避の縦断的因子分析結果:モデル4(最尤法、非標準化解)

これらのことから、本研究で用いる拡張版反応スタイル尺度は、ある程度の安定性を備えていることが確認されたと考えられ、2 時点とも同一の因子を測定していると言えるだろう。しかしながら 行動的回避に関しては縦断的因子分析の結果を参照できず、また、 α 係数も .7 に満たないため、解釈には慎重になる必要がある。同様に、ネガティブな内省に関しても α 係数は .7 に満たず、内的一貫性には疑問が付された。

なお、本尺度はその行動をとるかどうか、という行動の次元を測定している。言い換えれば、この尺度の総得点は、その個人の対処行動の量やバリエーションの指標となると考えられる。よって本研究では、この尺度 30 項目すべてを用いた平均点を反応スタイル (対処行動量) として扱うこととする。

6-6. 人生の志向性に関する質問票（13項目版）（Times2：4-6）

天井効果、床効果の検討を行ったが、該当する項目は見られなかった（Table2-1-14）。

Table2-1-14 SOC尺度の項目ごとの得点と標準偏差

		Times2	
		Mean	SD
有意味感	1.自分のまわりで起きていることがどうでもいい、 という気持ちになることがある。(R)	4.25	1.48
	7.自分が毎日していることは、つらく退屈である。(R)	3.39	1.46
	12.日々の生活で行っていることにほとんど意味がない と感じる。(R)	3.28	1.46
把握 可能感	2.これまでに、よく知っていると思っていた人の思わぬ 行動に驚かされたことがあった。(R)	4.72	1.25
	6.不慣れな状況のなかにいると感じ、どうすればよいのか わからないと感じることがある。(R)	4.60	1.33
	8.気持ちや考えが非常に混乱することがある。(R)	3.85	1.45
	9.本来なら感じたくないような感情を抱いてしまうことがある。(R)	4.05	1.49
処理 可能感	3.あてにしていた人がっかりさせられたことがある。(R)	4.31	1.37
	5.不当な扱いを受けているという気持ちになることがある。(R)	3.91	1.44
	10.これまでに、「自分はダメな人間だ」と感じたことが 頻繁にあった。(R)	4.14	1.62
	13.自制心を保つ自信がなくなることがある。(R)	3.15	1.61
残余項目	4.いままでの人生に明確な目標や目的があった。	4.47	1.40
	11.何かが起きたとき、そのことを過大評価や 過小評価をせず、適切な見方をしてきた。	4.05	1.02

先行研究の分類に基づいて検証的因子分析を行ったところ、適合度が悪く（GFI = .835、AGFI = .757、CFI = .787、RMSEA = .121 (90% C.I. : .101-.140)、SRMR = .093）、修正指標からは項目の交絡も確認されたため、まずはこの 3 因子モデルの修正指標に基づく改良を試みた。修正指標に基づいて項目の誤差間に共分散を設定していき、極力項目を削らないようにモデルの改良をしていった結果、各因子間で交絡していた項目 11 と項目 4 を削除し、最終的に Figure2-1-12 のモデルを採用した。

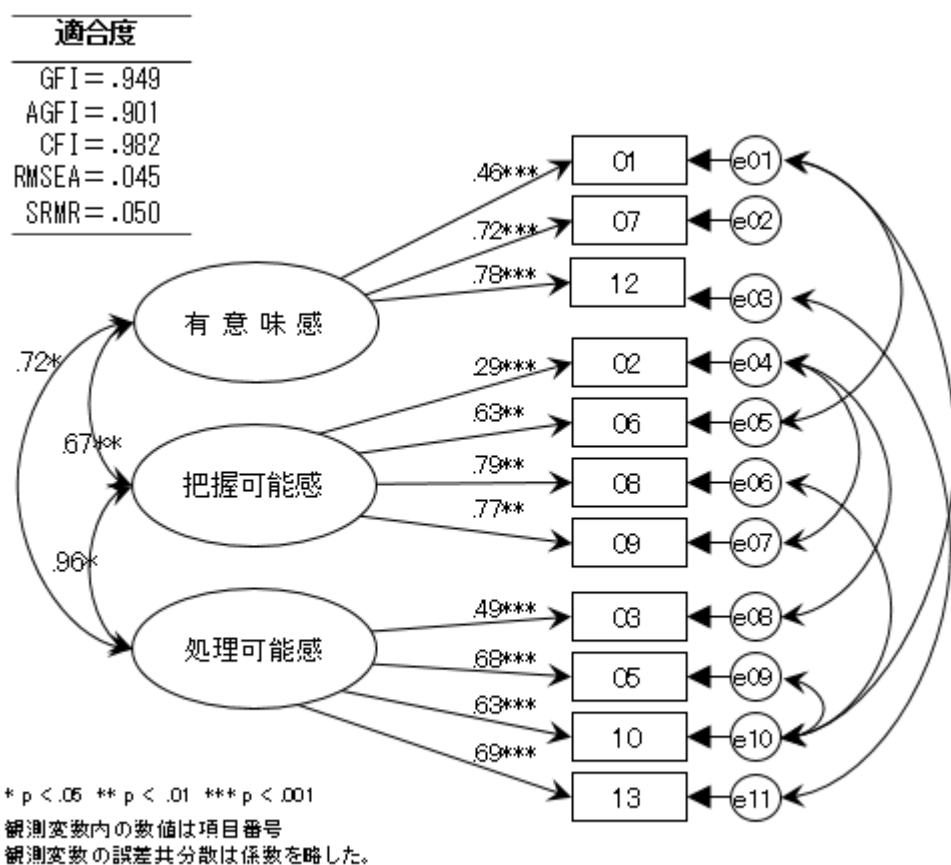


Figure2-1-12. 人生の志向性に関する質問票の確認的因子分析

このモデルの問題点は、項目間の相関が多く、また因子間の相関が大きすぎるため、それぞれの因子を弁別して検討を行うことが困難なことである。この点に関して、アントノフスキー自身はこの尺度を、3 下位因子を分離して用いることを推奨しておらず、浅野はこの尺度を 1 因子として扱っている (c.f. 浅野・堀毛・大坊, 2010; 浅野・吉田, 2010) ことや、戸ヶ里 (2008b) にて、この尺度は二次因子構造を持っており、その信頼性と妥当性の確認がされていることから、本研究においても基本的には 13 項目の平均を SOC の尺度得点として用い、必要に応じて本分析によって算出された因子を用いていくこととした。すなわち、SOC 得点として示した場合は 13 項目の平均であり、各因子名 (有意味感・把握可能感・処理可能感) として用いる場合は、それぞれ 3 項目、4 項目、4 項目の平均を用いていくこととする。なお、本研究でも 11 項目を用いての二次因子分析を試みたが、分散が負となり、検討することができなかった。この原因は、二次因子 (SOC) から各因子への負荷が高すぎることにあったと考えられた。

信頼性係数と因子間相関係数を算出したところ、尺度全体として良好な信頼性係数 ($\alpha = .812$) が得られた。因子間相関については、やはり下位因子間の相関がかなり高く、今後この下位尺度の弁別について検討する必要性が示唆された (Table2-1-14)。

Table2-1-14 SOC尺度の因子間相関と信頼性係数

	a	1	2	3
a: 首尾一貫感覚	(.812)	***	***	***
1: 有意味感	.798	(.681)	***	***
2: 把握可能感	.860	.548	(.758)	***
3: 処理可能感	.888	.607	.700	(.690)

()内は α 係数 * p<.05 ** p<.01 *** p<.001

最後に、首尾一貫感覚と CES-D との相関を確認した結果、先行研究が示す通り、抑うつに対して低減する方向に作用していることが確認された (Table2-1-16)。相関係数は $r = -.333 \sim -.602$ と中程度から高い値を示していた。

Table2-1-16 首尾一貫感覚と抑うつとの相関

	うつ全体_T2	抑うつ感_T2	不安症状_T2	孤独感_T2
首尾一貫感覚	-.602 ***	-.589 ***	-.494 ***	-.419 ***
有意味感	-.536 ***	-.525 ***	-.449 ***	-.345 ***
把握可能感	-.460 ***	-.456 ***	-.365 ***	-.333 ***
処理可能感	-.509 ***	-.470 ***	-.440 ***	-.414 ***

* p<.05 ** p<.01 *** p<.001

7. 調査対象集団の特徴について

本調査によって算出された記述統計量を以下に示す (Table2-1-17)

Table2-1-17 調査1の記述統計量

	Range	Times1		Times2		t test
		Mean	SD	Mean	SD	p - value
社会的クリシン志向性	1-7	5.61	0.70	5.54	0.69	n.s.
对人的柔軟性	1-7	5.94	0.82	5.93	0.84	n.s.
論理・証拠の重視	1-7	5.62	0.83	5.70	0.75	n.s.
脱軽信	1-7	5.19	1.26	5.07	1.25	n.s.
真正性	1-7	5.66	0.86	5.59	0.85	n.s.
探究心	1-7	5.65	0.91	5.41	0.85	*
CES-Dスコア	0-48	6.23	6.89	7.21	7.72	n.s.
うつ全体	0-3	0.39	0.43	0.45	0.48	n.s.
抑うつ感	0-3	0.46	0.50	0.60	0.58	*
不安症状	0-3	0.33	0.42	0.35	0.51	n.s.
孤立感	0-3	0.29	0.58	0.19	0.48	n.s.
考え込み型反応	1-4	2.23	0.53	2.34	0.53	†
自己理解	1-4	2.06	0.74	2.24	0.74	*
問題解決的考え込み	1-4	2.32	0.57	2.46	0.58	*
否定的考え込み	1-4	2.28	0.61	2.29	0.56	n.s.
認知的統制	1-4	2.59	0.46	2.62	0.42	n.s.
思考と行動の検討	1-4	2.73	0.46	2.75	0.45	n.s.
破局的思考の緩和	1-4	2.45	0.55	2.49	0.58	n.s.
反応スタイル(対処行動量)	1-4	2.37	0.37	2.42	0.41	n.s.
問題への直面化	1-4	2.62	0.60	2.59	0.59	n.s.
行動的回避	1-4	2.25	0.62	2.31	0.66	n.s.
気分転換	1-4	2.60	0.65	2.67	0.65	n.s.
思想的回避	1-4	2.40	0.80	2.52	0.75	n.s.
ネガティブな内省	1-4	2.31	0.65	2.32	0.64	n.s.
首尾一貫感覚	1-7	—	—	4.09	0.82	—
有意味感	1-7	—	—	4.41	1.19	—
把握可能感	1-7	—	—	3.70	1.11	—
処理可能感	1-7	—	—	4.19	1.14	—

対応のあるt検定 † p < .10 * p < .05 ** p < .01 *** p < .001

本調査の対象となった学生は9割以上が新入生であった。Times1の調査時は、まだ大学生生活が始まって間もない時期であり、大学での授業に慣れることや、新しい仲間集団を形成しなくてはならないなど、不安が多い時期である。反面、調査対象となったA大学は、地方の国公立大学として中堅どころであり、多くの学生にとって第1志望であったと想像される。その点から、受験を乗り越えてきたという効力感や、大学生活への期待などの希

望に満ちている時期でもある。Times1 時点はこのように、良くも悪くもストレスを抱える時期であったと想像できる。これは、CES-D スコアの平均値が Cut-off point である 6 点を上回っていることから推察できる。

一方で Times2 は、全 15 回の講義の最後から 2 番目の時点であり、もうすぐ大学生活のひとつの区切り（前期の終了）がつくという頃合いである。想像していた大学生活と実際の大学生活との間にあるギャップにも慣れてきたであろうが、期末の課題に対する不安や半期に関して振り返る機会が多くなるなど、どちらかと言えば期待や希望よりも失望や不安、疲れのほうが大きい時期であったと想像される。これは、Times1 と Times2 における抑うつ感の上昇や探究心の低下などから推察できるが、一方で問題解決的な考え込みの上昇も見られ、何とかしようという意識も垣間見える。

各平均値に目を向ければ、全体として磯和（2008）よりも健康な集団であったことが推測される。それは考え込み型反応の問題解決的考え込みと認知的統制の平均値が（おそらく有意ではないが）高いこと、および、磯和（2008）の対象集団は抑うつ得点が高い集団であったことからそう考えられた。その他にも、社会的クリティカルシンキング志向性が非常に高いことが見て取られる。これは現在の三重大学生の特徴である可能性が高い。尺度構成が異なるため直接的な比較はできないが、南（2009）や南（2010）でも同様の特徴がみられること、廣岡ら（2001）や廣岡ら（2005）で見られた社会的クリシン志向性の値よりも全体的に高いことから、そのように推察された。

調査 2：健康を促進するという視点からの調査

1.調査対象者

地方にある4年制のA大学において、教養教育科目の心理学を受講していた学生に対し、講義の時間内に質問紙調査を行った。対象となった授業は、調査1とは異なる教員の担当する授業である。Times1では246名、Times2では189名から質問紙を回収した。その後、Times1とTimes2のマッチングを行ったうえで、欠損値を含むデータを分析から除外し、最終的に185名が分析対象となった。以後、特に断りがないかぎり、調査2の分析はこの185名のデータを用いて行う。

2.調査時期

Times1は2014年4月10日、Times2は同7月17日であった。なお、Times1は前期初回の講義であり、多くの受講者にとっては大学生初の授業であった。Times2は14回目（最終回は15回）の講義であった。

3. 質問紙の構成 —— Times1

3-0.フェイスシート

調査内容の説明と、それに対する同意を取ったのち、年齢、性別および学籍番号について回答を求めた。学籍番号は調査2時点の対応を取るためのみに使用することを説明したうえで記入を求め、記入したくない学生については、学部、学年、誕生月と携帯番号の下4桁の記入を求めた。

3-1. 社会的クリティカルシンキング志向性尺度

調査1で用いられた社会的クリティカルシンキング尺度と同一の尺度である。

中西ら（2006）で使用された社会的クリティカルシンキング志向性尺度のうち、最終的に分析に使用された27項目を用いた。中西ら（2006）では「全くなりたくない」から「非常にになりたい」までの7件法で回答を求めており、本研究でもそれに倣ったが、この尺度は全体的に平均値が高くなりやすく、天井効果を起こしやすい。そのため、教示文は「多少の苦勞をしてでも、下記のようなことがらができる人にどれくらいになりたいと思いますか。貴方に最もあてはまるところ1つに○をつけて下さい。」とし、「多少の苦勞をしてで

も」の部分¹を太字でフォントを 1 ポイント大きくし、強調したうえで提示した。回答にあたっては、「全くなりたくないー非常になりたい」までの 7 件法で回答を求めた。

3-2. ENDCOREs 尺度

コミュニケーションスキルに関する尺度として、藤本・大坊（2007）で作成された ENDCOREs 尺度 24 項目を用いた。この尺度は自己統制を各スキルの階層構造における中核に位置付けており、社会的クリシンと SOC の媒介要因として使用することに適している。なお、コミュニケーションスキルに関する尺度とされているものの、この尺度で実際に測定しているものは、コミュニケーション行動に関する得意不得意の意識である。この尺度では具体的な行動技術を指定せずに、その行動を選択する際の抵抗感を評価する「得意ー苦手」という選択肢を採用している。

「普段のコミュニケーション場面におけるあなたの行動について、得意であるか不得意であるかを回答してください。最もあてはまると思うところ 1 つに○をつけてください。」と教示し、「かなり苦手ーかなり得意」の 7 件法で回答を求めた。

3-3. 人生の志向性に関する質問票（13 項目版）

SOC を測定する尺度として、アントノフスキー（1987, 山崎・吉井監訳, 2001, pp.222-225）にて紹介されている尺度のうち 13 項目を、フォーマットもそのままの形で使用した。

3-4. 社会的クリティカルシンキング有効性認知尺度

社会的クリシンを行うことが、対人関係や社会生活においてどれくらい有効なのかを尋ねる尺度を作成し、使用した。中西ら（2006）で抽出された 7 つの因子に対応する 7 項目で構成されている。これは、「人の考え方にはバラエティがあることを意識した上で、意見が合わない人の考えにも耳を傾け（多様性理解）、話や問題のポイントをつかみ、わかりやすく物事を伝えることを心がけており（要点理解）、むやみに物事を信じ込まないように注意し（脱軽信）、物事の理屈を考え、できるだけ多くの事実や証拠を調べ、それを重視した上で判断を下し（論理・証拠の重視）、一旦決断したことは最後までやり抜く（決断力）ことに加え、友だちに対してでも悪いことは悪いと指摘する一方（真正性）で、他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる事ができる（他の理解）人である。」、というクリシンカーイメージを項目に変更したものである。

教示文は「あなたは、対人関係や社会生活を適応的に生きるために、次の項目を意識することは、どれくらい有効だと思いますか。最もあてはまると思うところ 1 つに○をつけてください。」とし、「全く有効ではないー非常に有効である」までの 7 件法で回答を求めた。

3-5. 社会的クリティカルシンキング能力自己認知尺度

社会的クリシソ有効性認知尺度と同様の項目を用い、社会的クリシソがどの程度できると感じているかを尋ねた。

教示文は「あなたは次の各項目をどれくらいできると思いますか。最もあてはまると思うところ 1 つに○をつけてください。」とし、「全くできないー非常にできる」までの 7 件法で回答を求めた。

3-6. その他の項目

倫理的配慮として自由記述欄を設けたが、分析には使用していない。

4. 質問紙の構成 —— Times2

4-0. フェイスシート

調査内容の説明と、それに対する同意を取ったのち、年齢、性別および学籍番号について回答を求めた。学籍番号は調査 2 時点の対応を取るためのみに使用することを説明したうえで記入を求め、記入したくない学生については、学部、学年、誕生月と携帯番号の下 4 桁の記入を求めた。

4-1. 短縮版社会的クリティカルシンキング尺度

Times1 にて使用した社会的クリティカルシンキング尺度（中西ら, 2006）に対し検討を加え、15 項目に短縮されたものを使用した。短縮にあたって加えた検討については、第 4 章か、もしくは磯和・南（印刷中）を参照されたい。

4-2. 人格特性的自己効力感尺度

三好（2003）で開発された人格特性的自己効力感尺度 6 項目を用いた。この尺度は、特性的自己効力感研究の中で、特に内にある主観的な感覚としての特性的自己効力感につい

て測定するための尺度である。これは SOC の、特に処理可能感と重複する概念であると考えられる。

「下記のそれぞれの問いについて、最もあてはまると思うところ 1 つに○をつけてください。」と教示し、「全くあてはまらないー非常にあてはまる」までの 5 件法で回答を求めた。

4-3. 社会的クリティカルシンキング行動尺度

短縮版社会的クリシン尺度を項目として用い、教示文と回答選択肢にて対象者の社会的クリシン行動の頻度を尋ねた。

教示文は「あなたは、最近数か月の間に、下のようなことがらをどれくらいしましたか。あなたに最もあてはまると思うところ 1 つに○をつけてください。」とし、「全くしなかったーいつもしていた」までの 7 件法で回答を求めた。

4-4. 人生の志向性に関する質問票（13 項目版）

SOC を測定する尺度として、アントノフスキー (1987, 山崎・吉井監訳, 2001, pp.222-225) にて紹介されている尺度のうち 13 項目を用いた。なお、使用の際にはリッカート形式に変更して使用した。リッカート形式にて SOC 測定を試みた研究としては、坂野・矢嶋 (2005) や坂野・戸ヶ里・山崎・矢嶋・小林・石橋 (2009)、志渡・澤目・上原・佐藤・池森・長谷川 (2011) があるが、どれも一時点のみでの検討である。すなわち、アントノフスキー (1987, 山崎・吉井監訳, 2001, pp.222-225) にて紹介されている版と、リッカート形式の版との間での相関を検討したものは寡聞にして耳にしたことがない。よって、本調査ではオリジナルの版とリッカート形式の版の再調査信頼性を測定することで、リッカート版の信頼性と妥当性を見出すことを狙いとする。なお、先行研究では問診のような項目となっていたため、本調査では他の調査項目と親和するように改編して用いた。

4-5. ENDCOREs 尺度

4-6. 社会的クリティカルシンキング有効性認知尺度

4-7. 社会的クリティカルシンキング能力自己認知尺度

Times1 と同様のものを用いた。

4-8. その他の項目

倫理的配慮として自由記述欄を設けたが、分析には使用していない。

なお、Times2 では使用する尺度の順序による影響を考慮し、社会的クリティカルシンキング行動尺度を最初に問うている版も用いてカウンターバランスを取った。

5. 分析対象者の属性

Times1 にて欠損値がなかった 246 名（男性 130 名、女性 116 名）の平均年齢は 18.27 歳（SD = 0.79）であり、そのうちの 9 割以上（231 名）が新入生であった。

本調査の分析対象者 170 名（男性 86 名、女性 84 名）の平均年齢は 18.77 歳（SD = 2.54）であり、そのうちの 9 割以上が新入生であった。

6. 各尺度の精査

ここでは、調査 2. において使用した各尺度に対して行われた確認事項と、因子構造の確認、および記述統計量を算出し、その後尺度ごとに検討を加えていくこととする。最終的に算出された各因子の記述統計量は、7. 調査対象集団の特徴について、の箇所です。

6-1. 社会的クリティカルシンキング志向性尺度（Times1 : 3-1、Times2 : 4-1 : 短縮版）

6-2. 社会的クリティカルシンキング行動尺度

これらの尺度については、第 4 章にて後述する。

6-3. 人格特性的自己効力感尺度（Times2 : 4-2）

三好（2003）に従い、逆転項目の処理をしたのちに尺度得点と標準偏差を算出した。本尺度の合計は 17.53、標準偏差は 3.98 であった。また、平均は 2.93、標準偏差は SD = .66）であった。三好（2003）では、首都圏の大学生 224 名に対し人格特性的自己効力感を測定した結果、平均は約 20 であったこと、三好（2007）では同じく首都圏の大学生 285 名に対して人格特性的自己効力感を測定しており、これも平均は 20.0（SD = 4.16）であった。本調査の得点はやや低いように思うが、誤差の範囲内である可能性が高いと考えられた。

確認として、1 因子を仮定した確認的因子分析を行った。初期適合度は GFI = .922、AGFI = .817、CFI = .905、RMSEA = .156 (90% C.I. : .113 - .202)、SRMR = .068 となり、AGFI

と RMSEA の値に問題があったが、修正指標に従い項目 2 と項目 5 の間に共分散を設定した結果、適合度が GFI = .973、AGFI = .929、CFI = .982、RMSEA = .072 (90% C.I.: .000 - .127)、SRMR = .030 まで改善したので、この結果を採用した (Figure2-2-1)。

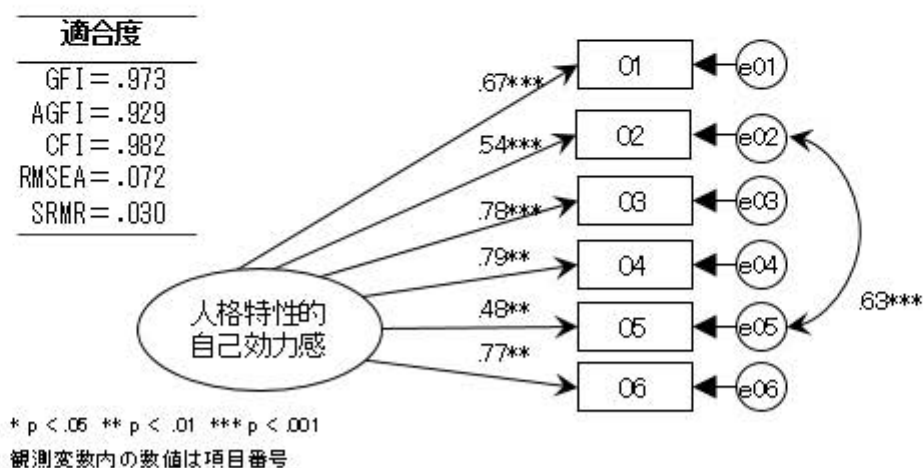


Figure2-2-1. 人生の志向性に関する質問票の確認的因子分析_Times2

Table2-2-1 人格特性的自己効力感の平均値と標準偏差

	Mean	SD
1.どんな状況に直面しても、私ならうまくそれに対処することができるような感じがする。	2.76	0.81
2.私にとって、最終的にはできないことが多いと思う。	3.38	0.91
3.私が頑張りさえすれば、どんな困難なことでもある程度のことはできるような気がする。	3.24	0.90
4.熱心に取り組めば、私にできないことはないように思う。	2.81	0.96
5.やりたいと思っても、私にはできないことばかりだと感じる。	3.06	0.97
6.非常に困難な状況の中でも、私ならそこから抜け出すことができると思う。	3.12	0.78

6-4. ENDCOREs 尺度 (Times1 : 3-2、Times2 : 4-5)

天井効果、床効果とも検出されなかったため、藤本・大坊 (2007) にしたがって項目を整理した後 (Table2-2-2)、信頼性係数と各因子間の相関係数を算出した (Table2-2-3)。

Table2-2-2 ENDCOREs 尺度の項目ごとの得点と標準偏差

			Times1		Times2	
			Mean	SD	Mean	SD
自己統制	欲求抑制	1.自分の衝動や欲求を抑える	4.43	1.38	4.49	1.35
	感情統制	2.自分の感情をうまくコントロールする	4.27	1.37	4.46	1.33
	道徳観念	3.善悪の判断に基づいて正しい行動を選択する	4.54	1.08	4.51	1.09
	期待応諾	4.まわりの期待のに応じた振る舞いをする	3.89	1.31	4.16	1.29
表現力	言語表現	5.自分の考えを言葉でうまく表現する	3.09	1.29	3.53	1.27
	身体表現	6.自分の気持ちをしぐさでうまく表現する	3.59	1.36	3.90	1.34
	表情表現	7.自分の気持ちを表情でうまく表現する	3.80	1.58	4.00	1.37
	情緒伝達	8.自分の感情や心理状態を正しく察してもらう	3.56	1.22	3.82	1.15
解読力	言語理解	9.相手の考えを発言から正しく読み取る	4.14	1.20	4.30	1.17
	身体理解	10.相手の気持ちをしぐさから正しく読み取る	4.31	1.27	4.44	1.11
	表情理解	11.相手の気持ちを表情から正しく読み取る	4.44	1.26	4.53	1.12
	情緒感受	12.相手の感情や心理状態を敏感に感じとる	4.35	1.35	4.51	1.26
自己主張	支配性	13.会話の主導権を握って話を進める	3.31	1.32	3.58	1.26
	独立性	14.まわりとは関係なく自分の意見や立場を明らかにする	3.63	1.38	3.92	1.26
	柔軟性	15.納得させるために相手に柔軟に対応して話を進める	3.85	1.25	4.17	1.11
	論理性	16.自分の主張を論理的に筋道を立てて説明する	3.27	1.30	3.69	1.17
他者受容	共感性	17.相手の意見や立場に共感する	4.92	1.14	4.82	1.07
	有効性	18.友好的な態度で相手に接する	5.01	1.37	4.90	1.38
	譲歩	19.相手の意見をできるかぎり受け入れる	4.95	1.13	4.94	1.10
	他者尊重	20.相手の意見や立場を尊重する	5.06	1.08	5.07	1.09
関係調整	関係重視	21.人間関係を第一に考えて行動する	4.59	1.32	4.64	1.28
	関係維持	22.人間関係を良好な状態に維持するように心がける	4.89	1.32	4.97	1.27
	意見対立対処	23.意見の対立による不和に適切に対処する	4.07	1.13	4.33	1.11
	感情対立対処	24.感情的な対立による不和に適切に対処する	3.88	1.20	4.23	1.19

尺度全体の信頼性係数は、Times1 : $\alpha = .917$ 、Times2 : $\alpha = .937$ と極めて高く、下位因子においても、Times1 の自己統制が $\alpha = .681$ とやや低いものの、それを除けば $\alpha = .705 \sim .904$ と良好であった。また、因子間相関も全体的に極めて高く、時点を跨いでも安定していることが伺われた。

Table2-2-3 ENDCOREs尺度の因子間相関と信頼性係数

	Times1							Times2						
	a	1	2	3	4	5	6	a	1	2	3	4	5	6
a: スキル全体	(.917)	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
1: 自己統制	.715	(.681)	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
2: 表現力	.782	.442	(.839)	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
T1 3: 解読力	.742	.428	.469	(.875)	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
4: 自己主張	.695	.386	.598	.403	(.705)	***	***	***	***	***	***	***	***	***
5: 他者受容	.725	.410	.421	.481	.311	(.846)	***	***	***	***	***	***	***	***
6: 関係調整	.799	.563	.496	.491	.411	.632	(.797)	***	***	***	***	***	***	***
a: スキル全体	.792	.571	.637	.549	.565	.593	.615	(.937)	***	***	***	***	***	***
1: 自己統制	.579	.652	.376	.375	.308	.395	.497	.745	(.781)	***	***	***	***	***
2: 表現力	.615	.354	.674	.377	.508	.397	.403	.783	.434	(.856)	***	***	***	***
T2 3: 解読力	.636	.401	.441	.654	.466	.426	.435	.783	.499	.562	(.904)	***	***	***
4: 自己主張	.576	.350	.494	.373	.704	.323	.324	.722	.436	.598	.508	(.773)	***	***
5: 他者受容	.642	.498	.469	.380	.308	.673	.544	.792	.583	.458	.519	.411	(.887)	***
6: 関係調整	.614	.397	.478	.374	.335	.524	.637	.799	.516	.542	.521	.420	.691	(.870)

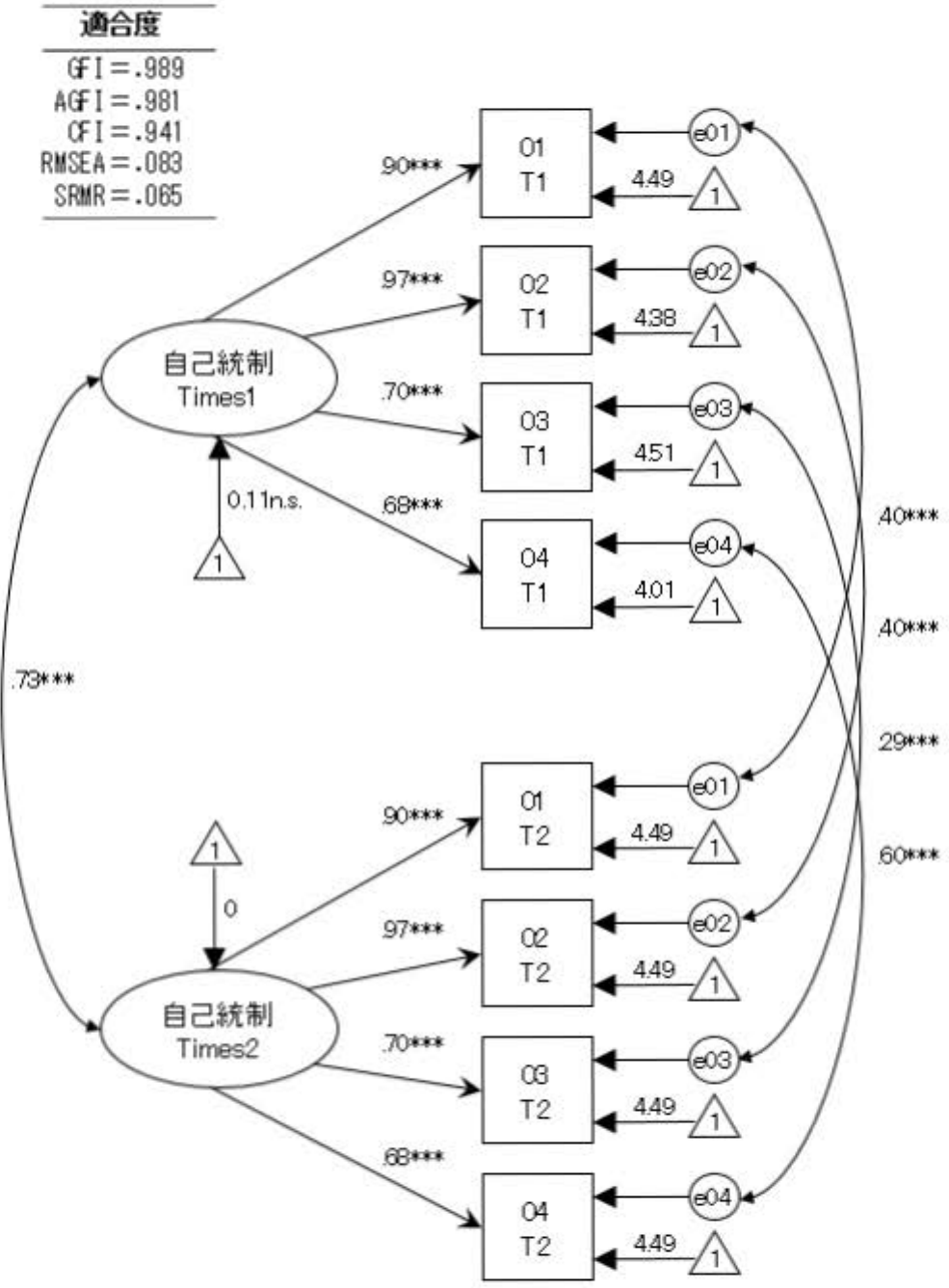
()内は α 係数 * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

続いて、因子ごとに縦断的因子分析を行った。その結果、 χ^2 値が有意になることに目を瞑れば、自己統制、解読力、他者受容はモデル 5 まで、表現力、自己主張とスキル全体ではモデル 4 まで許容された (Table2-2-4)。他者受容は、RMSEA の値が不適となったが、CFI の値は良好であった。関係調整の因子については、最も制約の緩い配置不変モデルであっても適合度が極めて悪く、再考の必要性が示された。

Table2-2-4 ENDCORES尺度の縦断的因子分析におけるモデル別適合度

	適合度	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
自己統制	モデル1	36.302	15.000	.002	.959	.091	4115.260
	モデル2	36.389	18.000	.006	.965	.078	4099.940
	モデル3	45.802	21.000	.001	.953	.083	4093.945
	モデル4	55.708	25.000	.000	.941	.085	4083.308
	モデル5	58.014	26.000	.000	.939	.085	4080.478
表現力	モデル1	36.416	15.000	.002	.972	.092	3970.134
	モデル2	39.380	18.000	.003	.972	.084	3957.691
	モデル3	51.954	21.000	.000	.960	.093	3954.858
	モデル4	62.547	25.000	.000	.952	.094	3944.907
	モデル5	87.873	26.000	.000	.920	.118	3965.098
解読力	モデル1	45.319	15.000	.000	.969	.109	3529.483
	モデル2	49.134	18.000	.000	.968	.101	3517.891
	モデル3	49.627	21.000	.000	.971	.090	3502.976
	モデル4	66.026	25.000	.000	.958	.098	3498.831
	モデル5	68.586	26.000	.000	.956	.098	3496.255
自己主張	モデル1	18.706	15.000	.227	.992	.038	4079.359
	モデル2	21.397	18.000	.260	.993	.033	4066.643
	モデル3	21.690	21.000	.418	.999	.014	4051.529
	モデル4	32.546	25.000	.143	.984	.042	4041.841
	モデル5	75.892	26.000	.000	.895	.106	4080.051
他者受容	モデル1	62.279	15.000	.000	.950	.136	3457.553
	モデル2	63.309	18.000	.000	.952	.122	3443.176
	モデル3	67.522	21.000	.000	.951	.114	3431.981
	モデル4	75.628	25.000	.000	.947	.109	3419.544
	モデル5	75.913	26.000	.000	.947	.106	3414.693
関係調整	モデル1	220.924	15.000	.000	.773	.284	3752.444
	モデル2	235.004	18.000	.000	.760	.266	3751.116
	モデル3	241.509	21.000	.000	.757	.249	3742.214
	モデル4	254.885	25.000	.000	.746	.233	3735.047
	モデル5	261.838	26.000	.000	.740	.231	3736.864
コミュニケーション・スキル	モデル1	103.787	47.000	.000	.952	.084	4812.589
	モデル2	107.007	52.000	.000	.954	.079	4790.130
	モデル3	154.356	57.000	.000	.918	.100	4811.799
	モデル4	157.957	63.000	.000	.920	.094	4784.586
	モデル5	178.291	64.000	.000	.904	.102	4799.785

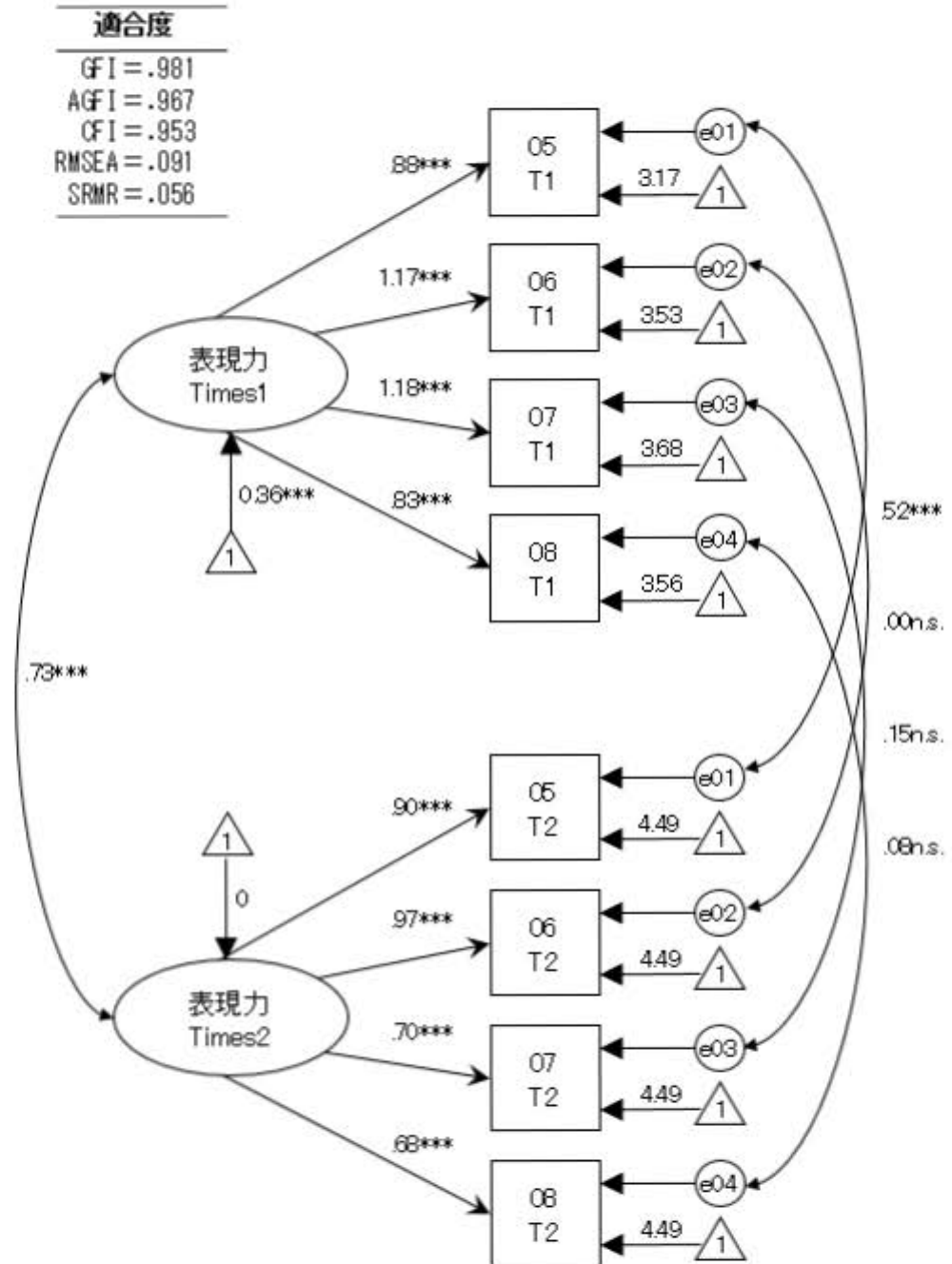
「自己統制」の因子はモデル5まで許容された (Figure2-2-2)。



* p < .05 ** p < .01 *** p < .001
 観測変数内の数値は項目番号

Figure2-2-2 自己統制の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

「表現力」の因子はモデル5まで許容された (Figure2-2-3)。



* p < .05 ** p < .01 *** p < .001
 観測変数内の数値は項目番号

Figure2-2-3 表現力の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

「解読力」の因子はモデル5まで許容された (Figure2-2-4)。

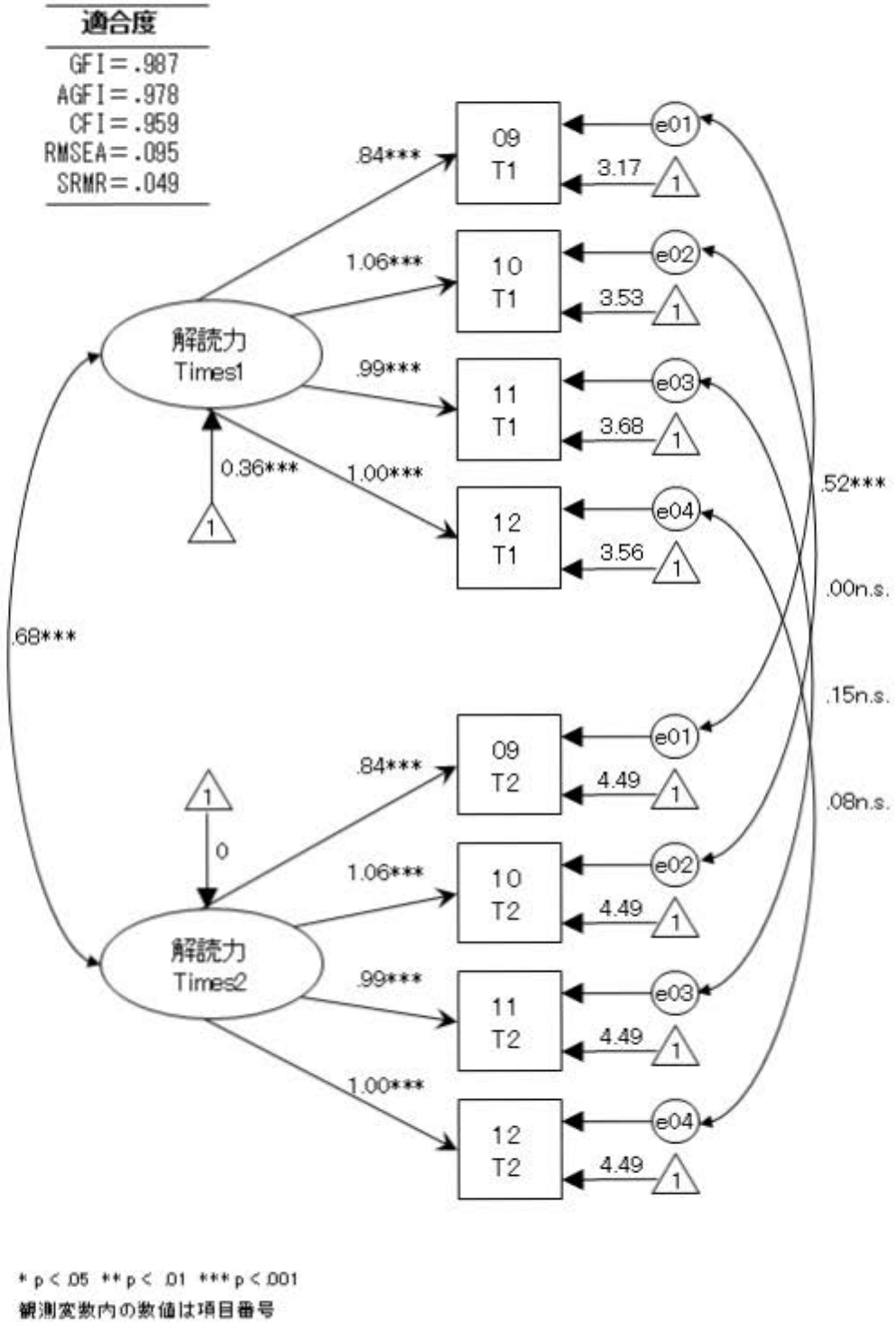


Figure2-2-4 解読力の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

「自己主張」の因子はモデル 5 まで許容された (Figure2-2-5)。

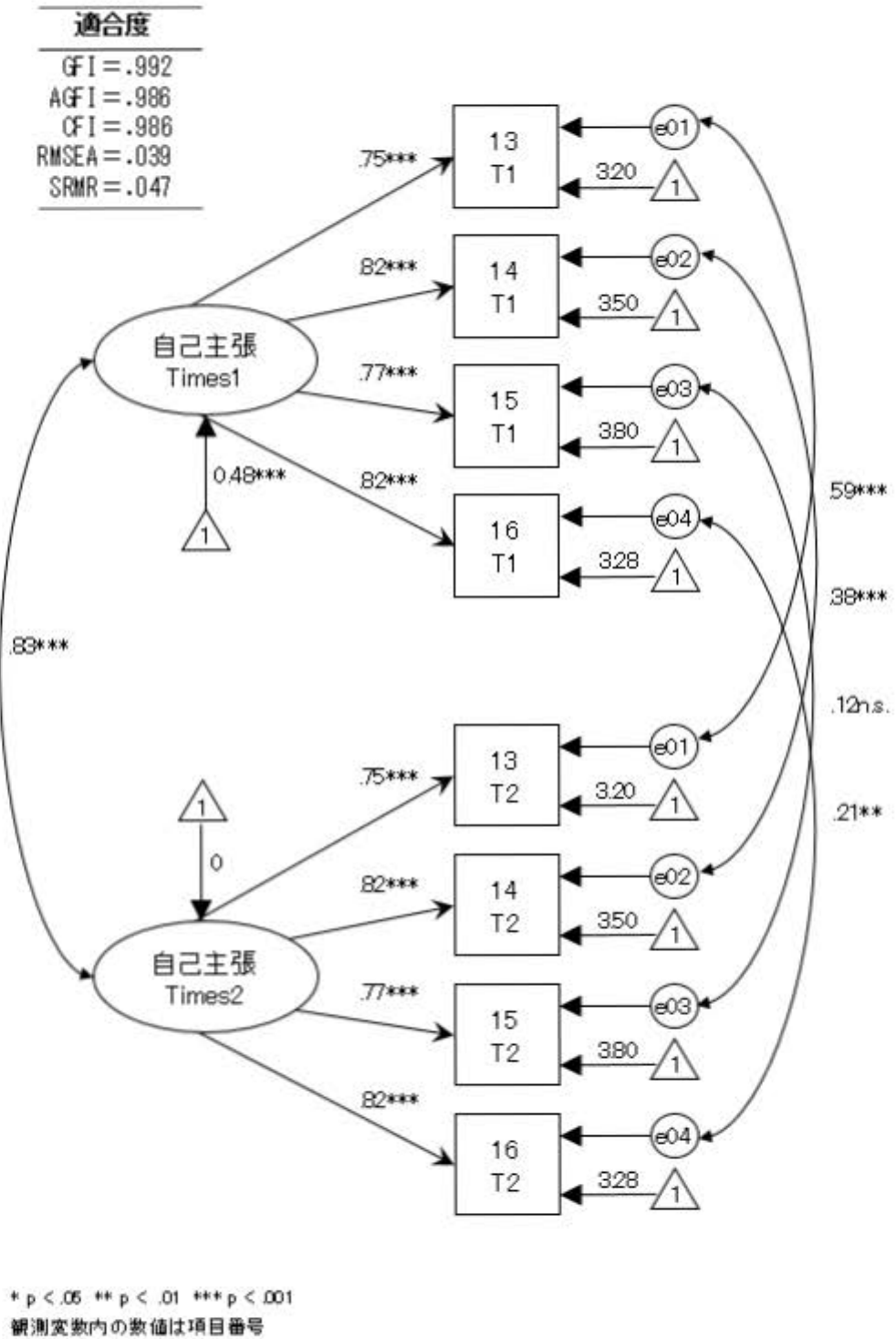
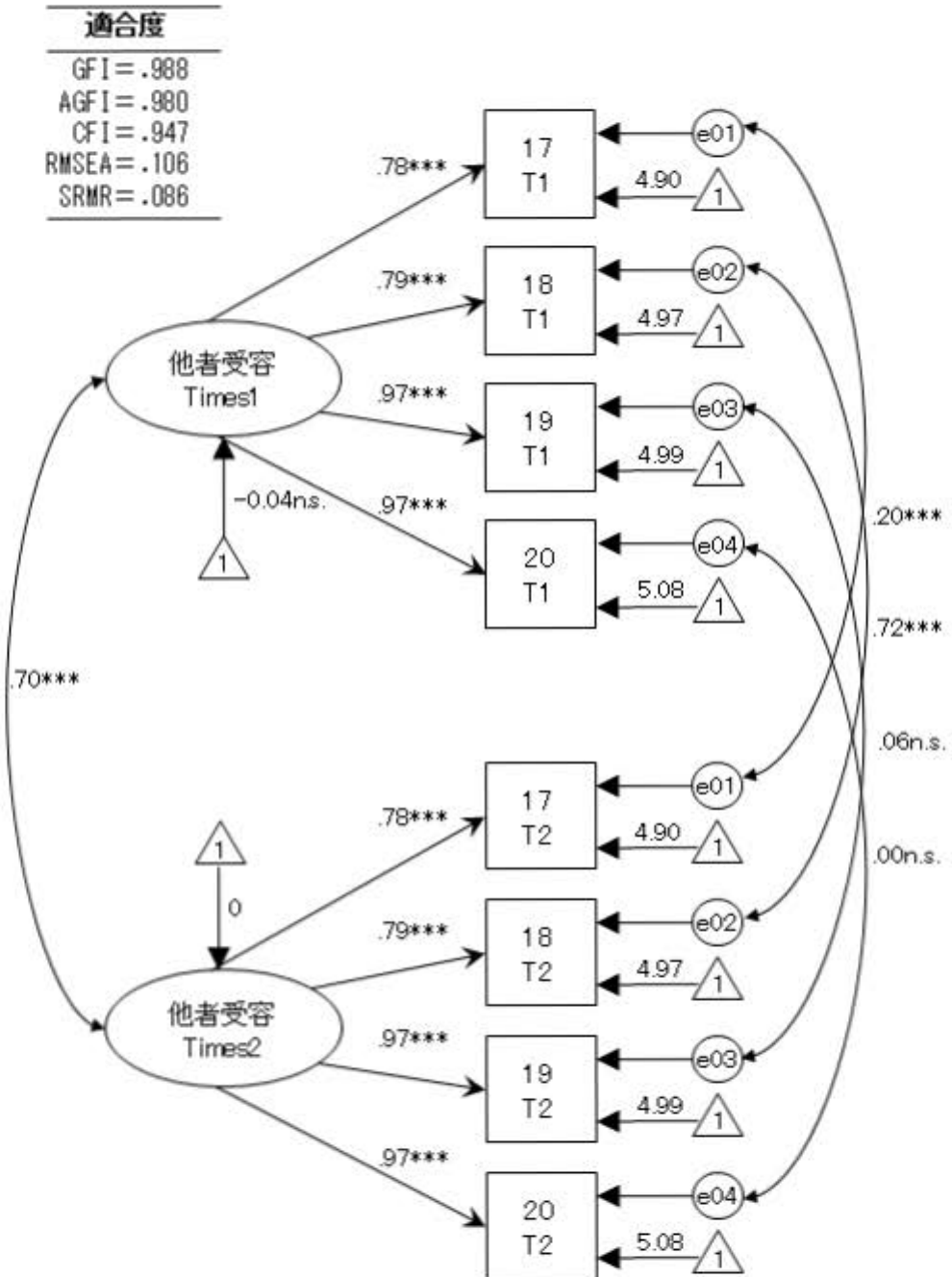


Figure2-2-5 自己主張の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

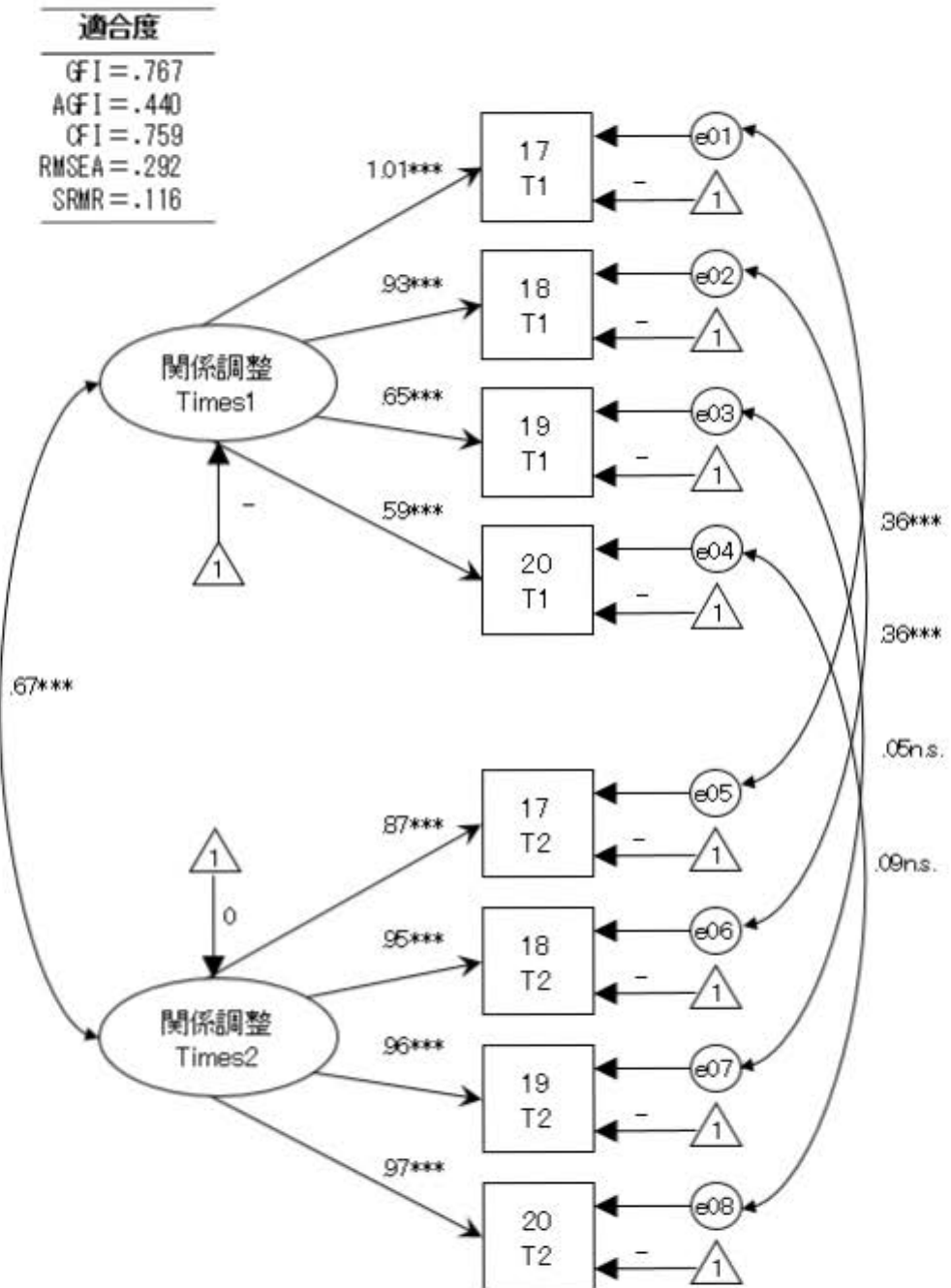
「他者受容」の因子はモデル 5 まで許容された (Figure2-2-6)。



* p < .05 ** p < .01 *** p < .001
 観測変数内の数値は項目番号

Figure2-2-6 他者受容の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

「関係調整」の因子はモデル1であっても許容されなかった (Figure2-2-7)。



* p < .05 ** p < .01 *** p < .001
 観測変数内の数値は項目番号

Figure2-2-7 関係調整の縦断的因子分析結果:モデル1 (最尤法、非標準化解)

この点については藤本・大坊（2007）の ENDCOREs の「スキルの扇」モデルの最も外側に位置しており、諸般のソーシャル・スキルとの境界に位置することから、単一の因子として捉えることが難しい可能性が考えられる。実際、藤本（2013）は、関係調整の内容については関係重視と関係維持に関するスキルである対人関係マネジメントと、意見対立対処と感情対立対処に関するスキルである対人葛藤マネジメントという 2 つの要因を包含していることを取り上げ、関係調整を対人葛藤マネジメントと対人関係マネジメントの 2 つの観測変数に分割している。そのため、本研究では関係調整を、関係調整マネジメントと、対人葛藤マネジメントの 2 下位因子をもつ因子として、Times1 のデータを用いて二次因子分析を試みた。その結果、適合度 $GFI = .999$ 、 $AGFI = 1.000$ 、 $CFI = .999$ 、 $RMSEA = .000$ （90% C.I. : .000–.000）、 $SRMR = .005$ と極めて高い値で適合した。同様に Times2 のデータにも二次因子分析を試みた結果、同じく適合度 $GFI = .999$ 、 $AGFI = 1.00$ 、 $CFI = .999$ 、 $RMSEA = .000$ （90% C.I. : .000–.000）、 $SRMR = .003$ と極めて高い値で適合した。なお、二次因子構造の縦断的因子分析も試みたが、計算が成立しなかったものの、Times1 と Times2 における関係調整の相関は、 $r = .637$ と高い値を示していたため、関係調整が 2 時点で同様のものを測定していると判断された。以上のことから、ENDCOREs 尺度が時点間を経て同様の因子を測定できていることが確認された。

続いて、藤本（2013）のモデル（Figure2-2-8）が再現されるか、Times1 のデータを用いて共分散構造分析を行った。

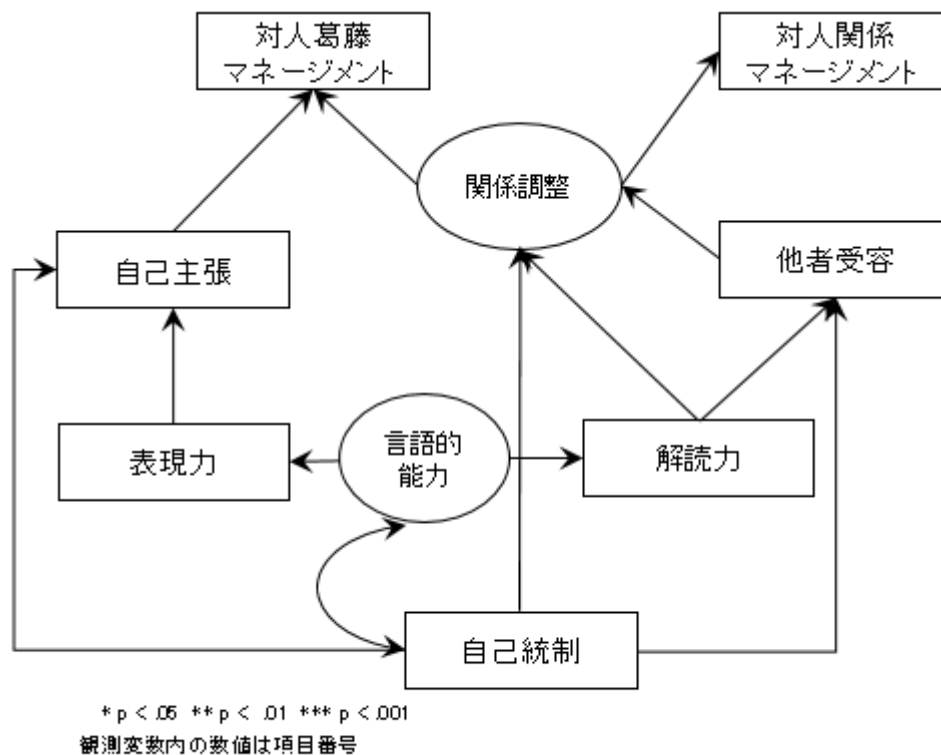


Figure2-2-8 ENDCOREモデル（藤本, 2013）より筆者が作成

その結果、適合度は GFI = .979、AGFI = .925、CFI = .987、RMSEA = .061 (90% C.I. : .000 - .118)、SRMR = .047 となり、良好であった。同様に Times2 のデータを用いて分析を行った結果、適合度は GFI = .950、AGFI = .824、CFI = .955、RMSEA = .132 (90% C.I. : .086 - .182)、SRMR = .064 となり、AGFI と RMSEA の値に問題が見られた。そのため、修正指標に従って、自己統制と関係葛藤マネジメントとの間に共分散を設定した結果、GFI = .980、AGFI = .905、CFI = .988、RMSEA = .079 (90% C.I. : .000 - .142)、SRMR = .030 となり、良好な値を示した。

その後、修正指標のうち上層の因子から下位の因子に向けてのパスを除いて（藤本, 2007）最後までモデルを修正した結果、Times1 では Figure2-2-9、Times2 では Figure2-2-10 となり、Times2 では藤本（2013）のモデルとは違う結果を構成することとなった。

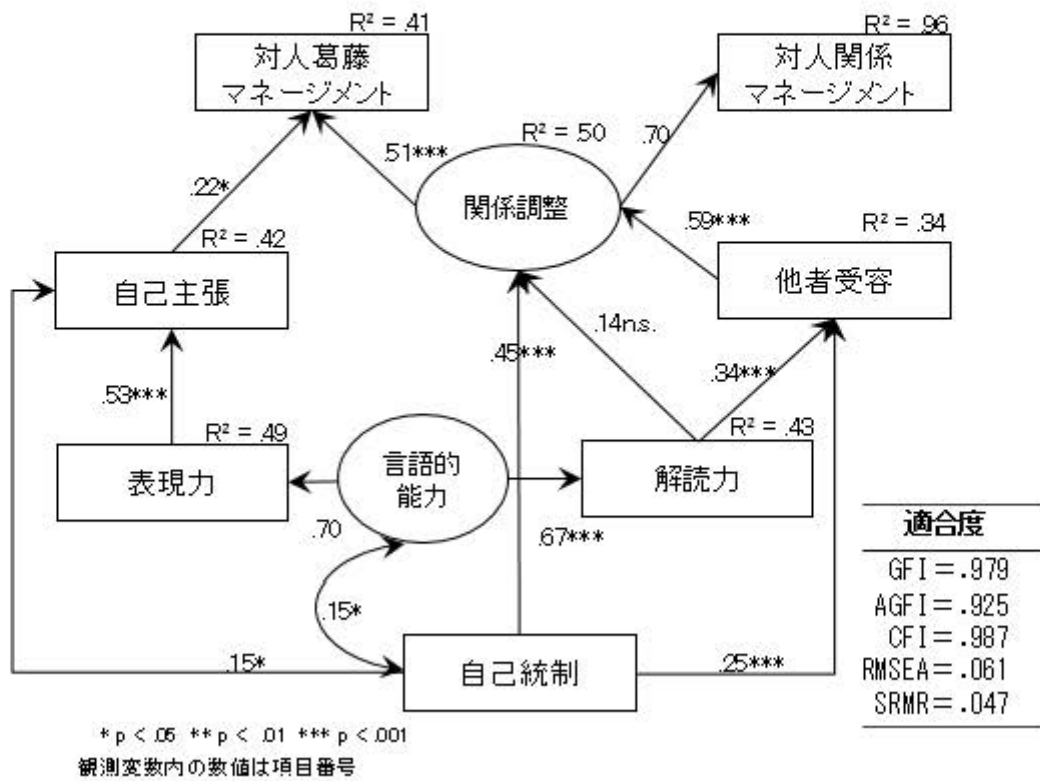


Figure2-2-9 ENDCOREモデル_Times1

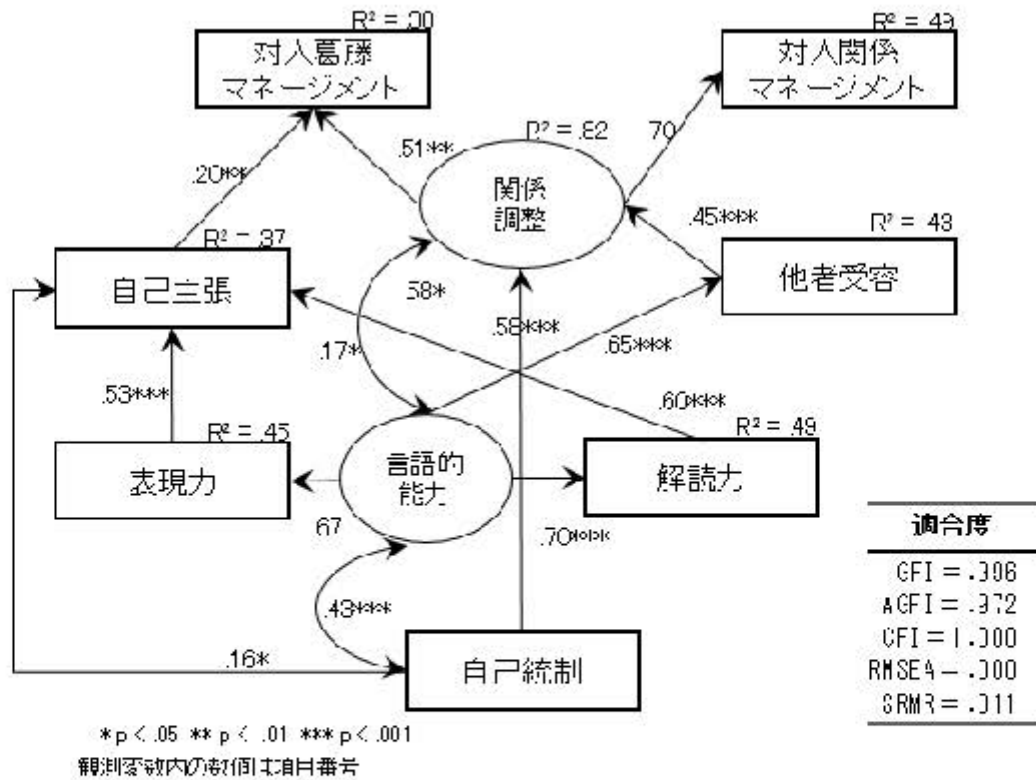


Figure2-2-10 ENDCOREモデル_Times2

Times2 の最終結果を Times1 にあてはめたところ、GFI = .997、AGFI = .979、CFI = 1.000、RMSEA = .000 (90% C.I. : .000-.077)、SRMR = .011 となり、本調査データへの適合度は Times2 のモデルの方が高いと言える。しかしこれは本調査対象者に対して過剰に当てはまったモデルである可能性があるため、今後の検討が待たれる

6-5. 人生の志向性に関する質問票 (13 項目版) (Times1 : 3-4、Times2 : 4-4)

天井効果、床効果とも検出されなかったため、調査 1 の時と同様に項目を整理した (Table2-2-5)。

Table2-2-5 SOC尺度の項目ごとの平均と標準偏差

		Times1		Times2	
		Mean	SD	Mean	SD
有意味感	1.自分のまわりで起こっていることがどうでもいい、 という気持ちになることがある。(R)	4.31	1.52	4.67	1.40
	7.自分が毎日していることは、つらく退屈である。(R)	3.06	1.25	3.28	1.47
	12.日々の生活で行っていることに ほとんど意味がないと感じる。(R)	4.86	1.58	3.01	1.41
把握 可能感	2.これまでに、よく知っていると思っていた人の 思わぬ行動に驚かされたことがあった。(R)	4.20	1.33	4.56	1.32
	5.不当な扱いを受けているという気持ちに なることがある。(R)	3.14	1.52	3.85	1.43
	8.気持ちや考えが非常に混乱することがある。(R)	3.98	1.63	4.09	1.48
	9.本来なら感じたくないような感情を抱いてしまうことがある。(R)	3.57	1.60	4.53	1.50
処理 可能感	3.あてにしていた人ががっかりさせられたことがある。(R)	3.66	1.44	4.33	1.28
	6.不慣れな状況のなかにいると感じ、どうすればよいのか わからないと感じることがある。(R)	3.19	1.67	4.94	1.28
	10.これまでに、「自分はダメな人間だ」と 感じたことが頻繁にあった。(R)	5.04	1.35	4.34	1.70
	13.自制心を保つ自信がなくなることがある。(R)	4.94	1.49	3.13	1.54
残余項目	4.いままでの人生に明確な目標や目的があった。	4.35	1.67	4.15	1.61
	11.何かが起きたとき、そのことを過大評価や 過小評価をせず、適切な見方をしてきた。	3.86	1.20	3.91	1.13

次いで、信頼性係数と各因子間の相関係数を算出した (Table2-2-6)。首尾一貫感覚は 13 項目すべてを用いて算出し、有意味感、把握可能感、処理可能感はそれぞれ 3 項目、4 項目、4 項目を用いて算出した。

Table2-2-6 SOC尺度の因子間相関と信頼性係数

	a	Times1			a	Times2		
		1	2	3		1	2	3
T1	a: 首尾一貫感覚	(.764)	***	***	***	***	***	***
	1: 有意味感	.764	(.672)	***	***	***	**	***
	2: 把握可能感	.728	.277	(.549)	***	***	***	***
	3: 処理可能感	.786	.485	.428	(.537)	***	***	***
T2	a: 首尾一貫感覚	.730	.545	.494	.614	(.806)	***	***
	1: 有意味感	.654	.677	.336	.438	.799	(.720)	***
	2: 把握可能感	.510	.236	.487	.475	.805	.372	(.666)
	3: 処理可能感	.597	.355	.427	.653	.818	.474	.690

()内は α 係数 * p<.05 ** p<.01 *** p<.001

尺度全体の信頼性係数は、Times1 : $\alpha = .764$ 、Times2 : $\alpha = .806$ と良好であったが、下位因子では $\alpha = .537 \sim .723$ と十分な値ではなかった。また、下位因子間の相関は、有意味感と把握可能感、有意味感と処理可能感では適度に高いが、Times1 では $r = .469$ 、Times2 では $r = .690$ と相当に高い値を示した。

調査 1 と同様の因子構造を想定し、Times1 のデータを用いて確認的因子分析を行った。その結果、観測変数間の共分散を 6 つ設定した段階で GFI = .950、AGFI = .905、CFI = .956、RMSEA = .053 (90% C.I. : .000 - .082)、SRMR = .057 となり、適合度が許容範囲となったため、その構造を採択した (Figure2-2-11)。想定された共分散のうち 1 つ (項目 2 と項目 3 の間の共分散) のみが、調査 1 と同様の項目に設定された。

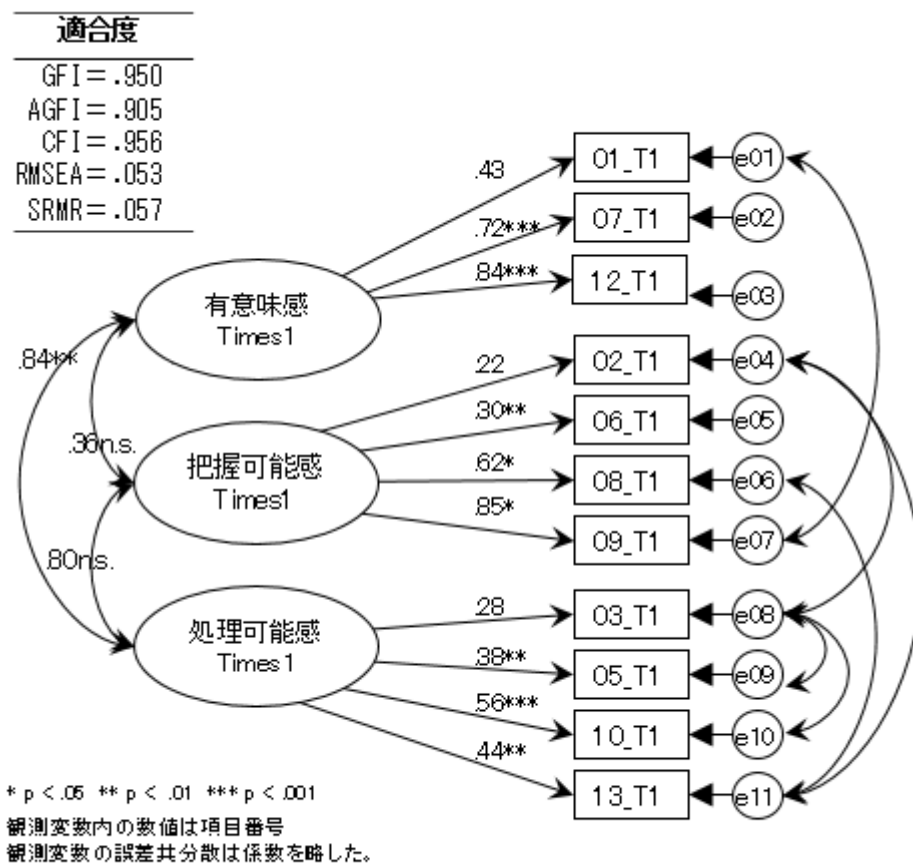


Figure2-2-11 人生の志向性に関する質問票の確認的因子分析_Times1

続いて、Times2 のデータについても同様に確認的因子分析を行った。その結果、観測変数間の共分散を 3 つ設定した段階で GFI = .954、AGFI = .920、CFI = .984、RMSEA = .037 (90% C.I. : .000 - .069)、SRMR = .049 となり、適合度が許容範囲となったため、その構造を採択した (Figure2-2-12)。その結果、想定された共分散のうち 1 つ (項目 2 と項目 3 の間の共分散) のみが、調査 1 と同様の項目に設定された。

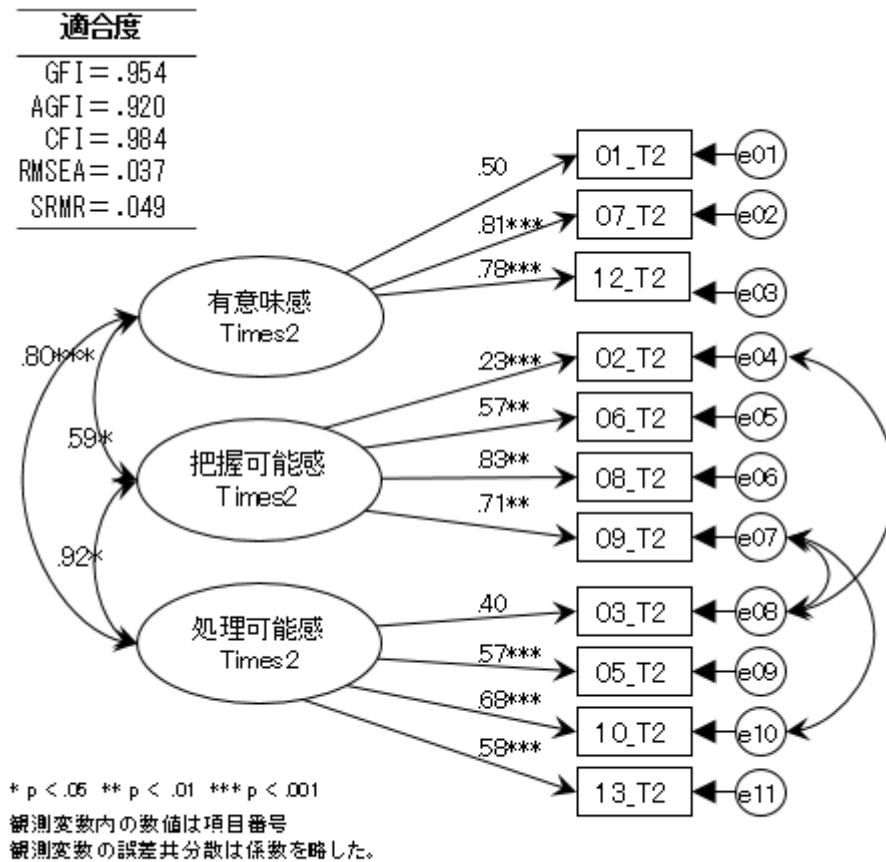


Figure2-2-12 人生の志向性に関する質問票の確認的因子分析_Times2

最後に、因子ごとに縦断的因子分析（豊田, 2014）を行った。その結果、 χ^2 値が有意になることに目を瞑れば、把握可能感はモデル 5 まで、有意味感、処理可能感はモデル 2 まで、首尾一貫感覚はモデル 4 まで許容された（Table2-2-7）。なお、首尾一貫感覚の縦断的因子分析は 3 下位因子の尺度得点を観測変数として用いているが、ここで用いられた尺度得点は先行研究と同様のもの（有意味感 4 項目、把握可能感 5 項目、処理可能感 4 項目）を使用した。これは、残余項目の尺度得点を組み込んで 4 つの観測変数からモデルを作成すると、適合度が極めて悪くなるためである。

Table2-2-7 SOC尺度の縦断的因子分析におけるモデル別適合度

	適合度	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
有意味感	モデル1	7.389	5.000	.193	.993	.053	3338.762
	モデル2	13.198	7.000	.067	.983	.072	3334.299
	モデル3	26.511	9.000	.002	.951	.107	3337.341
	モデル4	34.274	12.000	.001	.937	.104	3329.696
	モデル5	35.820	13.000	.001	.936	.102	3326.106
把握可能感	モデル1	17.245	15.000	.304	.993	.030	4654.137
	モデル2	17.632	18.000	.480	1.000	.000	4639.116
	モデル3	28.728	21.000	.121	.977	.047	4634.805
	モデル4	53.532	25.000	.001	.914	.082	4639.066
	モデル5	55.660	26.000	.001	.911	.082	4636.058
処理可能感	モデル1	23.679	15.000	.071	.970	.058	4699.985
	モデル2	29.493	18.000	.043	.961	.061	4690.391
	モデル3	29.493	21.000	.103	.971	.049	4674.984
	モデル4	38.572	25.000	.041	.953	.057	4663.520
	モデル5	38.572	26.000	.054	.957	.053	4658.384
首尾一貫感覚	モデル1	8.437	5.000	.134	.992	.064	2522.931
	モデル2	9.986	7.000	.189	.993	.050	2514.209
	モデル3	12.115	9.000	.207	.993	.045	2506.067
	モデル4	42.937	12.000	.000	.927	.123	2521.481
	モデル5	60.964	13.000	.000	.887	.147	2534.372

「有意味感」の因子はモデル2まで許容された (Figure2-2-13)。

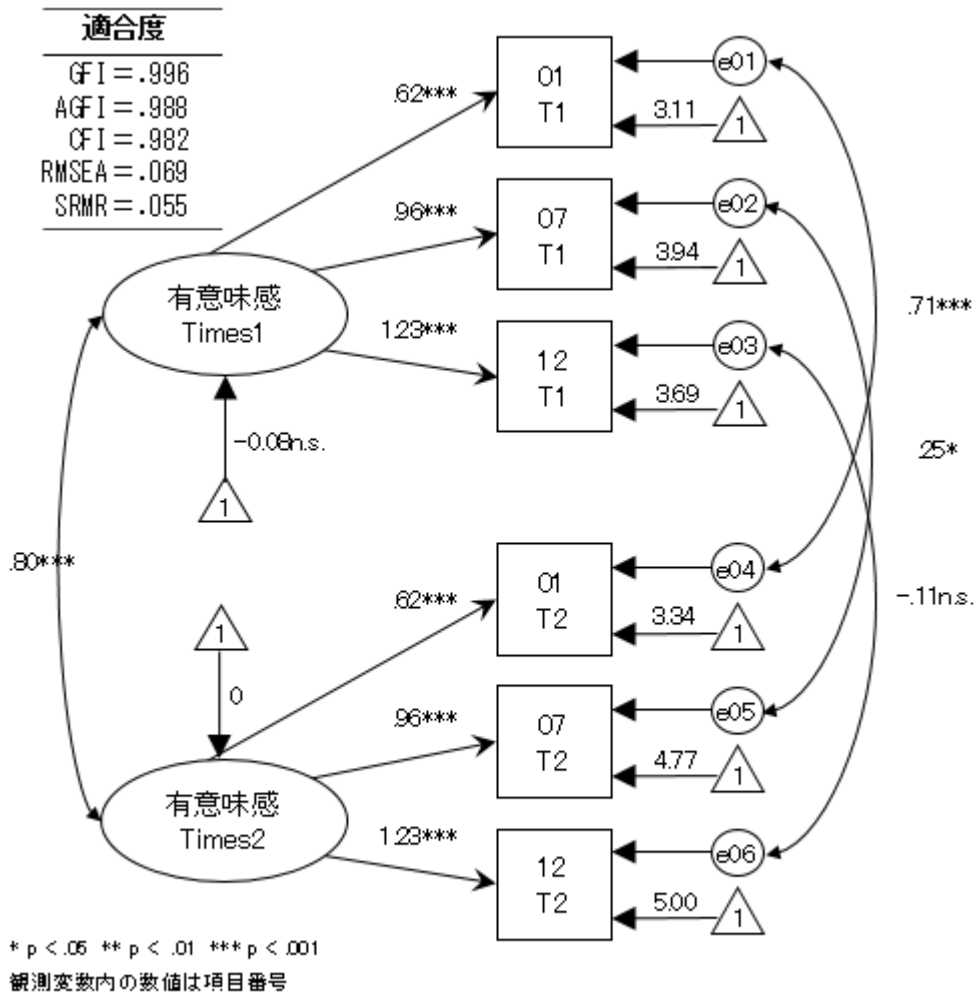
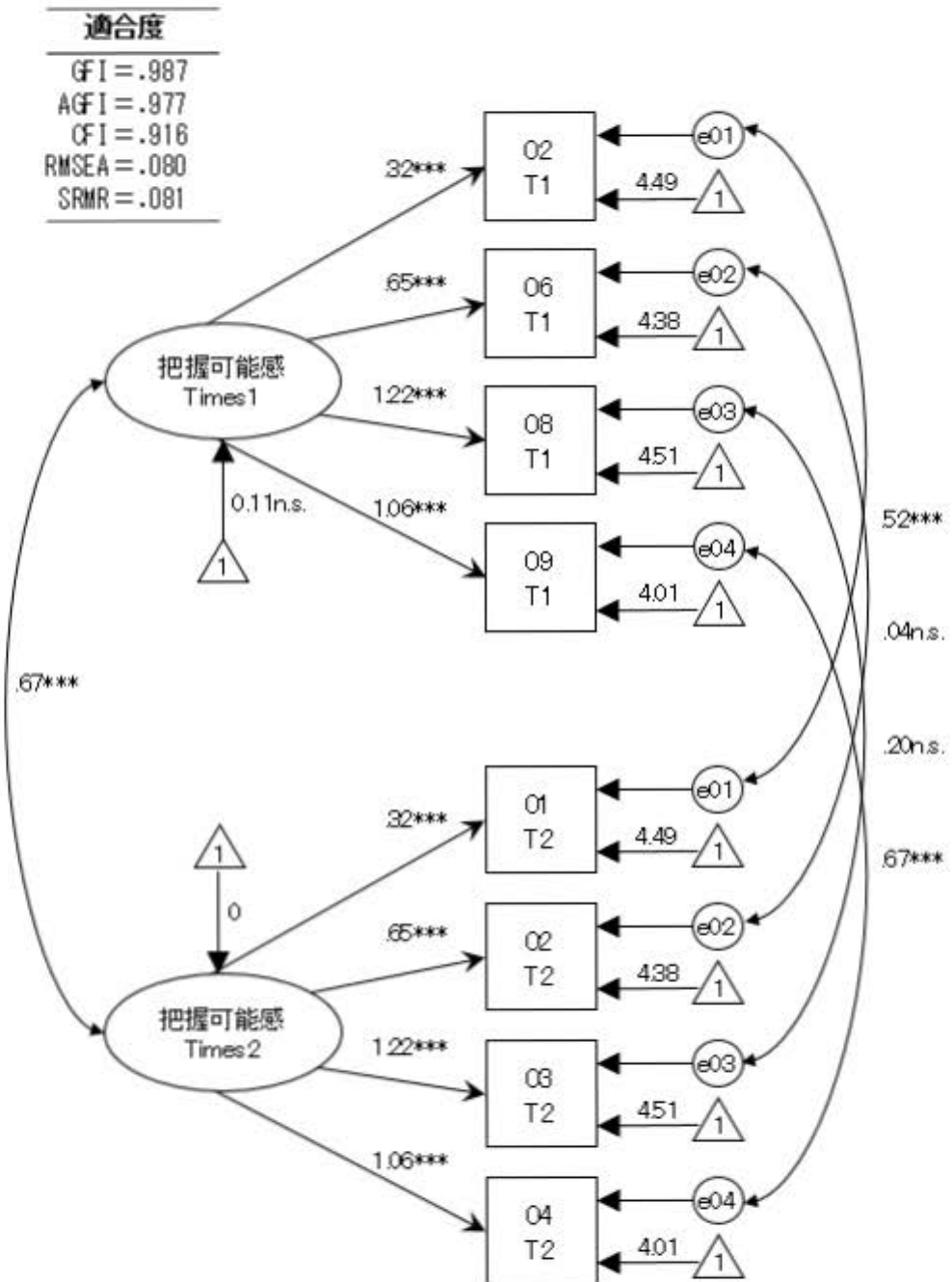


Figure2-2-13 有意味感の縦断的因子分析結果:モデル2 (最尤法、非標準化解)

「把握可能感」の因子はモデル5まで許容された (Figure2-2-14)。



* p < .05 ** p < .01 *** p < .001
 観測変数内の数値は項目番号

Figure2-2-14 把握可能感の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

「処理可能感」の因子はモデル2まで許容された (Figure2-2-15)。

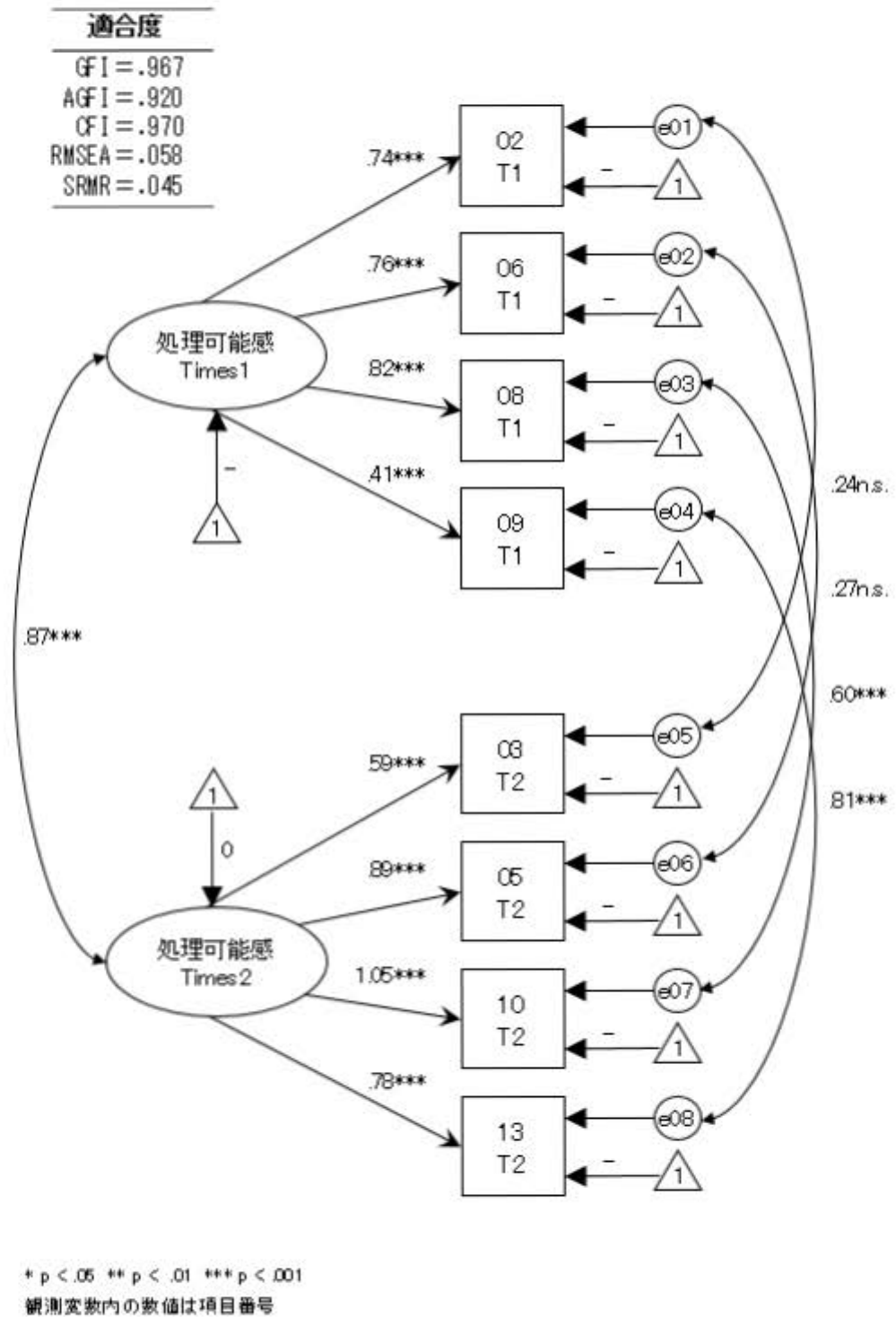


Figure2-2-15 処理可能感の縦断的因子分析結果:モデル1 (最尤法、非標準化解)

首尾一貫感覚全体では、モデル4まで許容された (Figure2-2-16)。

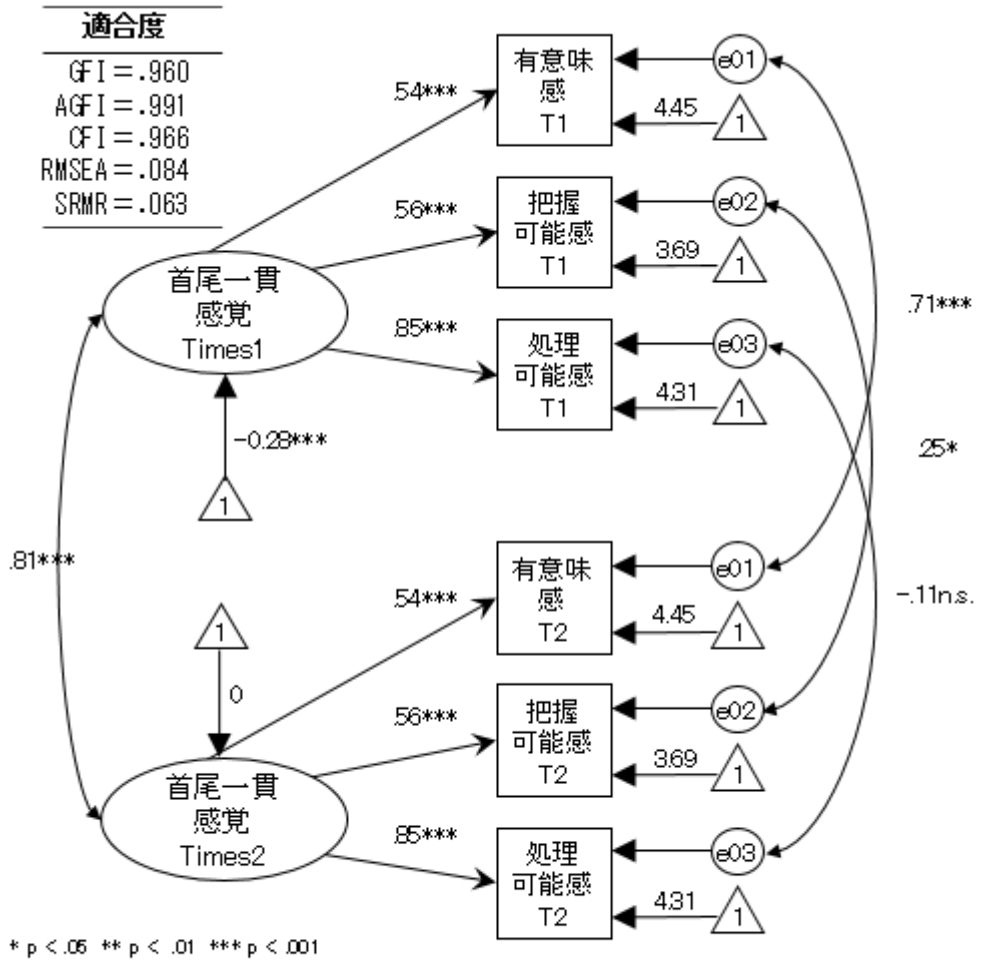


Figure2-2-16 首尾一貫感覚の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

以上のことから、本尺度が時点間を経て同様の因子を測定できていることが確認された。

6-6. 社会的クリティカルシンキング有効性認知尺度 (Times1 : 3-4、Times2 : 4-6)

6-7. 社会的クリティカルシンキング能力自己認知尺度 (Times1 : 3-5、Times2 : 4-7)

これらの尺度は第4章にて詳述する。

7. 調査対象集団の特徴について

本調査によって算出された記述統計量を以下に示す (Table2-2-8)

Table2-2-8 調査2の記述統計量

	Range	Times1		Times2		t test
		Mean	SD	Mean	SD	p - value
社会的クリシン志向性	1-7	5.45	.60	5.46	.62	n.s.
对人的柔軟性	1-7	5.92	.70	5.90	.68	n.s.
論理の重視	1-7	5.41	.85	5.47	.78	n.s.
脱軽信	1-7	5.01	1.17	5.19	1.13	n.s.
真正性	1-7	5.48	.91	5.48	.77	n.s.
探究心	1-7	5.41	.87	5.27	.84	n.s.
社会的クリシン行動	1-7	—	—	4.89	.68	—
对人的柔軟行動	1-7	—	—	4.92	.85	—
論理の重視行動	1-7	—	—	4.89	.78	—
脱軽信行動	1-7	—	—	4.95	.88	—
真正性行動	1-7	—	—	5.09	.77	—
探究行動	1-7	—	—	4.58	.93	—
首尾一貫感覚	1-7	4.11	.74	3.94	.78	*
有意味感	1-7	4.44	1.07	4.31	1.04	†
把握可能感	1-7	3.70	.84	3.58	.77	n.s.
処理可能感	1-7	4.17	.91	3.94	1.05	*
コミュニケーション・スキル	1-7	4.16	.73	4.34	.78	*
自己統制	1-7	4.34	.92	4.44	.98	n.s.
表現力	1-7	3.49	1.11	3.84	1.08	**
解読力	1-7	4.34	1.04	4.45	1.04	n.s.
自己主張	1-7	3.44	.92	3.83	.93	***
他者受容	1-7	4.99	.95	4.95	1.01	n.s.
関係調整	1-7	4.39	.93	4.55	1.01	n.s.
社会的クリシン有効性認知	1-7	5.84	.55	5.78	.63	n.s.
社会的クリシン能力自己認知	1-7	4.45	.78	4.67	.76	**
人格特性的自己効力感	1-5	—	—	2.92	.66	—

対応のあるt検定 † p < .10 * p < .05 ** p < .01 *** p < .001

本調査の対象となった学生は9割以上が新入生であった。Times1の調査時は、まだ大学生生活が始まって間もない時期であり、大学での授業に慣れることや、新しい仲間集団を形成しなくてはならないなど、不安が多い時期である。反面、調査対象となったA大学は、地方の国公立大学として中堅どころであり、多くの学生にとって第1志望であったと想像される。その点から、受験を乗り越えてきたという効力感や、大学生活への期待などの希望に満ちている時期でもある。Times1時点はこのように、良くも悪くもストレスを抱える時期であったと想像できる。これは、調査1のTimes1において、CES-Dスコアの平均値がCut-off pointである6点を上回っていたことから推察できる。

一方で Times2 は、全 15 回の講義の最後から 2 番目の時点であり、もうすぐ大学生活のひとつの区切り（前期の終了）がつくという頃合いである。想像していた大学生活と実際の大学生活との間にあるギャップにも慣れてきたであろうが、期末の課題に対する不安や半期に関して振り返る機会が多くなるなど、どちらかと言えば期待や希望よりも失望や不安、コミュニケーション以外の面での効力感の低下のほうが大きい時期であったと想像される。これは、Times1 と Times2 における首尾一貫感覚全体、及び処理可能感の有意な低下から推察できる。一方で、コミュニケーションスキルの上昇も見られる。特に自己主張と表現力について有意に伸びており、自分の思いや考えを他者に伝える力について、半期の大学生活の中で自信がついたことが推測される。

各平均値に目を向ければ、全体として自信があまり高くない集団であったことが推測される。特にコミュニケーションスキルは全項目において、藤本・大坊 (2007) や藤本 (2013) に見られた値より低い（標準偏差が大きいいため、おそらく有意差はないと思われる）。また、三好 (2003; 2007) 人格特性的自己効力感に関しても同様のことが言えた。

一方で、首尾一貫感覚に関しては平均かやや高い集団であったことが伺われた。本調査における首尾一貫感覚の総得点（13 項目使用）は Times1 で 53.4 (Mean : 4.11)、Times2 で 51.2 (Mean : 3.94) であった。他方、坂野・矢嶋 (2005) では、平均値が 48.8 であり、また、志渡ら (2011) では対象となった 5 つの高等教育機関の SOC 平均値は 50.0 (48.4 ~ 52.0) であった。それと比較すれば、Times1 の平均値が 53.4 である本調査の対象集団はやや高めの値だと言えるだろう。ただ、林 (2006) の調査では約 53.5、大石・遠藤・松山 (2011) では 54.87 の平均値が報告されていることから、本調査対象集団は平均並みであったと考えられる。

社会的クリシン志向性については、調査 1 と同様に非常に高かった。特に本調査の Times1 は、対象者の大学における、文字どおり「初めての」授業であったことから、社会的クリシンのような望ましさが反映されている概念の場合、尺度得点が高くなると考えられるが、本調査対象者の社会的クリシン得点は、Times2 においても下降が見られず、高い状態で維持されていた。

第3章：【研究1】

ポジティブ・スパイラルとネガティブ・スパイラルは 実在するのか

問題と目的

磯和(2008)では、抑うつに関する2つの反応連鎖が存在する可能性が示唆されている。これは、抑うつの程度によって、考え込み型反応と認知的統制 (e.g. 甘利・馬岡, 2002; 杉浦・杉浦・馬岡, 2003) の抑うつに対する働きかけが異なる可能性があり、抑うつが低い段階で作用するポジティブ・スパイラルと、抑うつが高い段階で作用するネガティブ・スパイラルとして整理される (磯和, 2008)。

ポジティブ・スパイラルは思考と行動の検討が始発になると考えられる、抑うつの低減・予防に対して有効な反応連鎖のことである。自らの思考と行動を検討することが、否定的な思考と距離を置くこと及び問題解決的に考えることにつながっており、これらは抑うつを低減する。そして、問題解決的な思考は、思考と行動を検討することができるという認知と行動につながっており、否定的な思考と距離を置くことは、思考と行動の検討を困難にさせる否定的考え込みも低減する。すなわち、思考と行動を検討し、抑うつを低減するような姿勢は、それを行うことで強化されていくと考えられる。つまり、思考と行動を検討する姿勢を身につけることは、抑うつの重症化に対する耐性を身につけることにつながると考えられる。これは、認知療法の認知的技法を身につけることが抑うつの予防に有効であることを示唆する結果であり、ひいてはクリティカルシンキングを身につけることが抑うつの予防に有効であることを示唆するものであると考えられる。

ネガティブ・スパイラルは、ネガティブな思考を固着させ、抑うつを促進すると考えられる反応連鎖のことである。これは否定的考え込みが発端になっていると考えられる。否定的に考え込むことによって、自らの思考と行動の検討を行うこと及びネガティブな思考から距離を置くことが困難になっていく。これによって否定的考え込みにブレーキをかけることができなくなると考えられ、より強い否定的考え込みを招く。これらが繰り返された結果、否定的な考え込みから抜け出せなくなってしまうと考えられる。そして、自らの思考と行動の検討をすることが妨げられてしまうことで、認知の歪みは維持され、それがさらなる認知の歪みをもたらしてしまう可能性があると考えられる。これはつまり、否定的考え込みを行う者は認知的な柔軟性が低くなっていくことを示していると言える。

CES-D 得点が高い群においてこの傾向は顕著であったことから、これは抑うつ程度が高くなるほど顕著になると考えられる。

本章では、この可能性について、調査 1 のデータを用いて検討を行う。

方法

ここでは、第 2 章：調査 1 のうちから、CES-D 尺度 16 項目版、改訂版 RSQ & RRS 尺度、認知的統制尺度、拡張版反応スタイル尺度の 4 つの尺度を用いて検討を行う。調査内容やこれらの尺度の詳細については、第 2 章を参照されたい。

結果と考察

1. 単純相関による各尺度の関連の検討

各尺度と抑うつがどのように関わり合っているのかを探るために、Times1 と Times2 に分けた単純相関分析を行った (Table3-1; Table3-2)。その結果、おおよそ先行研究と同様の相関が得られた。先行研究では CES-D の因子別に相関を見ていないため比較はできないが、Times1 にて見られた認知的統制の破局的思考の緩和と抑うつの孤独感の間の相関が Times2 で有意でなくなっており、時点別で異なった結果が得られた。抑うつの中でも抑うつ感と不安症状は他の因子との関わり方に違いは見られないが、孤独感は認知的統制の破局的思考の緩和とは関わりがない可能性が示唆されたことから、抑うつについても因子別に見る必要が示唆されたと言えるだろう。

Table3-1 各因子との抑うつとの相関 Times1

	うつ全体	抑うつ感	不安症状	孤独感
考え込み型反応	.215 *	.174 *	.210 *	.222 **
自己理解	.211 *	.180 *	.210 *	.176 *
問題解決的考え込み	-.002 n.s.	-.034 n.s.	.026 n.s.	.049 n.s.
否定的考え込み	.347 ***	.308 ***	.301 ***	.351 ***
認知的統制	-.276 **	-.275 **	-.220 **	-.216 *
思考と行動の検討	-.135 n.s.	-.157 n.s.	-.064 n.s.	-.121 n.s.
破局的思考の緩和	-.309 ***	-.288 **	-.283 **	-.228 **
反応スタイル(対処行動量)	.076 n.s.	.072 n.s.	.036 n.s.	.127 n.s.
問題への直面化	-.078 n.s.	-.097 n.s.	-.071 n.s.	.026 n.s.
思考的回避	.115 n.s.	.130 n.s.	.074 n.s.	.075 n.s.
気分転換	-.125 n.s.	-.155 n.s.	-.092 n.s.	-.006 n.s.
行動的回避	-.171 *	-.135 n.s.	-.207 *	-.101 n.s.
ネガティブな内省	.505 ***	.472 ***	.451 ***	.392 ***

* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

Table3-2 各因子との抑うつとの相関 Times2

	うつ全体	抑うつ感	不安症状	孤独感
考え込み型反応	.198 *	.160 n.s.	.176 *	.256 **
自己理解	.212 *	.184 *	.181 *	.242 **
問題解決的考え込み	.027 n.s.	.006 n.s.	.025 n.s.	.113 n.s.
否定的考え込み	.295 **	.245 **	.271 **	.324 ***
認知的統制	-.227 **	-.207 **	-.218 **	-.134 n.s.
思考と行動の検討	-.016 n.s.	.001 n.s.	-.027 n.s.	-.049 n.s.
破局的思考の緩和	-.317 ***	-.301 **	-.295 **	-.156 n.s.
反応スタイル(対処行動量)	.116 n.s.	.124 n.s.	.052 n.s.	.167 *
問題への直面化	.028 n.s.	.028 n.s.	.011 n.s.	.052 n.s.
思考的回避	.108 n.s.	.125 n.s.	.045 n.s.	.120 n.s.
気分転換	-.080 n.s.	-.065 n.s.	-.100 n.s.	-.009 n.s.
行動的回避	-.161 *	-.137 n.s.	-.177 *	-.065 n.s.
ネガティブな内省	.312 ***	.302 ***	.232 ***	.313 **

* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

2. 類似因子の弁別性の確認

本調査において、反応スタイルは改訂版 RSQ & RRS 尺度（磯和・南, 2014）と、拡張版反応スタイル尺度（松本, 2008）の2つを用いて測定されている。本来的には2つとも同じものを測定するものであるが、前者は特に認知的側面に焦点を当てて、後者は特に行動的側面に焦点を当てて測定を試みているという点で違いがある。しかしながら、考え込み型反応の問題解決的考え込みと、拡張版反応スタイルの問題への直面化、および、考え込み型反応の否定的考え込みと拡張版反応スタイルのネガティブな内省は、本当に測定している因子を弁別できていると考えてよいのであろうか。その点を確認するため、確認的因子分析を行った。まずは Times1 のデータを用いて分析を行い、修正指標に従ってモデルの改良を行った。その結果、問題解決的考え込みの項目「3.問題を克服するために計画を立てる」と問題への直面化の項目「13.目標を立てる」の間に共分散を設定した段階で適合度が許容範囲（GFI = .944、AGFI = .911、CFI = .987、RMSEA = .034（90% C.I. : .000-.069）、SRMR = .042）となったため、その結果を採用した（Figure3-1）。

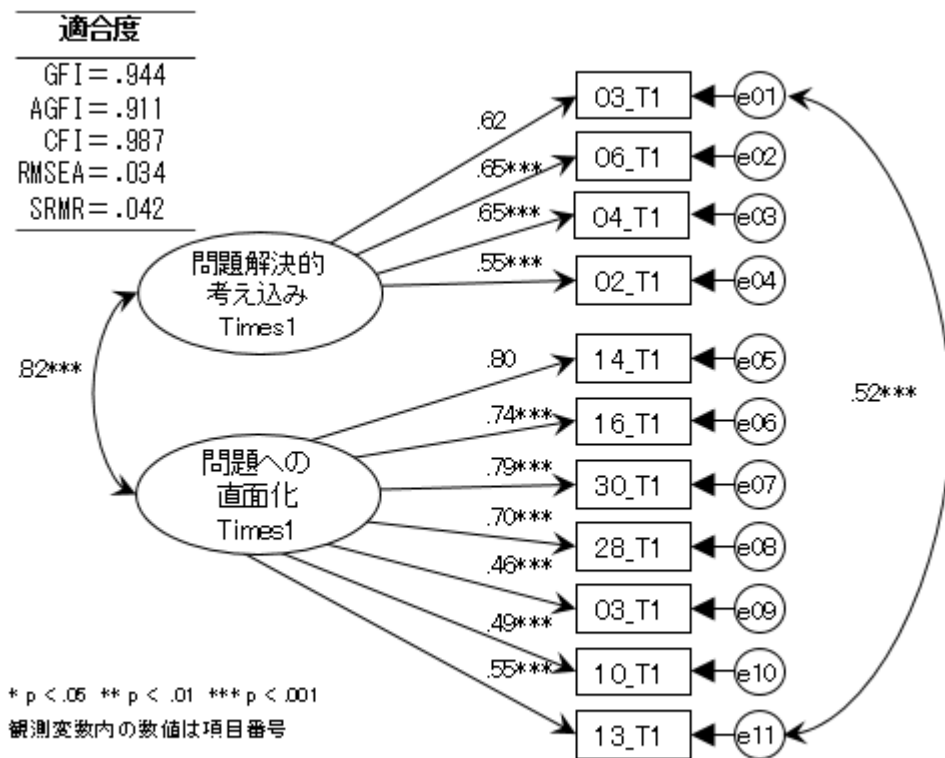


Figure3-1 類似因子の弁別性の確認(問題解決的考え込みと問題への直面化：Times1)

続いて、Times2 のデータを用いて同様の分析を行った結果、Times1 と同様のパスに加え、問題解決的考え込みの項目 4 (4.状況が良くなることを願って、最近の状況について考える) と項目 6 (6.自分の生活をどこか改善しようと決意する) の間、及び、問題への直面化の項目 14 (14.何をすれば一番よいのかを考える) と項目 16 (16.どうしたら改善できるかを考える) との間に共分散を設定した段階で適合度が許容範囲 (GFI = .939、AGFI = .900、CFI = .980、RMSEA = .045 (90% C.I.: .000-.077)、SRMR = .049) となったため、その結果を採用した (Figure3-2)。

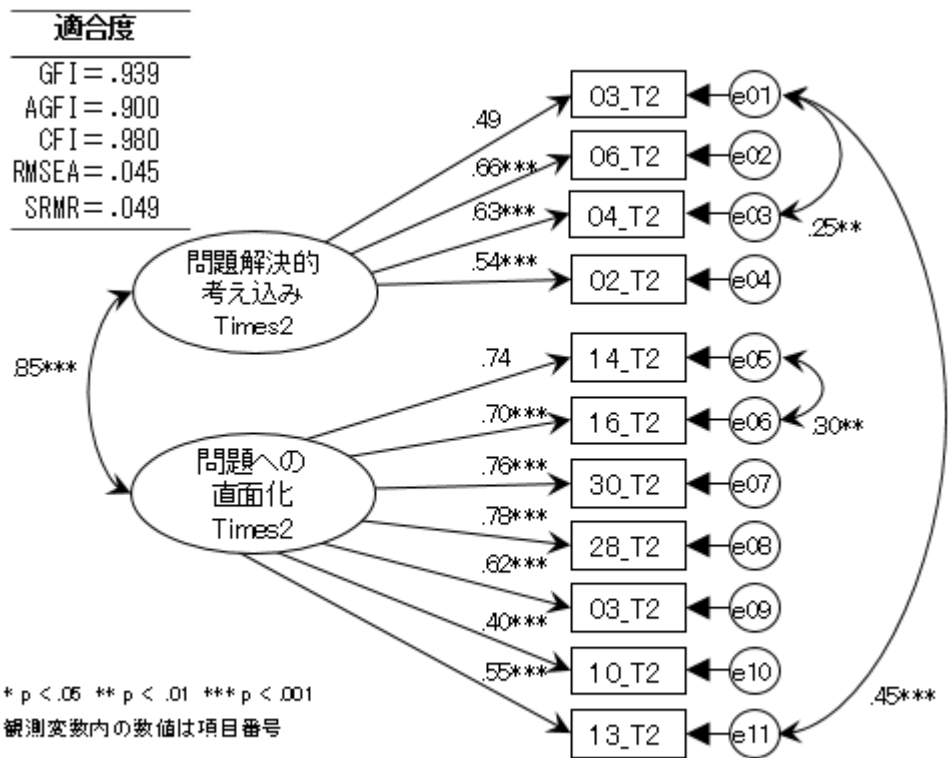


Figure3-2 類似因子の弁別性の確認(問題解決的考え込みと問題への直面化 : Times2)

以上のことより、考え込み型反応の問題解決的考え込みと拡張版反応スタイルの問題への直面化の両因子は、極めて高い相関を有しているが、観測変数自体は弁別性が見られるものと判断された。

続いて、考え込み型反応の否定的考え込みと拡張版反応スタイルのネガティブな内省との弁別性の確認を試みた。その結果、拡張版反応スタイルの項目 18 と項目 4 の間に共分散を設定するように修正指標は示していたものの、その共分散を設定すると **not positive definite** となり、適切な解が得られなかったため、別の修正指標に従い、考え込み型反応の項目 11 と、拡張版反応スタイルの項目 19 との間に共分散を設定した。その結果、適合度が許容範囲(GFI = .961、AGFI = .910、CFI = .951、RMSEA = .072 (90% C.I. : .000 - .123)、SRMR = .063) となったため、その結果を採用した (Figure3-3)。

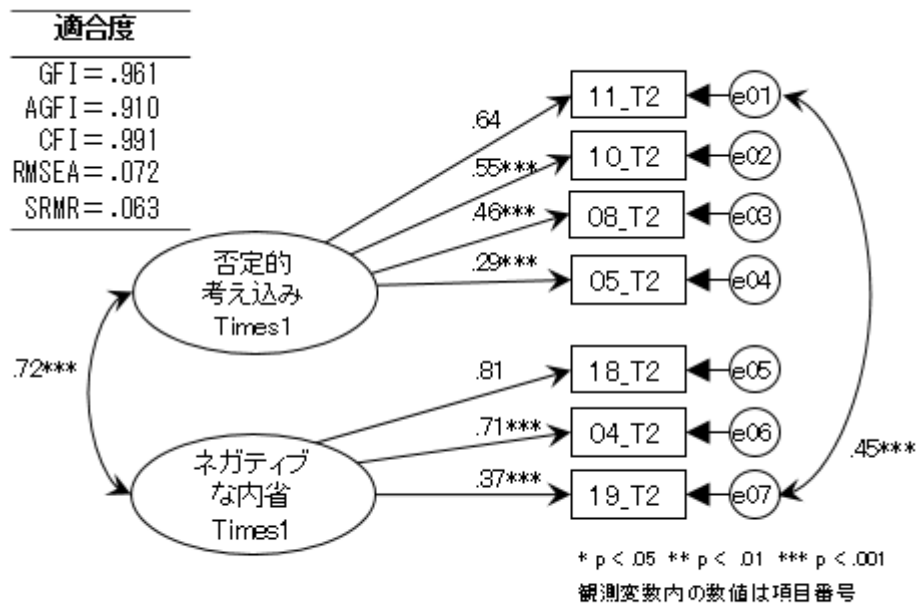


Figure3-3 類似因子の弁別性の確認(否定的考え込みとネガティブな内省 : Times1)

続いて、Times2 についても同様の分析を行った。その結果、初回にて良好な適合度 (GFI = .973、AGFI = .942、CFI = .995、RMSEA = .020 (90% C.I. : .000—.087)、SRMR = .049) が得られたため、そのモデルを採用した (Figure3-4)

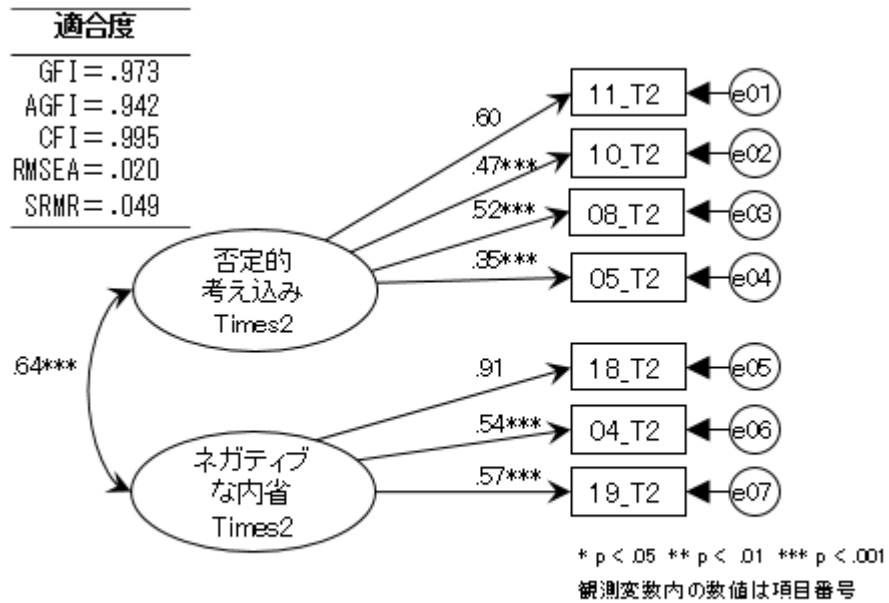


Figure3-4 類似因子の弁別性の確認(否定的考え込みとネガティブな内省 : Times1)

以上のことより、考え込み型反応の否定的考え込みと拡張版反応スタイルのネガティブな内省の両因子は、極めて高い相関を有しているが、観測変数自体は弁別性が見られるものと判断された。

3. 抑うつに対する 1 時点でのモデル検討

改訂版 RSQ & RRS 尺度と拡張版反応スタイル尺度は共存可能である可能性が前節により示された。本節では、抑うつに対する、認知的統制、考え込み型反応、拡張版反応スタイルがそれぞれどのように関わり合っているのかを探ることである。まず、認知的統制は、嫌なことが起こった・考えるときに、どのような行動ができるかを問題としている。つまり、認知的統制は本人が認知を統制できるかどうかの期待・効力感を反映していると考えられる。そのため、まずは認知的統制をモデルの始発として設定した。次に、考え込み型反応は、その嫌なことを考える際に、どのように方向付けられた思考をとるかかどうかの認知の次元を問題としているため、認知的統制の次のステップとして設定した。続いて、拡張版反応スタイルは、実際に嫌なことが起こった際にどう行動しているか、という行動の次元を問題としている。そのため、考え込み型反応の結果採用した行動と捉え、考え込み型反応の次に配置した。最後に、期待・効力感、認知、行動のいずれも抑うつに対して働きを持つ可能性があるため、全ての変数から抑うつ因子に対してパスを引いた (Figure3-5)。

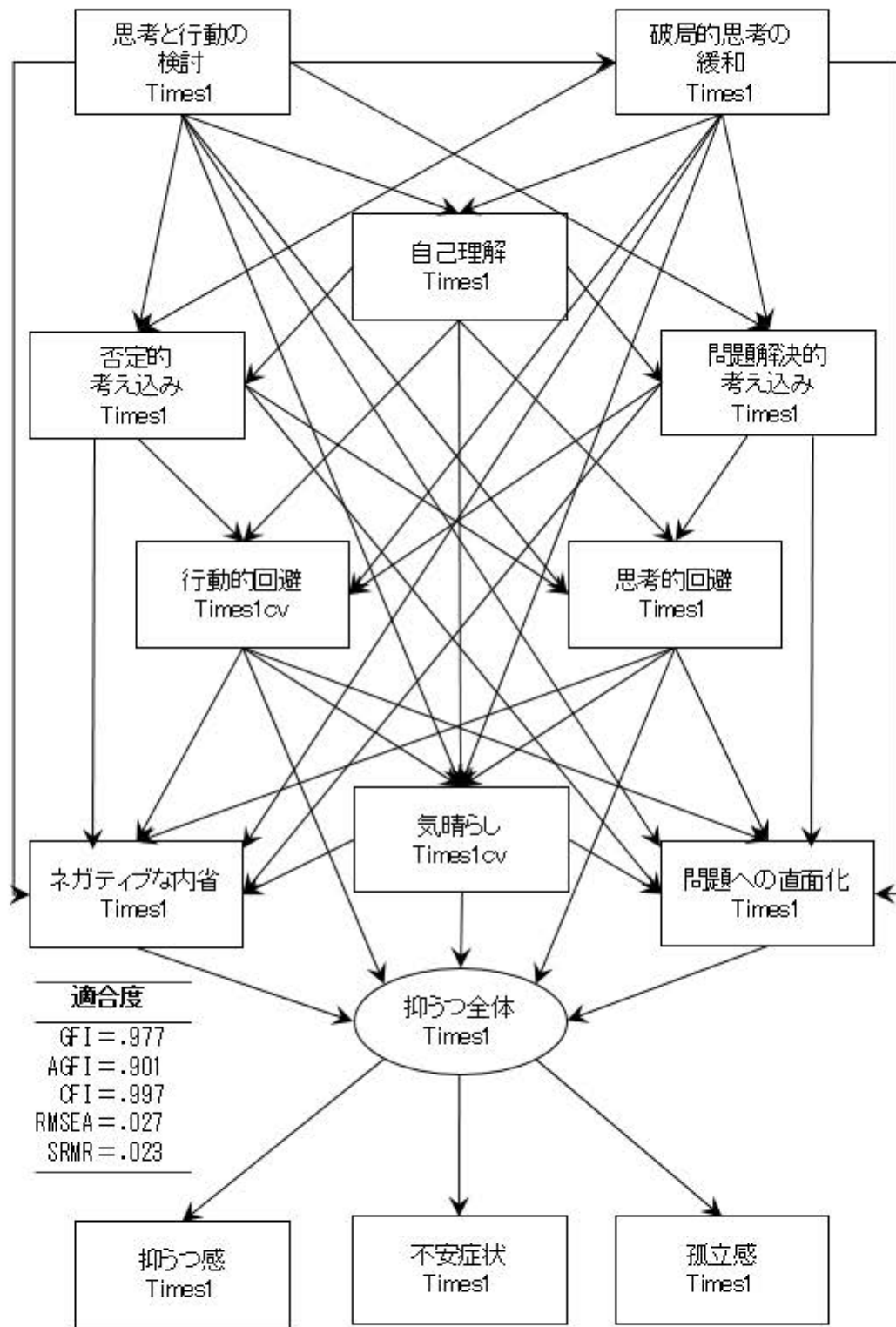


Figure3-5 抑うつに対する1時点でのモデル検討_Times1

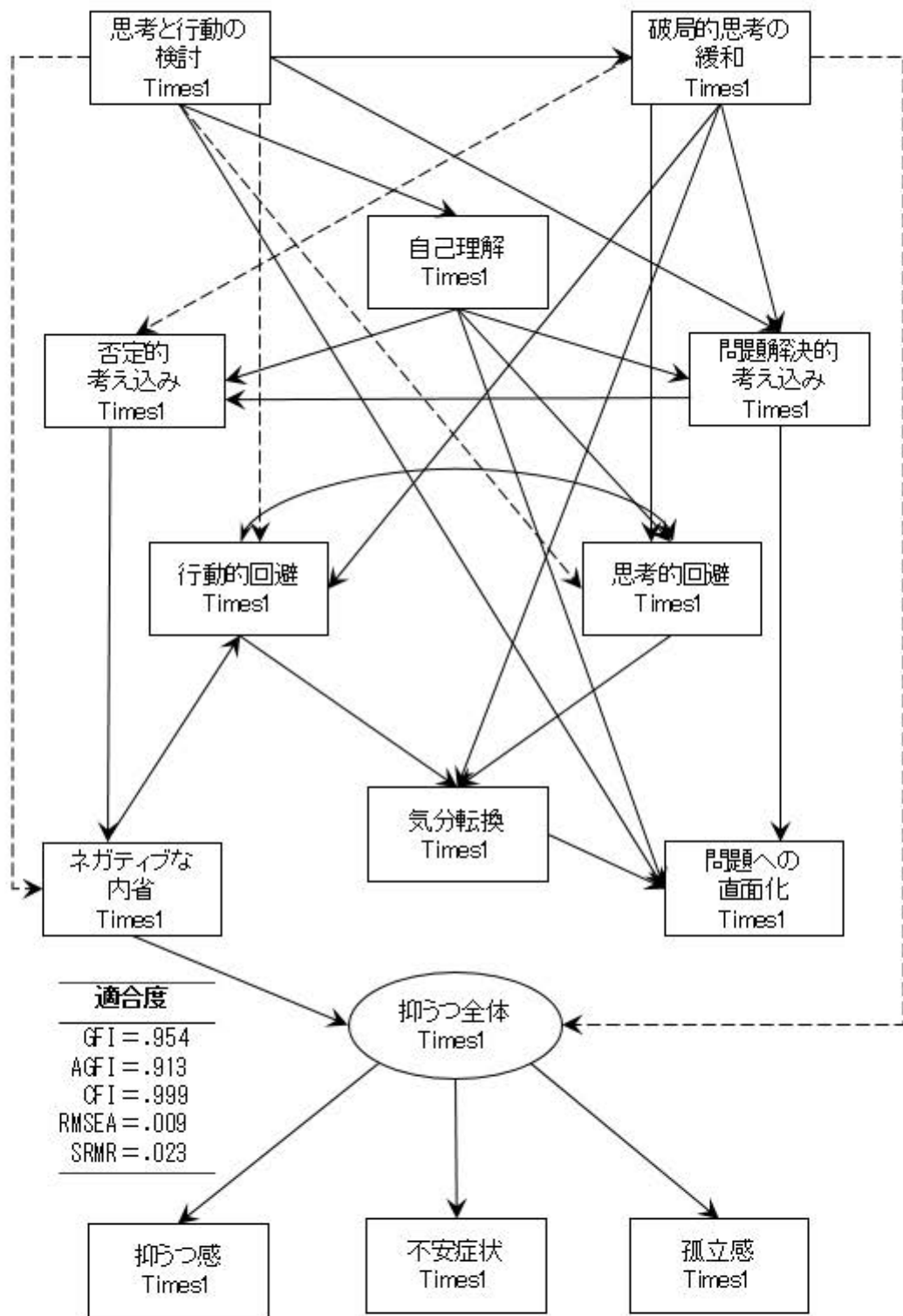
その結果、GFI = .976、AGFI = .898、CFI = .996、RMSEA = .031 (90% C.I. : .000 - .080)、SRMR = .023、AIC = 2664.078、BIC = 2868.030 となり、AGFI 以外良好な適合を示した。

その後、有意ではないパスを削除したり、非逐次にならない修正指標を採用したりするなどして調整した結果、Table3-3、Figure3-6 のモデルが得られた (GFI = .954、AGFI = .913、CFI = .999、RMSEA = .009 (90% C.I. : .000 - .056)、SRMR = .023、AIC = 2604.258、BIC = 2728.403)。

Table3-3 1時点での抑うつに対するモデル_Times1

従属変数	独立変数	パス係数	R ²
破局的思考の緩和	← 思考と行動の検討	.375 ***	.140
自己理解	← 思考と行動の検討	.329 ***	.108
問題解決的考え込み	← 思考と行動の検討	.176 *	.361
	← 破局的思考の緩和	.263 ***	
	← 自己理解	.394 ***	
否定的考え込み	← 破局的思考の緩和	-.205 **	.458
	← 自己理解	.508 ***	
	← 問題解決的考え込み	.292 ***	
問題への直面化	← 思考と行動の検討	.211 **	.547
	← 自己理解	.167 *	
	← 問題解決的考え込み	.409 ***	
	← 気分転換	.244 ***	
思考的回避	← 思考と行動の検討	-.277 **	.165
	← 破局的思考の緩和	.418 ***	
気分転換	← 破局的思考の緩和	.263 ***	.246
	← 問題解決的考え込み	.342 ***	
	← 思考的回避	.160 †	
	← 行動的回避	.259 **	
行動的回避	← 思考と行動の検討	-.277 **	.177
	← 破局的思考の緩和	.418 ***	
	← ネガティブな内省	.257 ***	
ネガティブな内省	← 思考と行動の検討	-.237 **	.362
	← 否定的考え込み	.605 ***	
うつ全体	← 破局的思考の緩和	-.248 **	.343
	← ネガティブな内省	.505 ***	
抑うつ感	← うつ全体	.819	.671
不安症状	← 抑うつ感	.870 ***	.757
孤立感	← 抑うつ感	.749 ***	.560
思考的回避	↔ 行動的回避	.517 ***	
うつ全体	↔ 問題への直面化	-.014 n.s.	

† < .10 * p < .05 ** p < .01 *** p < .001



* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

Figure3-6 抑うつに対する1時点でのモデル_Times1

このモデルの特徴は、抑うつに向かって引かれるパスは、ネガティブな内省と破局的思考の緩和を除いて存在しないことである。つまり、具体的にどのような行動をとるかによらず、ネガティブな反すう的思考が抑うつを促進し、一方でいつでも思考を変えられるという効力予期のみが抑うつの低減に対して効果を持っていることになる。そしてこの 2 つの影響で抑うつ全体の約 35%は説明が可能である、ということは、1 時点における抑うつの大部分は、いかにネガティブな反すうから抜け出せるか、あるいは、自分自身の思考についてコントロールが可能であるか、という部分が占めていることとなる。ネガティブな内省からは、抑うつ以外では行動的回避にのみパスが出ており、気分転換や思考的回避、問題への直面化にはパスが出ていない。このことから、ネガティブな内省思考から逃れるには、一度その状況を避けたり、関わらないようにしたりといった回避行動をとってからでないと、積極的対処である気分転換や問題への直面化に至らないことになる。つまり、問題への直面化には、気分転換などの対処行動を経た結果たどり着くこと、すなわち思考はネガティブな内省から直接問題解決的になるわけではない、ということを示唆している。また、ネガティブな内省は思考と行動の検討から負のパスを受けており、落ち着いて自分の思考を振り返り、問題解決的に考えるものは、そもそもネガティブな内省に陥ること自体が比較的少ないことを示唆していた。

なお、短縮版 CES-D の Cut-off point (6 点) 以上の者を高群、Cut-off point 未満のものを低群として多母集団同時分析を試みたが、モデルが不適合となり解析できなかった。そのため、高群のデータのみ、低群のデータのみをデータセットを用いて共分散構造分析を行ったが、両データとも分散が負となり解析できなかった。

4. 抑うつに対する2時点でのモデル

1 時点での結果を受けて、2 時点に渡るモデル構築においては煩雑さを避けるため、拡張版反応スタイル尺度はモデルから外した。これは、ネガティブな内省は実質的に否定的考え込みの延長にあり、モデルの性格上この 2 つを区別する必要性が薄いと考えられたためである。Times1 の各因子から Times2 の同一因子へのパスと、Times1 の抑うつ全体から Times2 の各因子に対してパスを設定した結果、まずまずな適合度が得られた(GFI = .916、AGFI = .841、CFI = .972、RMSEA = .056 (90% C.I. : .029–.078)、SRMR = .045、AIC = 2715.987、BIC = 2902.204)。その後、有意でないパスを削除したり、修正指標のうち、過去にさかのぼらないものを採用する、抑うつの下位因子からのパスを抑うつ全体の因子からのパスに統一したりするなどしてモデルを修正した結果、Figure3-7、Table3-4 のモデルが得られた(GFI = .947、AGFI = .911、CFI = 1.000、RMSEA = .000 (90% C.I. : .000–.020)、SRMR = .048、AIC = 2658.000、BIC = 2646.964)。

Table3-4 2時点での抑うつに対するモデル

従属変数	独立変数	パス係数	R ²
破局的思考の緩和_T1	←←← 思考と行動の検討_T1	.375 ***	.140
自己理解_T1	←←← 思考と行動の検討_T1	.329 ***	.108
問題解決的考え込み_T1	←←← 思考と行動の検討_T1	.176 *	.361
	←←← 破局的思考の緩和_T1	.263 ***	
	←←← 自己理解_T1	.394 ***	
否定的考え込み_T1	←--- 破局的思考の緩和_T1	-.205 *	.458
	←←← 自己理解_T1	.508 ***	
	←←← 問題解決的考え込み_T1	.292 ***	
うつ全体_T1	←--- 破局的思考の緩和_T1	-.317 ***	.248
	←←← 否定的考え込み_T1	.374 ***	
思考と行動の検討_T2	←←← 思考と行動の検討_T1	.440 ***	.251
	←←← 自己理解_T1	.136 †	
破局的思考の緩和_T2	←←← 思考と行動の検討_T2	.157 *	.488
	←←← 破局的思考の緩和_T1	.583 ***	
	←--- うつ全体_T1	-.165 *	
自己理解_T2	←←← 思考と行動の検討_T2	.319 ***	.311
	←←← 自己理解_T1	.376 ***	
問題解決的考え込み_T2	←←← 思考と行動の検討_T2	.150 *	.551
	←←← 破局的思考の緩和_T2	.233 ***	
	←←← 自己理解_T2	.367 ***	
	←←← 問題解決的考え込み_T1	.349 ***	
否定的考え込み_T2	←--- 破局的思考の緩和_T2	-.191 *	.519
	←←← 自己理解_T2	.368 ***	
	←←← 問題解決的考え込み_T2	.359 ***	
	←←← 否定的考え込み_T1	.221 ***	
うつ全体_T2	←←← 自己理解_T2	.250 ***	.645
	←←← うつ全体_T1	.704 ***	
	←--- 破局的思考の緩和_T2	-.108 †	
抑うつ感_T1	←←← うつ全体_T1	.811	.658
不安症状_T1	←←←	.883 ***	.780
孤立感_T1	←←←	.748 ***	.559
抑うつ感_T2	←←← うつ全体_T2	.749	.561
不安症状_T2	←←←	.901 ***	.812
孤立感_T2	←←←	.736 ***	.542
抑うつ感_T1	↔ 抑うつ感_T2	.288 *	
不安症状_T1	↔ 不安症状_T2	.570 *	
孤立感_T1	↔ 孤立感_T2	.324 *	
うつ全体_T2	↔ 否定的考え込み_T2	.012 n.s.	

† < .10 * p < .05 ** p < .01 *** p < .001

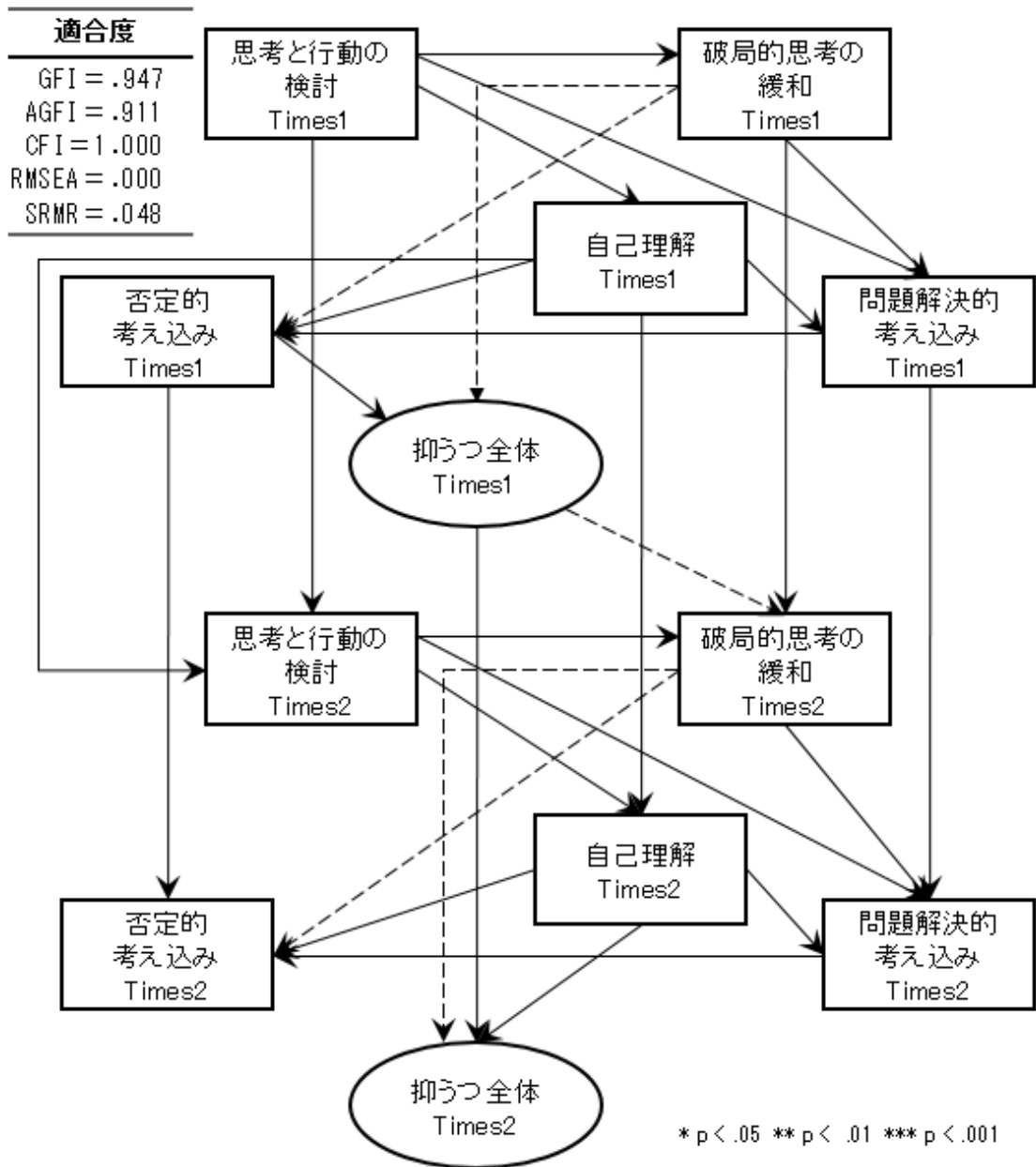


Figure3-7 2時点における抑うつに対するモデル

基本的には、Times1と同様の構造がTimes2にあり、認知的統制や考え込み型反応はその時点のみで関わりあっている。しかしその中で、有意傾向ではあるが、Times1の自己理解がTimes2の思考と行動の検討を促していた。また、Times1のうつ全体がTimes2の破局的思考の緩和を有意に弱めていた。

5. 各因子の交差遅れモデルの検討

2時点のモデルにて Times1 のうつ全体が Times2 の破局的思考の緩和を有意に抑制していることから、うつ全体と破局的思考の緩和に対して、交差遅れモデルを適用し分析を試みた。その結果、Times1 のうつ全体が Times2 の破局的思考の緩和を有意に抑制していることが確認された (Figure3-8)。このことから、抑うつが高まるにつれて、破局的思考の緩和が抑制されていく、すなわち、抑うつが進むにつれて、認知のコントロール感が失われていくことが示唆された。

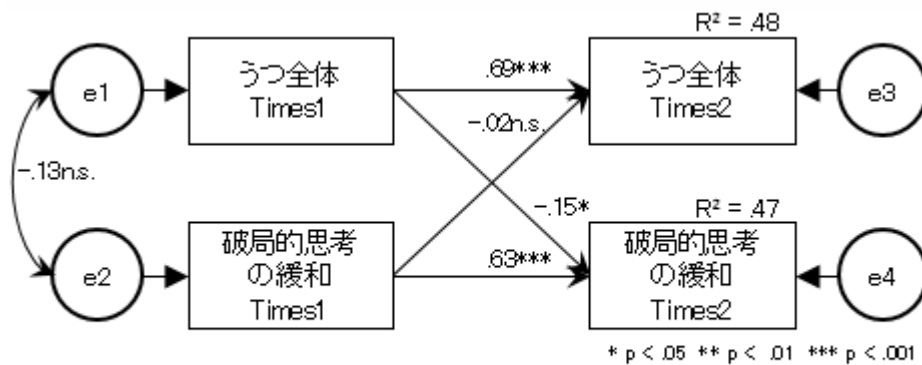


Figure3-8 交差遅れモデル(うつ全体と破局的思考の緩和)

破局的思考の緩和が抑制されていくことは、すなわち否定的思考から抑うつへの影響を抑えられなくなることを意味する。その点を検証するために、うつ全体と否定的考え込みの交差遅れモデルによる検討を行った。その結果、抑うつ自体は否定的考え込みを強めないが、否定的考え込みは抑うつを有意に促進していた (Figure3-9)。

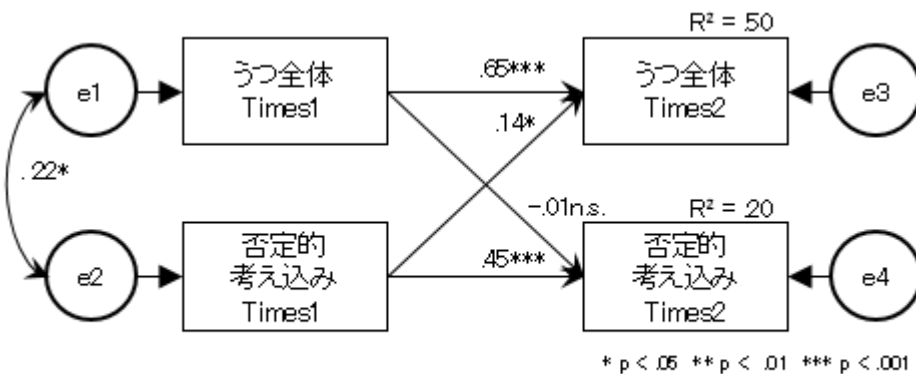


Figure3-9 交差遅れモデル(うつ全体と否定的考え込み)

このことから、抑うつを高める要因の一つとして、否定的考え込み自体が存在する可能性が示唆された。

では、抑うつが否定的考え込みによって高まり、その抑うつが破局的思考の緩和を抑制するのならば、否定的考え込み自体に破局的思考の緩和を抑制する効果があるのだろうか。その点を検討するために、破局的思考の緩和と否定的考え込みとの関係を、交差遅れモデルにより検討した。その結果、互いから互いへのパスは有意にならず、破局的思考の緩和と否定的考え込み自体の関係は成立しなかった (Figure3-10)。

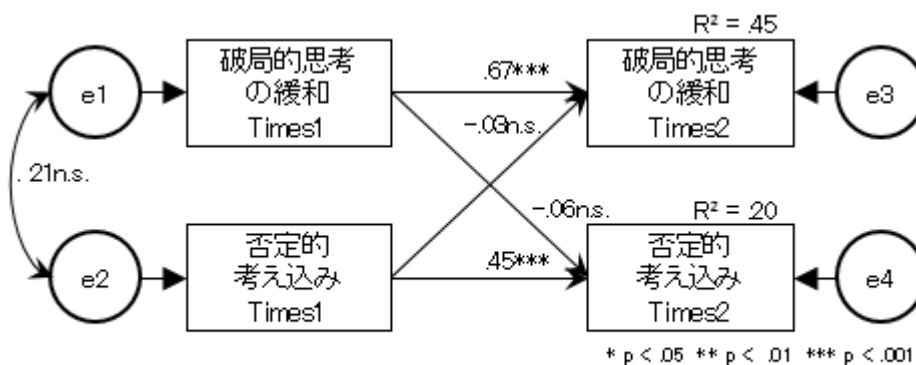


Figure3-10 交差遅れモデル(破局的思考の緩和と否定的考え込み)

このことから、抑うつ自体に認知・思考のコントロール感を奪う機能がある可能性が示唆された。

次いで、2時点モデルで見られたもうひとつの時点間の関係である、自己理解と思考と行動の検討の関係を、交差遅れモデルを適用して検討した。その結果、自己理解から思考と行動の検討ではなく、Times1の思考と行動の検討が自己を理解しようとする認知を有意傾向ではあるが予測していた（Figure3-11）。

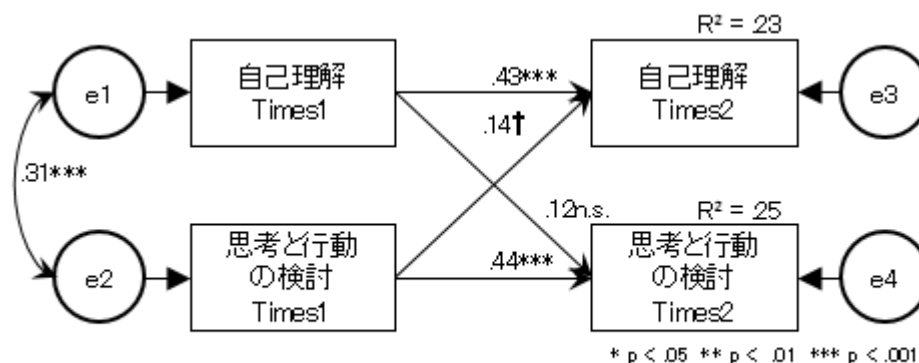


Figure3-11 交差遅れモデル(自己理解と思考と行動の検討)

以上のことより、抑うつには、思考や認知のコントロール感を奪う機能があることが示唆された。では、思考や認知のコントロール感を取り戻すにはどうすればいいのだろうか。そのためのひとつの可能性が次のモデルにある（Figure3-12）。

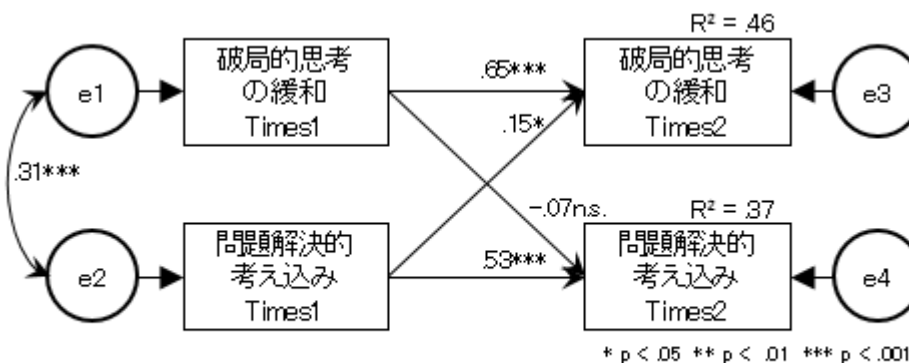


Figure3-12 交差遅れモデル(自己理解と問題解決的考え込み)

この他に、拡張版反応スタイルの思考的回避、行動的回避、気分転換とも、破局的思考の緩和との交差遅れモデルを検討したが、どれもすべて Times2 の破局的思考の緩和を予測しなかった。しかしながら、今回検討した中では、唯一問題解決的考え込みが Times2 の破局的思考の緩和を予測していた。つまり、気分転換や回避的行動によって、抑うつに対する耐性である思考のコントロール感を得ることはできないが、問題解決的に考える態度を通して、思考のコントロール感を得ることができる可能性が示唆されたことになる。

第4章：【研究2】 短縮版社会的クリティカルシンキング志向性尺度の検討と 志向性へのアプローチの検討

問題と目的

元吉（2011）では、社会的クリシンは「自分とは異なる他者の存在を意識し、人間の多様性を認めながら、偏ることなく他者を理解しようとし、文脈や状況によっては譲歩することができる。そして、異なる他者や多様な価値観に対する寛容さを持つことを重視した概念」と定義しており、抱井（2004）において日本では関係的・文脈的思考が重視されるため、西洋文化で高く評価される論理的・抽象的思考が好まれるとは限らず、むしろ他者に対する配慮に欠けた不適切な思考と解釈される危険性が指摘されていることを受け、このような指摘は日本人学生の持つ論理的なクリシンへのネガティブイメージと一致するとしている。日本の学生が身につけたいと思っているのは、他者に配慮できて、良好な対人関係を維持するのに必要な能力であり、クリシンの教育を行う際に、その社会的な側面を強調することの重要性が指摘されている。

この点について、これまでのクリシン志向性に関する研究において、社会的クリシンに対する志向性と行動にアプローチをすることによって、結果的にノンソーシャルなクリシンを育成することにもつながる可能性が示唆されている（e.g. 廣岡ら, 2001; 廣岡ら, 2005）。ノンソーシャルなクリシンよりも社会的クリシンのほうがその有用性について認知されやすく、適用場面も多く、親しみやすさも高いことから発揮されやすいと考えれば、社会的クリシン志向性を刺激することによって、社会生活を送る中で社会的クリシンの対象となる出来事に出会った際に、クリシンしようと試みることが予想され、また、そのような経験を積むことによって能力の涵養につながると考えられる。社会的クリシンは、適切に発揮されれば対人関係の問題解決に役立つだけでなく、余計な摩擦・軋轢を生じさせないという予防的な意味でも効果が期待できる。また、予防的な役割において実際の社会的クリシン能力そのものよりも、社会的クリシン態度や志向性の方が高い重要性を持つと言えるだろう。

このように、社会的クリシンに注目することの重要性は挙げられるが、現状、社会的クリシンに関する研究はほとんどされておらず、CiNii で検索する限りにおいて、「社会的ク

リティカルシンキング」と題された研究論文は、中西・廣岡・横矢（2006）の一本のみである（2014年10月27日現在）。社会的クリシン志向性を測定する尺度は、廣岡ら（2001）で開発されたクリティカルシンキング志向性尺度（social version）と、それを受けて精緻化された中西ら（2006）の社会的クリシン尺度、及び、同様に廣岡ら（2001）を基にした南（2009）のクリシン志向性尺度がある。しかしながら、これらの因子構造は安定しておらず、廣岡ら（2000）では6因子解が、中西ら（2006）では7因子解が、南（2009）では5因子解が抽出されており、因子数に一致が見られていない。また採用された項目数についても、廣岡ら（2001）は30項目、中西ら（2006）は27項目、南（2009）と南（2010）では24項目と多めである。今後社会的クリシン志向性の研究を進めるに当たって、安定した尺度の検討をしておくことは不可欠だろう。また、他の尺度と共存させることを考えた場合、出来るだけ少ない項目数に抑えることが望まれる。

そこで本章では、中西ら（2006）の社会的クリシン志向性尺度に対して確認的因子分析を用いて再検討を行い、短縮版の社会的クリシン尺度の開発を行う。

方法

ここでは、調査1と調査2の両方で採取された社会的クリティカルシンキング尺度のデータと、調査1で採取された社会的クリシン有効性認知尺度、社会的クリシン能力自己認知尺度、社会的クリシン行動尺度を用いて分析を行う。まずは、調査1と調査2のデータを合わせたデータセットを用いて社会的クリシン志向性尺度の短縮化を試みる。その後、短縮された尺度の信頼性と妥当性の確認を、調査1、調査2と分けて実施する。

結果と考察

1. 探索的因子分析によるモデル探索

社会的クリシン尺度は、中西ら（2006）では7因子解が算出されているが、廣岡ら（2000）では6因子解、南（2009）では5因子解が算出されており、因子数に一致が見られていない。そこでまずは、A.調査1・調査2のTimes1のデータを合算した435名（男性：246名、女性：189名、平均年齢：18.40歳）のデータセットを用いて、探索的因子分析を行った。まずは天井効果が生じていた項目（7, 9, 11, 16, 19, 20, 22）を分析から除外し、固有値の減衰状況を確認した。その結果、スクリー基準から5因子解が妥当と判断した。その後、単一の因子に|.35|以上負荷していることを要件とした探索的因子分析（最尤法・プロマッ

クス回転)を行った。複数の因子に|.35|以上負荷している項目を削除し、項目を削除した場合は固有値の減衰状況を再確認しながら分析を進めた結果、最終的に5因子解が算出された(Table4-1)。

Table4-1 社会的クリシン志向性尺度の探索的因子分析と因子内相関及び基本統計量

項目	対人的柔軟性	論理の重視	脱軽信	真正性	探究心	
2.たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける	.744	-.283			.106	
4.他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる	.715	-.177				
1.人の話のポイントをつかむ	.625		-.108			
10.人の考え方にはバラエティがあるということを意識する	.574	-.151		.172		
24.うわさをむやみに信じないようにする	.536	.178				
18.アドバイスをするときには、自分の意見を押しつけないようにする	.535				-.179	
20.必要に応じて妥協する	.479			-.188		
27.判断をくだす際には、事実や証拠を重視する	-.177	.845			.145	
17.確たる証拠の有無にこだわる	-.190	.714			.190	
23.人の良い面と悪い面の両方を見る	.229	.486		.149	-.187	
25.人が話していることの矛盾に気づく	.129	.411				
14.情報を、少しも疑わずに信じ込まないようにする			.886			
6.何事も、少しも疑わずに信じ込まないようにする			.812			
21.身近な人の言うことだからといって、その内容を疑わずに信じ込まないようにする	.140		.558			
5.友だちに対してでも、悪いことは悪いと指摘する	.126			.763	-.111	
8.言わなければいけないと思えば、友だちに対してでも客観的なことを言う				.722	.121	
15.人が間違った考え方をしている時には、それを指摘する				.691		
12.ものごとの理屈を考える		.286			.545	
13.他の人があきらめても、なお答えを探し求め続ける	.131	.110		.159	.449	
3.できるだけ多くの事実や証拠を調べる	.274	.259			.330	
7.いったん決断したことは最後までやり抜く	対人的柔軟性		***	***	***	***
9.他の人の考えを尊重する	論理の重視	.412		***	***	***
11.問題のポイントをつかむ	脱軽信	.286	.338		***	***
16.自分とは違う意見も理解する	真正性	.462	.423	.324		***
19.わかりやすく物事を伝える	探究心	.439	.560	.337	.443	
22.積極的に新しいものにチャレンジする	平均	5.90	5.27	5.05	5.56	5.51
26.嫌いな人の意見でも、耳をかたむける	標準偏差	0.64	0.87	1.25	0.90	0.92

* p<.05 ** p<.01 *** p<.001

この結果から、第1因子を「対人的柔軟性」、第2因子を「論理の重視」、第3因子を「脱軽信」、第4因子を「真正性」、第5因子を「探究心」と命名した。「脱軽信」と「真正性」の2つの因子は、廣岡ら(2001)、中西ら(2006)、南(2009)のいずれにおいても見られたことから、かなり頑健な因子であると考えられる。その他の因子も概ねいずれかの先行研究で見られた因子と類似した因子と考えられるが、ここでは特に「探究心」の因子に焦

点を当てたい。「探究心」の因子は、中西ら（2006）の「決断力」因子に類似するものと考えられるが、社会的クリシン志向性の因子としては今回初めて命名された。「探究心」は、廣岡（2001）のクリシン志向性尺度（non social version）及び、平山・楠見（2004）で作成された批判的思考態度尺度で見いだされており、他の因子とは少し違った動きをすることが知られている（e.g. 平山・楠見, 2004; 藤木・沖林, 2010; 安藤・池田, 2012）。本研究で社会的クリシン志向性尺度においても「探究心」の因子が見いだされたことは、今後社会的クリシン志向性に関わる分析を進めていくうえで有益なのではないかと考えられる。

2. 確認的因子分析によるモデル比較

続いて、先行研究で見いだされた因子構造と本研究で見いだされた因子構造のどちらが妥当かを検討するため、確認的因子分析を行った。

まずは先行研究で見いだされたモデルの検討を行った。社会的クリシン志向性は中西ら（2006）で見いだされた7つの因子によって構成されており、それら7つの因子は観測変数としての各尺度から構成されている2次因子モデルを構成した。項目には天井効果が生じているものも散見されたが、「決断力」因子が1項目のみとなってしまうため、そのまま分析に使用した。分析に先立って、マルディアの多変量歪度検定と尖度検定を行った。その結果、多変量歪度（ $\chi^2_{skew}=10832.83, p<.001$ ）と多変量尖度（ $z_{kurtosis}=70.51139, p<.001$ ）ともに有意となり、分析対象となるデータは多変量正規分布から大きく逸脱していると考えられた。豊田（2014, p.208）によると、このような場合、多変量正規分布に従わないようなデータに対して正しい推定結果を得ることを意図した頑健性の高い重み行列Wを得る方法（対角重み付き最小2乗法：DWLS）を用いることが推奨されている。しかしながら、現在共分散構造分析における推定法のデファクトスタンダードが最尤法であり（豊田, 2014, pp.206-207）、多くの先行研究では最尤法を用いて分析がなされていることから、単に対角重み付き最小2乗法を用いて算出した結果のみを載せた場合、理解と比較が困難になるという問題がある。そのため本研究では、同一のモデルに対して最尤法（ML）と対角重み付き最小2乗法（DWLS）を使用した結果を併記することとする。

分析の結果、適合度は推定法に最尤法（ML）を用いた場合、CFI=.796、RMSEA=.082（90%信頼区間:.077-.087）、SRMR=.098であった。対角重み付き最小2乗法を用いた場合、CFI=.954、RMSEA=.040（90%信頼区間:.040-.051）、SRMR=.079であった。

次に、本研究で見いだされたモデルの検討を行った。社会的クリシン志向性は本研究で

見いだされた 5 因子によって構成されており、それら 5 因子は観測変数としての各尺度項目から構成されている 2 次因子モデルを構成した。分析に先立ち、マルディアの多変量歪度検定と尖度検定を行った結果、多変量歪度 ($\text{chi.skew}=4825.654, p<.001$) と多変量尖度 ($\text{z.kurtosis}=53.558, p<.001$) とともに有意となり、分析対象となるデータは多変量正規分布から大きく逸脱していると考えられた。

分析の結果、適合度は推定法に最尤法 (ML) を用いた場合、 $\text{CFI}=.875$ 、 $\text{RMSEA}=.069$ (90% C.I. : .062–.076)、 $\text{SRMR}=.068$ であった。対角重み付き最小 2 乗法 (DWLS) を用いた場合、 $\text{CFI}=.987$ 、 $\text{RMSEA}=.027$ (90% C.I. : .015–.036)、 $\text{SRMR}=.060$ であった。

両モデルの最尤法の適合度を比較した結果、どちらも CFI の値に問題があると考えられたが、本研究で見いだされたモデルの方が、比較的適合が良いことが確認されたため、以後本研究で見いだされたモデルを基に尺度の短縮化を検討する。

3. 社会的クリシン志向性尺度の短縮化

尺度を短縮化するにあたり、各因子が 3 つずつの観測変数 (項目) で構成されることを目指す。これは、観測変数が 1 つや 2 つの場合、モデルを識別させるためには何らかの制約を置かねばならないが、観測変数が 3 つの場合、実質的に何らの制約を置くことなくモデルの識別が可能になるからである (飯塚, 2003)。現在、「脱軽信」、「真正性」、「探究心」の各因子は 3 つの項目から構成されているが、「対人的柔軟性」は 7 項目、「論理の重視」は 4 項目から構成されている。これら 2 つの因子を構成する項目を精選するため、および、各因子内の項目の妥当性を検証するため、各因子内の項目間相関を算出した。

「対人的柔軟性」因子について、因子負荷量と項目の語義、および相関係数を参考に、「2. たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける」「4.他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる」「10.人の考え方にはバラエティがあるということを意識する」の 3 項目を選出した。「1.人の話のポイントをつかむ」については、因子負荷量は 3 番目に高いものの、語義が狭く「対人的柔軟性」と結びつきづらいことから選出しなかった。「論理の重視」因子について、「27.判断をくだす際には、事実や証拠を重視する」「23.人の良い面と悪い面の両方を見る」「25.人が話していることの矛盾に気づく」の 3 項目を選出した。「17.確たる証拠の有無にこだわる」は、因子負荷量は 2 番目に高く、この因子の中核的要素であることが示唆されたが、社会的場面において確たる証拠があるかがわかることは稀有なこと、その点にフォーカスを当てる場合、「脱軽信」因子と概念的な重複が考えられること、および

「27.判断をくだす際には、事実や証拠を重視する」との相関係数が比較的高い ($r = .566$, $p < .001$) ことから選出しなかった。

以上より、5 因子各 3 項目の計 15 項目を選出した。これについても 2 次因子モデルを構築し、確認的因子分析を行った。分析に先立ちマルディアの多変量歪度検定と尖度検定を行ったところ、多変量歪度 ($\chi^2_{skew} = 2449.482$, $p < .001$) と多変量尖度 ($z_{kurtosis} = 40.865$, $p < .001$) とともに有意となり、分析対象となるデータは多変量正規分布から逸脱していると考えられた。確認的因子分析の結果、適合度は推定法に最尤法 (ML) を用いた場合、CFI=.908、RMSEA=.069 (90%信頼区間:.060-.079)、SRMR=.058 であった (Figure4-1)。対角重み付き最小 2 乗法 (DWLS) を用いた場合、CFI=.993、RMSEA=.022 (90%信頼区間:.000-.036)、SRMR=.054 であった (Figure4-1)。

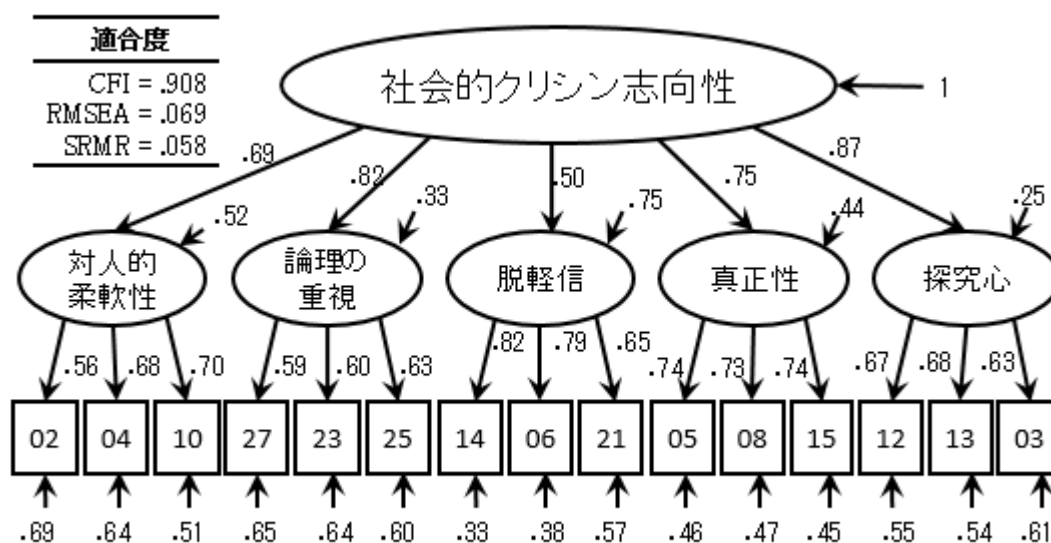


Figure4-1 社会的クリシス志向性の確認的因子分析 (最尤法・標準化解)

次に、短縮した尺度の信頼性を確かめるため、因子ごとおよび尺度全体について Cronbach の α 係数を算出した。その結果、「対人的柔軟性」の信頼性は $\alpha = .65$ 、「論理の重視」の信頼性は $\alpha = .64$ 、「脱軽信」の信頼性は $\alpha = .79$ 、「真正性」の信頼性は $\alpha = .78$ 、「探究心」の信頼性は $\alpha = .69$ となった。また、尺度全体では $\alpha = .84$ となった。因子個別に見た場合、「対人的柔軟性」「論理の重視」「探究心」で $\alpha = .70$ を切るなど、全体的に信頼性は低めであった。

しかしながら、尺度全体で見た場合は $\alpha=.84$ とそれなりの信頼性を確保していた。

なお、「対人的柔軟性」の7項目を3項目に減じた際に、重要な要素が抜け落ちた可能性がある。しかしながら、「対人的柔軟性」を項目内容から2つの因子に分けた6因子で確認的因子分析を行った結果、適合度がCFI=.864, RMSEA=.075 (90%信頼区間:.068-.083)、SRMR=.066となり、5因子モデルよりも適合度が悪化したため採用しなかった。

4. 短縮版尺度のG-P分析

以後は、調査1のTimes1とTimes2の対応を取った142名（男性：83名、女性：59名、平均年齢：18.49歳）と、調査2のTimes1とTimes2の対応を取った170名（男性：86名、女性：84名、平均年齢：18.77歳）の2つのデータセットを用いて、短縮した尺度の検討を行っていく。調査1・Times1、調査1・Times2、調査2・Times1、調査2・Times2の各時点別の計4つについて、G-P分析を行った。その結果、全ての項目、全てのまとまりについて、0.1%水準で有意差が見いだされた。このことから、短縮後の尺度は社会的クリシソ志向性の高低を良く弁別できていると考えられた。

5. クラス別・時点別の α 係数

調査1・Times1、調査1・Times2、調査2・Times1、調査2・Times2の各クラス・各時点別について α 係数を算出した（Table2）。

その結果、尺度全体での α 係数は、全ての群で $\alpha=.80$ を上回っており、それなりの信頼性を確保していることが示唆された。しかしながら、各因子レベルで検討した場合、「論理の重視」はほぼ全ての群で $\alpha=.60$ に届かず、「探究心」は調査1・Times2において $\alpha=.50$ を下回り、内的一貫性に問題があることが浮き彫りとなった。

Table4-2 各クラス・各時点の α 係数

	調査1		調査2	
	Times1	Times2	Times1	Times2
対人的柔軟性	.550	.670	.720	.770
論理の重視	.600	.540	.570	.580
脱軽信	.730	.790	.820	.770
真正性	.740	.810	.800	.790
探究心	.610	.480	.720	.700
尺度全体	.810	.850	.860	.870

6. Times1 と Times2 の縦断的因子分析

Times1 と Times2 の間で因子構造等に変化がなかったかどうかを検証するため、縦断的因子分析を行った。分析は因子ごとに行い、尺度全体の検討には各尺度得点を用いて因子モデルを構築した。なお、因子抽出法は最尤法を使用し、データセットは調査 1 と調査 2 を合わせたものを使用した。

対人的柔軟性の尺度について分析を行った結果、モデル 5 まで許容された (Table4-3-1, Figure4-2-1)。

Table4-3-1 対人的柔軟性の縦断的因子分析の適合度

因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
	モデル1	3.045	5.000	.693	1.000	.000	4873.454
対人的柔軟性	モデル2	3.994	7.000	.780	1.000	.000	4862.917
	モデル3	6.271	9.000	.712	1.000	.000	4853.709
	モデル4	25.702	12.000	.012	.964	.060	4855.910
	モデル5	25.807	13.000	.018	.966	.056	4850.270

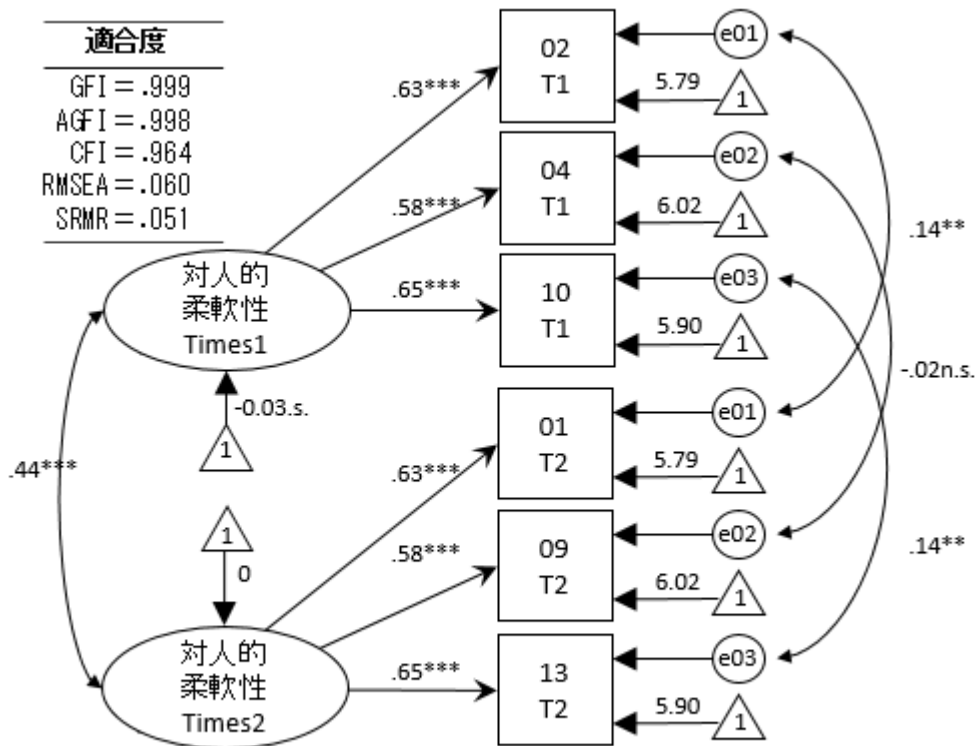


Figure4-2-1 対人的柔軟性の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

論理の重視の尺度について分析を行った結果、モデル 5 まで許容された (Table4-3-2, Figure4-2-2)。

Table4-3-2 論理の重視の縦断的因子分析の適合度

因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
論理の重視	モデル1	8.646	5.000	.124	.987	.048	5483.376
	モデル2	14.951	7.000	.037	.973	.060	5478.196
	モデル3	25.271	9.000	.003	.944	.076	5477.030
	モデル4	29.307	12.000	.004	.940	.068	5463.836
	モデル5	30.439	13.000	.004	.940	.066	5459.226

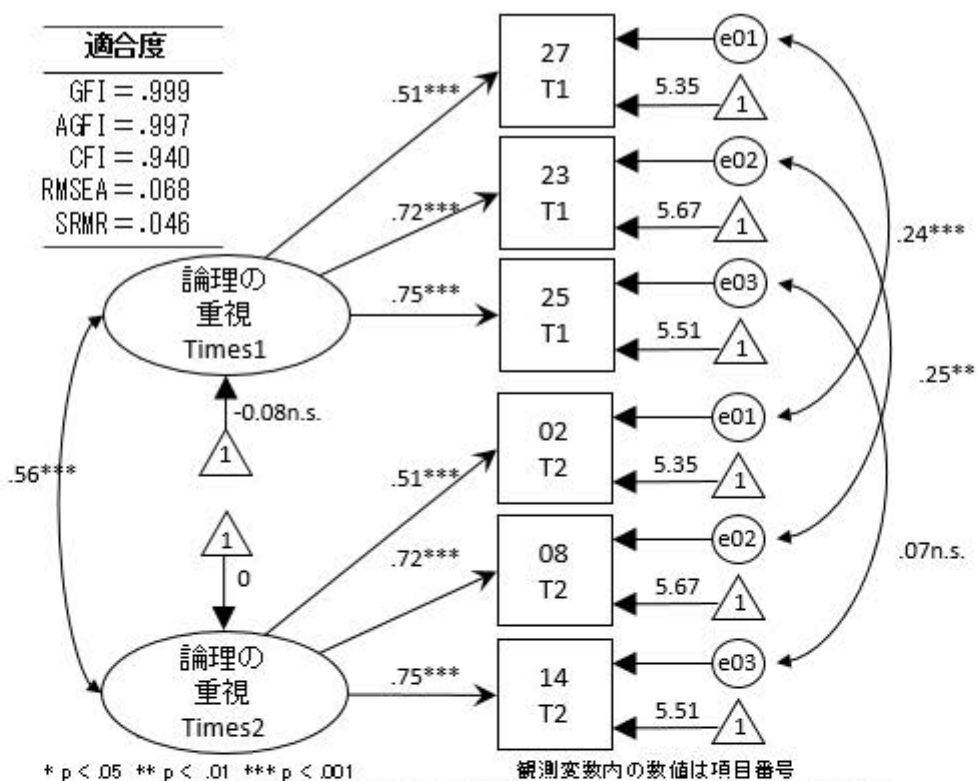
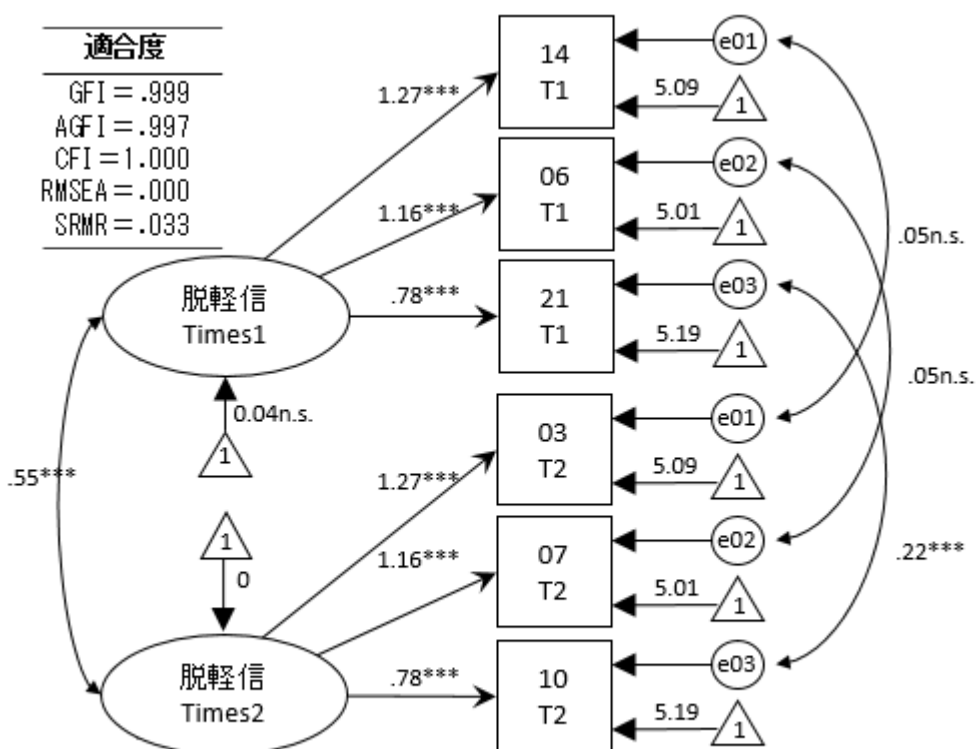


Figure4-2-2. 論理の重視の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

脱軽信の尺度について分析を行った結果、モデル 5 まで許容された (Table4-3-3, Figure4-2-3)。

Table4-3-3 脱軽信の縦断的因子分析の適合度

因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
脱軽信	モデル1	5.639	5.000	.343	.999	.020	6117.737
	モデル2	5.790	7.000	.564	1.000	.000	6106.402
	モデル3	7.711	9.000	.563	1.000	.000	6096.837
	モデル4	11.798	12.000	.462	1.000	.000	6083.695
	モデル5	12.099	13.000	.520	1.000	.000	6078.253



* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

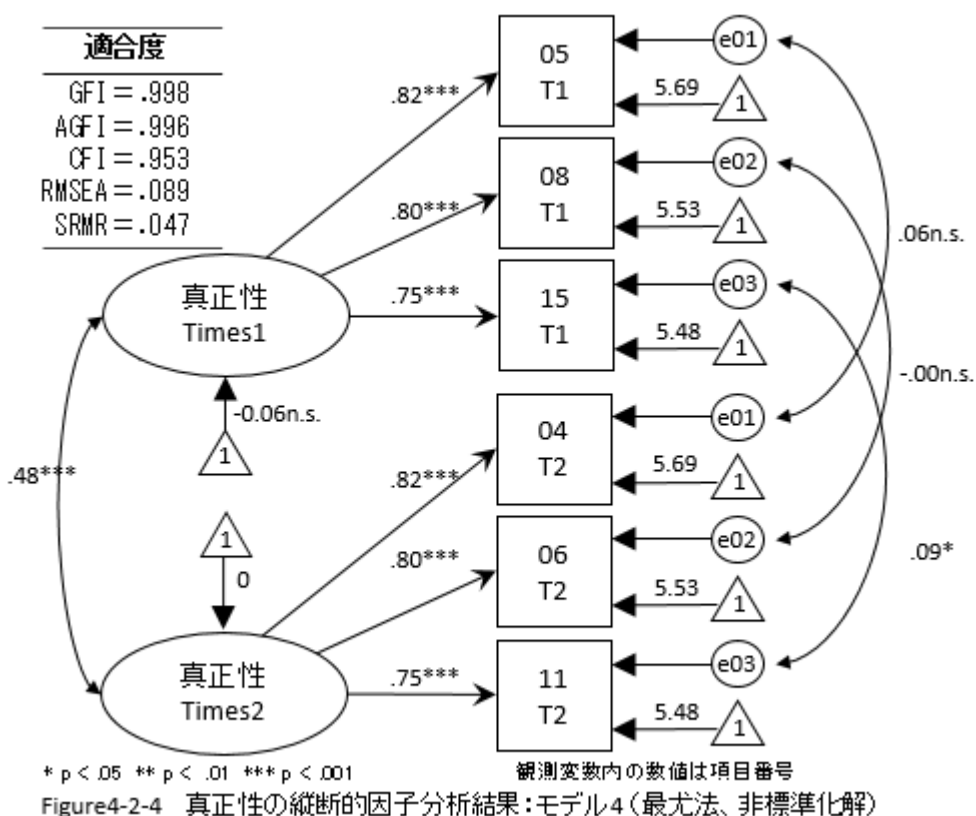
観測変数内の数値は項目番号

Figure4-2-3 脱軽信の縦断的因子分析結果:モデル4(最尤法、非標準化解)

真正性の尺度について分析を行った結果、モデル 5 まで許容された (Table4-3-4, Figure4-2-4)。

Table4-3-4 真正性の縦断的因子分析の適合度

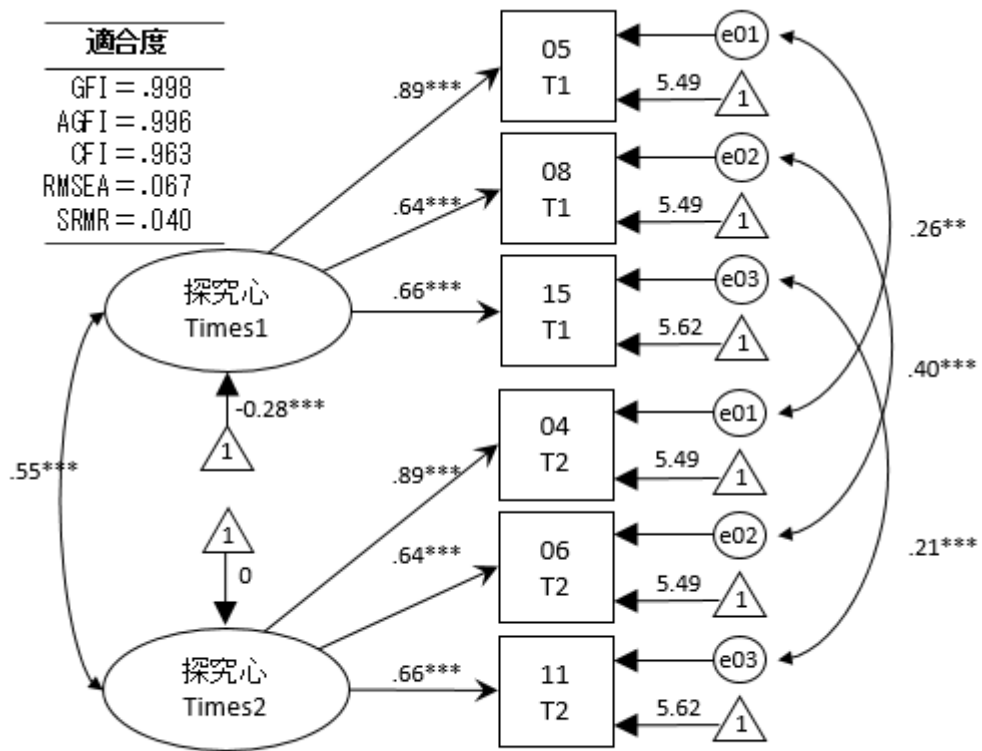
因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
真正性	モデル1	13.326	5.000	.021	.987	.073	4859.217
	モデル2	16.670	7.000	.020	.984	.067	4851.075
	モデル3	22.632	9.000	.007	.978	.070	4845.551
	モデル4	41.421	12.000	.000	.953	.089	4847.111
	モデル5	42.175	13.000	.000	.953	.085	4842.122



探究心の尺度について分析を行った結果、モデル 5 まで許容された (Table4-3-5, Figure4-2-5)。

Table4-3-5 探究心の縦断的因子分析の適合度

因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
探究心	モデル1	11.191	5.000	.048	.986	.063	5453.749
	モデル2	14.403	7.000	.044	.983	.058	5445.475
	モデル3	25.300	9.000	.003	.963	.076	5444.886
	モデル4	28.572	12.000	.005	.963	.067	5430.928
	モデル5	45.817	13.000	.000	.926	.090	5442.430



* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

観測変数内の数値は項目番号

Figure4-2-5 探究心の縦断的因子分析結果:モデル4(最尤法、非標準化解)

社会的クリシン全体の尺度について分析を行った結果、モデル5まで許容された。なお、観測変数には各尺度の尺度得点を使用した。

Table4-3-6 社会的クリシン志向性の縦断的因子分析の適合度

因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
社会的 クリシン 志向性	モデル1	85.700	29.000	.000	.951	.079	7156.460
	モデル2	88.145	33.000	.000	.953	.073	7135.936
	モデル3	113.392	37.000	.000	.934	.081	7138.211
	モデル4	144.157	42.000	.000	.912	.088	7140.261
	モデル5	145.064	43.000	.000	.912	.087	7135.425

注:社会的クリシン志向性因子は、観測変数に各因子の尺度得点を使用した。

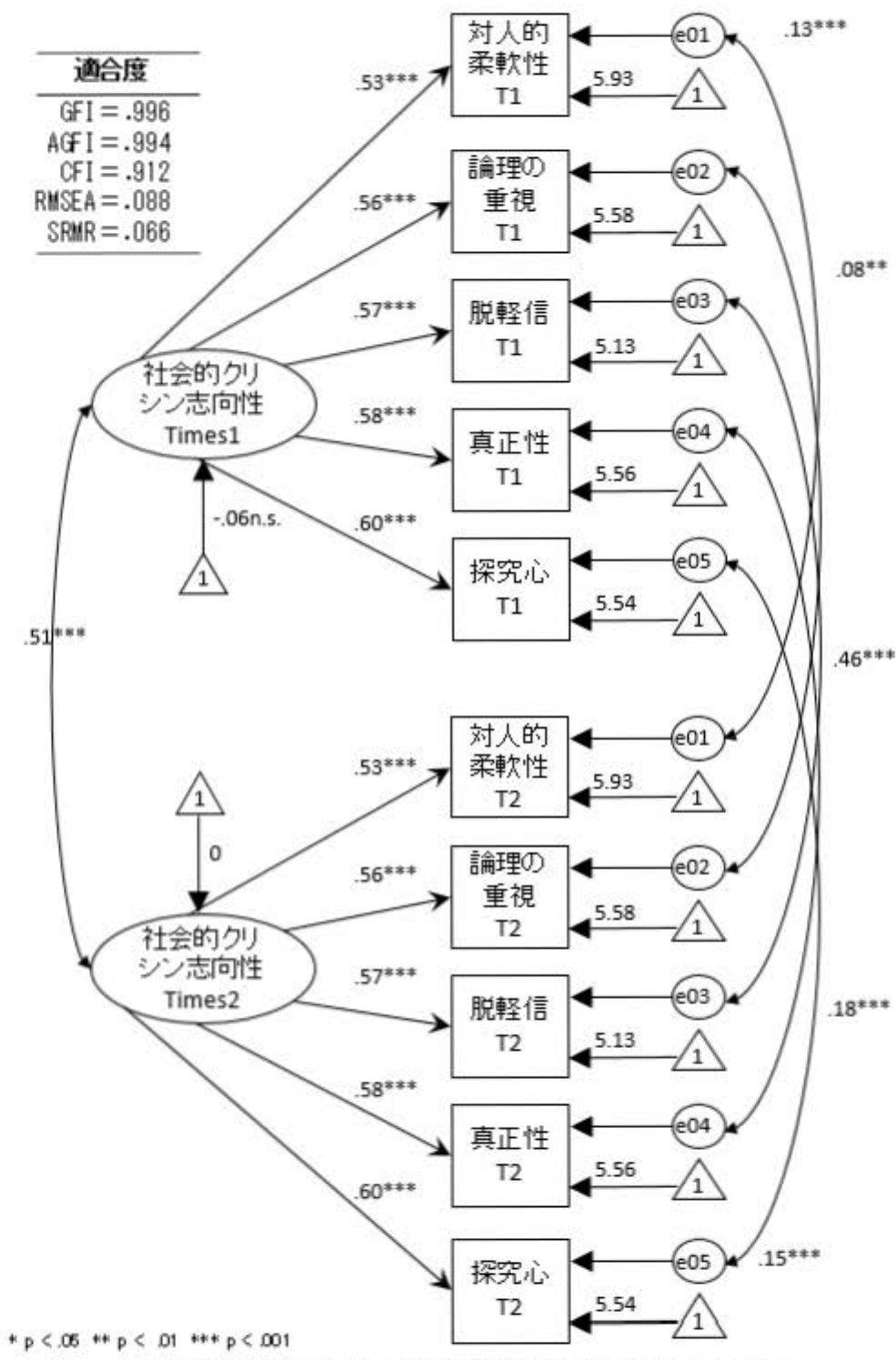


Figure4-2-6 短縮版社会的クリシン志向性の縦断的因子分析結果:モデル4 (最尤法、非標準化解)

以上のことから、少なくとも本研究においては、Times1・Times2 との間で因子構造に変化はなく、社会的クリシン志向性を安定して測定できていることが伺われた。

7. 調査1と調査2の多母集団同時分析

調査1・調査2のTimes1とTimes2の対応を取った312名（男性：169名、女性：143名、平均年齢：18.64歳）のデータセットを用いて、調査1と調査2との間で多母集団同時分析を行った。これは、同一のモデルを異なる母集団に当てはめた場合に、どのように等値制約を置くことが可能かを検討すること、因子構造等に違いがないかを知るための手法である。モデルの名称や等値制約の置き方については、縦断因子分析と同様となる（時点間で、ではなく、クラス間で、となる）。なお、因子抽出法には最尤法を使用した。

「対人的柔軟性」について多母集団同時分析を行った結果、Times1ではモデル5まで、Times2でもモデル5まで許容された（Table4-4-1）。

Table4-4-1 対人的柔軟性の多母集団同時分析の適合度

クラス	因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
Times1	対人的柔軟性	モデル1	.000	.000	.000	.000	.000	2558.941
		モデル2	8.052	2.000	.018	.957	.139	2555.507
		モデル3	11.639	4.000	.020	.946	.111	2547.608
		モデル4	19.693	7.000	.006	.910	.108	2538.433
		モデル5	19.696	8.000	.012	.917	.097	2532.693
Times2	対人的柔軟性	モデル1	.000	.000	.000	.000	.000	2423.304
		モデル2	5.288	2.000	.071	.983	.103	2417.106
		モデル3	6.499	4.000	.165	.987	.063	2406.831
		モデル4	6.768	7.000	.453	1.000	.000	2389.870
		モデル5	6.937	8.000	.543	1.000	.000	2384.297

「論理の重視」について多母集団同時分析を行った結果、Times1ではモデル5まで、Times2でもモデル5まで許容された（Table4-4-2）。

Table4-4-2 論理の重視の多母集団同時分析の適合度

クラス	因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
Times1	論理の重視	モデル1	.000	.000	.000	.000	.000	2885.638
		モデル2	1.951	2.000	.377	1.000	.000	2876.103
		モデル3	1.962	4.000	.743	1.000	.000	2864.628
		モデル4	9.732	7.000	.204	.968	.050	2855.169
		モデル5	14.126	8.000	.079	.929	.070	2853.820
Times2	論理の重視	モデル1	.000	.000	.000	.000	.000	2760.994
		モデル2	4.085	2.000	.130	.977	.082	2753.592
		モデル3	9.524	4.000	.049	.940	.094	2747.545
		モデル4	12.605	7.000	.082	.939	.072	2733.397
		モデル5	14.207	8.000	.077	.932	.071	2729.257

「脱軽信」について多母集団同時分析を行った結果、Times1 ではモデル 5 まで、Times2 でもモデル 5 まで許容された (Table4-4-3)。

Table4-4-3 脱軽信の多母集団同時分析の適合度

クラス	因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
Times1	脱軽信	モデル1	.000	.000	.000	.000	.000	3144.825
		モデル2	3.880	2.000	.144	.994	.078	3137.218
		モデル3	8.898	4.000	.064	.983	.089	3130.751
		モデル4	26.746	7.000	.000	.932	.134	3131.370
		モデル5	26.746	8.000	.001	.936	.123	3125.627
Times2	脱軽信	モデル1	.000	.000	.000	.000	.000	3099.371
		モデル2	1.796	2.000	.407	1.000	.000	3089.681
		モデル3	2.488	4.000	.647	1.000	.000	3078.887
		モデル4	15.435	7.000	.031	.969	.088	3074.605
		モデル5	16.614	8.000	.034	.969	.083	3070.040

「真正性」について多母集団同時分析を行った結果、Times1 ではモデル 3 まで、Times2 ではモデル 5 まで許容された (Table4-4-4)。

Table4-4-4 真正性の多母集団同時分析の適合度

クラス	因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
Times1	真正性	モデル1	.000	.000	.000	.000	.000	2614.442
		モデル2	.307	2.000	.858	1.000	.000	2603.263
		モデル3	.923	4.000	.921	1.000	.000	2592.394
		モデル4	20.618	7.000	.004	.945	.112	2594.859
		モデル5	24.436	8.000	.002	.933	.115	2592.934
Times2	真正性	モデル1	.000	.000	.000	.000	.000	2364.624
		モデル2	1.748	2.000	.417	1.000	.000	2354.887
		モデル3	3.735	4.000	.443	1.000	.000	2345.387
		モデル4	13.841	7.000	.054	.977	.079	2338.264
		モデル5	15.332	8.000	.053	.975	.077	2334.012

「探究心」について多母集団同時分析を行った結果、Times1 ではモデル 3 まで、Times2 ではモデル 1 まで許容された (Table4-4-5)。

Table4-4-5 探究心の多母集団同時分析の適合度

クラス	因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
Times1	探究心	モデル1	.000	.000	.000	.000	.000	2841.085
		モデル2	.661	2.000	.718	1.000	.000	2830.260
		モデル3	3.958	4.000	.412	1.000	.000	2822.071
		モデル4	7.688	7.000	.361	.995	.025	2808.571
		モデル5	8.835	8.000	.356	.994	.026	2803.976
Times2	探究心	モデル1	.000	.000	1.000	1.000	.000	2841.947
		モデル2	10.358	2.000	.006	.931	.164	2840.819
		モデル3	14.149	4.000	.007	.917	.128	2833.124
		モデル4	27.986	7.000	.000	.828	.139	2829.732
		モデル5	28.434	8.000	.000	.832	.128	2824.437

社会的クリシン志向性全体について多母集団同時分析を行った結果、Times1 ではモデル 5 まで、Times2 でもモデル 5 まで許容された (Table4-4-6)。

Table4-4-6 社会的クリシン志向性の多母集団同時分析の適合度

クラス	因子名	モデル番号	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	BIC
Times1	社会的 クリシン 志向性	モデル1	21.320	10.000	.019	.967	.085	3925.709
		モデル2	23.884	14.000	.047	.972	.067	3905.302
		モデル3	28.193	18.000	.059	.971	.060	3886.639
		モデル4	47.749	23.000	.002	.929	.083	3877.479
		モデル5	51.090	24.000	.001	.922	.085	3875.077
Times2	社会的 クリシン 志向性	モデル1	30.157	10.000	.001	.960	.114	3614.063
		モデル2	35.620	14.000	.001	.957	.099	3596.554
		モデル3	42.426	18.000	.001	.952	.093	3580.388
		モデル4	55.701	23.000	.000	.936	.095	3564.948
		モデル5	57.002	24.000	.000	.935	.094	3560.506

以上のことから、調査 1 と調査 2 とともに同様の因子構造を想定できることが確認され、短縮後の尺度はほぼ等質の集団について、同一の因子を安定して抽出できていると考えられた。

8. 志向性は行動を導くか

尺度の予測的妥当性を検討するため、Times1 の社会的クリシン志向性が、Times2 の社会的クリシン行動を導いているかを、最尤法を用いた共分散構造分析を用いて検討した。分析データは調査 2 の Times1 と Times2 の対応を取った 170 名（男性：86 名、女性：84 名、平均年齢：18.77 歳）のデータを用いた。まずは各因子個別にモデルを構築し、各志向性の因子が対応する各行動を導いているか検討した（Figure4-4）。

分析の結果、全ての下位因子で許容可能な適合度を示したものの、そのパス係数はあまり高くはなかった（Table4-5）。

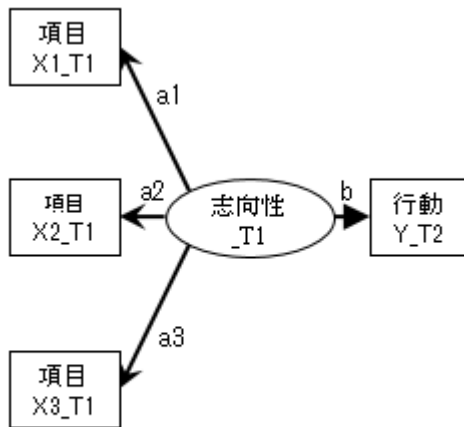


Figure4-4 各因子別モデル

Table4-5 下位因子別のパス係数と適合度

志向性 T1	対人的 柔軟性	論理の 重視	脱軽信	真正性	探究心
X1_T1	項目02	項目27	項目14	項目05	項目12
a1	.40 ***	.61 ***	.80 ***	.67 ***	.86 ***
X2_T1	項目04	項目23	項目06	項目08	項目13
a2	.64 ***	.54 ***	.63 ***	.64 ***	.49 ***
X3_T1	項目10	項目25	項目21	項目15	項目03
a3	.62 ***	.57 ***	.60 ***	.72 ***	.48 ***
b	.26 *	.20 n.s.	.22 *	.32 **	.20 *
CFI	1.000	.996	1.000	.977	1.000
RMSEA	.000	.024	.000	.087	.000
SRMR	.024	.028	.016	.035	.009

* p<.05 ** p<.01 *** p<.001

次に、社会的クリシン志向性全体で見た場合、社会的クリシン志向性が各社会的クリシン行動を導いているのかを検討するため、最尤法を用いた共分散構造分析を行った。Times1の各因子の尺度得点を観測変数、社会的クリシン志向性因子を潜在変数とし、ここからTimes2の各社会的クリシン行動に対してパスを引いたモデルを構築し、分析を行った。分析の結果、適合度はGFI=.962、AGFI=.904、CFI=.976、RMSEA=.061(90% C.I.: .018-.096)、SRMR=.043となり、RMSEAの値に不安は残るものの、概ね高い適合度を示した。

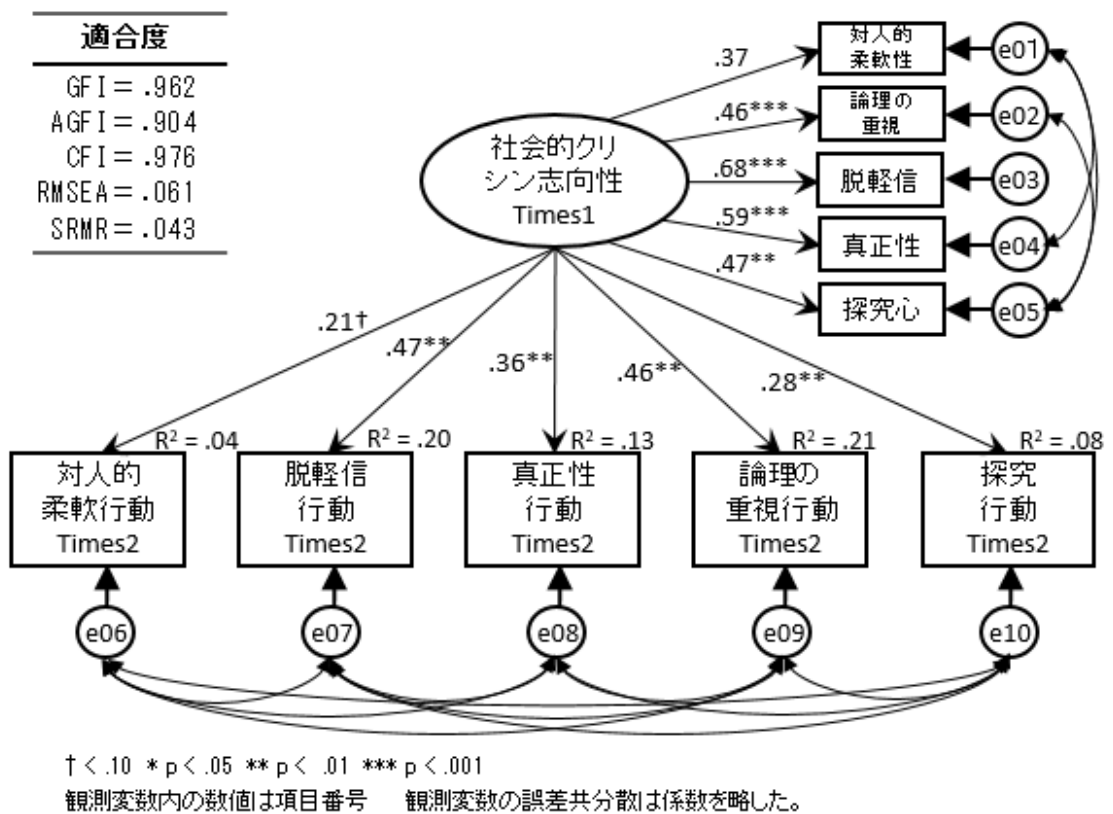


Figure4-5 社会的クリシン志向性から社会的クリシン行動へのパス係数

次に、社会的クリシン志向性は、それが自分に「できると思うかどうか」(能力自己認知)を統制したとしても、社会的クリシン行動を促すかを確認すること、及び、社会的クリシンを行うことが、社会生活において有効かどうかの認知が社会的クリシン志向性を導くかを検討するため、最尤法を用いた共分散構造分析を行った。Times2の各因子の尺度得点を

観測変数、社会的クリシン志向性因子を潜在変数とし、ここから Times2 の各社会的クリシン行動に対してパスを引いた。また、Times1 の次に社会的クリシン有効性認知から、社会的クリシン志向性因子に向けてパスを引いた。次に、社会的クリシン志向性因子から Times2 での社会的クリシン能力自己認知の観測変数（尺度得点）に対しパスを引き、その社会的クリシン能力自己認知から Times2 の各社会的クリシン行動についてパスを引いたモデルを構築し、分析を行った。その結果、適合度は GFI = .947、AGFI = .888、CFI = .963、RMSEA = .065 (90% C.I. : .036 - .092)、SRMR = .043 となり、AGFI の値に問題が残った。そのため、修正指標に従って、社会的クリシン志向性の観測変数の誤差間に共分散を仮定する形でモデルを修正し、最終的に Figure4-6 のモデルを採用した。なお、中には有意にならないパスも見られたが、解釈可能性を考慮しモデル内に残した。

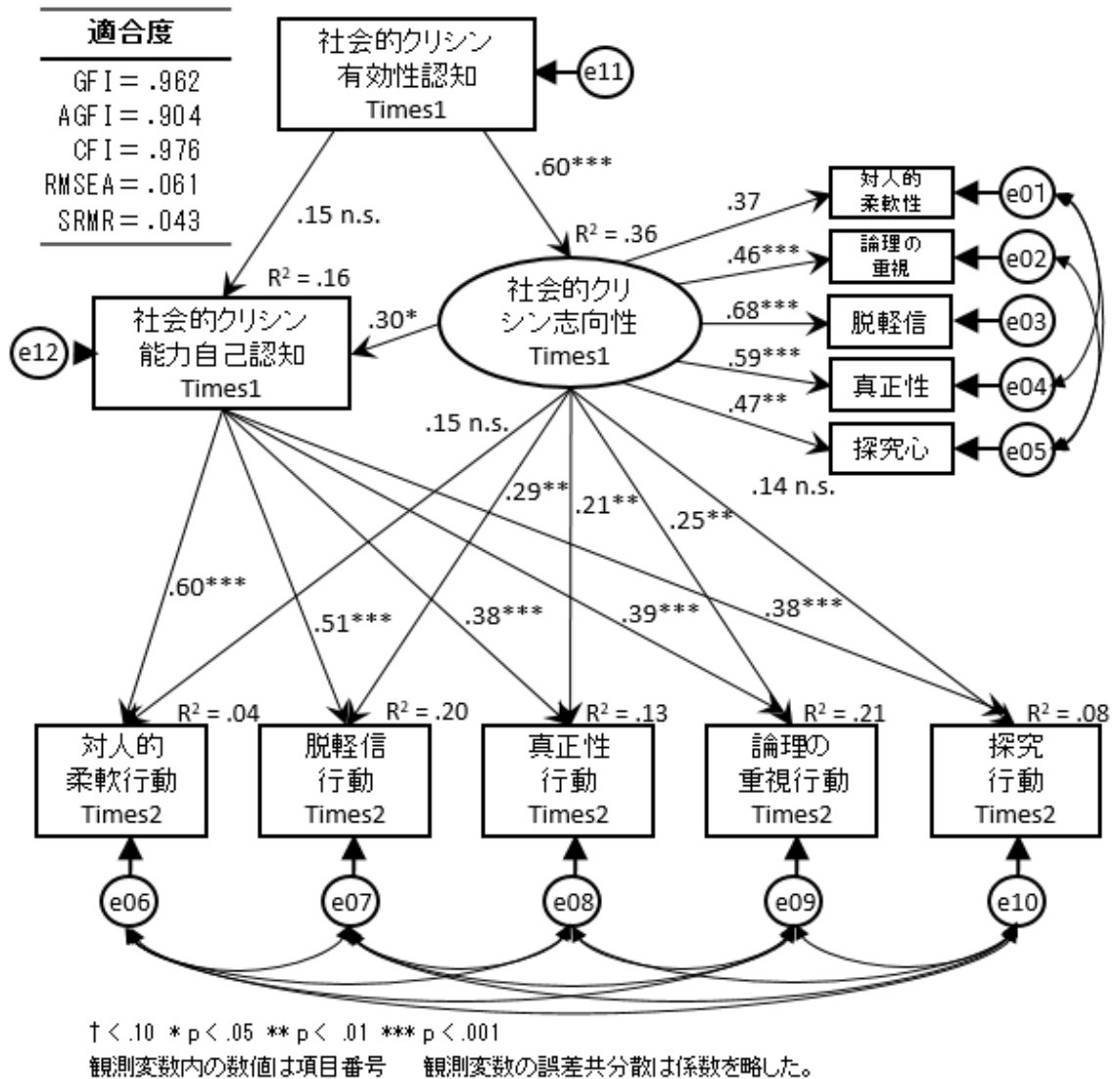


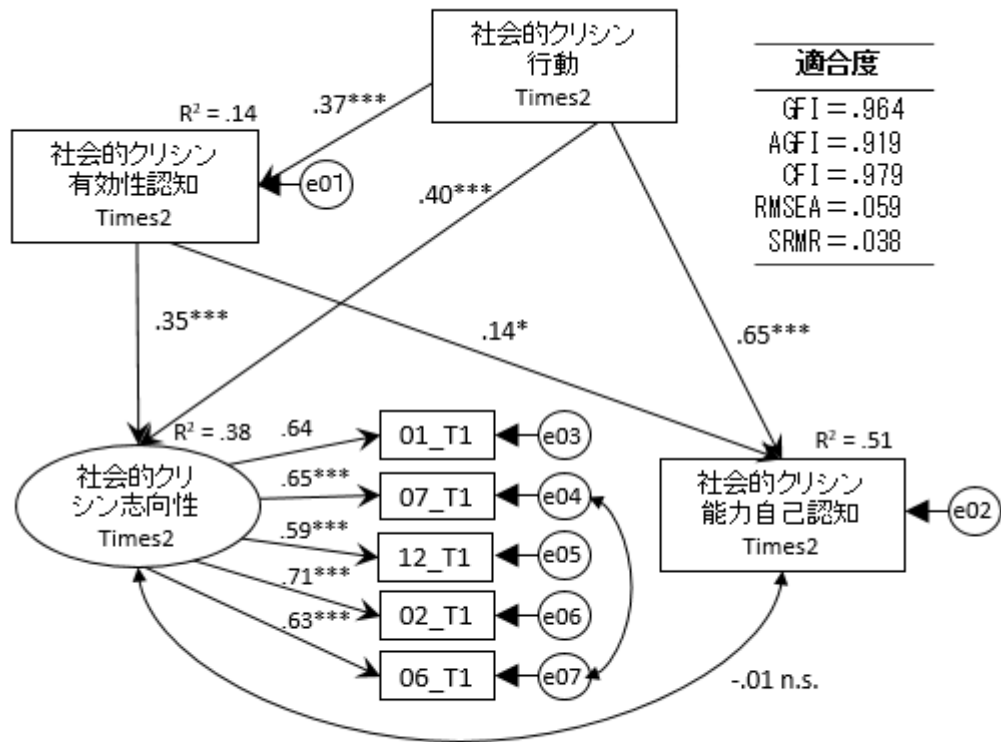
Figure4-6 社会的クリシ志向性から社会的クリシン行動へのパス係数

各パス係数は、全体として、社会的クリシン行動ができると思っているほど、実際に社会的クリシン行動をとっていることが示されたが、「できると思うかどうか」ということに関わらず、志向性を持つこと自体も社会的クリシン行動を有意に導くことが示唆された。特に、「論理の重視」と「真正性」因子について、志向性自体からのパス係数が比較的大きく、物事や人に対して誠実であろうとする行動に、志向性が特に影響していると考えられた。

9. 志向性は行動と有効性認知によって導かれるのか

社会的クリシン志向性は何によって導かれるかについて、本研究では社会的クリシン行

動、社会的クリシン有効性認知を取り上げる。本来ならば Times1 の社会的クリシン行動から Times2 の各変数に対してパスを引いたモデルを検証すべきであるが、本調査では Times1 の時点で社会的クリシン行動を測定していない。そのため、Times2 の社会的クリシン行動から有効性認知、志向性、能力自己認知に、有効性認知から志向性、能力自己認知にパスを引いたモデルを構築し、最尤法を用いた共分散構造分析を用いて検討した。その結果、適合度は GFI = .946、AGFI = .886、CFI = .948、RMSEA = .089 (90% C.I. : .053 - .125)、SRMR = .050 となり、AGFI の値に問題が残った。そのため、修正指標に従って、志向性の観測変数の誤差間に共分散を仮定する形でモデルを修正し、最終的に Figure4-7 のモデルを採用した。



† < .10 * p < .05 ** p < .01 *** p < .001
 観測変数内の数値は項目番号 観測変数の誤差共分散は係数を略した。

Figure4-7 社会的クリシン行動・有効性認知から志向性・能力自己認知へのパス係数

社会的クリシン志向性に対する社会的クリシン有効性認知、社会的クリシン行動からのパスはどちらも有意となり、中程度の値を示していた。社会的クリシン志向性の決定係数は R² = .38 であり、志向性の約 4 割が社会的クリシン行動と有効性認知によって導かれていることが示唆された。また、能力自己認知と志向性の間には相関がなく、志向すること、自分にできそうだと思うこと自体には有意な関係がないことが示された。また、社会

的クリシンの有効性認知については決定係数が $R^2 = .14$ であった。有効性認知から志向性へのパス係数は.35 と中程度の値であり、行動から説明される有効性認知の割合は約 15% 程度であったことから、有効性認知に働きかけることによって志向性を刺激できる可能性が示唆された。

第5章：【研究3】 社会的クリシン志向性は抑うつを予防するのか

問題と目的

社会的クリシン志向性は、抑うつを予防するのだろうか。磯和(2008)では、クリシンを行うことによって、抑うつに効果があると考えられる3つの効果が期待できるとしている。すなわち、①適応的で効果的な気晴らしを行うことが可能になる、②問題解決的な思考を行うことが可能になる、③不適応的な認知の歪みを自らで改めることが可能になる、である。しかしながら、志向性を持つだけでクリティカルに思考できるわけではない。クリシンを教育するためにクリシン志向性を重視するという視点を持ち、またそれを行おうとするのであれば、「考えよう」とする動機づけを高めた際に、それ自体が抑うつの強い予測因である反すうや否定的考え込み (e.g. 名倉・橋本, 1999; 伊藤, 2004) を導いてしまう可能性もある。ノンソーシャルなクリシン志向性について、磯和(2008)は、少なくとも抑うつを促進する可能性は低いとまとめている。では、社会的クリシンはどうであろうか。社会的クリシンの核心は、「対人的柔軟性」にある。「対人的柔軟性」は、人の考え方にはバリエーションがあることを意識し、他の人が出した意見を受け入れたり、たとえ意見が合わない場合でも耳を傾けたり、といったものであり、それによって社会的な衝突を避けることができると考えられる。そのため、ノンソーシャルなクリシン志向性よりも、社会的なクリシン志向性は適応的である可能性がある。しかし一方で、合わない考えを流さずに受容しようとすることによってストレスが発生する可能性もある。

社会的クリシン志向性が抑うつと予防するかどうかを検討することは、個人的価値をより一層高めるという点で重要で価値のあることと言えるだろう。また、この関係を把握することにより、クリティカルシンキング教育を行う際に留意すべき点が見えてくると考えられる。

方法

ここでは、調査1のうちから、第4章で短縮された社会的クリシン志向性尺度15項目版、CES-D 尺度16項目版、改訂版RSQ & RRS 尺度、認知的統制尺度、拡張版反応スタイル尺度、人生の志向性に関する尺度13項目版の6つの尺度を用いて検討を行う。

結果と考察

1. 単純相関による社会的クリシン志向性と各尺度との関係の検討

社会的クリシン志向性とその他の尺度との関連を調べるため、単純相関分析を行った (Table5-1, Table5-2, Table5-3)。

Table5-1 社会的クリシン志向性と他の変数との相関一覧 Times1

	社会的 クリシン 志向性	対人的 柔軟性	論理の 重視	脱軽信	真正性	探究心
うつ全体	-.253 **	-.240 **	-.152 n.s.	-.173 *	-.169 *	-.219 **
抑うつ感	-.254 **	-.225 **	-.137 n.s.	-.183 *	-.179 *	-.225 **
不安症状	-.209 *	-.245 **	-.165 *	-.128 n.s.	-.123 n.s.	-.137 n.s.
孤立感	-.179 *	-.119 n.s.	-.075 n.s.	-.118 n.s.	-.121 n.s.	-.232 **
考え込み型反応	.150 n.s.	.181 *	.205 *	.026 n.s.	.026 n.s.	.166 *
自己理解	.083 n.s.	.104 n.s.	.115 n.s.	-.015 n.s.	.007 n.s.	.133 n.s.
問題解決的考え込み	.205 *	.228 **	.249 **	.051 n.s.	.122 n.s.	.171 *
否定的考え込み	.079 n.s.	.114 *	.143	.032 n.s.	-.079 n.s.	.103 n.s.
認知的統制	.302 ***	.281 **	.302 ***	.100 n.s.	.308 ***	.204 *
思考と行動の検討	.197 *	.195 *	.195 **	.079 n.s.	.200 n.s.	.105
破局的思考の緩和	.297 ***	.265 **	.298 ***	.086 n.s.	.302 ***	.224 **
反応スタイル(対処行動量)	.163 n.s.	.233 **	.222 **	-.044 n.s.	.093 n.s.	.187 *
問題への直面化	.272 **	.270 **	.296 n.s.	.073 n.s.	.208 *	.234 **
行動的回避	-.083 n.s.	-.014 n.s.	-.046 n.s.	-.130 n.s.	-.082 n.s.	-.007 n.s.
気分転換	.166 *	.188 *	.164 n.s.	.051 n.s.	.133 n.s.	.124 n.s.
思考的回避	.109 n.s.	.179 *	.148 n.s.	-.011 n.s.	.073 n.s.	.069 n.s.
ネガティブな内省	-.056 n.s.	.020 n.s.	.006 n.s.	-.088 n.s.	-.176 *	.049 n.s.

* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

Table5-2 社会的クリシン志向性と他の変数との相関一覧 Times2

	社会的 クリシン 志向性	対人的 柔軟性	論理の 重視	脱軽信	真正性	探究心
うつ全体	-.056 n.s.	-.065 n.s.	.020 n.s.	-.058 n.s.	-.065 n.s.	-.033 n.s.
抑うつ感	-.003 n.s.	-.012 n.s.	.079 n.s.	-.025 n.s.	-.013 n.s.	-.022 n.s.
不安症状	-.107 n.s.	-.121 n.s.	-.052 n.s.	-.096 n.s.	-.129 n.s.	-.001 n.s.
孤立感	-.096 n.s.	-.084 n.s.	-.053 n.s.	-.040 n.s.	-.047 n.s.	-.157 n.s.
考え込み型反応	.121 n.s.	.177 *	.206 *	-.002 n.s.	.071 n.s.	.070 n.s.
自己理解	.041 n.s.	.151 n.s.	.111 n.s.	-.060 n.s.	.030 n.s.	-.020 n.s.
問題解決的考え込み	.167 *	.185 *	.215 *	.043 n.s.	.123 n.s.	.126 n.s.
否定的考え込み	.101 n.s.	.107 n.s.	.210 *	.017 n.s.	.018 n.s.	.079 n.s.
認知的統制	.176 *	.167 *	.184 *	.099 n.s.	.137 n.s.	.110 n.s.
思考と行動の検討	.207 *	.202 *	.183 *	.082 n.s.	.203 *	.162 n.s.
破局的思考の緩和	.095 n.s.	.086 n.s.	.125 n.s.	.081 n.s.	.042 n.s.	.033 n.s.
反応スタイル(対処行動量)	-.108 n.s.	-.040 n.s.	.001 n.s.	-.078 n.s.	-.199 *	-.091 n.s.
問題への直面化	.130 n.s.	.139 n.s.	.184 *	.062 n.s.	.039 n.s.	.102 n.s.
行動的回避	-.181 *	-.115 n.s.	-.083 n.s.	-.139 n.s.	-.252 **	-.097 n.s.
気分転換	-.106 n.s.	-.013 n.s.	-.071 n.s.	-.105 n.s.	-.037 n.s.	-.167 *
思想的回避	-.135 n.s.	-.043 n.s.	-.081 n.s.	-.122 n.s.	-.162 n.s.	-.095 n.s.
ネガティブな内省	.054 n.s.	.042 n.s.	.068 n.s.	.141 n.s.	-.113 n.s.	.025 n.s.
首尾一貫感覚	.004 n.s.	.006 n.s.	-.081 n.s.	-.046 n.s.	.080 n.s.	.072 n.s.
有意味感	.076 n.s.	.088 n.s.	-.030 n.s.	.018 n.s.	.128 n.s.	.099 n.s.
把握可能感	-.106 n.s.	-.112 n.s.	-.156 n.s.	-.090 n.s.	-.020 n.s.	-.033 n.s.
処理可能感	.019 n.s.	.025 n.s.	-.039 n.s.	-.067 n.s.	.108 n.s.	.081 n.s.

* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

その結果、全体として社会的クリシン志向性は、認知的統制や「問題解決的考え込み」に対して有意な正の相関を有しており、抑うつに対して予防的な側面をもつことが示された。しかしながら、Times1 では社会的クリシン志向性と抑うつとの間に見られた相関が、Times2 ではすべて見られなくなり、また、考え込み型反応や認知的統制との間にある相関については、Times2 も Times1 と同様の傾向を示していたものの、係数の値は小さくなっていった。

抑うつについての相関がみられなくなった理由としては、回答者の抑うつの質に変化があったことが考えられる。本調査回答者の抑うつの因子構造は、Times1 と Times2 で異なるものとなっていた（第2章参照）。そのため、Times1 で見られた相関が Times2 では消えてしまったと考えられる。

考え込み型反応や認知的統制、反応スタイルについては、Times1 と Times2 の間で変化がなかったことが確認されている（第2章参照）。今回、Times1 と Times2 で相関係数の

値が変わってしまったことについて考える要因としては、質問紙構成の影響が考えられるのかも知れない。Times1 については短縮版と同一の 15 項目のみを取り出して尺度得点を算出しているため、Times1 と Times2 で用いられている項目は同一である。しかしながら、今回、Times1 では中西ら (2006) で使用された 27 項目をすべて用いて質問紙を構成し、Times2 では短縮版の 15 項目のみで質問紙を構成している。質問紙回答の時点で他の項目があったかどうか、回答に影響した可能性がある。特に「対人的柔軟性」について、Times1 においては該当項目が 7 項目であったが、短縮版では 3 項目のみで因子を構成していた。また、短縮版作成の段階で「論理・証拠の重視」において中核となっていた項目「17. 確たる証拠の有無にこだわる」を抜いて、「論理の重視」因子を構成している (第 4 章参照)。これらの項目がないことによって、回答者の中にあるスキーマをうまく刺激できなかったのかも知れない。本研究の第 4 章で作成された短縮版社会的クリシン志向性尺度であるが、その有効性に疑義が示されることとなった。

続いて、Times1 の社会的クリシン志向性と Times2 の各変数との相関関係を調べた結果 (Table5-3)、Times1 時点での社会的クリシン志向性は Times2 の問題解決的考え込みや認知的統制との間に有意な正の相関関係が見られた。特に社会的クリシン志向性の中核的要素である「対人的柔軟性」は、「否定的考え込み」以外の考え込み型反応、認知的統制の両因子と .23-.34 の相関を示していた。特に「認知的統制」全体との相関係数は $r = .345$ と高い値を示しており、これは「思考と行動の検討」($r = .295$)、「破局的思考の緩和」($r = .272$) 単体の時よりも高い値であった。

また、「対人的柔軟性」と「論理の重視」は反応スタイルの「問題への直面化」と有意な正の相関を示しており、これらについて志向性を持つことが、問題に対して前向きに取り組もうとする行動を促している可能性が示された。一方で、「真正性」は反応スタイルの「行動的回避」($r = -.201$)、「ネガティブな内省」($r = -.207$) と負の相関を示しており、自分や他者に対して真正であろうとする志向性が、問題事由から逃げずに取り組もうとする行動を促している可能性が示された。

「探究心」と他の各因子との間に相関関係は見出されなかった。

Table5-3 Times1の社会的クリシン志向性とTimes2の他の変数との相関一覧

	Times1						
	社会的 クリシン 志向性	対人的 柔軟性	論理の 重視	脱軽信	真正性	探究心	
うつ全体	-.109 n.s.	-.154 n.s.	-.085 n.s.	-.061 n.s.	-.126 n.s.	.000 n.s.	
抑うつ感	-.099 n.s.	-.130 n.s.	-.082 n.s.	-.046 n.s.	-.114 n.s.	-.018 n.s.	
不安症状	-.085 n.s.	-.147 n.s.	-.083 n.s.	-.071 n.s.	-.101 n.s.	.074 n.s.	
孤立感	-.129 n.s.	-.142 n.s.	-.023 n.s.	-.042 n.s.	-.147 n.s.	-.148 n.s.	
考え込み型反応	.148 n.s.	.252 **	.136 n.s.	.055 n.s.	.070 n.s.	.076 n.s.	
自己理解	.136 n.s.	.235 **	.122 n.s.	.084 n.s.	.055 n.s.	.032 n.s.	
問題解決的考え込み	.208 *	.291 ***	.219 **	.067 n.s.	.133 n.s.	.122 n.s.	
否定的考え込み	.006 n.s.	.090 n.s.	-.027 n.s.	-.028 n.s.	-.029 n.s.	.033 n.s.	
認知的統制	.283 **	.345 ***	.182 *	.170 *	.269 **	.122 n.s.	
思考と行動の検討	.215 *	.295 ***	.107 n.s.	.117 n.s.	.179 *	.129 n.s.	
T2 破局的思考の緩和	.245 **	.272 **	.181 *	.157 n.s.	.252 **	.076 n.s.	
反応スタイル(対処行動量)	-.003 n.s.	.047 n.s.	.027 n.s.	.005 n.s.	-.081 *	-.009 n.s.	
問題への直面化	.167 *	.205 *	.102 *	.129 n.s.	.081 n.s.	.111 n.s.	
行動的回避	-.120 n.s.	-.104 n.s.	-.031 n.s.	-.038 n.s.	-.201 *	-.098 n.s.	
気分転換	.037 n.s.	.072 n.s.	-.010 n.s.	-.017 n.s.	.092 n.s.	.021 n.s.	
思考的回避	-.025 n.s.	.104 n.s.	.048 n.s.	-.125 n.s.	-.076 n.s.	.013 n.s.	
ネガティブな内省	-.051 n.s.	-.010 n.s.	-.069 n.s.	.134 n.s.	-.207 *	-.112 n.s.	
首尾一貫感覚	.049 n.s.	-.002 n.s.	.042 n.s.	-.037 n.s.	.175 *	.039 n.s.	
有意味感	.099 n.s.	.049 n.s.	.054 n.s.	.058 n.s.	.158 n.s.	.057 n.s.	
把握可能感	-.041 n.s.	-.056 n.s.	-.067 n.s.	-.061 n.s.	.092 n.s.	-.048 n.s.	
処理可能感	.020 n.s.	-.032 n.s.	.061 n.s.	-.094 n.s.	.157 n.s.	.034 n.s.	

* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

2. 抑うつに対する社会的クリシン志向性と各尺度との関係の検討

第3章4節で検討された抑うつに対する2時点でのモデルについて、社会的クリシン志向性をモデルに組み込んで検討を行った。Times1での社会的クリシン志向性(潜在変数)が、Times1の各変数に対して影響を与え、Times1の各変数がTimes2の社会的クリシン志向性(潜在変数)に影響を与え、さらにそのTimes2の社会的クリシン志向性がTimes2の各変数に影響を与えるという仮定に従い、パスを設定した。

初期適合度はGFI = .871、AGFI = .820、CFI = .967、RMSEA = .041 (90% C.I. : .023 - .055)、SRMR = .053であった。

その後、有意でないパスの削除や、修正指標に従ったパスの追加などによってモデル修正を行い、最終的にFigure5-1のモデルを採択した(Table5-4、Table5-5)。適合度はGFI = .865、AGFI = .823、CFI = .969、RMSEA = .039 (90% C.I. : .020 - .053)、SRMR = .057、AIC=5800.027、BIC=6048.314であった。

Table5-4 社会的クリシン志向性を組み込んだ2時点でのモデル パス係数

従属変数	独立変数	パス係数	R ²
思考と行動の検討_T1	社会的クリシン志向性_T1	.251 **	.063
破局的思考の緩和_T1	社会的クリシン志向性_T1	.287 **	.218
	思考と行動の検討_T1	.302 ***	
自己理解_T1	思考と行動の検討_T1	.329 ***	.108
問題解決的考え込み_T1	思考と行動の検討_T1	.216 *	.361
	破局的思考の緩和_T1	.275 ***	
	自己理解_T1	.303 ***	
否定的考え込み_T1	破局的思考の緩和_T1	-.205 **	.458
	自己理解_T1	.508 ***	
	問題解決的考え込み_T1	.292 ***	
うつ全体_T1	社会的クリシン志向性_T1	-.228 *	.303
	破局的思考の緩和_T1	-.232 **	
	否定的考え込み_T1	.395 ***	
社会的クリシン志向性_T2	社会的クリシン志向性_T1	.497 ***	.247
思考と行動の検討_T2	社会的クリシン志向性_T1	.186 *	.272
	思考と行動の検討_T1	.464 ***	
破局的思考の緩和_T2	思考と行動の検討_T2	.156 *	.492
	破局的思考の緩和_T1	.581 ***	
	うつ全体_T1	-.165 *	
自己理解_T2	思考と行動の検討_T2	.325 ***	.290
	自己理解_T1	.381 ***	
問題解決的考え込み_T2	社会的クリシン志向性_T2	.114 †	.560
	思考と行動の検討_T2	.126 *	
	破局的思考の緩和_T2	.229 ***	
	自己理解_T2	.365 ***	
	問題解決的考え込み_T1	.350 ***	
否定的考え込み_T2	破局的思考の緩和_T2	-.194 **	.510
	自己理解_T2	.366 ***	
	問題解決的考え込み_T2	.361 ***	
	否定的考え込み_T1	.223 ***	
うつ全体_T2	自己理解_T2	.249 ***	.644
	うつ全体_T1	.707 ***	
	破局的思考の緩和_T2	-.110 †	
对人的柔軟性_T1	对人的柔軟性_T2	.448 ***	
証拠の重視_T1	証拠の重視_T2	.083 n.s.	
脱軽信_T1	脱軽信_T2	.468 ***	
真正性_T1	真正性_T2	.481 ***	
探究心_T1	探究心_T2	.424 ***	
抑うつ感_T1	抑うつ感_T2	.285 *	
不安症状_T1	不安症状_T2	.583 **	
孤立感_T1	孤立感_T2	.319 **	
うつ全体_T2	否定的考え込み_T2	.012 n.s.	

† < .10 * p < .05 ** p < .01 *** p < .001

Table5-5 社会的クリシシ志向性を組み込んだ2時点での対するモデル 潜在変数

従属変数	独立変数	パス係数	R ²
対人的柔軟性_T1	← 社会的クリシシ志向性_T1	.797	.636
論理の重視_T1	←	.729 ***	.531
脱軽信_T1	←	.471 ***	.221
真正性_T1	←	.734 ***	.539
探究心_T1	←	.688 ***	.474
抑うつ感_T1	← うつ全体_T1	.817	.667
不安症状_T1	←	.881 ***	.777
孤立感_T1	←	.750 ***	.562
対人的柔軟性_T2	← 社会的クリシシ志向性_T2	.756	.571
論理の重視_T2	←	.862 ***	.744
脱軽信_T2	←	.479 ***	.229
真正性_T2	←	.696 ***	.485
探究心_T2	←	.746 ***	.556
抑うつ感_T2	← うつ全体_T2	.749	.561
不安症状_T2	←	.898 ***	.806
孤立感_T2	←	.739 ***	.545

† < .10 * p < .05 ** p < .01 *** p < .001

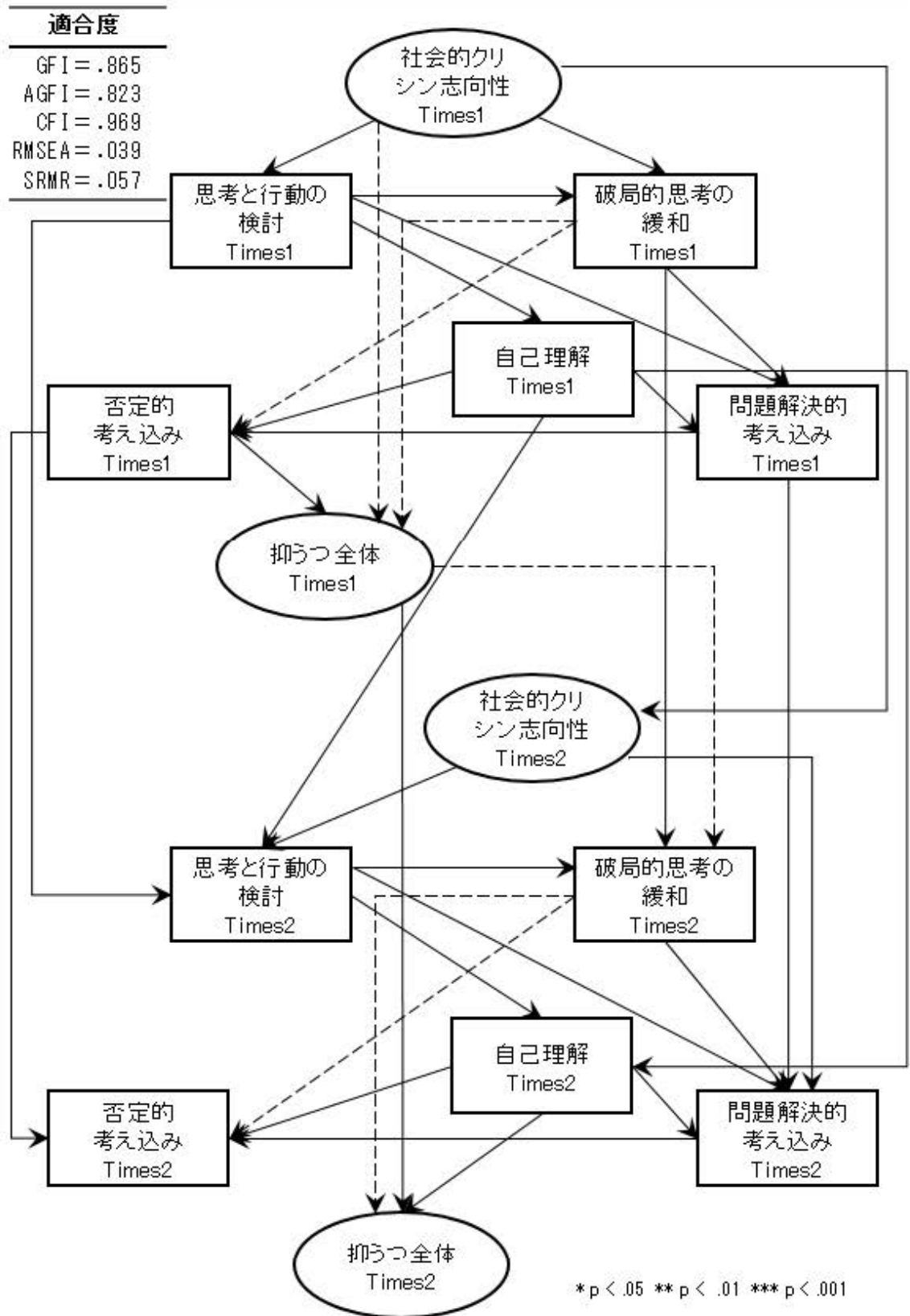


Figure5-1 Times1の社会的クリシン志向性を組み込んだ2時点における抑うつに対するモデル

Figure5-1 のモデルは、GFI と AGFI の値が.90 を下回っており、適合が良いとは言えないことから、本モデルの係数を解釈することは危険である。しかしながら、少なくとも、社会的クリシン志向性は抑うつを促進するようには働かないであろうことが確認された。本モデルからは、抑うつを促進するどころか、むしろ抑うつを直接低める効果や、同時点の「思考と行動の検討」を促す効果を持っていることが示唆されている。また、Times2 の社会的クリシン志向性は Times1 の社会的クリシン志向性のみから影響を受けているが、 R^2 は.247 とそれほど高くなかった。このことから、今回扱った変数からは社会的クリシン志向性の促進に関する示唆は得られなかったものの、前時点の社会的クリシン志向性で予測できる割合は約 3 割であり、今回扱わなかった何らかの変数が社会的クリシン志向性に影響を与えている可能性が示唆された。

なお、Figure5-1 の修正指標は Times1 及び Times2 の「探究心」の観測変数と Times2 の「不安症状」との間において高い値を示しており、両者の間に相関を仮定できることを示していた。この相関を仮定した場合、適合度は GFI = .876、AGFI = .835、CFI = .985、RMSEA = .027 (90% C.I. : .000 – .044)、SRMR = .056、AIC=5774.436、BIC=6031.593 まで改善した (Table5-6、Table5-7)。その他、修正指標は Times1、Times2 の抑うつの各観測変数と、Times1、Times2 の社会的クリシン志向性の間に関係を設定するよう示していたが、その値は値は 3.0～5.0 程度と低めであったため、ここでモデルの改善を打ち切った。

「探究心」は、「ものごとの理屈を考える」「他の人があきらめても、なお答えを探し求める」「できるだけ多くの事実や証拠を調べる」の 3 項目で構成された合成得点である。また「不安症状」は、「悲しいと感じる」「急に泣き出すことがある」「何か恐ろしい気持ちにする」「なかなか眠れない」「過去のことについてくよくよ考える」「一人ぼっちでさみしい」の 6 項目から構成された合成得点である。これら 2 つの観測変数の誤差分散に相関関係が想定できる、ということは何を意味しているのだろうか。そこから見えてくる姿は、(前後関係は異なるが) 疑問や不安なことがあった場合、そこから目を背けたり回避したりせず、問題や疑問の原因を探究しようと、問題や目的に注意を向け続ける姿ではないだろうか。

「探究心」によって問題や疑問の原因を探究し、いろいろな可能性を検討しているうちに「不安」が高まっていき、その「不安」からさらに探究行動を続ける、そうするとまた「不安」なことに遭遇する、といった循環した因果関係を想定できるのかもしれない。この場合、探究行動の結果得る情報は、ネガティブに歪んでいる可能性が想像される (気分一致効果)。

Table5-6 社会的クリシン志向性を組み込んだ2時点でのモデル 顕在変数

従属変数	独立変数	パス係数	R ²
思考と行動の検討_T1	← 社会的クリシン志向性_T1	.240 **	.057
破局的思考の緩和_T1	← 社会的クリシン志向性_T1	.285 **	.217
	← 思考と行動の検討_T1	.306 ***	
自己理解_T1	← 思考と行動の検討_T1	.329 ***	.108
問題解決的考え込み_T1	← 思考と行動の検討_T1	.216 *	.361
	← 破局的思考の緩和_T1	.275 ***	
	← 自己理解_T1	.303 ***	
否定的考え込み_T1	← 破局的思考の緩和_T1	-.205 **	.458
	← 自己理解_T1	.508 ***	
	← 問題解決的考え込み_T1	.292 ***	
うつ全体_T1	← 社会的クリシン志向性_T1	-.232 *	.307
	← 破局的思考の緩和_T1	-.232 **	
	← 否定的考え込み_T1	.398 ***	
社会的クリシン志向性_T2	← 社会的クリシン志向性_T1	.497 ***	.278
思考と行動の検討_T2	← 社会的クリシン志向性_T1	.179 *	.269
	← 思考と行動の検討_T1	.464 ***	
破局的思考の緩和_T2	← 思考と行動の検討_T2	.164 *	.492
	← 破局的思考の緩和_T1	.582 ***	
	← うつ全体_T1	-.163 *	
自己理解_T2	← 思考と行動の検討_T2	.325 ***	.290
	← 自己理解_T1	.381 ***	
問題解決的考え込み_T2	← 社会的クリシン志向性_T2	.111 †	.559
	← 思考と行動の検討_T2	.127 *	
	← 破局的思考の緩和_T2	.229 ***	
	← 自己理解_T2	.365 ***	
	← 問題解決的考え込み_T1	.349 ***	
否定的考え込み_T2	← 破局的思考の緩和_T2	-.194 **	.511
	← 自己理解_T2	.364 ***	
	← 問題解決的考え込み_T2	.361 ***	
	← 否定的考え込み_T1	.225 ***	
うつ全体_T2	← 自己理解_T2	.257 ***	.662
	← うつ全体_T1	.736 ***	
	← 破局的思考の緩和_T2	-.060 n.s.	
対人的柔軟性_T1	↔ 対人的柔軟性_T2	.448 ***	
証拠の重視_T1	↔ 証拠の重視_T2	.083 n.s.	
脱軽信_T1	↔ 脱軽信_T2	.468 ***	
真正性_T1	↔ 真正性_T2	.481 ***	
探究心_T1	↔ 探究心_T2	.424 ***	
抑うつ感_T1	↔ 抑うつ感_T2	.285 *	
不安症状_T1	↔ 不安症状_T2	.583 **	
孤立感_T1	↔ 孤立感_T2	.319 **	
うつ全体_T2	↔ 否定的考え込み_T2	.012 n.s.	

† < .10 * p < .05 ** p < .01 *** p < .001

Table5-7 社会的クリシ志向性を組み込んだ2時点での対するモデル 潜在変数

従属変数	独立変数	パス係数	R ²
対人的柔軟性_T1	← 社会的クリシ志向性_T1	.783	.613
論理の重視_T1	←	.744 ***	.553
脱軽信_T1	←	.476 ***	.227
真正性_T1	←	.720 ***	.518
探究心_T1	←	.703 ***	.494
抑うつ感_T1	← うつ全体_T1	.815	.665
不安症状_T1	←	.879 ***	.772
孤立感_T1	←	.754 ***	.569
対人的柔軟性_T2	← 社会的クリシ志向性_T2	.725	.525
論理の重視_T2	←	.883 ***	.779
脱軽信_T2	←	.478 ***	.228
真正性_T2	←	.664 ***	.441
探究心_T2	←	.769 ***	.592
抑うつ感_T2	← うつ全体_T2	.730	.533
不安症状_T2	←	.915 ***	.837
孤立感_T2	←	.754 ***	.569

† < .10 * p < .05 ** p < .01 *** p < .001

第6章：【研究4】 社会的クリシン志向性は、首尾一貫感覚を導くのか

問題と目的

社会的クリシンを行う者、社会的クリシンを志向する者には、良好なSOCを持つ者と似た特徴があるのではないだろうか。

社会的クリシン志向性が高い者が持っている特徴として、自分のことは自分で決め責任を持ちたい（安藤, 2003）というスタンスで人生やストレス対処に望み、世界を合理的に解釈したいという欲求（認知欲求）を持っていることが挙げられる（廣岡ら, 2001）。また、中西ら（2006）によると、社会的クリシンの経験が多い大学生は、「大学で学習すると自分ももっと成長できる」や「大学で学習することは、自分にとって重要だ」といった私的獲得価値を持ち、大学での学習にサポートを受けていると感じており（社会的環境）、自分の意志で学習することができ（効力予期）、大学での学習を面白いと感じており（興味価値）、また、「大学で学ぶ内容は、しっかりと学習すれば理解できる」という結果予期も感じているといった傾向が見られている。つまり、社会的クリシンカーは積極的に自分や世界（生活世界）に対して働きかけ、私的獲得価値や興味価値を持つことから、自分や世界に対する有意味感を感じており、効力予期や結果予期といった把握可能感・処理可能感を有し、さらに社会的環境などの汎抵抗資源（GRRs）を豊富に持っていることが示唆されている。

また、定義的な次元で言えば、クリシンカーは、合理性を前提に置き、思考の対象に自分自身の思考をも含めるなど自己統制的であるうえに、開かれた心を持っているとされる（道田, 2003）。加えて、Facione（1990）では、クリシンの統一的定義を目指して開催されたデルファイ・プロジェクト（the Delphi project）においてまとめられたクリシン技能の中核要素を6つ挙げており、自己統制（self-regulation）はそのうちのひとつに数えられている。また、83%以上のコンセンサスを得た良きクリシンカーの情意的側面（affective dispositions）として挙げられているなかに、「異なる世界観に対して開かれた心を持っていること（open mindedness regarding divergent world view）」（Facione, 1990, p.13. Table5）が挙げられている。このように、クリシンカーは自己統制的であり、かつ開かれた心を持つことが求められているが、これは5因子性格検査（FFPQ）でいうところの愛着性と統制性の次元に分類される（FFPQ 研究会, 2002）と考えられる。実際、平山・楠見（2004）

は、批判的思考態度尺度作成の際に、外的基準として FFPQ の愛着性—分離性因子より 12 項目（非共感—共感：6 項目，自己尊重—他者尊重：6 項目）を抜き出して使用しており、作成された批判的思考態度尺度の 4 因子のうち、証拠の重視を除く 3 因子と、各外的基準項目との間に相関関係が見いだされている。

SOC 研究においても、SOC と FFPQ との関連性を見た研究が存在し（銅直，2007）、ここでは SOC の総得点と統制性の総得点との間に正の相関（ $r = .460$ ）が、SOC の総得点と愛着性の総得点との間に正の相関（ $r = .518$ ）が確認されている。性格特性の視点で述べれば、クリシンカーに求められている要素と SOC を持つ者の性格特性には共通点が見いだせることとなる。クリシンが習得可能な技術と傾性であり、SOC が人間の深い部分にある生活世界規模の志向性であるとするならば、SOC を形成・強化していく要素のひとつとして、クリシン（特に社会的クリシン）を挙げることができるのかもしれない。すなわち、クリシンを行うことによって、日常に起こる緊張に適切に対処できた結果、その人の SOC が高まる可能性や、クリシンカーであろうと志向し行動することによって SOC が形成・強化されていくという可能性を考慮できるのではないだろうか。

以上の点から、本章では、社会的クリシン志向性と SOC との関連について検討する。

方法

ここでは、調査 2 のうちから、第 4 章で短縮された社会的クリシン志向性尺度 15 項目版、社会的クリシン行動尺度 15 項目版、人生の志向性に関する尺度 13 項目版、ENDCOREs 尺度、社会的クリシン有効性認知尺度、社会的クリシン能力自己認知尺度、人格特性的自己効力感尺度の 7 つの尺度を用いて検討を行う。

結果と考察

1. 単純相関と偏相関分析による各尺度と首尾一貫感覚との関係の検討

首尾一貫感覚とその他の尺度との関連を探るため、単純相関分析を行った（Table5-1）。その結果、主として社会的クリシン志向性と首尾一貫感覚との間に有意な関係性は薄いですが、対人的柔軟性と有意感との間に有意な正の相関が見いだされた。その他、社会的クリシン行動と各種コミュニケーションスキルとの間の中程度の有意な正の相関がみられたことから、コミュニケーション行動やその得手不得手といった要素と、首尾一貫感覚との間には比較的強めの関係があることが確認されたと言える。

Table6-1 首尾一貫感覚と他の変数との相関一覧

	Times1				Times2			
	首尾一貫感覚	有意味感	把握可能感	処理可能感	首尾一貫感覚	有意味感	把握可能感	処理可能感
社会的クリシン志向性	.098 n.s.	.170 *	.012 n.s.	.037 n.s.	.002 n.s.	.091 n.s.	-.014 n.s.	-.060 n.s.
対人的柔軟性	.143 n.s.	.276 **	.013 n.s.	.031 n.s.	.036 n.s.	.199 **	-.069 n.s.	-.047 n.s.
論理の重視	-.073 n.s.	.000 n.s.	-.070 n.s.	-.101 n.s.	.015 n.s.	.059 n.s.	-.010 n.s.	-.011 n.s.
脱軽信	.024 n.s.	.043 n.s.	.039 n.s.	-.019 n.s.	-.107 n.s.	-.095 n.s.	-.054 n.s.	-.100 n.s.
真正性	.151 n.s.	.169 *	.063 n.s.	.112 n.s.	.008 n.s.	.139 n.s.	-.041 n.s.	-.070 n.s.
探究心	.105 n.s.	.131 n.s.	-.018 n.s.	.111 n.s.	.100 n.s.	.122 n.s.	.124 n.s.	.024 n.s.
社会的クリシン行動	—	—	—	—	.220 **	.369 ***	.181 *	.028 n.s.
対人的柔軟性	—	—	—	—	.256 **	.450 ***	.174 *	.037 n.s.
論理の重視	—	—	—	—	.154 *	.237 **	.154 *	.020 n.s.
脱軽信	—	—	—	—	.226 **	.372 ***	.159 *	.050 n.s.
真正性	—	—	—	—	.164 *	.263 **	.139 n.s.	.029 n.s.
探究心	—	—	—	—	.094 n.s.	.172 *	.109 n.s.	-.019 n.s.
首尾一貫感覚		.765 ***	.716 ***	.850 ***		.751 ***	.761 ***	.894 ***
有意味感	.765 ***		.291 ***	.449 ***	.751 ***		.339 ***	.464 ***
把握可能感	.716 ***	.291 ***		.490 ***	.761 ***	.339 ***		.617 ***
処理可能感	.850 ***	.449 ***	.490 ***		.894 ***	.464 ***	.617 ***	
コミュニケーションスキル	.490 ***	.496 ***	.398 ***	.268 ***	.353 ***	.473 ***	.290 ***	.139 n.s.
自己統制	.400 ***	.306 ***	.350 ***	.293 ***	.333 ***	.314 ***	.354 ***	.188 *
表現力	.434 ***	.444 ***	.315 ***	.260 **	.362 ***	.470 ***	.258 **	.177 *
解読力	.251 **	.312 ***	.268 ***	.035 n.s.	.114 n.s.	.258 ***	.170 *	-.083 n.s.
自己主張	.249 **	.230 **	.241 **	.128 n.s.	.255 **	.265 **	.263 **	.128 n.s.
他者受容	.407 ***	.463 ***	.267 ***	.220 **	.264 ***	.408 ***	.144 n.s.	.104 n.s.
関係調整	.448 ***	.448 ***	.337 ***	.270 ***	.308 ***	.460 ***	.163 *	.136 n.s.
社会的クリシン 有効性認知	.202 **	.288 ***	.047 ***	.119 ***	.165 *	.259 **	.047 n.s.	.087 n.s.
社会的クリシン 能力自己認知	.425 ***	.403 ***	.311 ***	.283 ***	.311 ***	.383 ***	.267 ***	.143 n.s.
人格特性的 自己効力感	—	—	—	—	.559 ***	.533 ***	.446 ***	.397 ***

* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

しかしながら、各種コミュニケーションスキルはその得意-不得意を問題としており、その背景には効力感がある。社会的クリシン行動についても、実際にその行動を行ったことの背景には、その行動への効力感を想定できる。全般的な効力感と首尾一貫感覚を切り分けて捉えるなら、この全般的な効力感を統制する必要がある。そのため、Times2では人格特性的自己効力感に関する尺度を盛り込み、社会的クリシン行動やコミュニケーションスキルと首尾一貫感覚との間にある相関の統制を図った。Table5-2は、左列に人格特性的自己効力感を統制しない相関係数（単純相関係数）を、右列に人格特性的自己効力感を統制した相関係数（偏相関係数）を示したものである。

首尾一貫感他変数の相関

	首尾一貫感							
	首尾一貫感		有意感		抑圧感		処理感	
	統制なし	統制あり	統制なし	統制あり	統制なし	統制あり	統制なし	統制あり
社会的志向性	.0	.0-	.0	.0	.0-	.0-	.0-	.0-
対人的柔軟性	.0	.0	.9	.0	.0-	.0-	.0-	.0-
論理重視	.0	.0	.0	.0	.0-	.0	.0-	.0
臆羞	.0-	.0-	.0-	.0-	.0-	.0-	.0-	.0-
真性	.0	.0-	.9	.0	.0-	.0-	.0-	.0-
探心	.0	.0	.2	.2	.2	.2	.2	.0
社会的行動	.0	.0-	.0	.4	.0	.0-	.0	.0-
対人的柔軟性	.0	.0-	.0	.2	.7	.0-	.0	.0-
論理重視	.5	.0-	.2	.0	.5	.0	.0	.0-
臆羞	.0	.0-	.2	.0	.5	.0-	.0	.0-
真性	.6	.0-	.0	.2	.9	.0	.0	.0-
探心	.0	.0-	.2	.0-	.0	.0-	.0-	.0-
首尾一貫感			.5	.6	.0	.0	.0	.0
有意感			.5	.6	.9	.3	.4	.2
抑圧感			.9	.3	.0	.0	.0	.0
処理感			.4	.2	.0	.0	.0	.0
コミュニケーション	.3	.0	.2	.2	.0	.0	.0	.0-
自制力	.3	.0	.2	.1	.0	.0	.0	.0
表現力	.0	.0	.0	.0	.0	.0	.7	.0-
解力	.4	.0-	.0	.1	.0	.0	.0-	.0-
自己主張	.2	.0	.0	.0	.0	.0	.2	.0-
他者受容	.0	.0	.0	.0	.4	.0-	.0	.0-
関係性	.0	.0	.0	.0	.0	.0-	.0	.0-
社会的存在	.0	.0	.0	.0	.0	.0-	.0	.0
社会的自己認識	.30	.32	.00	.0-				

右列対角線は各変数の自己相関係数

結果として、社会的クリシン行動やコミュニケーションスキルと首尾一貫感の間にあった相関関係は、人格特性的自己効力感を統制することによって弱まり、多くは無相関となった。これは、社会的クリシン行動やコミュニケーションスキルと首尾一貫感の関係性について、大部分が人格特性的自己効力感で説明できることを意味している。この傾向は特に首尾一貫感全体で顕著であった。それに対して、下位の因子である有意感では、全般的な効力感を統制した場合でも、相関係数が.1 から.3 程度を示していることから、全般的な効力感ではない部分で関連が見られた。有意感との間に相関が見いだされた因子は、社会的クリシン志向性の対人的柔軟性 ($r = .202$)、社会的クリシン行動の対人的柔軟性 ($r = .248$)、コミュニケーションスキルでは表現力 ($r = .285$)、他者受容 ($r = .265$)、

関係調整 ($r = .267$) といったものであり、これらの背後には、多様な価値観や人間性を受け入れることができるゆとりや、人生や出来事に対する文字通りの有意味感が見て取れる。これらのことから、全般的な効力感を取り除いた場合であっても、社会的クリシン行動と各種コミュニケーションスキルとの間に正の関係があることが示されたと言えよう。

一方で、もともと人格特性的自己効力感と最も類似していると目していた処理可能感と人格特性的自己効力感との間の相関は $r = .397$ であり、把握可能感 ($r = .446$) や有意味感 ($r = .533$) と比べて低い値を示していた。また、コミュニケーションスキルや社会的クリシン行動との相関も把握可能感や有意味感ほどは見られなかった。今回、有意味感、把握可能感、処理可能感と分類してはいるものの、それらの間の相関は極めて高く、弁別性に疑問が付されている (第 2 章参照)。特に、処理可能感と目されている項目が、実際に測っているものが、「処理可能感」というラベルどおりではない可能性も否定できない。今後、首尾一貫感覚を下位因子のレベルで検討していくためには、これら 3 つの因子を妥当に弁別できるような調査票の改良が求められていると言えるだろう。

2. 首尾一貫感覚の正体は人格特性的な自己効力感なのか？

単純相関分析と、人格特性的自己効力感を統制した偏相関分析では、結果が大きく異なることが明らかになった。このことから導かれる予測は 2 つある。ひとつは、首尾一貫感覚の下位尺度は、そのラベルの名称はさておいて、どうやら何らかの因子を弁別できている可能性である。もうひとつは、首尾一貫感覚が健康や幸福感などに与えている影響の正体は、人格特性的自己効力感であった可能性である。これについては、本研究で明らかにすることはできない。ただし、首尾一貫感覚と人格特性的自己効力感が異なる概念であることを検討する余地はある。背景理論は異なるが、定義的には、人格特性的自己効力感首尾一貫感覚と大部分が重複し、首尾一貫感覚に内包されるものであると考えられる。逆に、首尾一貫感覚のすべてが人格特性的自己効力感に含まれてしまう、ということは成り立たない。首尾一貫感覚の中には、人格特性的自己効力感が範疇に入れていない「なにか」があると考えられる。人格特性的自己効力感を統制しても、(多少の低減は見られるものの)首尾一貫の内部相関は高いままに保たれていたこと、及び、他の変数に対する影響がすべて消えたわけではないことからその点は示唆されていると考えられる。

健康や幸福感に対する追及は後続の研究に譲るとして、本研究ではできる限り人格特性的自己効力感を統制しながら分析を進めることとする。

Table6-3 SOCとSMGSEとの関係

従属変数:Times1	P-Value		独立変数:Times2
有意味感	.629	.000	有意味感
R ² = .555	-.160	.018	把握可能感
差分(R ² = .041)	.005	.942	処理可能感
	.254	.000	人格特性的自己効力感
把握可能感	.090	.274	有意味感
R ² = .262	.318	.000	把握可能感
差分(R ² = .015)	.077	.386	処理可能感
	.152	.066	人格特性的自己効力感
処理可能感	.183	.006	有意味感
R ² = .515	.024	.731	把握可能感
差分(R ² = .000)	.597	.000	処理可能感
	.002	.972	人格特性的自己効力感

※決定係数の差分について:決定係数の差分は、SMGSEを入れなかった場合の決定係数を減じた値

3. 首尾一貫感覚を導く要因の精査

Times2 の首尾一貫感覚の 3 因子を従属変数、Times1 の社会的クリシン志向性、Times1 のコミュニケーションスキルを独立変数、Times2 の人格特性的特性自己効力感を介在要因として、全ての独立変数から全ての従属変数にパスを引いたモデルを構築し、共分散構造分析を行った。その結果、GFI = 1.000、AGFI = 1.000、CFI = 1.000、RMSEA = .000、SRMR = .000 という、極めて高い適合度が得られた (Figure5-1)。結果が煩雑であるため、共分散や有意でなかったパスについては検討せず、有意となったパスを考察することとする。

人格特性的自己効力感に対するパスでは、脱軽信 ($r = -.15, p < .05$)、真正性 ($r = .24, p < .01$)、自己主張 ($r = .18, p < .05$) の 3 つが有意となった。

有意味感に対するパスでは、表現力 ($r = .23, p < .01$)、人格特性的自己効力感 ($r = .35, p < .001$) が有意になり、対人的柔軟性 ($r = .13, p = .10$) が有意傾向であった。

把握可能感に対するパスでは、自己統制 ($r = .21, p < .05$)、人格特性的自己効力感 ($r = .45, p < .001$) が有意となった。

処理可能感に対するパスでは、解読力 ($r = -.21, p < .05$)、人格特性的自己効力感 ($r = .38, p < .001$) が有意となった。

共分散は、有意味感と処理可能感 ($r = .34, p < .001$)、把握可能感と処理可能感 ($r = .57, p < .001$) が有意となったが、有意味感と把握可能感の間に共分散は見いだされなかった ($r = .06, p = .12$)。

モデルの決定係数は、人格特性的自己効力感は $R^2 = .32$ 、有意味感は $R^2 = .43$ 、把握可能感は $R^2 = .27$ 、処理可能感は $R^2 = .23$ であり、時間的に先行する社会的クリシン志向性と、コミュニケーションスキル (コミュニケーションへの特異不不得意認知) によって首尾一貫感覚の約 3 割が説明可能であることが示された。

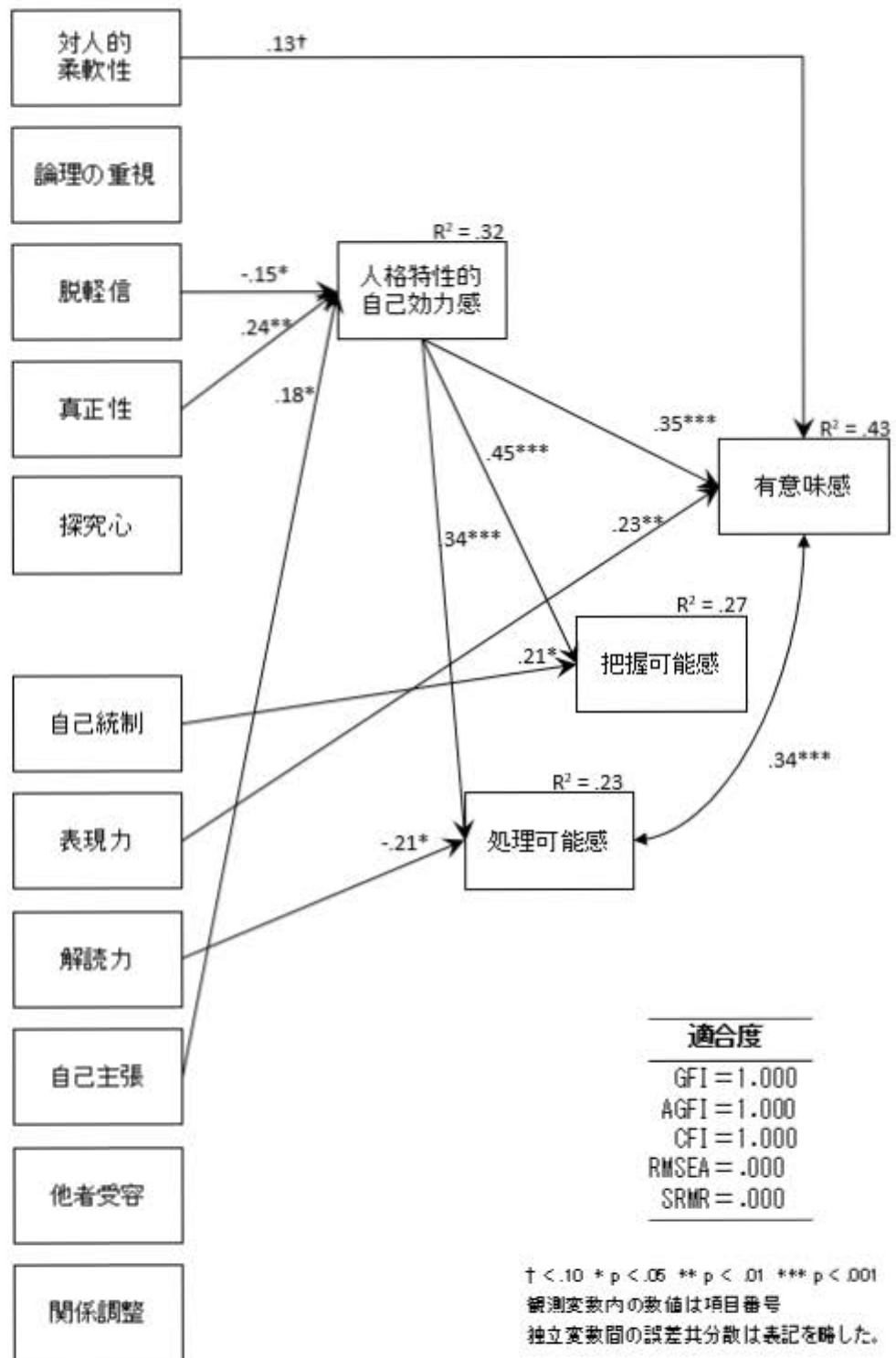


Figure5-1 首尾一貫感覚を導く諸要因の検討

その後、全てのパスが有意となるように、有意とならなかったパスや変数の削除、修正指標に従ったパスの追加といった探索を行った結果、最終的に Figure5-2 のモデルとなった。

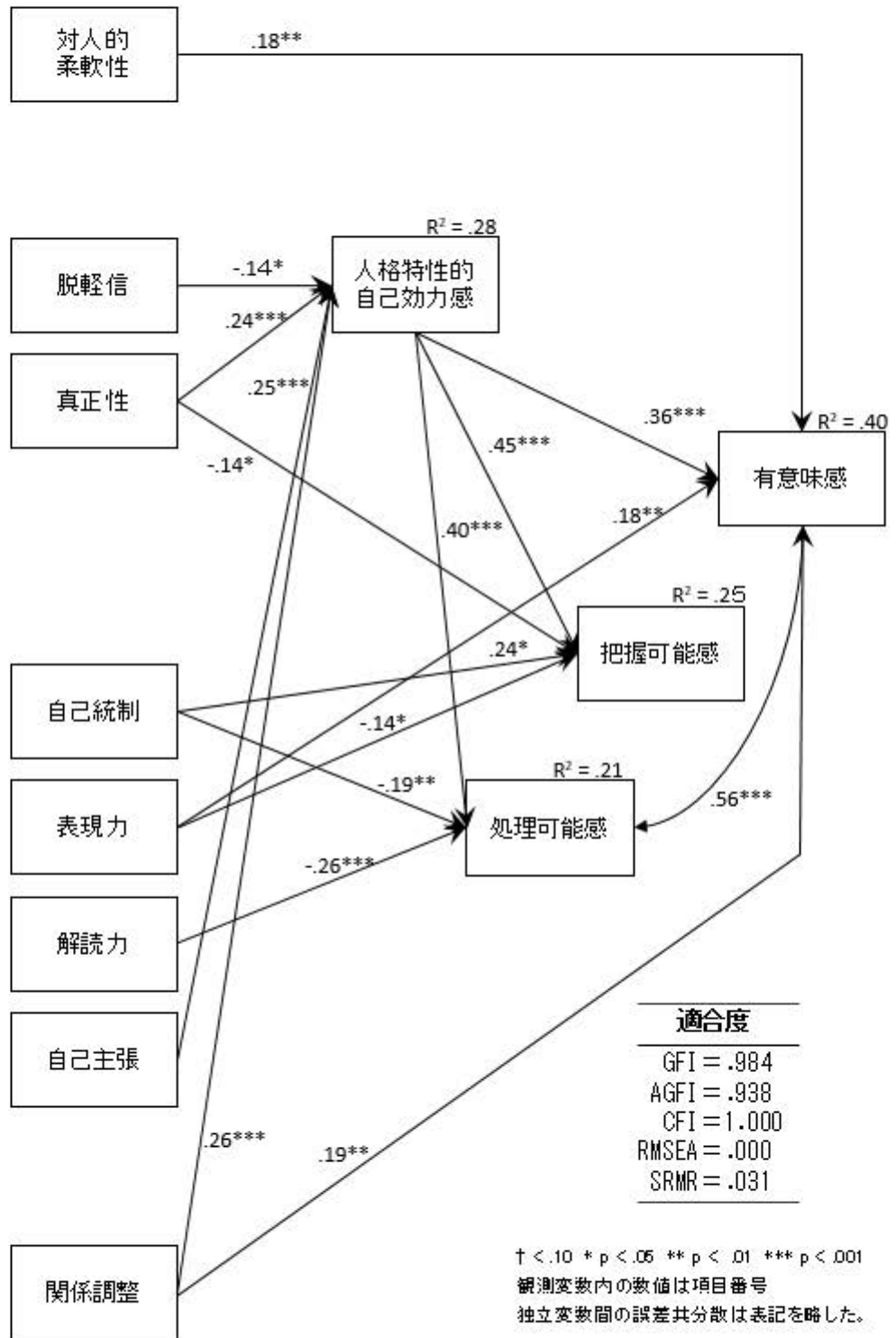


Figure5-2 首尾一貫感覚を導く諸要因の検討

しかしながら、適合度は $GFI = .984$ 、 $AGFI = .938$ 、 $CFI = 1.000$ 、 $RMSEA = .000$ (90% C.I. : $.000 - .053$)、 $SRMR = .000$) となり、各決定係数も初期のモデル ($GFI = 1.000$ 、 $AGFI = 1.000$ 、 $CFI = 1.000$ 、 $RMSEA = .000$ 、 $SRMR = .000$) を下回ったことから、有意でなくとも変数を残し、社会的クリシス全体、コミュニケーションスキル全体が首尾一貫感覚を導いているモデルを採用した。首尾一貫感覚を導くためには、コミュニケーションスキルのなかでも真正性、自己統制、表現力にアプローチすることの有効性が示唆された。

解読力に関しては、処理可能感に対して負のパスを示している。これは、解読が得意であると感じているものは、相手の意図を深読みしたり、相手の期待を過大に解釈したりする傾向があることを示唆しているのかもしれない。つまり、「相手の雰囲気や意図を読んでいる」という理解が、本人の思い込みである可能性である。

第7章：総合考察

0. 総合考察の方針について

本論文の題目は、「社会的クリティカルシンキング志向性は首尾一貫感覚を導くのか——抑うつとコミュニケーションスキルの視点から——」である。クリティカルシンキング教育の重要性とその個人的受益性について、クリシンが抑うつを低減する、という予防的な視点と、クリシンが健康を促進する、という先取的な視点という2つの方向性を持った研究である。本論文は、1)社会的クリティカルシンキング、2)首尾一貫感覚、3)抑うつ、4)コミュニケーションスキルという一見関連性の薄い4つの研究分野に渡っていることになる。総合考察では、それらのつながりに配慮しながら、ひとつひとつの分野における成果という形でまとめていく。その後、本研究の問題点と筆者の今後の研究計画について述べる。

1. コミュニケーションスキルに関する成果

1-1. 本研究における位置づけ

本研究におけるコミュニケーションスキルは、社会的クリティカルシンキングと首尾一貫感覚をつなぎ、具体的な介入方法の糸口とする概念という位置づけであった。社会的クリシン志向性が高い人はどのようなコミュニケーションスキルを持っているのか、首尾一貫感覚を持っている人はどのようなコミュニケーションスキルを持っているのかを検討することによって、この2つの概念の育成・教育にどのようにアプローチすればいいかの糸口を探った。そのために用いたのは、藤本・大坊（2007）にて開発、藤本（2012）によって精緻化された ENDCOREs 尺度であり、本研究は藤本・大坊（2007）の提案する ENDCORE モデルに対する検証の意味を含んでいる。

1-2. ENDCORE モデルは妥当であったのか

それでは、ENDCORE モデルは実際、妥当であったであろうか。結論は、妥当な可能性が高い、である。同時に、まだ改良・検討されるべき余地があることも示された。これらについて順に述べていく。

調査2において、同一対象者に2時点で ENDCOREs 尺度が使用された。その結果、Times1 では藤本（2012）で提示されたモデルが、 $GFI = .979$ 、 $AGFI = .925$ 、 $CFI = .987$ 、 $RMSEA$

= .061、SRMR = .047 という良好な適合度で採択された。Times2 においては、当初は問題のある指標も見られたが、修正指標に基づいてモデルの改良を試みた結果、藤本（2012）のモデルに若干の修正を加えるだけで、GFI = .980、AGFI = .905、CFI = .988、RMSEA = .079、SRMR = .030 という許容可能な適合度を得ることができた。これらのことから、ENDCORE モデルの構成要素と尺度的な妥当性は確認されたと言えるだろう。

1-3. ENDCORE モデルの改良余地はどこにあるのか

一方で、このモデルにはいまだ検討の余地があることも指摘された。Times2 で改良されたモデルを Times1 のデータに当てはめたところ、そちらの方が高い適合度となったのである。Times1 と Times2 は同一の対象者であるため、それは当然と言えば当然のことであるが、マイナーチェンジとはいえ、改良の点を指摘できたのは本研究の成果と言えるだろう。

その改良点であるが、藤本（2012）ではこのモデルの潜在因子として言語能力と関係調整という 2 つの因子を仮定していた。言語能力は、表現力と解読力の 2 つに影響を与える潜在因子として、関係調整は藤本・大坊（2007）では 1 つの観測変数とされていたが、実際は潜在因子であり、対人葛藤マネジメントと対人関係マネジメントの 2 種の観測変数をもつことが想定されていた。この 2 つの因子のうち、言語能力に関して、本研究からその想定とラベルは妥当であるのかという問いを発することができる。

1-4. 対人志向性因子という可能性

言語能力と目されていた因子を F とする。この F は、他者尊重の変数にも影響を与える潜在変数であることが修正指標より示唆された。そしてこの F は自己統制の観測変数と、関係調整の潜在変数と相関を持っていることも示唆された。現時点で、この F は自己主張以外の 5 要因すべてと関係を持っていることとなる。さらに、自己主張は自己統制と表現力からのパスを受けており、本研究ではさらに解読力へのパスも修正指標から示されていた。これは、F は間接的に自己主張ともつながっているということであり、F は ENDCORE モデルに含まれている 6 つの構成要素に影響を持っている可能性があるのである。つまり、F は ENDCORE モデルの 6 構成要素の背後にある 1 因子——例えば対人志向性因子として想定できるのではないだろうか。

本研究におけるコミュニケーションスキルはあくまで介在要因として扱っているため、ここより深入りはせず、後続の研究に譲ることとする。本研究におけるコミュニケーション

ンスキル（コミュニケーションの得手不得手意識）が果たした重要な役割は、その基礎的なスキルが首尾一貫感覚を導く可能性である。つまり、自己統制、表現力、解読力の側面から首尾一貫関係にアプローチできる可能性が示されたと考えられることである。

2. 首尾一貫感覚に関する成果

2-1. 首尾一貫感覚らしきものは確かに存在するらしい

本研究における首尾一貫感覚の位置づけは、「健康」の象徴であった。この概念は、心理学の分野ではまだあまり知られておらず、そのためこの概念が一体どういったものであるのかについては、日本国内ではまだあまり検討されていない。現状では、提唱者の A. アントノフスキーの定義と理論についての浸透を図っている段階であると同時に、尺度を用いてエビデンスを集めている段階であると考えられる。この概念が一体どういったものであるのか、アントノフスキーの理論は実際その通りであるのか、という理論的な点について、批判的な検討が加えられていないのが現状であろう。ただ、提唱者の A. アントノフスキー自身がこれを測定する尺度を開発しているため、理論的検討を飛ばして、確かに首尾一貫感覚はあり、健康や幸福に対して影響力を持っているらしい、というエビデンスのみが集まってくる状況にある。そして、その首尾一貫感覚らしきものは確かに存在するらしい、という知見は、抑うつとの相関関係において本研究でも確認された。

2-2. 理論・仮説の深い検証は心理学の分野が担うべき

首尾一貫感覚らしきもの、という持って回った表現をしているのは、首尾一貫感覚の尺度が測っているものがどうやら少々本来の想定と乖離しているのではないかという疑義による。首尾一貫感覚の尺度自体の頑健性と信頼性は、これまで検証されてきたように確かなものであることは本研究でも確認された。しかし、3 下位因子の相関が極めて高く、3 下位因子を妥当に弁別できているのかという疑問や、人格特性的自己効力感との相関のあり方から、処理可能感を測る項目と目されていたものが、本当にその測りたいものを測っていないのではないかという疑問を本研究の結果は投げかけている。「首尾一貫感覚尺度が測定しているものが首尾一貫感覚なのだ」という主張もありうるのかもしれないが、それでは理論研究が深まっていけない。これから首尾一貫感覚の研究を進めるうえで、3 つの下位因子の側面からアプローチすることは極めて有効であると思われ、そのための道具、すなわち 3 下位因子を妥当に弁別できる尺度が、今、求められていると言える。少なくとも、

今回使用した 13 項目版の尺度は、首尾一貫感覚全体を測るうえでの妥当性は担保されている（概念の中核を捉えている）ようである。今回使用した 13 項目版の尺度は短縮版であるので、29 項目版の尺度構成を基盤とし、そこから 3 下位因子を弁別できるように調整を加えることが今後必要なのではないだろうか。そして、その役割は心理学にこそ求められているのではないかと筆者は思うのである。

3. 抑うつに関する成果

3-1. 卒業論文の心残りは解消されたか

本研究の 2 つある方向性のうち、ひとつは社会的クリシスが抑うつの予防に役立つのではないか、という卒業研究（磯和,2008）の着想をすすめたものであった。そして、その心残りは本研究によって解消された。本研究における最も重要な成果は、この抑うつに関する成果にあると考える。それは、抑うつが認知や注意の柔軟性を奪う、という可能性が示唆された点である。

3-2. 抑うつが認知や注意の柔軟性を奪う、という可能性

これまで抑うつについて先行研究で積み上げられてきた知見 (c.f. 坂本・丹野・大野, 2005) と、本研究で示された結果は矛盾しない。本調査 1 では、認知的統制と反応スタイル理論を扱った。これらは両方とも、「すでに抑うつが生じている」という前提において、人がどのように認知し、行動するか、という点を扱ったものである。先行研究によって、認知的統制のうち、破局的思考の緩和という自分が抑うつ感情に対してうまく対処できるかという予期が、抑うつ低減に効果的であることが示されていたが、その点は本研究においても確認された。それだけでなく、実はこの、自分は抑うつ感情に対してうまく対処できる、という期待のみが、抑うつを低減しうる可能性がある、という可能性が示唆されたのである。

認知的統制と反応スタイルを同時に扱った研究は、筆者の卒業研究である磯和（2008）とそれをまとめなおした磯和・南（2014）以外では、荒井（2011）がある。この研究では認知的統制と考え込み型反応が不合理な信念とどのように関わっているかを検討しており、否定的考え込みによって依存的な不合理な信念が活性化され、感情コントロールや欲求不満耐性に関する不合理な信念が導かれることによって、否定的な思考から距離をおくことができなくなってしまう、という、ネガティブ・スパイラルの存在を示している。荒井(2011)

と本研究との差異は、考え込み型反応の扱いにある。荒井（2011）は塞ぎ込み型考え込み（否定的考え込みに相当）と省察型考え込み（問題解決的考え込みと自己理解が未分化）の2因子として扱っているが、本研究では、「否定的考え込み」「問題解決的考え込み」「自己理解」の3因子構造を想定している。この「問題解決的考え込み」と「自己理解」を弁別して考えることによって、これまでの先行研究の知見のうち、特に自己注目との関連性が明確となった。

本研究で得られた結果では、Times1とTimes2の時点を経て関わりあっている因子は、Times1の抑うつ全体がTimes2の破局的思考の緩和を有意に抑制している、という点と、Times1の自己理解がTimes2の思考と行動の検討を有意に促進している、という2点のみであり、それ以外はTimes1の構造がそのままTimes2に持ち越される形になっている。つまり、抑うつ感情が否定的考え込みを導き、その否定的考え込みが破局的思考の緩和を抑制する、という形で連鎖しているわけではなく、自己に対する否定的な考え込みが抑うつ感情を持続させ、その抑うつ感情が破局的思考の緩和を抑制する、すなわち「ネガティブな感情に対処できる」という効力予期をどんどん減らしていく。このように、ネガティブ・スパイラルは螺旋を描いて下降していく、という形ではなく、自己認知を否定的にする、という形によって毒のように蓄積されていく、と言った方が、モデルとしては正しいと言えるだろう。これは、坂本が提示した自己注目と抑うつの3段階モデル（坂本, 1998）の知見とも整合する結果である。そして、その注意をそらす、思考と行動の検討を行う、といった行動自体を抑制する、すなわち認知と思考の柔軟性を奪う、もしくは注意を集中させるという機能が、抑うつ感情自体に、もしかすればネガティブ感情全般に備わっているという可能性を、本研究は示唆していると言えるのではないだろうか。認知と思考の柔軟性が奪われたうえで、ネガティブ気分を感じている時に自己に注目することによって、ネガティブに歪んだ情報が補正されないまま、それが自己に関連付けられていく。その結果もたらされるものはネガティブな自己であり、それがさらに自己と周りの事象を過剰に結びつけていくのである。ここで自己から注意をそらすことを、抑うつ感情が抑制しているのだとすれば、抑うつが解消されることによって自己注目が解除される。逆に言えば抑うつ感情が解消されないことには、自己にあてた注意を逸らせないのである。そしてそれはある一定の時点を超えた時、すなわち、自分はネガティブな思考から逃れられないと認知されたとき、フェイタルなものになるのである。つまり、無力感を学習するのである。

3-3. 反応スタイル理論に関する研究の一里塚

少なくとも本研究はこれまでの反応スタイル理論に関する国内の研究に対して、一里塚を築いた可能性がある。反応スタイル理論において論点となっていた点として、気晴らし型反応や考え込み型反応の結果が一貫していない、ということがあり、近年でも松本(2008)や島津(2010)がその点について指摘し、反応スタイル尺度の作成、検討を行っている。この松本(2008)や島津(2010)が指摘し、改善している点は卒業研究(磯和, 2008)で行われた改訂版RSQ & RRS尺度の改善点と同じであり、松本(2008)は行動そのものに、島津(2010)はその行動の意図に着目している、という点に違いがある。磯和(2008)はここにさらに、坂本(1998)が指摘していた自己注目的な項目を見出しており、本研究ではその点を補強したうえで、2時点での抑うつと反応スタイルとの関係の検討を行った。そして自己理解自体はネガティブにも無関係にもなり得、その抑うつの予測力は抑うつが高まるにつれて強いものになり、ある一定以上になれば、それは否定的な考え込みよりも強い抑うつの予測因となる(磯和, 2008)。

反応スタイル理論について考える時、決定的に重要なのは、「抑うつ気分に対処できたかどうか」である。気晴らしなどの回避的な対処方略が抑うつに対して抑制的に働くときも促進的に働くときもある、という知見は、抑うつ対処に成功したか失敗したかの違いである。成功し、抑うつ気分から抜け出せたときは、文字通り回避方略が有効であったのだ。言い方を変えれば、回避方略によって抑うつ気分から抜け出せる、という効力予期に基づく対処としての回避を行い、抑うつから抜け出したのである。それによって抑うつ感情を一時的に解除することに成功すれば、その隙に自己にあてられた注意の焦点をずらし、ネガティブな自己情報処理から抜け出せる。それが成功する場合と失敗する場合の両方があるため、気晴らしや回避方略の結果が一貫しないのである。そして、考え込み型反応の中にも抑うつを予測しないものがあるのは、考えることによって抑うつ感情に対処できる場合と、できない場合があるからである。分析的考え込みや問題解決的考え込みは、抑うつ感情の対処のためや、抑うつに対処しようという動機づけの結果だ。この時点の考え込みは無害あるいは有益である。否定的考え込みが起こり、そしてそれが継続するのは、抑うつに打ちのめされた結果なのである。その結果、もはや抑うつに対処しようという思考や反応が起こらないのである。この状態に聞き覚えはないだろうか。学習性無力感だ。抑うつ対処として様々なことを試し行動したが、どうあっても抜け出せない。その結果、否定的な考えが反すうされ続けてしまうのだ。それがずっと続けばどうなるだろうか。ネガテ

ィブな認識は、自己どころか、その人の世界に対する認識すらネガティブに歪めかねない。すなわち、「首尾一貫感覚が下がっていく」のである。

3-4. 首尾一貫感覚の正体——学習性楽観認知、という可能性

首尾一貫感覚とはいったい何であるのか、という問いは本研究で扱うつもりはなかった私の疑問である。「そういうものがある」という前提で進めてきたのが本研究であった。しかし、期せずしてそのことに関するヒントを得ることができた。首尾一貫感覚の正体は、学習性無力感の裏返し、学習性の楽観認知なのではないだろうか。

先ほどの、否定的考え込みに至る道筋には、逆の方向性を想定することができる。この点を考える際にクリティカルになる要素が、自己に対する認識と、世界に対する認識である。前者は自己効力感であり、後者には首尾一貫感覚があてはまると思われる。抑うつ感情を感じたときに、参照する情報が何であるのか、それがどういう性質をもつのが決定的に重要になるのだ。では、感じる感情を逆にしよう。ポジティブ感情を感じた時、自己や世界に対して焦点をあてるのである。これは他者の働きかけであっても構わない。自分で焦点を当てることもできる。そして、そういう機能を持っているポジティブ感情として、達成感やフローといったものを想定できるだろう。この点は今後の研究に委ねたいところである。

4. 社会的クリシン志向性に関する成果

社会的クリシン志向性に関する成果は大きく **5** つある。

1 つめは、短縮版の社会的クリシン志向性尺度を作成できたことである。これによって、今後の社会的クリシン志向性研究がよりやりやすいものになったと言えるだろう。ただし、本研究はまた、短縮版クリシン志向性は検出力に問題がある可能性も示している。研究 3 で見られた抑うつとの負の相関関係の消失については、本来社会的クリシン志向性と抑うつとの間に相関関係はなく、Times1 で見られた相関は偶然もたらされたものであるという可能性と、社会的クリシン志向性と抑うつとの間には負の相関関係があるものの、短縮版社会的クリシン志向性尺度は社会的クリシン志向性の検出力が低く、相関がみられなかった可能性の両方が考えられる。この点に関しては追試が必要である。

2 つめは、志向性が確かに行動を導くことを確認できたことである。これは、社会的クリシンを行う能力が自分にあるかないかの自覚を統制しても、社会的クリシン志向性は社会

的クリシン行動を予測していたことから伺える。志向性が行動を導くのか、行動が志向性を導くのかについては循環的な因果関係が想定できるため、どちらが先かという話は難しい。しかし教育的介入を考えた場合、行動に直接アプローチをすることよりも、志向性にアプローチする方が現実的であろう。

3つめは、社会的クリシンが社会生活を送っていくうえで役に立つという有効性認知にアプローチすることによって、社会的クリシン志向性を刺激できる可能性である。心理的なクリシンの効用を、社会的状況に絡めて体系的に提示することで、社会的クリシンをしたい、という志向性を高めることができるだろう。あとはそのことを、機会をとらえて繰り返し提示することができれば、学生たちが社会的クリシン行動を取るように方向付けられるのではないだろうか。

4つめは、社会的クリシンに対する志向性を持つこと、すなわち、自分とは異なる他者の存在を意識し、人間の多様性を認めながら、偏ることなく他者を理解しようとし、文脈や状況によっては譲歩することができ、異なる他者や多様な価値観に対する寛容さを持つこと（元吉, 2011）に対する重要性を認識し、そうなりたいと志向することが、抑うつを抑制する可能性を示せたことである。これは、社会的クリシン志向性が、思考と行動を検討すること、及び、破局的な思考から距離を置くことを促進することによって間接的に抑制に貢献するのみではなく、場合によっては抑うつそのものを直接的に抑制する可能性が示唆された。このことについては、社会的クリシン志向性のようなメタ認知的知識を持つことそのものが抑うつに対して直接的に働いているという可能性と、社会的クリシン志向性を持つものは、対人関係が比較的良好でソーシャルサポートが得やすく、そのことが抑うつを低減している可能性、すなわち社会的クリシン志向性とソーシャルサポートが共編関係にあり、社会的クリシン志向性は抑うつに対して間接的に働いているという可能性の両方が考えられる。

最後のひとつは、社会的クリシンによって首尾一貫感覚が導かれる可能性を示せたことである。社会的クリシン志向性のなかでも、特に対人的な柔軟性を持ち、自分の中にある真正性を自覚しそれに適った行動をすることによって、首尾一貫感覚がもたらされる可能性がある。

5. まとめと今後の課題

本研究で示唆された首尾一貫感覚を導く要素は、コミュニケーションスキルのうち、自

己統制、表現力、解読力という基礎的なスキルに対する得手不得手意識と、社会的クリシン志向性のうち、特に对人的柔軟性と真正性であった。对人的柔軟性は社会的クリシンの最も象徴的な要素であることから、社会的クリシンはたしかに首尾一貫感覚を導くと言えるだろう。また、クリシンをしたいという志向性によって「考える」ことを促進するよう働きかけることが抑うつを促進するといった危険性は決して高くはないこと、それどころか、社会的な側面に対するクリシン志向性は抑うつに対して抑制的に働いている可能性があることも示された。今後の筆者の研究は、いかにしてクリシン志向性を刺激するか、多くの文脈でいかにしてクリシン能力を発揮するよう方向付けられるか、というステップに進んでいくことになろう。この観点を進めるにあたり、メタ認知に関する研究の枠組みからアプローチすることを試みたい。

社会生活を送る各場面において、多様な考えや価値観があることを前提に自分の考えや行動を反省的に振り返り、場合によって修正すること、すなわち「何を信じ、何を行うかを決定するための合理的で反省的な思考」(Ennis, 1987)を通して意思決定していくことによって、一人一人が自律的に、人生を有意義に生きていくことができるのではないだろうか。

引用文献

- アントノフスキー, A. (1987). 山崎喜比古・吉井清子(監訳) 『健康の謎を解く — ストレス対処と健康保持のメカニズム—』 有信堂 pp.3-24.
- 甘利知子・馬岡清人 (2002). 認知的統制と自己効力感が女子大学生の抑うつと不安に及ぼす影響 日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科 第8号 29-39
- 安藤史高 (2003). 自律性欲求とクリティカルシンキング志向性との関連 ころとこ とば 2 51-59
- 安藤玲子・池田まさみ (2012). 批判的思考態度の獲得プロセスの検討: 中学生の4波パネルにおける因果分析から 認知科学 19(1) 83-99
- 青木多寿子 (2006). ポジティブな態度を身につける教育 島井哲志(編) 『ポジティブ心理学 21 世の心理学の可能性』 ナカニシヤ出版 pp.175-190
- 荒井城太郎 (2011). 考え込み型反応スタイルと認知的統制およびイラショナル・ビリーフの関連 REBT 研究 2(1) 21-38
- 浅野良輔 堀毛裕子 大坊郁夫 (2010). 人は失恋によって成長するのか——コーピングと心理的離脱が首尾一貫感覚に及ぼす影響 パーソナリティ研究 18(2) 129-139
- 浅野良輔 吉田俊和 (2010). 首尾一貫感覚と一般的信頼が恋人との葛藤状況における関係外部へのサポート希求に及ぼす影響 対人社会心理学研究 10 197-204
- 中央教育審議会 (2014). 道徳に係る教育課程の改善等について(答申) 中教審第176号 文部科学省 2014年10月21日, <http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/10/21/1352890_1.pdf> (2014年12月7日)
- 中央教育審議会 (2013a). 第2期教育振興基本計画について(答申)(概要) 中教審第163号 文部科学省 2013年4月25日, <http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1334381_01_1.pdf> (2014年12月2日)
- 中央教育審議会 (2013b). 第2期教育振興基本計画について(答申)(本文) 中教審

- 第 163 号 文部科学省 2013 年 4 月 25 日, <
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1334381_02_2.pdf> (2014 年 12 月 2 日)
- 中央教育審議会 (2008). 学士課程教育の構築に向けて (答申), <
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf>
- 銅直優子 (2007). 大学生の Sense of Coherence (首尾一貫感覚,SOC) と性格特性との関連について 流通科学大学論集—人間・社会・自然編— 19(3) 133-143
- Ennis, R. H., (1987). A taxonomy of critical thinking disposition and abilities. In J. B. Baron, & R. J. Sternberg (Eds.), *Teaching thinking skills: Theory and practice*, 9-26
- Facione, P. A., (1990). Critical Thinking: A Statement of Expert Consensus for Purposes of Educational Assessment and Instruction. Executive Summary “The Delphi Report”. The California Academic Press, 2-19
- FFPQ 研究会 (2002). 改訂 FFPQ (5 因子性格検査) マニュアル 北大路書房
- 藤木大介・沖林洋平 (2010). 批判的思考態度を構成する要素間の関係 梅光学院大学論集 43 1-7
- 藤本学 (2013). コミュニケーション・スキルの実践的研究に向けた ENDCORE モデルの実証的・概念的検討 パーソナリティ研究 22(2) 156-157
- 藤本学 大坊郁夫 (2007). コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み パーソナリティ研究 15(3) 347-361
- 藤里紘子 小玉正博 (2011). 首尾一貫感覚が就職活動に伴うストレスおよび成長感に及ぼす影響 教育心理学研究 59(3) 295-305
- 林潔 (2006). 完全主義的思考傾向と統制の位置、首尾一貫 (SOC) との関連についての一考察 白梅学園短期大学 教育・福祉研究センター研究年報 12 p.p.6-11
- 平山るみ 楠見孝 (2004). 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響——証拠評価と結論生成課題を用いての検討—— 教育心理学研究 52 186-198
- 廣岡秀一 横矢規 中西良文 (2006). 大学生のクリティカルシンキング志向性と大学生活経験 三重大学教育学部研究紀要 57 121-133
- 廣岡秀一 中西良文 横矢規 後藤淳子 福田真知 (2005). 大学生のクリティカルシ

- シンキング志向性に関する縦断的研究 (1) 三重大学教育学部研究紀要 56 303-315
 廣岡秀一 元吉忠寛 小川一美 斎藤和志 (2001). クリティカルシンキングに対する
 志向性の測定に関する探索的研究 (2) 三重大学教育実践センター紀要 21 93-102
 廣岡秀一 小川一美 元吉忠寛 (2000). クリティカルシンキングに対する志向性の測
 定に関する探索的研究 三重大学教育学部研究紀要 51 161-173
 飯塚久哲 (2003). 測定変数における観測変数の数 豊田秀樹 『共分散構造分析 [疑
 問編]』 朝倉書店 pp.22-24
 磯和壮太郎 南学 (印刷中). 短縮版クリティカルシンキング志向性尺度の検討 三重
 大学教育学部研究紀要 66 ページ未定
 磯和壮太郎 南学 (2014). クリティカルシンキング志向性は抑うつを導くのか 三重
 大学教育学部研究紀要 65 285-295
 磯和壮太郎 (2008). クリティカルシンキング教育は抑うつを予防するのか ——考え
 込み型反応・認知的統制とクリシン志向性の関わりから—— 三重大学教育学部人間
 発達科学課程 2007 年度卒業論文 未公刊
 伊藤拓 (2004). 抑うつの心理的要因の共通要素としてのネガティブな反すう 心理学
 評論 47(4) 438-452
 蒲原龍 岡田栄作 志渡晃一 (2009). うつ尺度 CES-D 簡易版作成の試み 北海道医
 療大学看護福祉学部学会誌 5(1) 87-92
 抱井尚子 (2004). 21 世紀の大学教育における批判的思考教育の展望 ——協調型批判
 的思考の可能性を求めて—— 青山国際政経論集 63 129-155
 小玉正博 (2006). ポジティブ心理学の健康領域への貢献 島井哲志 (編) 『ポジテ
 ィブ心理学 21 世の心理学の可能性』 ナカニシヤ出版 pp.209-240.
 子安増生 (2011). 批判的思考の知的側面 ——学士力をどう獲得するか—— 楠見孝 子
 安増生 道田泰司 編 『批判的思考力を育む』 pp.25-44
 楠見孝 (2011). 批判的思考とは ——市民リテラシーとジェネリックスキルの獲得——
 楠見孝 子安増生 道田泰司 編 『批判的思考力を育む』 pp.2-24
 楠見孝 (1996). 帰納的推論と批判的思考 市川伸一 (編) 『認知心理学 4 思考』
 東京大学出版会 pp.37-60
 松本麻友子 (2008). 拡張版反応スタイル尺度の作成 パーソナリティ研究 16(2)
 209-219

- 道田泰司 (2003). 批判的思考概念の多様性と根底イメージ 心理学評論 46(4) 617-639
- 道田泰司 (2000). 大学は学生に批判的思考力を育成しているか? —米国における研究の展望— 琉球大学教育学部紀要 56 369-378
- 南学 (2010). 心理学概論の講義がクリティカルシンキング志向性に与える影響.2: 心理学に対するイメージと関連 三重大学教育学部研究紀要 61 251-262
- 南学 (2009). 心理学概論の講義がクリティカルシンキング志向性に与える影響 三重大学教育学部研究紀要 60 275-285
- 三好昭子 (2007). 人格特性的自己効力感と精神的健康との関連 —漸成発達理論における基本的信頼感からの検討— 青年心理学研究 19 21-31
- 三好昭子 (2003). 主観的な感覚としての人格特性的自己効力感尺度 (SMSGSE)の開発 発達心理学研究 14(2) 172-179
- 文部科学省 (2007). 新しい教育基本法について (詳細版) (パンフレット) 文部科学省 2007年5月11日 <http://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/houan/siryo/07051111/001.pdf> (2014年12月2日)
- 文部科学省 (2006). 改正前後の教育基本法の比較 文部科学省 2006年12月19日 <http://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/06121913/002.pdf> (2014年12月2日)
- 元吉忠寛 (2011). 批判的思考の社会的側面 ——批判的思考と他者の存在—— 楠見孝子安増生 道田泰司 編 『批判的思考力を育む』 pp.45-65
- 中西良文 廣岡秀一 横矢祥代 (2006). 動機づけと社会的クリティカルシンキングとの関連 ——大学生の「感じる力」と「考える力」—— 三重大学教育実践総合センター紀要 26 57-66
- 名倉祥文 橋本幸 (1999). 考え込み型反応スタイルが心理的不適応に及ぼす影響について 健康心理学研究 12(2) 1-11
- 野口理英子 藤生英行 (2005). 怒りの表出抑制と抑うつへの反応スタイルとの関連 上越教育大学心理教育相談研究 4 39-48
- Nolen-Hoeksema, S. (1991). Responses to depression and their effects on the duration of depressive episodes. *Journal of Abnormal Psychology*, 100, 569-582

- Nolen-Hoeksema, S., Larson, J., & Grayson, C. (1999). Explaining the gender difference in depressive symptoms. *Journal of Personality and Social Psychology*, **77**, 1061-1072
- 糠野亜紀 (2004). 短期大学生の精神的健康状態に関する研究 信愛紀要 **44** 49-51
- 及川恵 坂本真士 (2007). 女子大学生を対象とした抑うつ予防のための心理教育プログラムの検討ー抑うつ対処の自己効力感の変容を目指した認知行動的介入ー 教育心理学研究 **55(1)** 106-119
- 大石和男 遠藤伸太郎 松山真 (2011). 大学生における楽観主義と首尾一貫感覚(SOC)の関係 立教大学コミュニティ福祉学部紀要 **13** 45-56
- 坂本真士 丹野義彦 大野裕 編 (2005). 抑うつの臨床心理学 東京大学出版会
- 坂本真士 (1998). 自己注目と抑うつー抑うつの発症・維持を説明する3段階モデルの提起ー 心理学評論 **41(3)** 283-302
- 坂野純子 戸ヶ里泰典 山崎喜比古 矢嶋裕樹 小林美智子 石橋朝紀子 (2009). 児童用SOCスケール日本語版開発の試み 学校保健健康 **51** 39-47
- 坂野純子 矢嶋裕樹 (2005). 大学生における首尾一貫感覚(SOC)スケールの構造化 日本公衛誌 **52(1)** 34-45
- 澤目亜希 上原尚宏 佐藤巖光 蒲原龍 岡田栄作 志渡晃一 (2011). 大学新入生の抑うつ症状とその関連要因(第2報)ーCES-Dの高得点群の特徴についてー 北海道医療大学看護福祉学部学会誌 **7(1)** 93-94
- Seligman, M. E. P. (2002). *Authentic happiness*. New York: Free Press. (小林裕子訳 2004 世界でひとつだけの幸せ アスペクト)
- 志渡晃一 米田政葉 吉田貴普 (2014). 医療福祉系大学に所属する学生の抑うつ症状とその関連要因について 北海道医療大学看護福祉学部学会誌 **10(1)** 39-42
- 志渡晃一 澤目亜希 上原尚紘 佐藤巖光 池森康裕 長谷川聡 (2011). 首尾一貫感覚(SOC)と抑うつ症状との関連ー高等教育機関に所属する学生を対象としてー 北海道医療大学看護福祉学部紀要 **18** 43-48
- 島悟 鹿野達男 北村俊則 浅井昌弘 (1985). 新しい抑うつ性自己評価尺度について 精神医学 **27(6)** 717-723
- 島津直実 (2010). 反応スタイル尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 学術研究 教育心理学編 早稲田大学教育会 **58** 29-39

- 島井哲志 (2006). ポジティブな特性としての人徳 ——日米の比較—— 島井哲志(編)
『ポジティブ心理学 21 世の心理学の可能性』 ナカニシヤ出版 pp.155-174
- 白石智子 (2005). 大学生の抑うつ傾向に対する心理的介入の実践研究 ——認知療法
による抑うつ感軽減・予防プログラムの効果に関する一考察—— 教育心理学研究
53 252-262
- 杉浦(甘利)知子・杉浦義典・馬岡清人 (2003). 認知的統制と関連する要因：性格特性,
メタ認知と対処スタイル 日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究
科 9 13-23
- 戸ヶ里泰典 (2008a). 成人の SOC は変えられるか 山崎喜比古・戸ヶ里泰典・坂野純
子(編) 『ストレス対処能力 SOC』 有信堂 pp.55-67.
- 戸ヶ里泰典 (2008b). SOC はどのように測ることができるのか 山崎喜比古・戸ヶ里
泰典・坂野純子(編) 『ストレス対処能力 SOC』 有信堂 pp.25-38.
- 豊田秀樹 (2014). 共分散構造分析 [R 編] ——構造方程式モデリング—— 東京図書
株式会社
- 豊田秀樹 (2003). 共分散構造分析 [疑問編] 朝倉書店
- 豊田秀樹 (1998). 共分散構造分析 [入門編] ——構造方程式モデリング—— 朝倉
書店
- 山崎喜比古 (2008). ストレス対処能力 SOC とは 山崎喜比古・戸ヶ里泰典・坂野純
子(編) 『ストレス対処能力 SOC』 有信堂 pp.3-24.
- 横矢規 2005 大学生のクリティカルシンキングに関する研究 三重大学大学院教育学研
究科修士学位論文(未公刊)

【謝辞】

本研究を行うにあたり、多くの方のご協力とご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

まず、本研究に対し、暖かい励ましとご指導を与えてくださいました、指導教員の南学先生をはじめとした教育心理学教室の先生方、松浦均先生、瀬戸美奈子先生、中西良文先生にお礼申し上げます。特に、無謀ともいえる本研究に対して GO サインを出し、時に見守り時にご指導をくださいました南先生に感謝申し上げます。この修士論文は南ゼミでなければ書けなかったものだと思います。

質問紙調査に際して、貴重な授業時間を提供してくださいました廣岡雅子先生に感謝申し上げます。

修士論文の進捗について気にかけてくださいました心理学教室事務員の園田喜子さん、連携支援室の土口佳純さん、苦楽を共にした院生室の皆様、そして、本研究の質問紙にご回答いただきましたすべての方に感謝いたします。

おかげさまで無事修士論文を執筆することができました。

2015年2月13日

資 料

調査質問紙

調査 1

Times1 : 「考え方」に関する調査 2

Times2 : 「考え方」に関する調査 2-2

調査 2

Times1 : 「考え方」に関する調査 1

Times2 : 「考え方」に関する調査 1-2 ◆

「考え方」に関する調査 1-2 ◇

「考え方」に関する調査 2

ご協力をお願い

この調査は、あなたの普段の考え方についてお聞きするものです。この調査には正しい答えや望ましい答えといったものはありませんので、あなたの思った通り、率直に回答してください。

このアンケートの回答結果は全て統計的に処理され、個人の回答が問題とされたり、他の人の目に触れたりするようなことは一切ありません。

回答者の方に個人的なご迷惑をおかけすることは決してありませんので、お手数ですが、ご協力をお願いいたします。

なお、調査に関するご意見やご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。

2014年4月
三重大学大学院 教育学研究科 学校教育領域
磯和 壮太郎

E-mail : 213m001@m.mie-u.ac.jp

はじめにお答えください

年齢：(歳) 性別 (男性 ・ 女性)

この調査は、合計2回を予定しています
調査票の対応をとるために、以下の記入をお願いします。

学籍番号： _____

=====学籍番号の記入をされない方は、以下の項目にお答え下さい=====

学部：(1. 人文 ・ 2. 教育 ・ 3. 医 ・ 4. 工 ・ 5. 生物資源)

学年：(1年 ・ 2年 ・ 3年 ・ 4年以上 ・ 院生)

誕生月 _____ ・ 携帯番号の下4桁 _____

1. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

1 全くなりたくない
2 なりたくない
3 あまりなりたくない
4 どちらともいえない
5 ややなりたい
6 なりたい
7 非常にになりたい

あなたは、多少苦勞してでも、下の記述のようなことがら
ができる人にどれくらい「なりたい」と思いますか。あなたに
最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1. 人の話のポイントをつかむ……………	1	2	3	4	5	6	7
2. たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
3. できるだけ多くの事実や証拠を調べる……………	1	2	3	4	5	6	7
4. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
5. 友だちに対してでも、悪いことは悪いと指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 何事も、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
7. いったん決断したことは最後までやり抜く……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 言わなければいけないと思えば、友だちに対しても客観的なことを言う……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 他の方の考えを尊重する……………	1	2	3	4	5	6	7
10. 人の考え方にはバラエティがあるということを意識する……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 問題のポイントをつかむ……………	1	2	3	4	5	6	7
12. ものごとの理屈を考える……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 他の方があきらめても、なお答えを探し求め続ける……………	1	2	3	4	5	6	7
14. 情報を、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
15. 人が間違った考え方をしている時には、それを指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
16. 自分とは違う意見も理解する……………	1	2	3	4	5	6	7
17. 確たる証拠の有無にこだわる……………	1	2	3	4	5	6	7
18. アドバイスをするときには、自分の意見を押しつけないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
19. わかりやすく物事を伝える……………	1	2	3	4	5	6	7
20. 必要に応じて妥協する……………	1	2	3	4	5	6	7
21. 身近な人の言うことだからといって、その内容を疑わずに 信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
22. 積極的に新しいものにチャレンジする……………	1	2	3	4	5	6	7
23. 人の良い面と悪い面の両方を見る……………	1	2	3	4	5	6	7
24. うわさをむやみに信じないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
25. 人が話していることの矛盾に気づく……………	1	2	3	4	5	6	7
26. 嫌いな人の意見でも、耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
27. 判断をくだす際には、事実や証拠を重視する……………	1	2	3	4	5	6	7

2. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

この一週間のあなたのからだや心の状態についてお聞き致します。

まず下の 16 の文章を読んでください。各々のことがらについて、もしこの 1 週間でまったくないか、あったとしても 1 日も続かない場合は 1、週のうち 1~2 日なら 2、週のうち 3~4 日なら 3、週のうち 5 日以上なら 4、のところを○でかこんで下さい

1	2	3	4
1 日 未 満	1 ~ 2 日	3 ~ 4 日	5 日 以 上

1. ふだんは何でもないことがわずらわしい……………	1	2	3	4
2. 食べたくない、食欲が落ちた……………	1	2	3	4
3. 家族や友達から励ましてもらっても気分が晴れない……………	1	2	3	4
4. 物事に集中できない……………	1	2	3	4
5. 憂うつ（気分が沈んでいる）だ……………	1	2	3	4
6. 何をするのもめんどろだ……………	1	2	3	4
7. 過去のことについてくよくよ考える……………	1	2	3	4
8. 何か恐ろしい気持ちがする……………	1	2	3	4
9. なかなか眠れない……………	1	2	3	4
10. 普段より口数が少ない、口が重い……………	1	2	3	4
11. 一人ぼっちでさみしい……………	1	2	3	4
12. 皆がよそよそしいと思う……………	1	2	3	4
13. 急に泣き出すことがある……………	1	2	3	4
14. 悲しいと感じる……………	1	2	3	4
15. 皆が自分を嫌がっている……………	1	2	3	4
16. 仕事が手につかない……………	1	2	3	4

3. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

ここでは、あなたにとって不快で嫌な事柄を「嫌なこと」と呼びます。そこでまず、あなたが「嫌なこと」を考える際に、どのようにして考えるかを思い浮かべてみて下さい。以下の項目で、あなたが嫌なことをどのように考えるかお聞きします。あなたに最もあてはまると思うところ 1つに○をつけて下さい。

	1 ほとんど しない	2 ときどき する	3 よく する	4 いつも する
1. 自分の憂うつな気持ちに注目することで自分自身を理解しようとする……………	1	2	3	4
2. 状況におけるポジティブな事柄や、自分で学んだ事柄を見出そうと試みる……	1	2	3	4
3. 問題を克服するために計画を立てる……………	1	2	3	4
4. 状況が良くなることを願って、最近の状況について考える……………	1	2	3	4
5. 「気分がすぐれないせいで自分の仕事や課題をやり遂げられないだろう」と考える……………	1	2	3	4
6. 自分の生活をどこか改善しようと思決意する……………	1	2	3	4
7. このようなフィーリングが続くわけではないことを思い起こす……………	1	2	3	4
8. 「自分はこのことに値するようなことを何かしているだろうか」と考える……	1	2	3	4
9. 自分がなぜ憂うつなのかを理解するために最近の出来事を分析する……………	1	2	3	4
10. もっとうまく出来ればよかったと思いながら、最近の出来事について考える・	1	2	3	4
11. 「なぜ私は物事をうまく処理していけないのだろう」と考える……………	1	2	3	4
12. 自分がなぜ憂うつなのかを理解するために自分のパーソナリティを分析する・	1	2	3	4
13. 一人になって、自分がなぜこのように感じるのかを考える……………	1	2	3	4

4. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

下の文は不安なことや「嫌なこと」がおきたときの考え方についての記述です。それぞれの項目を読んで、あなたに最もあてはまると思うところ 1つに○をつけて下さい。

	1 全く できない	2 あまり できない	3 まあ まあ できる	4 確 実 に で き る
1. そのことが自分にとって何を意味しているのか落ち着いて考えられる……………	1	2	3	4
2. そうなった理由をいくつか考えられる……………	1	2	3	4
3. どうしたらよいか、思考や行動の選択肢をいくつか考えられる……………	1	2	3	4
4. 良い気分はしないけど、破局的には考えない……………	1	2	3	4

	1 全く できない	2 あまり できない	3 まあ まあ できる	4 確 実に できる
5. そのような状態から引き起こされると考えられる悪い結果が頭に 浮かんでも、それは自分の想像によるものだと思う……………	1	2	3	4
6. その状況の良い面と悪い面を考え、行動の可能性を探ることができると思う…	1	2	3	4
7. そのような状況でも明るい希望を持ち、逆境を自分の利益に変えられると思う	1	2	3	4
8. 自分の状況の捉え方、ものの見方のくせについて考える……………	1	2	3	4
9. その状況から悪い連想を発展させない……………	1	2	3	4
10. 問題を解決するような想像をする……………	1	2	3	4
11. その状況を深刻に考えてしまうとき、いったん考えるのをやめられる……………	1	2	3	4

5. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

	1 ほと んど ない	2 とき ど き ある	3 しば しば ある	4 い つ も ある
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>あなたは、悲しい気分や憂うつな気分を感じた時、以下にあ げることをご<u>どの程度考えたり行ったり</u>しますか。 最もあてはまると思うところ1つに○をつけてください。</p> </div>				
1. 友人・家族などに助けを求める……………	1	2	3	4
2. 忘れようとする……………	1	2	3	4
3. 憂うつな気分の原因を改善するよう努力する……………	1	2	3	4
4. 原因は自分にあるのだから仕方がないと考える……………	1	2	3	4
5. 気にしないようにする……………	1	2	3	4
6. あえて、憂うつな気分になるようなことをする……………	1	2	3	4
7. あまり考えないようにする……………	1	2	3	4
8. 対処することをあきらめる……………	1	2	3	4
9. 何か楽しめることをする……………	1	2	3	4
10. 自分の精神状態がどのようなかを考える……………	1	2	3	4
11. なかったことにしようとする……………	1	2	3	4
12. 解決を後回しにする……………	1	2	3	4
13. 目標を立てる……………	1	2	3	4
14. 何をすれば一番よいのかを考える……………	1	2	3	4

	1 ほとんどない	2 ときどきある	3 しばしばある	4 いつもある
15. 外出する·····	1	2	3	4
16. どうしたら改善できるかを考える·····	1	2	3	4
17. 音楽を聴く·····	1	2	3	4
18. 自分のせいだと考える·····	1	2	3	4
19. 自分には悩みがたくさんあると考える·····	1	2	3	4
20. 自分には解決する力がないと考える·····	1	2	3	4
21. かかわらないようにする·····	1	2	3	4
22. 自分の短所ばかり考えてしまう·····	1	2	3	4
23. 時の過ぎるのに任せる·····	1	2	3	4
24. 何もしない·····	1	2	3	4
25. その状況を避ける·····	1	2	3	4
26. 小説・マンガ・雑誌などを読む·····	1	2	3	4
27. 友人と遊ぶ·····	1	2	3	4
28. 今の状況の中で頑張ろうとする·····	1	2	3	4
29. 空想など楽しいことを考える·····	1	2	3	4
30. 今の自分にできることをする·····	1	2	3	4

6. この調査に関する意見・感想などございましたら、以下にご自由にお書き下さい（空欄可）。

記入漏れがございますと、ご厚意で協力して頂いたデータが使えなくなってしまうます。
もう一度記入漏れがないか、しっかりと御確認頂きますようお願い致します。

尚、今後この調査は実験をすることも視野に入れております。
もしも、そちらにも協力してもいいよとお考えの方は、連絡先の記入をお願い致します。

連絡先： _____
ご協力ありがとうございました。 本当に感謝致します。

「考え方」に関する調査 2-2

ご協力のお願い

この調査は、あなたの普段の考え方についてお聞きするものです。この調査には正しい答えや望ましい答えといったものはありませんので、あなたの思った通り、率直に回答してください。

このアンケートの回答結果は全て統計的に処理され、個人の回答が問題とされたり、他の人の目に触れたりするようなことは一切ありません。

また、本調査により収集したデータは磯和の厳重な管理のもと、他のデータと併せて分析されることもございます。ご了承くださいませ。

回答者の方に個人的なご迷惑をおかけすることは決してありませんので、お手数ですが、ご協力をお願いいたします。

なお、調査に関するご意見やご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。

2014年7月

三重大学大学院 教育学研究科 学校教育領域
磯和 壮太郎

E-mail : 213m001@m.mie-u.ac.jp

はじめにお答えください。

上記の内容をお読みの上、調査に同意いただける方は下記にチェックをお願いいたします。

同意する 同意しない

年齢：(歳) 性別（男性・女性）

この調査は、2回目の調査となります。

1回目の調査票と対応をとるため、以下の記入をお願いします。

学籍番号： _____

=====学籍番号の記入をされない方は、以下の項目にお答え下さい=====

学部：（1.人文・2.教育・3.医・4.工・5.生物資源）

学年：（1年・2年・3年・4年以上・院生）

誕生日 _____ ・携帯番号の下4桁 _____

1. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

1 全くなりたくない
2 なりたくない
3 あまりなりたくない
4 どちらともいえない
5 ややなりたい
6 なりたい
7 非常になりたい

あなたは、多少苦勞してでも、下の記述のようなことがら
ができる人にどれくらい「なりたい」と思いますか。あなたに
最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1. たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
2. 判断をくだす際には、事実や証拠を重視する……………	1	2	3	4	5	6	7
3. 情報を、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
4. 友だちに対してでも、悪いことは悪いと指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
5. ものごとの理屈を考える……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 言わなければいけないと思えば、友だちに対しても客観的なことを言う…	1	2	3	4	5	6	7
7. 何事も、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 人の良い面と悪い面の両方を見る……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
10. 身近な人の言うことだからといって、その内容を疑わずに 信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 人が間違った考え方をしている時には、それを指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
12. 他の人があきらめても、なお答えを探し求め続ける……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 人の考え方にはバラエティがあるということを意識する……………	1	2	3	4	5	6	7
14. 人が話していることの矛盾に気づく……………	1	2	3	4	5	6	7
15. できるだけ多くの事実や証拠を調べる……………	1	2	3	4	5	6	7

2. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

この一週間のあなたのからだや心の状態についてお聞き致します。

まず下の 16 の文章を読んでください。各々のことがらについて、も
しこの 1 週間でまったくないか、あったとしても 1 日も続かない場合
は 1、週のうち 1~2 日なら 2、週のうち 3~4 日なら 3、週のうち 5 日
以上なら 4、のところを○でかこんで下さい

1 2 3 4
1 1 3 5
日 日 日 日
未 2 4 以
満 日 日 上

1. ふだんは何でもないことがわずらわしい……………	1	2	3	4
2. 食べたくない、食欲が落ちた……………	1	2	3	4
3. 家族や友達から励ましてもらっても気分が晴れない……………	1	2	3	4
4. 物事に集中できない……………	1	2	3	4
5. 憂うつ（気分が沈んでいる）だ……………	1	2	3	4
6. 何をするのもめんどろだ……………	1	2	3	4

	1	2	3	4
	1 日未 満	1 〜 2日	3 〜 4日	5 日 以 上
7. 過去のことにについてくよくよ考える……………	1	2	3	4
8. 何か恐ろしい気持ちがする……………	1	2	3	4
9. なかなか眠れない……………	1	2	3	4
10. 普段より口数が少ない、口が重い……………	1	2	3	4
11. 一人ぼっちでさみしい……………	1	2	3	4
12. 皆がよそよそしいと思う……………	1	2	3	4
13. 急に泣き出すことがある……………	1	2	3	4
14. 悲しいと感じる……………	1	2	3	4
15. 皆が自分を嫌がっている……………	1	2	3	4
16. 仕事が手につかない……………	1	2	3	4

3. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

ここでは、あなたにとって不快で嫌な事柄を「嫌なこと」と呼びます。そこでまず、あなたが「嫌なこと」を考える際に、どのようにして考えるかを思い浮かべてみて下さい。以下の項目で、あなたが嫌なことをどのように考えるかお聞きします。あなたに最もあてはまると思うところ 1つに○をつけて下さい。

	1	2	3	4
	ほと んど しな い	とき どき する	よく する	いつ もす る
1. 自分の憂うつな気持ちに注目することで自分自身を理解しようとする……………	1	2	3	4
2. 状況におけるポジティブな事柄や、自分で学んだ事柄を見出そうと試みる……………	1	2	3	4
3. 問題を克服するために計画を立てる……………	1	2	3	4
4. 状況が良くなることを願って、最近の状況について考える……………	1	2	3	4
5. 「気分がすぐれないせいで自分の仕事や課題をやり遂げられないだろう」と考える……………	1	2	3	4
6. 自分の生活をどこか改善しようと決意する……………	1	2	3	4
7. このようなフィーリングが続くわけではないことを思い起こす……………	1	2	3	4
8. 「自分はこのことに値するようなことを何かしているだろうか」と考える……………	1	2	3	4
9. 自分がなぜ憂うつなのかを理解するために最近の出来事を分析する……………	1	2	3	4
10. もっとうまく出来ればよかったと思いながら、最近の出来事について考える……………	1	2	3	4
11. 「なぜ私は物事をうまく処理していけないのだろう」と考える……………	1	2	3	4
12. 自分がなぜ憂うつなのかを理解するために自分のパーソナリティを分析する……………	1	2	3	4
13. 一人になって、自分がなぜこのように感じるのかを考える……………	1	2	3	4

4. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

下の文は不安なことや「嫌なこと」がおきたときの考え方についての記述です。それぞれの項目を読んで、あなたに最もあてはまると思うところ 1つに○をつけて下さい。

1 全くできない
2 あまりできない
3 まあまあできる
4 確実にできる

1. そのことが自分にとって何を意味しているのか落ち着いて考えられる……………	1	2	3	4
2. そうなった理由をいくつか考えられる……………	1	2	3	4
3. どうしたらよいか、思考や行動の選択肢をいくつか考えられる……………	1	2	3	4
4. 良い気分はしないけど、破局的には考えない……………	1	2	3	4
5. そのような状態から引き起こされると考えられる悪い結果が頭に浮かんでも、それは自分の想像によるものだと思う……………	1	2	3	4
6. その状況の良い面と悪い面を考え、行動の可能性を探ることができると思う…	1	2	3	4
7. そのような状況でも明るい希望を持ち、逆境を自分の利益に変えられると思う	1	2	3	4
8. 自分の状況の捉え方、ものの見方のくせについて考える……………	1	2	3	4
9. その状況から悪い連想を発展させない……………	1	2	3	4
10. 問題を解決するような想像をする……………	1	2	3	4
11. その状況を深刻に考えてしまうとき、いったん考えるのをやめられる……………	1	2	3	4

5-1. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

あなたは、悲しい気分や憂うつな気分を感じた時、以下にあげることをどの程度考えたり行ったりしますか。
最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1 ほとんどない
2 ときどきある
3 しばしばある
4 いつもある

1. 友人・家族などに助けを求める……………	1	2	3	4
2. 忘れようとする……………	1	2	3	4
3. 憂うつな気分の原因を改善するよう努力する……………	1	2	3	4
4. 原因は自分にあるのだから仕方がないと考える……………	1	2	3	4
5. 気にしないようにする……………	1	2	3	4
6. あえて、憂うつな気分になるようなことをする……………	1	2	3	4
7. あまり考えないようにする……………	1	2	3	4
8. 対処することをあきらめる……………	1	2	3	4
9. 何か楽しめることをする……………	1	2	3	4
10. 自分の精神状態がどのようなものであるかを考える……………	1	2	3	4

	1 ほとんどない	2 ときどきある	3 しばしばある	4 いつもある
11. なかったことにしようとする	1	2	3	4
12. 解決を後回しにする	1	2	3	4
13. 目標を立てる	1	2	3	4
14. 何をすれば一番よいのかを考える	1	2	3	4
15. 外出する	1	2	3	4
16. どうしたら改善できるかを考える	1	2	3	4
17. 音楽を聴く	1	2	3	4
18. 自分のせいだと考える	1	2	3	4
19. 自分には悩みがたくさんあると考える	1	2	3	4
20. 自分には解決する力がないと考える	1	2	3	4
21. かかわらないようにする	1	2	3	4
22. 自分の短所ばかり考えてしまう	1	2	3	4
23. 時の過ぎるのに任せる	1	2	3	4
24. 何もしない	1	2	3	4
25. その状況を避ける	1	2	3	4
26. 小説・マンガ・雑誌などを読む	1	2	3	4
27. 友人と遊ぶ	1	2	3	4
28. 今の状況の中で頑張ろうとする	1	2	3	4
29. 空想など楽しいことを考える	1	2	3	4
30. 今の自分にできることをする	1	2	3	4

**5-2. 上記の30の問い(5-1)に対して、3か4で回答した項目が5項目以下の方に
お聞きします。※それ以外の方は6.にお進みください。**

あなたは、悲しい気分や憂うつな気分を感じた時、どのようなことを考えたり行ったりしますか。以下に箇条書きでお答えください。特にない場合は、「特になし」とお書きください。

・ _____
 ・ _____
 ・ _____
 ・ _____

6. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

下記に、私たちの人生のさまざまな側面に関する質問があります。それぞれの問いについて、より自身の感覚に近いと思うところ 1つに○をつけてください。

- 1 全くあてはまらない
- 2 あてはまらない
- 3 あまりあてはまらない
- 4 どちらともいえない
- 5 ややあてはまる
- 6 あてはまる
- 7 非常にあてはまる

1. 自分のまわりで起こっていることがどうでもいい、という気持ちになることがある……………	1	2	3	4	5	6	7
2. これまでに、よく知っていると思っていた人の思わぬ行動に驚かされたことがあった……………	1	2	3	4	5	6	7
3. あてにしていた人ががっかりさせられたことがある……………	1	2	3	4	5	6	7
4. いままでの人生に明確な目標や目的があった……………	1	2	3	4	5	6	7
5. 不当な扱いを受けているという気持ちになることがある……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 不慣れな状況のなかにいると感じ、どうすればよいのかわからないと感じることがある……………	1	2	3	4	5	6	7
7. 自分が毎日していることは、つらく退屈である……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 気持ちや考えが非常に混乱することがある……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 本来なら感じたくないような感情を抱いてしまうことがある……………	1	2	3	4	5	6	7
10. これまでに、「自分はダメな人間だ」と感じたことが頻繁にあった……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 何かが起きたとき、そのことを過大評価や過小評価をせず、適切な見方をしてきた……………	1	2	3	4	5	6	7
12. 日々の生活で行っていることにほとんど意味がないと感じる……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 自制心を保つ自信がなくなることがある……………	1	2	3	4	5	6	7

7. この調査に関する意見・感想などございましたら、以下にご自由にお書き下さい（空欄可）。

記入漏れがございましたら、ご厚意で協力して頂いたデータが使用なくなってしまいます。
もう一度記入漏れがないか、しっかりと御確認頂きますようお願い致します。

尚、今後この調査は実験をすることも視野に入れております。
もしも、そちらにも協力してもいいよとお考えの方は、連絡先の記入をお願い致します。

連絡先： _____
ご協力ありがとうございました。 本当に感謝致します。

「考え方」に関する調査 1

ご協力をお願い

この調査は、あなたの普段の考え方についてお聞きするものです。この調査には正しい答えや望ましい答えといったものはありませんので、あなたの思った通り、率直に回答してください。

このアンケートの回答結果は全て統計的に処理され、個人の回答が問題とされたり、他の人の目に触れたりするようなことは一切ありません。

回答者の方に個人的なご迷惑をおかけすることは決してありませんので、お手数ですが、ご協力をお願いいたします。

なお、調査に関するご意見やご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。

2014年4月
三重大学大学院 教育学研究科 学校教育領域
磯和 壮太郎

E-mail : 213m001@m.mie-u.ac.jp

はじめにお答えください

年齢：(歳) 性別（男性・女性）

この調査は、合計2回を予定しています
調査票の対応をとるために、以下の記入をお願いします。

学籍番号： _____

=====学籍番号の記入をされない方は、以下の項目にお答え下さい=====

学部：（1.人文・2.教育・3.医・4.工・5.生物資源）

学年：（1年・2年・3年・4年以上・院生）

誕生月 _____ ・携帯番号の下4桁 _____

1. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

1 全くなりたくない
2 なりたくない
3 あまりなりたくない
4 どちらともいえない
5 ややなりたい
6 なりたい
7 非常にになりたい

あなたは、多少苦勞してでも、下の記述のようなことがら
ができる人にどれくらい「なりたい」と思いますか。あなたに
最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1. 人の話のポイントをつかむ……………	1	2	3	4	5	6	7
2. たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
3. できるだけ多くの事実や証拠を調べる……………	1	2	3	4	5	6	7
4. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
5. 友だちに対してでも、悪いことは悪いと指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 何事も、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
7. いったん決断したことは最後までやり抜く……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 言わなければいけないと思えば、友だちに対しても客観的なことを言う……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 他の方の考えを尊重する……………	1	2	3	4	5	6	7
10. 人の考え方にはバラエティがあるということを意識する……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 問題のポイントをつかむ……………	1	2	3	4	5	6	7
12. ものごとの理屈を考える……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 他の方があきらめても、なお答えを探し求め続ける……………	1	2	3	4	5	6	7
14. 情報を、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
15. 人が間違った考え方をしている時には、それを指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
16. 自分とは違う意見も理解する……………	1	2	3	4	5	6	7
17. 確たる証拠の有無にこだわる……………	1	2	3	4	5	6	7
18. アドバイスをするときには、自分の意見を押しつけないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
19. わかりやすく物事を伝える……………	1	2	3	4	5	6	7
20. 必要に応じて妥協する……………	1	2	3	4	5	6	7
21. 身近な人の言うことだからといって、その内容を疑わずに 信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
22. 積極的に新しいものにチャレンジする……………	1	2	3	4	5	6	7
23. 人の良い面と悪い面の両方を見る……………	1	2	3	4	5	6	7
24. うわさをむやみに信じないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
25. 人が話していることの矛盾に気づく……………	1	2	3	4	5	6	7
26. 嫌いな人の意見でも、耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
27. 判断をくだす際には、事実や証拠を重視する……………	1	2	3	4	5	6	7

2. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

普段のコミュニケーション場面におけるあなたの行動について、得意であるか不得意であるかを回答してください。
最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

	1 かなり 苦手	2 苦 手	3 や や 苦 手	4 ふ つ う	5 や や 得 意	6 得 意	7 か な り 得 意
1. 自分の衝動や欲求を抑える……………	1	2	3	4	5	6	7
2. 自分の感情をうまくコントロールする……………	1	2	3	4	5	6	7
3. 善悪の判断に基づいて正しい行動を選択する……………	1	2	3	4	5	6	7
4. まわりの期待に応じた振る舞いをする……………	1	2	3	4	5	6	7
5. 自分の考えを言葉でうまく表現する……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 自分の気持ちをしぐさでうまく表現する……………	1	2	3	4	5	6	7
7. 自分の気持ちを表情でうまく表現する……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 自分の感情や心理状態を正しく察してもらう……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 相手の考えを発言から正しく読み取る……………	1	2	3	4	5	6	7
10. 相手の気持ちをしぐさから正しく読み取る……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 相手の気持ちを表情から正しく読み取る……………	1	2	3	4	5	6	7
12. 相手の感情や心理状態を敏感に感じとる……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 会話の主導権を握って話を進める……………	1	2	3	4	5	6	7
14. まわりとは関係なく自分の意見や立場を明らかにする……………	1	2	3	4	5	6	7
15. 納得させるために相手に柔軟に対応して話を進める……………	1	2	3	4	5	6	7
16. 自分の主張を論理的に筋道を立てて説明する……………	1	2	3	4	5	6	7
17. 相手の意見や立場に共感する……………	1	2	3	4	5	6	7
18. 友好的な態度で相手に接する……………	1	2	3	4	5	6	7
19. 相手の意見をできるかぎり受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
20. 相手の意見や立場を尊重する……………	1	2	3	4	5	6	7
21. 人間関係を第一に考えて行動する……………	1	2	3	4	5	6	7
22. 人間関係を良好な状態に維持するように心がける……………	1	2	3	4	5	6	7
23. 意見の対立による不和に適切に対処する……………	1	2	3	4	5	6	7
24. 感情的な対立による不和に適切に対処する……………	1	2	3	4	5	6	7

10. どんな強い人でさえ、ときには「自分はダメな人間だ」と感じることもあります。

あなたは、これまで「自分はダメな人間だ」と感じたことがありますか？

1	2	3	4	5	6	7
まったくなかった						いつもそうだった

11. 何かが起きたとき、ふつう、あなたは、

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

そのことを過大に評価したり、過小に評価してきた						適切な見方をしてきた
-------------------------	--	--	--	--	--	------------

12. あなたは、日々の生活で行っていることにほとんど意味がない、と感じることがありますか？

1	2	3	4	5	6	7
とてもよくある						まったくない

13. あなたは、自制心を保つ自信がなくなることがありますか？

1	2	3	4	5	6	7
とてもよくある						まったくない

4. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

次の各項目について、最も当てはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1	2	3	4	5	6	7
全く当てはまらない	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	非常にあてはまる

- | | | | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 合理的か直観的かと聞かれれば、直観的な方だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 2. 自分にできることは、限られていると思う…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 3. 失敗とは、避けられないものである…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 4. 自分は健康である、もしくは、健康的であると思う…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

5. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

あなたは、対人関係や社会生活を適応的に生きるために、次の各項目を意識することは、どれくらい有効だと思いますか。
最も当てはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1	2	3	4	5	6	7
全く有効ではない	有効ではない	あまり有効ではない	どちらともいえない	やや有効である	有効である	非常に有効である

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 話や問題のポイントをつかみ、わかりやすく物事を伝えることを心がける | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 2. 人の考え方にはバラエティがあることを意識した上で、
意見が合わない人の考えにも耳を傾ける…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 3. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 4. 友だちに対してでも悪いことは悪いと指摘する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

1	2	3	4	5	6	7
全く有効ではない	有効ではない	あまり有効ではない	どちらともいえない	やや有効である	有効である	非常に有効である

- | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|
| 5. 物事の理屈を考え、できるだけ多くの事実や証拠を調べ、それを重視した上で判断を下す…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 6. むやみに物事を信じ込まないように注意する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 7. いったん決断したことは最後までやり抜く…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

1	2	3	4	5	6	7
全くできない	できない	あまりできない	どちらともいえない	ややできる	できる	非常にできる

6. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

あなたは、次の各項目をどれくらいできると思いますか。
最も当てはまると思うところ 1つに○をつけてください。

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 話や問題のポイントをつかみ、わかりやすく物事を伝えることを心がける | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 2. 人の考え方にはバラエティがあることを意識した上で、意見が合わない人の考えにも耳を傾ける…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 3. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 4. 友だちに対してでも悪いことは悪いと指摘する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 5. 物事の理屈を考え、できるだけ多くの事実や証拠を調べ、それを重視した上で判断を下す…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 6. むやみに物事を信じ込まないように注意する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 7. いったん決断したことは最後までやり抜く…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

7. この調査に関する意見・感想などございましたら、以下にご自由にお書き下さい（空欄可）。

記入漏れがございますと、ご厚意で協力して頂いたデータが使いなくなってしまいます。
もう一度記入漏れがないか、しっかりと御確認頂きますようお願い致します。
尚、今後この調査は実験をすることも視野に入れております。
もしも、そちらにも協力してもいいよとお考えの方は、連絡先の記入をお願い致します。

連絡先： _____
ご協力ありがとうございました。 本当に感謝致します。

「考え方」に関する調査 1-2

ご協力をお願い

この調査は、あなたの普段の考え方についてお聞きするものです。この調査には正しい答えや望ましい答えといったものはありませんので、あなたの思った通り、率直に回答してください。

このアンケートの回答結果は全て統計的に処理され、個人の回答が問題とされたり、他の人の目に触れたりするようなことは一切ありません。

また、本調査により収集したデータは磯和の厳重な管理のもと、他のデータと併せて分析されることもございます。ご了承くださいませ。

回答者の方に個人的なご迷惑をおかけすることは決してありませんので、お手数ですが、ご協力をお願いいたします。

なお、調査に関するご意見やご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。

2014年7月

三重大学大学院 教育学研究科 学校教育領域
磯和 壮太郎

E-mail : 213m001@m.mie-u.ac.jp

はじめにお答えください。

上記の内容をお読みの上、調査に同意いただける方は下記にチェックをお願いいたします。

同意する 同意しない

年齢：(歳) 性別（男性・女性）

この調査は、2回目の調査となります。

1回目の調査票と対応をとるため、以下の記入をお願いします。

学籍番号： _____

=====学籍番号の記入をされない方は、以下の項目にお答え下さい=====

学部：（1.人文・2.教育・3.医・4.工・5.生物資源）

学年：（1年・2年・3年・4年以上・院生）

誕生月 _____ ・携帯番号の下4桁 _____.

3. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

1 全くしなかった
2 しなかった
3 あまりしなかった
4 どちらともいえない
5 ときどきしていた
6 していた
7 いつもしていた

あなたは、最近数か月の間に、下の記述のようなことがらをどれくらいしましたか。あなたに最もあてはまると思うところ 1 つに○をつけてください。

1. 人の話のポイントをつかむ……………	1	2	3	4	5	6	7
2. たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
3. できるだけ多くの事実や証拠を調べる……………	1	2	3	4	5	6	7
4. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
5. 友だちに対してでも、悪いことは悪いと指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 何事も、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
7. いったん決断したことは最後までやり抜く……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 言わなければいけないと思えば、友だちに対しても客観的なことを言う……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 他の方の考えを尊重する……………	1	2	3	4	5	6	7
10. 人の考え方にはバラエティがあるということを意識する……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 問題のポイントをつかむ……………	1	2	3	4	5	6	7
12. ものごとの理屈を考える……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 他の方があきらめても、なお答えを探し求め続ける……………	1	2	3	4	5	6	7
14. 情報を、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
15. 人が間違っただけの考え方をしている時には、それを指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
16. 自分とは違う意見も理解する……………	1	2	3	4	5	6	7
17. 確たる証拠の有無にこだわる……………	1	2	3	4	5	6	7
18. アドバイスをするときには、自分の意見を押しつけないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
19. わかりやすく物事を伝える……………	1	2	3	4	5	6	7
20. 必要に応じて妥協する……………	1	2	3	4	5	6	7
21. 身近な人の言うことだからといって、その内容を疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
22. 積極的に新しいものにチャレンジする……………	1	2	3	4	5	6	7
23. 人の良い面と悪い面の両方を見る……………	1	2	3	4	5	6	7
24. うわさをむやみに信じないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
25. 人が話していることの矛盾に気づく……………	1	2	3	4	5	6	7
26. 嫌いな人の意見でも、耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
27. 判断をくだす際には、事実や証拠を重視する……………	1	2	3	4	5	6	7

1. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

1 全くなりたくない
2 なりたくない
3 あまりなりたくない
4 どちらともいえない
5 ややなりたい
6 なりたい
7 非常にになりたい

あなたは、多少苦勞してでも、下の記述のようなことができる人にどれくらい「なりたい」と思いますか。あなたに最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1. たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
2. 判断をくだす際には、事実や証拠を重視する……………	1	2	3	4	5	6	7
3. 情報を、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
4. 友だちに対してでも、悪いことは悪いと指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
5. ものごとの理屈を考える……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 言わなければいけないと思えば、友だちに対しても客観的なことを言う…	1	2	3	4	5	6	7
7. 何事も、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 人の良い面と悪い面の両方を見る……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
10. 身近な人の言うことだからといって、その内容を疑わずに 信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 人が間違った考え方をしている時には、それを指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
12. 他の人があきらめても、なお答えを探し求め続ける……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 人の考え方にはバラエティがあるということを意識する……………	1	2	3	4	5	6	7
14. 人が話していることの矛盾に気づく……………	1	2	3	4	5	6	7
15. できるだけ多くの事実や証拠を調べる……………	1	2	3	4	5	6	7

2. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

1 全くあてはまらない
2 あてはまらない
3 どちらともいえない
4 あてはまる
5 非常にあてはまる

下記のそれぞれの問いについて、最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1. どんな状況に直面しても、私ならうまくそれに対処することができるような感じがする……………	1	2	3	4	5
2. 私にとって、最終的にはできないことが多いと思う……………	1	2	3	4	5
3. 私が頑張りさえすれば、どんな困難なことでもある程度のこと ことができるような気がする……………	1	2	3	4	5
4. 熱心に取り組めば、私にできないことはないように思う……………	1	2	3	4	5
5. やりたいと思っても、私にはできないことばかりだと感じる……………	1	2	3	4	5
6. 非常に困難な状況の中でも、私ならそこから抜け出すことができると思う	1	2	3	4	5

4. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

普段のコミュニケーション場面におけるあなたの行動について、得意であるか不得意であるかを回答してください。
最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1 かなり苦手
2 苦手
3 やや苦手
4 ふつう
5 やや得意
6 得意
7 かなり得意

1. 自分の衝動や欲求を抑える……………	1	2	3	4	5	6	7
2. 自分の感情をうまくコントロールする……………	1	2	3	4	5	6	7
3. 善悪の判断に基づいて正しい行動を選択する……………	1	2	3	4	5	6	7
4. まわりの期待に応じた振る舞いをする……………	1	2	3	4	5	6	7
5. 自分の考えを言葉でうまく表現する……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 自分の気持ちをしぐさでうまく表現する……………	1	2	3	4	5	6	7
7. 自分の気持ちを表情でうまく表現する……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 自分の感情や心理状態を正しく察してもらう……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 相手の考えを発言から正しく読み取る……………	1	2	3	4	5	6	7
10. 相手の気持ちをしぐさから正しく読み取る……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 相手の気持ちを表情から正しく読み取る……………	1	2	3	4	5	6	7
12. 相手の感情や心理状態を敏感に感じとる……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 会話の主導権を握って話を進める……………	1	2	3	4	5	6	7
14. まわりとは関係なく自分の意見や立場を明らかにする……………	1	2	3	4	5	6	7
15. 納得させるために相手に柔軟に対応して話を進める……………	1	2	3	4	5	6	7
16. 自分の主張を論理的に筋道を立てて説明する……………	1	2	3	4	5	6	7
17. 相手の意見や立場に共感する……………	1	2	3	4	5	6	7
18. 友好的な態度で相手に接する……………	1	2	3	4	5	6	7
19. 相手の意見をできるかぎり受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
20. 相手の意見や立場を尊重する……………	1	2	3	4	5	6	7
21. 人間関係を第一に考えて行動する……………	1	2	3	4	5	6	7
22. 人間関係を良好な状態に維持するように心がける……………	1	2	3	4	5	6	7
23. 意見の対立による不和に適切に対処する……………	1	2	3	4	5	6	7
24. 感情的な対立による不和に適切に対処する……………	1	2	3	4	5	6	7

5. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

下記に、私たちの人生のさまざまな側面に関する質問があります。それぞれの問いについて、より自身の感覚に近いと思うところ 1つに○をつけてください。

- 1 全くあてはまらない
- 2 あてはまらない
- 3 あまりあてはまらない
- 4 どちらともいえない
- 5 ややあてはまる
- 6 あてはまる
- 7 非常にあてはまる

1. 自分のまわりで起こっていることがどうでもいい、という気持ちになることがある……………	1	2	3	4	5	6	7
2. これまでに、よく知っていると思っていた人の思わぬ行動に驚かされたことがあった……………	1	2	3	4	5	6	7
3. あてにしていた人ががっかりさせられたことがある……………	1	2	3	4	5	6	7
4. いままでの人生に明確な目標や目的があった……………	1	2	3	4	5	6	7
5. 不当な扱いを受けているという気持ちになることがある……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 不慣れな状況のなかにいると感じ、どうすればよいかわからないと感じることがある。……………	1	2	3	4	5	6	7
7. 自分が毎日していることは、つらく退屈である……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 気持ちや考えが非常に混乱することがある……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 本来なら感じたくないような感情を抱いてしまうことがある……………	1	2	3	4	5	6	7
10. これまでに、「自分はダメな人間だ」と感じたことが頻繁にあった……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 何か起きたとき、そのことを過大評価や過小評価をせず、適切な見方をしてきた……………	1	2	3	4	5	6	7
12. 日々の生活で行っていることにほとんど意味がないと感じる……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 自制心を保つ自信がなくなることがある……………	1	2	3	4	5	6	7

6. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

あなたは、対人関係や社会生活を適応的に生きるために、次の各項目を意識することは、どれくらい有効だと思いますか。最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

- 1 全く有効ではない
- 2 有効ではない
- 3 あまり有効ではない
- 4 どちらともいえない
- 5 やや有効である
- 6 有効である
- 7 非常に有効である

1. 話や問題のポイントをつかみ、わかりやすく物事を伝えることを心がける	1	2	3	4	5	6	7
2. 人の考え方にはバリエーションがあることを意識した上で、意見が合わない人の考えにも耳を傾ける……………	1	2	3	4	5	6	7
3. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
4. 友だちに対してでも悪いことは悪いと指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7

1	2	3	4	5	6	7
全く有効ではない	有効ではない	あまり有効ではない	どちらともいえない	やや有効である	有効である	非常に有効である

5. 物事の理屈を考え、できるだけ多くの事実や証拠を調べ、それを重視した上で判断を下す…………… 1 2 3 4 5 6 7

6. むやみに物事を信じ込まないように注意する…………… 1 2 3 4 5 6 7

7. いったん決断したことは最後までやり抜く…………… 1 2 3 4 5 6 7

1	2	3	4	5	6	7
全くできない	できない	あまりできない	どちらともいえない	ややできる	できる	非常にできる

7. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

あなたは、次の各項目をどれくらいできると思いますか。最も当てはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1. 話や問題のポイントをつかみ、わかりやすく物事を伝えることを心がける 1 2 3 4 5 6 7

2. 人の考え方にはバラエティがあることを意識した上で、意見が合わない人の考えにも耳を傾ける…………… 1 2 3 4 5 6 7

3. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる…………… 1 2 3 4 5 6 7

4. 友だちに対してでも悪いことは悪いと指摘する…………… 1 2 3 4 5 6 7

5. 物事の理屈を考え、できるだけ多くの事実や証拠を調べ、それを重視した上で判断を下す…………… 1 2 3 4 5 6 7

6. むやみに物事を信じ込まないように注意する…………… 1 2 3 4 5 6 7

7. いったん決断したことは最後までやり抜く…………… 1 2 3 4 5 6 7

8. この調査に関する意見・感想などございましたら、以下にご自由にお書き下さい（空欄可）。

記入漏れがございますと、ご厚意で協力して頂いたデータが使用なくなってしまいます。

もう一度記入漏れがないか、しっかりと御確認頂きますようお願い致します。

尚、今後この調査は実験をすることも視野に入れております。

もしも、そちらにも協力してもいいよとお考えの方は、連絡先の記入をお願い致します。

連絡先： _____

ご協力ありがとうございました。 本当に感謝致します。



「考え方」に関する調査 1-2

ご協力をお願い

この調査は、あなたの普段の考え方についてお聞きするものです。この調査には正しい答えや望ましい答えといったものはありませんので、あなたの思った通り、率直に回答してください。

このアンケートの回答結果は全て統計的に処理され、個人の回答が問題とされたり、他の人の目に触れたりするようなことは一切ありません。

また、本調査により収集したデータは磯和の厳重な管理のもと、他のデータと併せて分析されることもございます。ご了承くださいませ。

回答者の方に個人的なご迷惑をおかけすることは決してありませんので、お手数ですが、ご協力をお願いいたします。

なお、調査に関するご意見やご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。

2014年7月

三重大学大学院 教育学研究科 学校教育領域
磯和 壮太郎

E-mail : 213m001@m.mie-u.ac.jp

はじめにお答えください。

上記の内容をお読みの上、調査に同意いただける方は下記にチェックをお願いいたします。

同意する 同意しない

年齢：(歳) 性別（男性・女性）

この調査は、2回目の調査となります。

1回目の調査票と対応をとるため、以下の記入をお願いします。

学籍番号： _____

====学籍番号の記入をされない方は、以下の項目にお答え下さい====

学部：（1.人文・2.教育・3.医・4.工・5.生物資源）

学年：（1年・2年・3年・4年以上・院生）

誕生月 _____ ・携帯番号の下4桁 _____.

1. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

1 全くしなかった
2 しなかった
3 あまりしなかった
4 どちらともいえない
5 ときどきしていた
6 していた
7 いつもしていた

あなたは、最近数か月の間に、下の記述のようなことがらをどれくらいしましたか。あなたに最もあてはまると思うところ 1 つに○をつけてください。

1. 人の話のポイントをつかむ……………	1	2	3	4	5	6	7
2. たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
3. できるだけ多くの事実や証拠を調べる……………	1	2	3	4	5	6	7
4. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
5. 友だちに対してでも、悪いことは悪いと指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 何事も、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
7. いったん決断したことは最後までやり抜く……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 言わなければいけないと思えば、友だちに対しても客観的なことを言う……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 他の方の考えを尊重する……………	1	2	3	4	5	6	7
10. 人の考え方にはバラエティがあるということを意識する……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 問題のポイントをつかむ……………	1	2	3	4	5	6	7
12. ものごとの理屈を考える……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 他の方があきらめても、なお答えを探し求め続ける……………	1	2	3	4	5	6	7
14. 情報を、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
15. 人が間違っただけの考え方をしている時には、それを指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
16. 自分とは違う意見も理解する……………	1	2	3	4	5	6	7
17. 確たる証拠の有無にこだわる……………	1	2	3	4	5	6	7
18. アドバイスをするときには、自分の意見を押しつけないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
19. わかりやすく物事を伝える……………	1	2	3	4	5	6	7
20. 必要に応じて妥協する……………	1	2	3	4	5	6	7
21. 身近な人の言うことだからといって、その内容を疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
22. 積極的に新しいものにチャレンジする……………	1	2	3	4	5	6	7
23. 人の良い面と悪い面の両方を見る……………	1	2	3	4	5	6	7
24. うわさをむやみに信じないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
25. 人が話していることの矛盾に気づく……………	1	2	3	4	5	6	7
26. 嫌いな人の意見でも、耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
27. 判断をくだす際には、事実や証拠を重視する……………	1	2	3	4	5	6	7

2. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

1 全くなりたくない
2 なりたくない
3 あまりなりたくない
4 どちらともいえない
5 ややなりたい
6 なりたい
7 非常にになりたい

あなたは、多少苦勞してでも、下の記述のようなことがら
ができる人にどれくらい「なりたい」と思いますか。あなたに
最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1. たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける……………	1	2	3	4	5	6	7
2. 判断をくだす際には、事実や証拠を重視する……………	1	2	3	4	5	6	7
3. 情報を、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
4. 友だちに対してでも、悪いことは悪いと指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
5. ものごとの理屈を考える……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 言わなければいけないと思えば、友だちに対しても客観的なことを言う…	1	2	3	4	5	6	7
7. 何事も、少しも疑わずに信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 人の良い面と悪い面の両方を見る……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
10. 身近な人の言うことだからといって、その内容を疑わずに 信じ込まないようにする……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 人が間違った考え方をしている時には、それを指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7
12. 他の人があきらめても、なお答えを探し求め続ける……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 人の考え方にはバラエティがあるということを意識する……………	1	2	3	4	5	6	7
14. 人が話していることの矛盾に気づく……………	1	2	3	4	5	6	7
15. できるだけ多くの事実や証拠を調べる……………	1	2	3	4	5	6	7

3. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

1 全くあてはまらない
2 あてはまらない
3 どちらともいえない
4 あてはまる
5 非常にあてはまる

下記のそれぞれの問いについて、最もあてはまると思うところ
1つに○をつけてください。

1. どんな状況に直面しても、私ならうまくそれに対処することが できるような感じがする……………	1	2	3	4	5
2. 私にとって、最終的にはできないことが多いと思う……………	1	2	3	4	5
3. 私が頑張りさえすれば、どんな困難なことでもある程度のことは できるような気がする……………	1	2	3	4	5
4. 熱心に取り組めば、私にできないことはないように思う……………	1	2	3	4	5
5. やりたいと思っても、私にはできないことばかりだと感じる……………	1	2	3	4	5
6. 非常に困難な状況の中でも、私ならそこから抜け出すことができると思う	1	2	3	4	5

4. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

普段のコミュニケーション場面におけるあなたの行動について、得意であるか不得意であるかを回答してください。
最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1 かなり苦手
2 苦手
3 やや苦手
4 ふつう
5 やや得意
6 得意
7 かなり得意

1. 自分の衝動や欲求を抑える……………	1	2	3	4	5	6	7
2. 自分の感情をうまくコントロールする……………	1	2	3	4	5	6	7
3. 善悪の判断に基づいて正しい行動を選択する……………	1	2	3	4	5	6	7
4. まわりの期待に応じた振る舞いをする……………	1	2	3	4	5	6	7
5. 自分の考えを言葉でうまく表現する……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 自分の気持ちをしぐさでうまく表現する……………	1	2	3	4	5	6	7
7. 自分の気持ちを表情でうまく表現する……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 自分の感情や心理状態を正しく察してもらう……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 相手の考えを発言から正しく読み取る……………	1	2	3	4	5	6	7
10. 相手の気持ちをしぐさから正しく読み取る……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 相手の気持ちを表情から正しく読み取る……………	1	2	3	4	5	6	7
12. 相手の感情や心理状態を敏感に感じとる……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 会話の主導権を握って話を進める……………	1	2	3	4	5	6	7
14. まわりとは関係なく自分の意見や立場を明らかにする……………	1	2	3	4	5	6	7
15. 納得させるために相手に柔軟に対応して話を進める……………	1	2	3	4	5	6	7
16. 自分の主張を論理的に筋道を立てて説明する……………	1	2	3	4	5	6	7
17. 相手の意見や立場に共感する……………	1	2	3	4	5	6	7
18. 友好的な態度で相手に接する……………	1	2	3	4	5	6	7
19. 相手の意見をできるかぎり受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
20. 相手の意見や立場を尊重する……………	1	2	3	4	5	6	7
21. 人間関係を第一に考えて行動する……………	1	2	3	4	5	6	7
22. 人間関係を良好な状態に維持するように心がける……………	1	2	3	4	5	6	7
23. 意見の対立による不和に適切に対処する……………	1	2	3	4	5	6	7
24. 感情的な対立による不和に適切に対処する……………	1	2	3	4	5	6	7

1 全くあてはまらない
2 あてはまらない
3 あまりあてはまらない
4 どちらともいえない
5 ややあてはまる
6 あてはまる
7 非常にあてはまる

5. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

下記に、私たちの人生のさまざまな側面に関する質問があります。それぞれの問いについて、より自身の感覚に近いと思うところ 1つに○をつけてください。

1. 自分のまわりで起こっていることがどうでもいい、という気持ちになることがある……………	1	2	3	4	5	6	7
2. これまでに、よく知っていると思っていた人の思わぬ行動に驚かされたことがあった……………	1	2	3	4	5	6	7
3. あてにしていた人ががっかりさせられたことがある……………	1	2	3	4	5	6	7
4. いままでの人生に明確な目標や目的があった……………	1	2	3	4	5	6	7
5. 不当な扱いを受けているという気持ちになることがある……………	1	2	3	4	5	6	7
6. 不慣れな状況のなかにいると感じ、どうすればよいのかわからないと感じることがある……………	1	2	3	4	5	6	7
7. 自分が毎日していることは、つらく退屈である……………	1	2	3	4	5	6	7
8. 気持ちや考えが非常に混乱することがある……………	1	2	3	4	5	6	7
9. 本来なら感じたくないような感情を抱いてしまうことがある……………	1	2	3	4	5	6	7
10. これまでに、「自分はダメな人間だ」と感じたことが頻繁にあった……………	1	2	3	4	5	6	7
11. 何か起きたとき、そのことを過大評価や過小評価をせず、適切な見方をしてきた……………	1	2	3	4	5	6	7
12. 日々の生活で行っていることにほとんど意味がないと感じる……………	1	2	3	4	5	6	7
13. 自制心を保つ自信がなくなることがある……………	1	2	3	4	5	6	7

1 全く有効ではない
2 有効ではない
3 あまり有効ではない
4 どちらともいえない
5 やや有効である
6 有効である
7 非常に有効である

6. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

あなたは、対人関係や社会生活を適応的に生きるために、次の各項目を意識することは、どれくらい有効だと思いますか。最もあてはまると思うところ 1つに○をつけてください。

1. 話や問題のポイントをつかみ、わかりやすく物事を伝えることを心がける	1	2	3	4	5	6	7
2. 人の考え方にはバリエーションがあることを意識した上で、意見が合わない人の考えにも耳を傾ける……………	1	2	3	4	5	6	7
3. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる……………	1	2	3	4	5	6	7
4. 友だちに対してでも悪いことは悪いと指摘する……………	1	2	3	4	5	6	7

1	2	3	4	5	6	7
全く有効ではない	有効ではない	あまり有効ではない	どちらともいえない	やや有効である	有効である	非常に有効である

- | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|
| 5. 物事の理屈を考え、できるだけ多くの事実や証拠を調べ、それを重視した上で判断を下す…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 6. むやみに物事を信じ込まないように注意する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 7. いったん決断したことは最後までやり抜く…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

1	2	3	4	5	6	7
全くできない	できない	あまりできない	どちらともいえない	ややできる	できる	非常にできる

7. 次の質問に対して当てはまるものを選び回答して下さい。

あなたは、次の各項目をどれくらいできると思いますか。
最も当てはまると思うところ 1つに○をつけてください。

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 話や問題のポイントをつかみ、わかりやすく物事を伝えることを心がける | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 2. 人の考え方にはバラエティがあることを意識した上で、意見が合わない人の考えにも耳を傾ける…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 3. 他の人が出した優れた主張や解決案を受け入れる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 4. 友だちに対してでも悪いことは悪いと指摘する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 5. 物事の理屈を考え、できるだけ多くの事実や証拠を調べ、それを重視した上で判断を下す…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 6. むやみに物事を信じ込まないように注意する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 7. いったん決断したことは最後までやり抜く…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

8. この調査に関する意見・感想などございましたら、以下にご自由にお書き下さい（空欄可）。

記入漏れがございますと、ご厚意で協力して頂いたデータが使用なくなってしまいます。

もう一度記入漏れがないか、しっかりと御確認頂きますようお願い致します。

尚、今後この調査は実験をすることも視野に入れております。

もしも、そちらにも協力してもいいよとお考えの方は、連絡先の記入をお願い致します。

連絡先： _____

ご協力ありがとうございました。 本当に感謝致します。